

2021年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）



目次

5401000	経営学総論	信濃 吉彦	3 Q	1
5402000	簿記論	鈴木 重政	1 Q	3
5403000	経営組織論	伴 秀実	1 Q	5
5404000	経営管理論	信濃 吉彦	2 Q	7
5406001	社-沢杉-以論	信濃 吉彦	3 Q	9
5406002	社-沢杉-以論 (SP)	信濃 吉彦	3 Q	11
5407001	社-以経営管理論	信濃 吉彦	4 Q	13
5407002	社-以経営管理論 (SP)	信濃 吉彦	4 Q	15
7096000	自然地理学	鈴木 正章	前期集中	17
7098000	自然地理学	鈴木 正章	後期集中	19
7100000	地誌	渡部 斎	2 Q	21
7105001	民法 (M)	青山 浩之	4 Q	23
7143001	人文地理学 (M)		1 Q	25
7144001	人文地理学 (M)		3 Q	27
7152001	加地以論 (M)	佐々木 智城	1 Q	29
7184001	社会思想史 (M)	金子 敏也	2 Q	31
7186001	日本文化史 (M)	牧之内 友	2 Q	33
7188001	日本政治史 (M)	金子 敏也	3 Q	35
7190001	国際法 (M)	岡島 徳昭	4 Q	37
7210001	専門演習 A	由水 伸	前期	39
7210002	専門演習 A	信濃 吉彦	前期	41
7210003	専門演習 A	河野 善文	前期	43
7210004	専門演習 A	遠藤 均	前期	45
7210005	専門演習 A	鈴木 重政	前期	47
7210006	専門演習 A	岡島 徳昭	前期	49
7210007	専門演習 A	伴 秀実	前期	51
7210008	専門演習 A	青山 浩之	前期	53
7210009	専門演習 A	石山 玄幸	前期	55
7210010	専門演習 A	市原 英	前期	57
7210011	専門演習 A	石井 祐治	前期	59
7210012	専門演習 A	篠原 諒介	前期	61
7211001	専門演習 B	由水 伸	後期	63
7211002	専門演習 B	信濃 吉彦	後期	65
7211003	専門演習 B	河野 善文	後期	67
7211004	専門演習 B	遠藤 均	後期	69
7211005	専門演習 B	鈴木 重政	後期	71
7211006	専門演習 B	岡島 徳昭	後期	73
7211007	専門演習 B	伴 秀実	後期	75
7211008	専門演習 B	青山 浩之	後期	77
7211009	専門演習 B	石山 玄幸	後期	79
7211010	専門演習 B	市原 英	後期	81
7211011	専門演習 B	石井 祐治	後期	83
7211012	専門演習 B	篠原 諒介	後期	85
7212001	専門演習 A	由水 伸	前期集中	87
7212002	専門演習 A	信濃 吉彦	前期集中	89
7212003	専門演習 A	河野 善文	前期集中	91
7212004	専門演習 A	遠藤 均	前期集中	93
7212005	専門演習 A	鈴木 重政	前期集中	95
7212006	専門演習 A	岡島 徳昭	前期集中	97
7212007	専門演習 A	伴 秀実	前期集中	99
7212008	専門演習 A	青山 浩之	前期集中	101
7212009	専門演習 A	石山 玄幸	前期集中	103
7212010	専門演習 A	市原 英	前期集中	105
7212011	専門演習 A	石井 祐治	前期集中	107
7212012	専門演習 A	篠原 諒介	前期集中	109
7213001	専門演習 B	由水 伸	後期集中	111
7213002	専門演習 B	信濃 吉彦	後期集中	113
7213003	専門演習 B	河野 善文	後期集中	115
7213004	専門演習 B	遠藤 均	後期集中	117
7213005	専門演習 B	鈴木 重政	後期集中	119
7213006	専門演習 B	岡島 徳昭	後期集中	121
7213007	専門演習 B	伴 秀実	後期集中	123
7213008	専門演習 B	青山 浩之	後期集中	125
7213009	専門演習 B	石山 玄幸	後期集中	127
7213010	専門演習 B	市原 英	後期集中	129
7213011	専門演習 B	石井 祐治	後期集中	131
7213012	専門演習 B	篠原 諒介	後期集中	133
7214001	卒業論文	由水 伸	後期集中	135
7214002	卒業論文	信濃 吉彦	後期集中	137
7214003	卒業論文	河野 善文	後期集中	139
7214004	卒業論文	遠藤 均	後期集中	141
7214005	卒業論文	鈴木 重政	後期集中	143
7214006	卒業論文	岡島 徳昭	後期集中	145
7214007	卒業論文	伴 秀実	後期集中	147
7214008	卒業論文	青山 浩之	後期集中	149

7214009	卒業論文	石山 玄幸	後期集中	151
7214010	卒業論文	市原 英	後期集中	153
7214011	卒業論文	石井 祐治	後期集中	155
7214012	卒業論文	篠原 諒介	後期集中	157
7214091	卒業論文	(9月期卒) 由水 伸	前期集中	159
7214092	卒業論文	(9月期卒) 信濃 吉彦	前期集中	161
7214093	卒業論文	(9月期卒) 河野 善文	前期集中	163
7214094	卒業論文	(9月期卒) 遠藤 均	前期集中	165
7214095	卒業論文	(9月期卒) 鈴木 重政	前期集中	167
7214096	卒業論文	(9月期卒) 岡島 徳昭	前期集中	169
7214097	卒業論文	(9月期卒) 伴 秀実	前期集中	171
7214098	卒業論文	(9月期卒) 青山 浩之	前期集中	173
7214099	卒業論文	(9月期卒) 石山 玄幸	前期集中	175
7214100	卒業論文	(9月期卒) 市原 英	前期集中	177
7214101	卒業論文	(9月期卒) 石井 祐治	前期集中	179
7214102	卒業論文	(9月期卒) 篠原 諒介	前期集中	181
7214161	卒業研究 A	由水 伸	前期集中	183
7214261	卒業研究 B	由水 伸	後期集中	185
7214301	卒業研究 A	由水 伸	前期集中	187
7214461	卒業研究 B	由水 伸	後期集中	189
7593001	職業指導 (M)	伴 秀実	3 Q	191
7706000	コミュニケーション論	山本 一彦	3 Q	193
7706100	ビジネスコミュニケーション演習	本間 智子	4 Q	195
7708000	ビジネス創造論	阿部 裕樹	1 Q	197
7710001	社会心理学	戸佐 晃一	1 Q	199
7710002	社会心理学 (SP)	戸佐 晃一	1 Q	201
7711001	経済学概論 (M)	河野 善文	1 Q	203
7711002	経済学概論 (M-SP)	河野 善文	1 Q	205
7712001	日本経済史 (M)	小林 大州介	2 Q	207
7713001	西洋経済史 (M)	松本 哲人	1 Q	209
7714001	中小企業論	石山 玄幸	4 Q	211
7714002	中小企業論 (SP)	石山 玄幸	4 Q	213
7717000	社会行政学	三嶋 康嗣	4 Q	215
7718000	社会心理学	佐藤 和裕	4 Q	217
7719000	トレーニング科学	篠原 諒介	1 Q	219
7720000	トレーニング科学	篠原 諒介	3 Q	221
7721000	経営情報論	山崎 誠	2 Q	223
7722000	原価計算論	鈴木 重政	3 Q	225
7723000	商法	青山 浩之	1 Q	227
7724000	経営戦略論	伴 秀実	2 Q	229
7725000	財務会計論	石山 玄幸	4 Q	231
7726000	基礎統計演習	河野 善文	4 Q	233
7727000	ミクロ経済学	河野 善文	3 Q	235
7728000	マクロ経済学	河野 善文	2 Q	237
7729000	北海道経済論	石山 玄幸	1 Q	239
7730001	国際経済論 (M)	小早川 俊哉	3 Q	241
7731000	ビジネスプランニング論	石山 玄幸	1 Q	243
7732001	国際政治論 (M)	金子 敏也	3 Q	245
7733100	観光体験実習 (留学生対象)	由水 伸	後期集中	247
7733200	まちづくり論	松本 懿	2 Q	249
7733300	体育史	尾西 則昭	1 Q	251
7733400	観光マシメタ論	五ノ井 壽一	3 Q	253
7733500	ホテルマシメタ論	五ノ井 壽一	3 Q	255
7734000	会社法	青山 浩之	4 Q	257
7735000	情報システム論	由水 伸	2 Q	259
7737101	マシメタ表現 (1年)	由水 伸	4 Q	261
7737102	マシメタ表現 (2年)	近澤 潤	4 Q	263
7738000	社会医学	黒川 泰任	2 Q	265
7741000	社会指導論	高井 雅一	1 Q	267
7742000	管理会計論	鈴木 重政	4 Q	269
7744000	経営分析論	石山 玄幸	1 Q	271
7746000	コンピュータファイナンス論	鈴木 重政	2 Q	273
7749000	情報ネットワーク論	由水 伸	後期集中	275
7750000	プロジェクト管理論	由水 伸	前期集中	277
7751000	クリエイション概論	尾西 則昭	1 Q	279
7751100	障がい者社会	米野 宏	前期集中	281
7751200	障がい者社会	米野 宏	後期集中	283
7752000	社会とヘルスケア	佐藤 和裕	3 Q	285
7753000	社会と栄養	湯浅 頼佳	4 Q	287
7754000	国際経営論	岡島 徳昭	3 Q	289
7758000	イノベーションマシメタ論	阿部 裕樹	2 Q	291
7759000	ビジネス論	阿部 裕樹	4 Q	293
7761000	産業社会論	山本 一彦	1 Q	295
7762001	北海道産業史 (M)	石山 玄幸	2 Q	297
7763000	ビジネス法務	青山 浩之	3 Q	299
7763100	ケーススタディ	石山 玄幸	2 Q	301
7764001	コミュニティ心理学 (M)	吉澤 英里	4 Q	303
7765001	産業心理学 (M)	吉澤 英里	3 Q	305
7766100	社会マシメタ論	五ノ井 壽一	2 Q	307
7767000	外国書講読	岡島 徳昭	2 Q	309

7768000	人的資源管理論 伴 秀実 3 Q	...	311
7775100	ビジネス英語 石田 暁子 1 Q	...	313
7778000	経営学特講 河野 善文 前期集中	...	315
7779000	経営学特講 河野 善文 後期集中	...	317
7782100	地域調査実習 由水 伸 後期集中	...	319
7782200	地域情報論 猪尾 紀幸 2 Q	...	321
7782300	金融論 山崎 誠 3 Q	...	323
7782400	地域政策論 松本 聡 4 Q	...	325
7786001	ビジネス文化論 細川 光法 2 Q	...	327
7786002	ビジネス文化論 (SP) 細川 光法 2 Q	...	329
7786100	ビジネス原理 高井 雅一 3 Q	...	331
7787001	ビジネス論 鈴木 重政 1 Q	...	333
7787002	ビジネス論 (SP) 鈴木 重政 1 Q	...	335
7789100	体づくり運動 細川 賢一 2 Q	...	337
7790100	柔道 (再) 中川 純二 後期	...	339
7791000	運動学 (運動方法学を含む。) 米野 宏 3 Q	...	341
7792000	学校保健 前上里 直 3 Q	...	343
7794100	球技 (バドミントン) 戸佐 晃一 後期	...	345
7795100	球技 (バスケボール) 市原 英 前期	...	347
7795201	陸上競技 (1年) 戸佐 晃一 前期集中	...	349
7795202	陸上競技 (2年) 戸佐 晃一 前期集中	...	351
7796100	球技 (バレーボール) 市原 英 後期	...	353
7797000	生理学 黒川 泰任 4 Q	...	355
7798000	ビジネス生理学 篠原 諒介 3 Q	...	357
7799000	衛生学及び公衆衛生学 前上里 直 4 Q	...	359
7800100	器械運動 細川 賢一 後期	...	361
7801100	水泳 戸佐 晃一 後期集中	...	363
7802100	球技 (ソフトボール) 米野 宏 前期	...	365
7803100	球技 (ラグビー) 佐藤 和裕 後期	...	367
7804100	球技 (サッカー) 木島 敦 前期	...	369
7805000	精神保健 佐々木 智城 2 Q	...	371
7806000	精神保健 佐々木 智城 3 Q	...	373
7807100	ダンス 市原 英 後期	...	375
7808000	哲学概論 遠藤 均 3 Q	...	377
7809000	ビジネス倫理 遠藤 均 3 Q	...	379
7810000	倫理学概論 遠藤 均 4 Q	...	381
7811000	社会学概論 松下 守邦 1 Q	...	383
7812000	ビジネス論 石山 玄幸 3 Q	...	385
7813000	サトウキビ論 山本 一彦 3 Q	...	387

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営学総論 (科目ナンバリング: MAN411001, MAN511001)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
経営学の全体的な流れを中心に、本学科の各分野で必要となる基礎的な内容を理解し、伝統的な理論から現在一般化している理論等を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「1(4)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
実社会で必要となる考え方(意思決定等)に必要とされる基本的な理論・事柄を身につけることができる。

授業全体の内容と概要
板書された内容や配布物の要点はもちろんのこと、専門用語とその定義、重要人物名とその功績等は必ずノートにまとめることを日々のルーティンとする。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。

授業の方法
講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し経営学の全体的な内容を俯瞰的に学習する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容や方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は支持があるとき以外はこれを認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
出席および授業参加度を重視する。出席とは、テキスト・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。

資格指定科目
教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない事柄は調べて書き残す癖をつけること。ノート提出は平常点の最大75%に換算する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、実社会において必要となる専門用語や理論の習得を図り、経営学における基礎力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、自分が出会う専門用語や理論への理解が出来つつある。	与えられた課題に取り組み、日々の講義で使用頻度の高い専門用語や理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、専門用語や理論を理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、専門用語や理論の理解に対する進歩が見られず、スマホがないと何もできない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における専門用語や理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書範囲を超えない。	自分から進んで経営学基礎力を身につけようとする姿勢が見られない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『大学4年間の経営学が10時間でざっと学べる』	高橋 伸夫	KADOKAWA	2017	978-4-04-601765-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営学総論 (科目ナンバリング: MAN411001, MAN511001)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	専用のノートを準備する(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
2	テキストPP. 16~25	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
3	テキストPP. 26~35	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
4	テキストPP. 56~65	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
5	テキストPP. 66~77	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
6	テキストPP. 78~97	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
7	テキストPP. 98~127	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
8	テキストPP. 128~147	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
9	テキストPP. 160~189	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
10	経営学の重鎮(1)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
11	経営学の重鎮(2)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
12	経営学の重鎮(3)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
13	SWOT分析とPDCA	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
14	需要・供給の法則とPPM	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
15	テストレビュー&ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験(60分)及び総括(30分)	試験に備える(150分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	簿記論 (科目ナンバリング: ACC411002, ACC511002)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
経営学において簿記は基礎であり、あらゆる経済活動に必要なものである。簿記の重要性を学び、企業経営にどのような影響を与えるのかを理解する。												
授業の位置づけ												
経営学科のDP「1(1)」、「2(S2)」に対応する。												
到達目標												
勘定(資産、負債、純資産、収益、費用)の関連を理解し、取引の認識から財務諸表作成までのプロセスを理解できる。												
授業全体の内容と概要												
会計の仕組みと重要性を学び、会計のデータの元となる簿記の仕組みを基礎から学ぶ。日々の記帳活動と決算手続きを体系的に説明し、試算表、精算表、貸借対照表、損益計算書が作成できるように導く。												
授業の方法												
授業はパワーポイントで実施する(教材はTeams「簿記論2021」のファイルにある)。対面授業の5回目以降は試算表または精算表のプリントを配布し、授業の最後に作成する。												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
授業の教材はTeams「簿記論2021」のファイルにあるので事前にダウンロードすることが望ましい。ノート、電卓、筆記用具は毎回必要。												
資格指定科目												
教職課程(商業)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
5つの勘定(資産・負債・純資産・収益・費用)を理解し、すみやかに正しい金額を算定できる。	データを一覧して即座に正しい金額を算出できた。	データを一覧し所定の時間内に正しい金額を算出できた。	データを読み取り、勘定を理解できる。時間をかけると正確な計算ができた。	勘定科目を5つの勘定に分類し、正確な金額を算出できた。	勘定科目を5つの勘定に分類できなかった。
会計期間を理解し、正確な決算手続きができる。	減損会計を含め高度な決算手続きをスムーズに行うことができた。	決算手続きにおける、決算整理と精算表の作成をスムーズにできた。	決算手続きにおける収益と費用の繰延と見越を正確にできた。	会計期間を理解し、決算整理ができた。	決算整理を理解していなかった。
財務諸表を作成し、基本的な経営分析ができる。	財務諸表からROA、ROE、流動比率、固定比率の算出など基本的な経営分析をおこなうことができた。	貸借対照表と損益計算書からキャッシュフロー計算書を作成することができた。	財務諸表をスムーズに作成することができた。	精算表から貸借対照表と損益計算書を作成することができた。	精算表から貸借対照表と損益計算書を正しく作成できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	簿記論 (科目ナンバリング: ACC411002, ACC511002)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス説明など)、簿記の考え方、ミニテスト	シラバスを 読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
2	5つの勘定 期首・期末の勘定残高、ミニテスト	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
3	仕訳、ミニテスト	教教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
4	勘定への転記と締め方、ミニテスト	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
5	第1回確認テスト、1~4回目までの総復習	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
6	試算表の作成、勘定から会計試算表、会計残高試算表、残高試算表を作成する、ミニテスト	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
7	精算表の作成、残高試算表から精算表を作成する、ミニテスト	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
8	決算手続、資産・負債の繰越、収益・費用の損益への振替、ミニテスト	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
9	当座資産(現金、預金、小切手、手形)、三分法(仕入、売上、繰越商品)、ミニテスト	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
10	決算手続、三分法の決算、貸倒引当金、ミニテスト	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
11	手形(約束手形、為替手形)、決算手続、8桁精算表、ミニテスト	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
12	債権・債務、見越しと繰り延べ(未収金、未払金、前受金、前払金)、ミニテスト	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
13	減価償却と決算手続、ミニテスト	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
14	税金、資本金の整理、決算手続、精算表と財務諸表(貸借対照表、損益計算書)、ミニテスト	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
15	財務諸表(貸借対照表、損益計算書)と経営分析、試験説明、ミニテスト	教材の該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
16	定期試験および解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	総復習を行う(90分)	財務会計、経営分析の準備(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営組織論 (科目ナンバリング: MAN412004, MAN512004)				
授業担当者(所属・職名)	伴 秀実(経営学科・特任教授)		研究室所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伴 秀実)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業における経営組織の設計・実践業務の経験を活かして、経営組織に関する理論及び実践事例を講義する。		

概要

履修目標
企業組織は、業種・業界特性や規模によって様々な成立ちや構造が存在する。「企業組織の構造・機能」と「構成要素としての人、リーダー」の基礎を理解する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」「1(3)」「1(4)」「2(2)」に対応する。

到達目標
2年次以降の専門分野の学習・習得に必要な経営の基本となる用語及び組織メカニズムが理解できている。

授業全体の内容と概要
経営活動の基本要素である企業組織及び人・リーダーに関する基本知識を理解・習得する。

授業の方法
パワーポイントによるプロジェクタ投影と配布レジメによる講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
出席を重視し、15分以上の遅刻・途中退回は欠席扱いとする。居眠り、携帯・スマートフォン利用は厳禁。

資格指定科目
教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回(厳守)。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
様々な組織形態、組織デザインを理解する。	様々な組織形態、組織デザインを完全に理解し、事例に対応した理想的な組織形態を提案できた。	様々な組織形態、組織デザインを十分に理解し、事例に対応した新たな組織形態を提案できた。	様々な組織形態、組織デザインを理解できた。	様々な組織形態、組織デザインを理解していた。	様々な組織形態、組織デザインを理解していなかった。
組織を構成する「人」、そのモチベーション理論を理解する。	モチベーション理論を完全に理解し、事例に対応した自らのモチベーション理論を提案できた。	モチベーション理論を十分に理解し、事例に対応したモチベーション理論を理解できた。	モチベーション理論を理解し、事例のモチベーションの姿を理解できた。	モチベーション理論を理解していた。	モチベーション理論を理解していなかった。
組織を構成する「人」、そのリーダーシップ理論を理解する。	リーダーシップを完全に理解し、事例に対応した自らのリーダーシップ理論を提案できた。	リーダーシップを十分に理解し、事例に対応したリーダーシップ理論を理解できた。	リーダーシップを理解し、事例のリーダーシップの姿を理解できた。	リーダーシップを理解していた。	リーダーシップを理解していなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営組織論 (科目ナンバリング: MAN412004, MAN512004)				
授業担当者(所属・職名)	伴 秀実(経営学科・特任教授)		研究室所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伴 秀実)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業における経営組織の設計・実践業務の経験を活かして、経営組織に関する理論及び実践事例を講義する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
2	現在の様々な組織形態	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
3	組織とは	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
4	バーナードの組織論	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
5	組織のデザイン	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
6	組織の未来	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
7	職場に「やる気」を起こすには	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
8	モチベーションと理論	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
9	目標と成果とインセンティブ	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
10	楽しく働くには	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
11	リーダーの条件	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
12	リーダーシップの探求	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
13	リーダー不足の現状	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
14	リーダー受難時代	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
15	総括レビュー	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	試験に向け全体を復習する。(90分)
16	定期試験及び解説(60分の試験終了後、30分の解説を行う)	試験に向け全体を復習する。(90分)	試験及び解説を受け講義全体を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営管理論 (科目ナンバリング: MAN413003, MAN513003)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	今まで学んできた様々な経営分野の知識を集合体としてとらえマネジメントの本質を理解し実践できる知識として獲得する。																								
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「1(4)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	経営に関する実践的な思考を実務に生かすため、種々の理論等が理解できる。																								
授業全体の内容と概要	板書が多いのできちんとノートをとる、その内容をしっかり理解すること、様々な考え方を利用することによって今まで学んだことがどのようにつながり意思決定やバランスにつながるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはとんとん掘り下げて自分のものとしていくことを励む。																								
授業の方法	講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、教科書に沿って経営学におけるマネジメントの本質をより深く理解してもらおう。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は支持があるとき以外はこれを認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	出席および授業参加度を重視する。出席とは、テキスト・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。																								
資格指定科目	教職課程(商業)必修科目																								

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も増えており経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつつがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『仕事で本当に使える経営学がわかります。』	平野教士カール	宝島社	2018	978-4-8002-8886-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営管理論 (科目ナンバリング: MAN413003, MAN513003)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	専用のノートを準備する(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
2	テキストPP. 18~42	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
3	テキストPP. 44~65	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
4	テキストPP. 66~88	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
5	テキストPP. 90~122 (1)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
6	テキストPP. 90~122 (2)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
7	テキストPP. 124~162 (1)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
8	テキストPP. 124~162 (2)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
9	テキストPP. 124~162 (3)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
10	テキストPP. 164~176	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
11	テキストPP. 178~198	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
12	テキストPP. 200~216	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
13	テキストPP. 218~221 & ノートチェック	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
14	ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
15	テストレビュー&ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験および総括	試験に備える(90分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツマネジメント論 (科目ナンバリング: SPS422015, SPS512005)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	経営学の手法を使って、スポーツ組織の構造と運営に関して理解する。																								
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	スポーツ団体における経営の問題点や課題について理解したうえで、各種競技スポーツの運営や活動に関して理解を深めることができる。																								
授業全体の内容と概要	板書が多いのできちんとノートをとって、その内容をしっかり理解する。様々な場面・考え方を理解することによってスポーツとマネジメントがどのようにつながり発展的な運営となるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。																								
授業の方法	講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・前までの配布物・ノート・筆記用具の4点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。																								
資格指定科目	スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程																								

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト「共通科目」』		公益財団法人日本体育協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツマネジメント論 (科目ナンバリング: SPS422015, SPS512005)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	専用のノートを準備する(90分)	ノートによる情報のデータベース化を行うこと(90分)
2	スポーツ組織とは何をさすのか	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
3	スポーツ組織の経営資源	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
4	スポーツ組織の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
5	人材育成と経営責任	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
6	マーケティング	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
7	ストレッチの重要性と危機管理	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
8	マーケティング上の意思決定	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
9	マーケティングミックス	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
10	スポーツ組織のリーダーシップ論	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
11	プロスポーツ産業の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
12	スポーツ事業のプロモーション	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
13	情報化とスポーツ	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
14	ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
15	テストリビュー&ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験および総括	試験に備える(150分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツマネジメント論 (SP) (科目ナンバリング: SPS422015, SPS512005)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	学生に経営学の手法を使って、スポーツ組織の構造と運営に関して理解する。																								
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	スポーツ団体における経営の問題点や課題について理解したうえで、各種競技スポーツの運営や活動に関して理解を深めることができる。																								
授業全体の内容と概要	板書が多いのできちんとノートをとって、その内容をしっかり理解する。様々な場面・考え方を理解することによってスポーツとマネジメントがどのようにつながり発展的な運営となるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。																								
授業の方法	講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・前回までの配布物・ノート・筆記用具の4点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。																								
資格指定科目	教職課程(保健体育)必修科目																								

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて1回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト「共通科目」』		公益財団法人日本体育協会			
2						
3						
4						
5						
参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツマネジメント論 (SP) (科目ナンバリング: SPS422015, SPS512005)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	専用のノートを準備する(90分)	ノートによる情報のデータベース化を行うこと(90分)
2	スポーツ組織とは何をさすのか	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
3	スポーツ組織の経営資源	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
4	スポーツ組織の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
5	人材育成と経営責任	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
6	マーケティング	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
7	ストレッチの重要性と危機管理	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
8	マーケティング上の意思決定	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
9	マーケティングミックス	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
10	スポーツ組織のリーダーシップ論	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
11	プロスポーツ産業の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
12	スポーツ事業のプロモーション	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
13	情報化とスポーツ	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
14	ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
15	テストレビュー&ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験および総括	試験に備える(150分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ経営管理論 (科目ナンバリング:SPS512006)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>体育・スポーツを経営学の視点から捉え、指導者(リーダー)として、体育・スポーツ経営管理に必要な基本的知識や基礎理論を理解し、体育・スポーツ経営管理の考え方や各領域の具体的な動向について学ぶ。</p>

授業の位置づけ
<p>経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<p>学校教育およびスポーツ団体における経営の問題点や課題について理解し、各種スポーツの運営や学校教育における体育やスポーツ活動に関して理解を深めることができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>体育・スポーツ経営管理について、知識や理論として学ぶだけでなく、実践的な能力を身につけることを目指す。学校における教科体育や体育的行事、運動部活動、職場・地域のスポーツクラブ等様々な領域におけるスポーツ経営管理の内容・方法・形態・評価など、具体的な実践事例を挙げ授業を進める。</p>

授業の方法
<p>講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。講義資料はその都度配布する。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。</p>

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<p>出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関して欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。</p>

資格指定科目
<p>スポーツソーシャルワーカー資格課程科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	20%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	20%	0%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>定期試験で90点以上の得点を挙げた。</td> <td>定期試験で80点以上の得点を挙げた。</td> <td>定期試験で70点以上の得点を挙げた。</td> <td>定期試験で60点以上の得点を挙げた。</td> <td>定期試験で60点をクリアすることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。</td> <td>与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。</td> <td>与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。</td> <td>与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。</td> <td>課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。</td> </tr> <tr> <td>主体性</td> <td>自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。</td> <td>授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も増えており経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。</td> <td>積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。</td> <td>何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。</td> <td>自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。	主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も増えており経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。																								
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。																								
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も増えており経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『体育・スポーツ経営学講義』	矢代勉・中村平	大修館書店	2013	978-4-469-26480-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ経営管理論 (科目ナンバリング: SPS512006)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	専用のノートを準備する(90分)	ノートによる情報のデータベース化を行うこと(90分)
2	わが国のスポーツ振興と体育・スポーツ経営管理	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
3	体育・スポーツ経営管理とは	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
4	体育・スポーツ経営管理の概念	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
5	体育・スポーツ事業(スポーツサービス)と経営資源	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
6	体育・スポーツ経営管理におけるマネジメント	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
7	体育・スポーツ経営の構造	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
8	スポーツ生活と運動生活(スポーツ生活者行動と運動者行動)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
9	経営資源の整え方(スポーツ指導者・運動施設・財務的資源・情報)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
10	体育・スポーツ事業の進め方(エリアサービス・クラブサービス)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
11	体育・スポーツ事業の進め方(プログラムサービス)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
12	体育・スポーツ事業の進め方 実践事例(基本的スポーツサービスと関連的スポーツサービス)	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
13	領域と経営体および経営管理の評価	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
14	ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
15	テストレビュー&ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験および総括	試験に備える(150分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ経営管理論 (SP) (科目ナンバリング: SPS512006)				
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>体育・スポーツを経営学の視点から捉え、指導者(リーダー)として、体育・スポーツ経営管理に必要な基本的知識や基礎理論を理解し、体育・スポーツ経営管理の考え方や各領域の具体的な動向について学ぶ。</p>

授業の位置づけ
<p>経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<p>学校教育およびスポーツ団体における経営の問題点や課題について理解し、各種スポーツの運営や学校教育における体育やスポーツ活動に関して理解を深めることができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>体育・スポーツ経営管理について、知識や理論として学ぶだけでなく、実践的な能力を身につけることを目指す。学校における教科体育や体育的行事、運動部活動、職場・地域のスポーツクラブ等様々な領域におけるスポーツ経営管理の内容・方法・形態・評価など、具体的な実践事例を挙げ授業を進める。</p>

授業の方法
<p>講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。講義資料はその都度配布する。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。</p>

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<p>出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関して欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。</p>

資格指定科目
<p>教職課程(保健体育)必修科目 スポーツソーシャルワーカー資格課程</p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	20%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	20%	0%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>定期試験で90点以上の得点を挙げた。</td> <td>定期試験で80点以上の得点を挙げた。</td> <td>定期試験で70点以上の得点を挙げた。</td> <td>定期試験で60点以上の得点を挙げた。</td> <td>定期試験で60点をクリアすることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。</td> <td>与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。</td> <td>与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。</td> <td>与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。</td> <td>課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。</td> </tr> <tr> <td>主体性</td> <td>自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。</td> <td>授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も増えており経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。</td> <td>積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。</td> <td>何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。</td> <td>自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。	主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も増えており経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。																								
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。																								
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も増えており経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『体育・スポーツ経営学講義』	矢代勉・中村平	大修館書店	2013	978-4-469-26480-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ経営管理論 (SP) (科目ナンバリング: SPS512006)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	専用のノートを準備する (90分)	ノートによる情報のデータベース化を行うこと (90分)
2	わが国のスポーツ振興と体育・スポーツ経営管理	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
3	体育・スポーツ経営管理とは	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
4	体育・スポーツ経営管理の概念	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
5	体育・スポーツ事業 (スポーツサービス) と経営資源	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
6	体育・スポーツ経営管理におけるマネジメント	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
7	体育・スポーツ経営の構造	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
8	スポーツ生活と運動生活 (スポーツ生活者行動と運動者行動)	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
9	経営資源の整え方 (スポーツ指導者・運動施設・財務的資源・情報)	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
10	体育・スポーツ事業の進め方 (エリアサービス・クラブサービス)	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
11	体育・スポーツ事業の進め方 (プログラムサービス)	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
12	体育・スポーツ事業の進め方 実践事例 (基本的スポーツサービスと関連的スポーツサービス)	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
13	領域と経営体および経営管理の評価	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
14	ノートチェック	ノート提出に備える (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
15	テストレビュー&ノートチェック	ノート提出に備える (90分)	試験に備える (90分)
16	試験および総括	試験に備える (150分)	本科目の総復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学 (科目ナンバリング: GGR122139)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 正章(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階	非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 正章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
自然地理学の地理学における位置とその対象が地球の地表面の岩石圏・水圏・大気圏である。本講義では、地形学を中心に自然地理学の理解を深める。また、地表面を把握するためのツールとしての地形図を使った作業を通して地表空間の地形の理解、すなわち地表面の凹凸がどのような成因で形成されるのか、その結果としてどのような地形が形成されるのかを理解することができる。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)と(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
地表空間にはどのような地形が観られるのか、国土地理院発行の1:25,000の地形図の等高線から地形が判読できるようになる。また、その地形がどのような営力できているのか理解できるようになる。

授業全体の内容と概要
自然地理学の地理学における位置、その系譜を講述し、地形図の作業を通して地表空間を理解する。また、地形の形成要因からどの結果としてどのような地形がつくられるのかを講述する。

授業の方法
授業の具体的な形態: 講義形式、 進行方法: おもにパワーポイントと板書、 使用する教材: 配布資料及びビデオ、 課題に対する説明: 地図作業を課題として予定しているので、赤色と青色の色鉛筆の用意、 要望への対応等: 集中講義期間中随時対応します。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
受講者数の制限: なし、 受講条件: なし、 履修に必要な知識・学力等: 本学の学生であれば全て可、 遅刻・欠席等のルール等: クラブ等でやむ負えなく欠席する場合には、届けを出して承認を得ること、 受講の心構え: 受講を集中講義であるため、日毎に出される課題を復習として着実に取り組むこと。

資格指定科目
教職課程(社会・地理歴史)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>15%</td> <td>15%</td> <td>40%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	15%	15%	40%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	15%	15%	40%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地形図の作業(谷・尾根線及び断面図の作成)を通じ、地表空間に展開する地形の理解</td> <td>地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができる。さらに、等高線から地形が読み取ることができた。</td> <td>地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして正確に記入ができ、地形断面図することができた。</td> <td>地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして正確に記入できた。</td> <td>地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を記入できた。</td> <td>地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を記入できなかった。</td> </tr> <tr> <td>現在の地表空間に広がる地形がどのような営力で形成されてきたのか、その理解</td> <td>地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解でき、地図上で読図できた。</td> <td>地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解できた。</td> <td>地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。</td> <td>地形を形成する営力について説明できた。</td> <td>地形の形成する営力について説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>人々の生活や生産活動の基盤になる地表空間にはどのような地形が分布し、それらの地形の形成過程や形成要因の理解</td> <td>人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのか、それらの地形の空間的配置、形成過程及び形成要因を説明できた。</td> <td>人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのか、それらの地形の空間的配置及び形成過程を説明できた。</td> <td>人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのか、さらにそれらの地形の空間的配置が説明できた。</td> <td>人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのかを説明できた。</td> <td>人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのかを説明できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	地形図の作業(谷・尾根線及び断面図の作成)を通じ、地表空間に展開する地形の理解	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができる。さらに、等高線から地形が読み取ることができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして正確に記入ができ、地形断面図することができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして正確に記入できた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を記入できた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を記入できなかった。	現在の地表空間に広がる地形がどのような営力で形成されてきたのか、その理解	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解でき、地図上で読図できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。	地形を形成する営力について説明できた。	地形の形成する営力について説明できなかった。	人々の生活や生産活動の基盤になる地表空間にはどのような地形が分布し、それらの地形の形成過程や形成要因の理解	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのか、それらの地形の空間的配置、形成過程及び形成要因を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのか、それらの地形の空間的配置及び形成過程を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのか、さらにそれらの地形の空間的配置が説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのかを説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのかを説明できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
地形図の作業(谷・尾根線及び断面図の作成)を通じ、地表空間に展開する地形の理解	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができる。さらに、等高線から地形が読み取ることができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして正確に記入ができ、地形断面図することができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして正確に記入できた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を記入できた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を記入できなかった。																								
現在の地表空間に広がる地形がどのような営力で形成されてきたのか、その理解	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解でき、地図上で読図できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。	地形を形成する営力について説明できた。	地形の形成する営力について説明できなかった。																								
人々の生活や生産活動の基盤になる地表空間にはどのような地形が分布し、それらの地形の形成過程や形成要因の理解	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのか、それらの地形の空間的配置、形成過程及び形成要因を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのか、それらの地形の空間的配置及び形成過程を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのか、さらにそれらの地形の空間的配置が説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのかを説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤できているのかを説明できなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『配布資料』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『配布資料』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『配布資料』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学 (科目ナンバリング: GGR122139)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 正章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、講義内容と授業計画のガイダンス	本授業のシラバスの熟読しておくこと。(90分)	地理学とはどのような学問なのかインターネットで調べてまとめる。(90分)
2	地理学とその方法	地理学の系譜についてインターネットなどで調べておくこと。(90分)	地理学と地図の歴史をまとめる。(90分)
3	地形図の理解 (道具としての地図の種類と用途)	身の回りにどのような地図があるのか調べてみる。	地理調査に使用する地図にどのようなものがあるのかまとめる。(90分)
4	地形図の理解 (等高線から地形を読む)	国土地理院発行の地形図に盛り込まれている情報にどのようなものがあらかじめ確認しておくこと。(90分)	地形図に盛り込まれている等高線からどのような地形を読み取れるか習熟すること。(90分)
5	地形図の理解 (谷尾根線や地形断面図の書き方)	地形図に含まれる高さ(標高)を表す地図記号を探しておくこと。(90分)	地形図の等高線や高低差を表わす地図記号を読み断面図や谷尾根線が描けるよう練習しておくこと。(90分)
6	地形を形成する営力	地形形成営力について調べておくこと。(90分)	地形形成営力にはどのようなものがあるのか整理しておくこと。(90分)
7	地形を形成する営力	マスマーブメントについて調べておくこと。(90分)	マスマーブメントにはどのようなものがあるのか整理しておくこと。(90分)
8	地形を形成する営力	河成作用について調べておくこと。(90分)	河成作用について整理をしてまとめておくこと。(90分)
9	地形を形成する営力IV (第1回テスト)	浸食輪廻とは何か調べておくこと。(90分)	浸食輪廻のプロセスについて整理しておくこと。(90分)
10	氷河地形	氷河の作用について調べておくこと。(90分)	氷河の作用について調べておくこと。(90分)
11	平野の地形 (構造平野・ケスタ地形)	浸食平野のことに調べておくこと。(90分)	浸食平野についてまとめておくこと。(90分)
12	平野の地形 (丘陵・台地)	堆積平野のことに調べておくこと。(90分)	浸食平野と堆積平野の違いについて整理しておくこと。(90分)
13	平野の地形 (扇状地・氾濫原平野)	河川が形成する平野の地形について調べておくこと。(90分)	河川が作る地形についてまとめておくこと。(90分)
14	平野の地形 (三角州・海岸地形)	海岸線で観られる平野の地形について調べておくこと。(90分)	河口付近や海岸付近で観られる地形について調べておくこと。(90分)
15	沖積平野の形成過程	氷河性海面変動と河岸段丘について調べて置くこと。(90分)	沖積平野の形成と過去の海面変化の関係について調べておくこと。(90分)
16	まとめ及び講評 (第2回テスト)	これまで授業のまとめをししておくこと。(90分)	これまで授業のまとめをして整理しておくこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学 (科目ナンバリング: GGR122140)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 正章(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階	非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 正章)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

自然地理学 に引き続き地形学を中心に自然地理学の理解を深めることと我々の生活の身の回りに発生する自然災害について理解することが出来る。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)と(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

変動帯とよばれている日本列島にはなぜ地震や火山活動が多いのかその理由が説明できるようになる。地形図の読図や空中写真判読から地形の様子が理解できるようになる。自然災害に対する防災について考えることが出来るようになる。

授業全体の内容と概要

日本列島はなぜ地震や火山が多いのかプレートの運動、火山分布や活断層の運動の仕方などから説明する。また、活断層がどのような活動するのか阿寺断層の地図作業をとおして説明する。それらによってもたらされる自然災害について講述する。

授業の方法

授業の具体的な形態: 講義形式、 進行方法: おもにパワーポイントと板書、 使用する教材: 配布資料及びビデオ、 課題に対する説明: 地図作業を課題として予定しているので、12色程度の鉛筆の用意、 要理への対応等: 集中講義期間中随時対応します。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受講者数の制限: なし、 受講条件: なし、 履修に必要な知識・学力等: 本学の学生であれば全て可、 遅刻・欠席等のルール等: クラブ等でやむ負えなく欠席する場合には、届けを出して承認を得ること、 受講の心構え: 受講を集中講義であるため、日毎に出される課題を復習として着実に取り組むこと。なお、高等学校で使用した地図帳が資料として参照できることが望ましい。

資格指定科目

教職課程(地理歴史)必須科目。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	15%	15%	40%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プレートテクトニクスに基づく地球表面を覆うプレートの運動でどのような地形が形成されるのか説明できる。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動について説明できた。その結果としてどのような地形が形成されるのか説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動について説明できた。その結果としてどのような地形が形成されるのか説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、それらのプレートの運動について説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できなかった。
世界の火山分布や地震帯とプレートの運動の関係の理解。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴と生じる原因とプレートの運動の関係から説明できた。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。	世界の火山分布とその特徴が説明できた。	世界の火山分布とその特徴を説明できなかった。
活断層についての理解。	活断層とは何か?さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。また、空中写真から活断層を判読でき、活断層の活動の仕方を説明できた。	活断層とは何か?さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。空中写真から活断層を判読できた。	活断層とは何か?さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。	活断層とは何か?説明できなかった。	活断層とは何か?説明できなかった。
火山活動と噴火様式についての理解	火山の噴火現象について説明でき、それ由来する噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式及び火山地形について説明できた。	火山の噴火現象について説明でき、それ由来する噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式について説明できた。	火山の噴火現象について説明でき、それによってもたらされた噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。	火山の噴火現象について説明できた。	火山の噴火現象について説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『配布資料』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学 (科目ナンバリング: GGR122140)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階	非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 正章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	講義内容と授業計画のガイダンス シラバスの説明	本授業のシラバスの熟読しておくこと。(90分)	世界の地震や火山がどのような所に多いのかまとめておくこと。(90分)
2	プレートテクトニクス(1)	大陸移動説について調べておくこと。(90分)	大陸移動説を提唱したウエグナーの業績についてまとめておくこと。(90分)
3	プレートテクトニクス(2)	プレートのことについてインターネットなどで調べておくこと。(90分)	プレートと地殻やマントルの違いについて整理しておくこと。(90分)
4	日本列島の地質構造(プレートの運動との関係)	日本列島および周辺にはどのプレートが分布しているのか調べておくこと。(90分)	日本列島の地質構造とプレートの関係をまとめておくこと。(90分)
5	日本列島の生い立ち	日本列島の地質について調べておくこと。(90分)	日本列島の生成過程についてまとめておくこと。(90分)
6	活断層とは(断層、断層の運動と種類、活断層の定義)	断層にはどのような種類があるのか調べておくこと。(90分)	活断層とどのような断層なのかまとめておくこと。(90分)
7	日本の活断層の分布と特徴	日本列島の活断層の分布図を観て分布する特徴を考えてみよう。(90分)	日本列島の活断層の分布の特徴を整理しておくこと。(90分)
8	阿寺断層(1)(活断層としての特徴)	阿寺断層の日本列島における位置を調べておくこと。(90分)	地図作業を通して阿寺断層がどのような性質をもつ断層なのかまとめておくこと。(90分)
9	阿寺断層(2)(活断層としての運動の仕方)(第1回テスト)	河岸段丘のことについて調べておくこと。(90分)	活断層の運動の仕方を整理しておくこと。(90分)
10	火山活動とは	火山の定義について調べておくこと。(90分)	世界の火山の分布の特徴とプレートとの関係を整理しておくこと。(90分)
11	火山の噴火現象	様々な火山の噴火の様子をインターネットで調べておくこと。(90分)	火山ごとの噴火の様子の違を整理しておくこと。(90分)
12	火山の噴火様式	火山噴火の様式について調べておくこと(90分)	火山ごとに噴火様式の違う理由を整理しておくこと(90分)
13	日本列島における火山の特徴	火山フロントとは何か調べておくこと。(90分)	日本列島に活動的な火山が多い理由をまとめておくこと。(90分)
14	日本列島における自然災害	日本列島でこれまで経験した地震災害について調べておくこと。(90分)	日本列島で地震災害が多い理由につてまとめておくこと(90分)
15	日本列島における自然災害	日本列島でこれまで経験した火山災害について調べておくこと。(90分)	日本列島で火山災害が多い理由につてまとめておくこと(90分)
16	まとめ及び講評(第2回テスト)	これまでの授業のまとめをしておくこと。(90分)	これまでの授業のまとめをして整理しておくこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌 (科目ナンバリング: HUG122141)				
授業担当者(所属・職名)	渡部 斎(社会福祉学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 渡部 斎)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
地誌学は地域で生じている自然や社会などのさまざまな事象を総合的に理解することによって、その地域の性格を明らかにしようとする地理学の一分野である。本年度の地誌の講義では、地誌の考え方や地誌で取り扱われる資史料、地誌の事例としては地元北広島市をフィールドとして学修する。教職(中学社会・高校地理歴史科)に必要な知識・技術・能力を培う。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)、(3)、(4)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
地誌学を通して、地域の特性を把握することができる。

授業全体の内容と概要
1) 地域の調査方法(地図作業・地図読解・図表の読解等)について学修する。 2) 北広島市の地誌項目、自然(気候・地形)、社会(人口、歴史、地名、農業、工業、交通、都市等)について学修する。

授業の方法
主に授業形態は、講義形式(板書と配布資料)で行われる。地図作業や地図読解でスキルを磨き、フィールドワーク(現地調査)を行う予定である。また、実際に河川や丘陵、土地利用など、自分の目で確認ができる調査学習を実施することができる。課題は、レポート3回の提出と地図作業作成(水系図・土地利用図など)で、3回程度を予定している。レポートについては、コメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> 講義には高等学校で使用した地図帳を持参すると便利。 地図作業を必ず行うので12色程度の色鉛筆や定規を用意すること。 レポートは、指示した「レポート作成要領」に準拠したものを提出する。

資格指定科目
教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上である。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	30%	0%	20%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	30%	0%	20%	20%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・理解</td> <td>レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。</td> <td>レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。</td> <td>レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。</td> <td>レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。</td> <td>レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>技能</td> <td>作業課題(地図作業や地図読解)において、9割以上の得点を取ることができた。</td> <td>作業課題(地図作業や地図読解)において、8割以上の得点を取ることができた。</td> <td>作業課題(地図作業や地図読解)において、7割以上の得点を取ることができた。</td> <td>作業課題(地図作業や地図読解)において、6割以上の得点を取ることができた。</td> <td>作業課題(地図作業や地図読解)において、6割以上の得点を取ることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>態度</td> <td>右の記述を高いレベルで実現できた。</td> <td>フィールドワークなどに進んで参加し、調査学習の意義を理解することができた。</td> <td>フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができた。</td> <td>フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができた。</td> <td>フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。	技能	作業課題(地図作業や地図読解)において、9割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、8割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、7割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、6割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、6割以上の得点を取ることができなかった。	態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	フィールドワークなどに進んで参加し、調査学習の意義を理解することができた。	フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができた。	フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができた。	フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。																																				
技能	作業課題(地図作業や地図読解)において、9割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、8割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、7割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、6割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、6割以上の得点を取ることができなかった。																																				
態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	フィールドワークなどに進んで参加し、調査学習の意義を理解することができた。	フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができた。	フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができた。	フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『使用しない』^a</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『使用しない』 ^a						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『使用しない』 ^a																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『北広島遺産ハンドブック』^a</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『2.5万分の1地形図』^a</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『北広島遺産ハンドブック』 ^a						2	『2.5万分の1地形図』 ^a						3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『北広島遺産ハンドブック』 ^a																																									
2	『2.5万分の1地形図』 ^a																																									
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌 (科目ナンバリング: HUG122141)				
授業担当者(所属・職名)	渡部 斎(社会福祉学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 渡部 斎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方のガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
2	地誌の捉え方と考え方	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
3	地誌で取り扱われる資料について (市勢要覧)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	地誌で取り扱われる資料について (市勢要覧の資料編)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
5	地誌で取り扱われる資料について (農林業センサス・グラフや表等の読解)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
6	地図作業 (切峰断面図の作成)	地図作業の用意(色鉛筆・定規等)、地図帳で記号を確認しておくこと。(90分)	指示された部分を作成しておくこと。(90分)
7	地図作業 (水系図の作成)	地図作業の用意(色鉛筆・定規等)、地図帳で記号を確認しておくこと。(90分)	指示された部分を作成しておくこと。(90分)
8	北広島市の自然環境 (地形・地質)	予習としてのレポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	北広島市の自然環境 (気候)	予習としてのレポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	地図作業 (平成版の土地利用図作成)	地図作業の用意(色鉛筆・定規等)、地図帳で記号を確認しておくこと。(90分)	指示された部分を作成しておくこと。(90分)
11	地図作業 (平成版の土地利用図作成)	地図作業の用意(色鉛筆・定規等)、地図帳で記号を確認しておくこと。(90分)	指示された部分を作成しておくこと。(90分)
12	フィールドワーク	フィールドワークに使用する地図を作成すること。(90分)	調査学習の課題をしておくこと。(90分)
13	フィールドワーク	フィールドワークに使用する地図を作成すること。(90分)	調査学習の課題をしておくこと。(90分)
14	地図作業 (大正版の土地利用図作成)	地図作業の用意(色鉛筆・定規等)、地図帳で記号を確認しておくこと。(90分)	指示された部分を作成しておくこと。(90分)
15	地図作業 (大正版の土地利用図作成)	地図作業の用意(色鉛筆・定規等)、地図帳で記号を確認しておくこと。(90分)	指示された部分を作成しておくこと。(90分)
16	課題(地図読解・レポートなど)の解説の実施	まとめの準備(90分)	まとめの振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	民法(M) (科目ナンバリング: LAW122143, LAW422056, LAW522050)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
民法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう、条文を理解し、適用・解釈できるように学ぶ。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き、法学の基礎となる民法の面白さを伝える。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。

授業全体の内容と概要
法律の基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。民法は、市民生活や経済活動を送るうえで基本となる法律であり、最も身近な法律である。民法の基本となる知識を修得し、事例に即し講義を行う。具体的には、総則・物権・債権からなる財産法を中心に解説する。

授業の方法
授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料(第3回から第14回の計12回)を配布して実施する(調査学習含む)。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。確認テストは、講義の理解を深めるために6回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(オンライン授業の場合は実施しない)実施する。課題は、講義の理解を深めるために1回(前年実績)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講は原則2回を限度として実施する(公欠などの学生に対しては、補講を出席することによって単位認定基準を満たす場合のみ実施する)。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
・私語などの迷惑行為は厳禁。 ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。 ・六法を持参することを推奨。 ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後、プリント配布はしません。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は、10回以上 課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	10%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる事ができた。	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた。	法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取れた。	法律の条文を読み取れなかった。
事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる事ができた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた。	事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を理解できた。	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった。
課題に対し、問題解決ができた。	解答が的確で、過不足なく網羅して答えていた。	一部に解答と関係ないことを答えていた。	改善すべき点があったが、解答を一通り答えていた。	的確ではないが、解答を部分的には答えていた。	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ポケット六法 令和3年版』	佐伯 仁志, 大村 敦志 / 編集 代表	有斐閣	2020年	9784641009219	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	民法(M) (科目ナンバリング: LAW122143, LAW422056, LAW522050)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ガイダンス 民法とは	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	シラバスの説明 ガイダンス 民法全体の概観	シラバスの確認 民法の特徴と基本原理の調べ学習(90分)	復習(90分)
3	民法の基本原理, 契約, 制限行為能力者(未成年者, 成年被後見人)	民法の基本原理, 契約, 制限行為能力者についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
4	成年被後見人, 意思表示(錯誤・心裡留保・通謀虚偽表示・詐欺・強迫)	成年被後見人, 意思表示についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
5	代理(代理, 表見代理, 無権代理) 確認テスト1(前年実績)	代理(代理, 表見代理, 無権代理)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
6	代理(無権代理) 確認テスト2(前年実績)	代理(無権代理)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
7	問題演習の解答と解き方 時効(取得時効, 消滅時効) 確認テスト3(前年実績)	時効(取得時効, 消滅時効)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
8	物権 - 物権法の概観	物権法についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
9	物権 - 用益物権(地上権, 永小作権, 地役権, 入会権), 物権の変動(動産, 不動産), 即時取得 確認テスト4(前年実績)	用益物権, 物権の変動, 即時取得についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
10	物権 - 物権の変動(登記), 担保物権(留置権, 先取特権, 質権, 抵当権) 確認テスト5(前年実績)	物権の変動(登記), 担保物権(留置権, 先取特権, 質権, 抵当権)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
11	債権 - 保証契約, 連帯保証 課題1(前年実績)	保証契約, 連帯保証についての調べ学習(90分)	課題の作成 配布資料の復習(90分)
12	答案練習 債権 - 手付, 担保責任	課題の作成 手付, 担保責任についての調べ学習(90分)	答案練習の復習 配布資料の復習(90分)
13	債権 - 債務不履行, 同時履行の抗弁権, 危険負担 確認テスト6(前年実績)	債務不履行, 同時履行の抗弁権, 危険負担についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
14	債権 - 不当利得, 不法行為, 使用者責任, 工作物責任	不当利得, 不法行為, 使用者責任, 工作物責任についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
15	まとめ 定期試験の説明	第3回から第14回まで復習(90分)	試験範囲の確認により 第3回から第14回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説, 採点方法の説明	試験範囲の確認, 第3回から第14回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (M) (科目ナンバリング: HUG122137)				
授業担当者(所属・職名)	渡部 斎(社会福祉学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 渡部 斎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
異なる地理的環境によって、複雑な人間生活空間を生み出している。それは、どのように社会に投影されているのかを、人文地理学を通して考察する。生活環境に与える人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)について、理解することができる。

授業の位置づけ
経営学科のD P < 学修目標 > の2. と3. と4. < 履修すべき科目と単位 > の2. に対応する。

到達目標
人文地理学の考え方を理解することで、地域性の諸要因を説明できる。

授業全体の内容と概要
生活環境に与える人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)について学習し、特に地域性や環境に関する内容をグローバルに認識する。

授業の方法
授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等を利用する。テキスト及び配布資料等を中心に講義を行う。また、人文地理学に関連する課題において、ディスカッションを行う予定である。レポート課題(5本程度)は授業の予習であり、復習でもあるので重要である。なお、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
レポートは指示した「レポート作成要領」に準拠したものを提出すること。

資格指定科目
教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上である。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>25%</td> <td>25%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	50%	0%	0%	25%	25%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	50%	0%	0%	25%	25%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・理解</td> <td>レポート課題において、9割以上の得点を上げた。</td> <td>レポート課題において、8割以上の得点を上げた。</td> <td>レポート課題において、7割以上の得点を上げた。</td> <td>レポート課題において、6割以上の得点を上げた。</td> <td>レポート課題において、6割未満の得点であった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>右の記述を高いレベルで実現している。</td> <td>ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができる。</td> <td>ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができる。</td> <td>ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができる。</td> <td>ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができない。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>右の記述を高いレベルで実現している。</td> <td>人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を深く理解することができる。</td> <td>人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができる。</td> <td>人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)をやや理解することができる。</td> <td>人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができない。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を上げた。	レポート課題において、8割以上の得点を上げた。	レポート課題において、7割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割未満の得点であった。	思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現している。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができる。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができる。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができる。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができない。	関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現している。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を深く理解することができる。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができる。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)をやや理解することができる。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができない。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を上げた。	レポート課題において、8割以上の得点を上げた。	レポート課題において、7割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割未満の得点であった。																																				
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現している。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができる。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができる。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができる。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができない。																																				
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現している。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を深く理解することができる。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができる。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)をやや理解することができる。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができない。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『現代社会の人文地理学』</td> <td>福田 稜</td> <td>古今書院</td> <td>2014</td> <td>9784772231626</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1	『現代社会の人文地理学』	福田 稜	古今書院	2014	9784772231626		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1	『現代社会の人文地理学』	福田 稜	古今書院	2014	9784772231626																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『高等地図帳』</td> <td></td> <td>二ノ宮書店</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1	『高等地図帳』		二ノ宮書店				2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1	『高等地図帳』		二ノ宮書店																																							
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (M) (科目ナンバリング: HUG122137)				
授業担当者(所属・職名)	渡部 斎(社会福祉学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 渡部 斎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方のガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	人文地理学の歩み (歴史)	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	人文地理学の歩み (歴史)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	「地域」の概念について	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	「地域」と空間について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
6	機能地域と同質地域について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	人口地理学 (分布と人口動向)	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	人口地理学 (人口爆発のメカニズム)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	人口地理学ディスカッション (人口爆発の抑制)	ディスカッションの準備学修。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
10	人口地理学 (人口爆発の影響)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	人口地理学ディスカッション (少子高齢化)	ディスカッションの準備学修。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	人口地理学 (先進国の人口問題)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
13	都市地理学 (都市の発達)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	都市地理学 (都市の構造)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
15	都市地理学 (ニュータウン)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	課題(レポートなど)の解説	まとめの準備(90分)	まとめの振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	
科目名称	人文地理学 (M) (科目ナンバリング: HUG122138)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	2 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	3 Q	授業形態	講義 必修・選択
科目名称	人文地理学 (M) (科目ナンバリング: HUG122138)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	2 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	加セラリク論 (M) (科目ナンバリング: CLP123074, CLP423088, CLP523099)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士、公認心理師が精神科病院勤務経験、スクールカウンセラー経験等を活かしながら、臨床心理学を指導する。			

概要

履修目標
C. ロジャースの提唱した来談者中心療法(カウンセリング)に関する基本的な学習をした後、福祉現場の実際の臨床に沿いながら、カウンセリングのあり方を学ぶ。具体的には、(1)不登校、(2)被虐待、(3)身体障害、(4)軽度発達障害(LD・ADHD等)に焦点を当てて、個別・家族・集団カウンセリングについて講義を受けて、実践トレーニングで学ぶ。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標					
カウンセリングによって人は成長し、発達する多面的な存在として、幅広い視点からカウンセリングを習得する。					
授業に主体的に取り組む態度(カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を用いるかをわがややく説明できた。)	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を用いるかをわがややく説明できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を用いるかをわがややく説明できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を用いるかをわがややく説明できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を用いるかをわがややく説明できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を用いるかをわがややく説明できた。

授業全体の内容と概要
配付資料などを用い、これまでの研究によって蓄積されてきた知見を紹介する。それらを通し、人間にそなわっている基本的な心的機能全般についての知識を獲得する。

授業の方法
教科書、プリント、DVDでのカウンセリングの実践を視聴し、グループワークでカウンセリングの技法を学んでいく(ディスカッション、ロールプレイ含む)。毎回、授業の最後に学んだことや質問をまとめて提出する。質問は次の授業で回答する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
毎回、授業の最後に学んだことをまとめて提出すること。提出によって出席とし、成績に反映する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
カウンセリングについての理解	教科書やDVDに基づいてカウンセリング技法を理解し、技法をスムーズに使えた。	教科書やDVDに基づいてカウンセリング技法を理解し、技法をおおむね使えた。	教科書やDVDに基づいてカウンセリング技法を理解し、技法を一定程度使えた。	教科書やDVDに基づいてカウンセリングの理解し、技法を部分的に使えた。	教科書やDVDに基づいてカウンセリング技法の理解が乏しく、技法を部分的にも使えなかった。
カウンセリングの視点に基づく思考・判断力	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を使うかを十分考察できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を使うかをわがややく考察できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を使うかを一定程度考察できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を使うかを考察できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を使うかを考察することができなかった。
授業に主体的に取り組む態度(カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を用いるかをわがややく説明できた。)	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を用いるかをわがややく説明できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を用いるかをわがややく説明できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を用いるかをわがややく説明できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を用いるかをわがややく説明できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を用いるかをわがややく説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マイクロカウンセリング技法』	福原真知子	風間書房	2007	978-4-7599-7637-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	カウンセリング論(M) (科目ナンバリング: CLP123074, CLP423088, CLP523099)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士、公認心理師が精神科病院勤務経験、スクールカウンセラー経験等を活かしながら、臨床心理学を指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。カウンセリングの基本。C.ロジャースの来談者中心療法や日本におけるカウンセリングのあり方について。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
2	欧米と日本の比較。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
3	クライアントを理解する(カウンセラーの自己覚知を含む)。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
4	不登校の理解とカウンセリングやその他の心理療法等による支援策について、不登校の理解・学校・各種専門機関とスクールカウンセラーの役割について。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
5	具体的支援のあり方。・紙上ロールプレイング法(不登校編)による学習。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
6	被虐待児童へのカウンセリング。虐待問題に焦点を当てた、カウンセリングやその他の心理療法等による支援策について。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
7	具体的支援のあり方。・紙上ロールプレイング法(虐待編)による学習。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
8	身体障害者(児)へのカウンセリング。事故や疾病により身体障害を抱えることになった人々のカウンセリングやその他の心理療法等による支援策。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
9	軽度発達障害児へのカウンセリング。軽度発達障害(LD, ADHD, アスペルガー等)に焦点を当てた、カウンセリングやその他の心理療法等による支援策について。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
10	具体的支援のあり方。・紙上ロールプレイング法(軽度発達障害編)による学習。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
11	子どもの不登校やいじめ、発達障害に関して協力が欠かれない親(保護者)へのカウンセリングやコンサルテーション(助言指導)について。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
12	集団での治療的効果等について、集団カウンセリングの効果。・具体的支援のあり方(事例学習)。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
13	カウンセリング・マインドを現場臨床に役立てるためにこれまでの学習を基本にしたロールプレイング法による学習。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
14	福祉現場等でカウンセリング・マインドをどのように応用し実践できるかグループ討議を行う。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
15	各福祉現場における実態を踏まえて、カウンセリング等の実務的な応用について質疑応答を行う。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
16	レポートについて、最終回において解説しフィードバックする。	レポート作成の準備をすること(90分)	レポートの作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史(M) (科目ナンバリング: SOC122132, SOC422058)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	速読法の取得。テーマと論点を明記するレジメの作成能力の構築。社会思想が生まれてきた背景を学ぶ。																								
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)と(2)」、「2(3)」に対応する。																								
到達目標	各時代における社会の成り立ち、その中で思想が育まれていったことを理解できる。																								
授業全体の内容と概要	社会思想はそれぞれの政治システム、文化などを背景にして生まれてきたものだが、一部の思想は時代精神となり、全世界に波及にいたる思想的な潮流となる。キリスト教、イスラム教の伝播から、西洋の合理主義精神と近代主義が世界に広がっていった歴史的な経緯を考える。																								
授業の方法	講義の前半の60分弱を通常の講義にあて、残りの30分は各学生が講義内容について何が理解でき、何がわからなかったかを論述してもらいます。3週ないし4週に一度、書き出したメモ書きの提出を求めます。毎回出席して、メモ書きさえ出せば、単位習得可能な講義とします。わからなかったことについて黒板に書き出すことを求めます。それを前提として、事象について議論します。学生の数人に対して、次週の章について、テーマ、論点を整理したレジメの作成を求めます。質問は随時受付、フィードバックします。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																		
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。(最低出席数は10回とします。)講義の過程で、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の事由がない限り、不可とします。																								
資格指定科目																									

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上。授業開始後20分以降の出席は受講回数から除外する(公共交通機関などの遅延の場合は例外とする)。テキストを購入しない学生は、無条件で不可とします。(ただし、各講義にその時間のコピーなどを持参したものは例外とします。)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジメ作成を2時間以内にできた。	各章のレジメ作成3時間以内でできた。	レジメの作成の仕方が理解できた。	レジメの意義を理解できた。	レジメの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理が一応できた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点が理解できなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着けた。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識の習得ができなかった。
自主性	発表回数多数回を達成した。	発表回数3回以上を達成した。	発表回数2回以上を達成した。	発表回数1回以上を達成した。	発表できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ヨーロッパ思想入門』	岩田 靖夫	岩波書店			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史(M) (科目ナンバリング: SOC122132, SOC422058)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
2	ホメロスの描くギリシヤの英雄たち	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
3	ギリシヤ三大悲劇とアテナイの民主制	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
4	ソクラテス	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
5	ペリクレスとプラトン	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
6	アリストテレスとアレキサンダー大王	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
7	旧約聖書の世界	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
8	キリスト教とローマ帝国	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
9	ゲルマン諸国家	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
10	ルネッサンス	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
11	宗教改革	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
12	市民革命	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
13	ルソーの社会契約説	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
14	アダム・スミスと資本主義の芽生え	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
15	ヘーゲル	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)
16	まとめ(レポートの解説、フィードバック)	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	各回の授業の重要点の確認(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史(M) (科目ナンバリング: HIS122133, HIS422057)				
授業担当者(所属・職名)	牧之内 友(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 牧之内 友)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
ますますグローバル化が進む中で、諸地域の文化を学ぶことはより重要になっている。本授業では日本文化の一端である古典を読みながら、その基本知識を学んで日本文化の歴史を振り返るとともに、その特徴について考察できるようにする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
1. それぞれの古典の歴史的背景を理解する。 2. それぞれの古典の内容を理解する。 3. それぞれの古典について、適切に説明、紹介できる。

授業全体の内容と概要
1. 古典についてそれぞれテキスト読解を行う。 2. 古典についての歴史的背景や評価の歴史の変遷をたどる。 3. 現代における古典の理解について考察する。

授業の方法
毎回、テキストとそれに伴う資料等をあらかじめ配布する。それに基づきテキスト読解を行う。受講者はそれぞれテキスト読解を担当し、発表を行う。提出されたレポートにはコメントするなどのフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
毎回、テキスト読解を担当してもらい、それについて質疑応答を行う。また小文提出をもって出席に代える。私語厳禁。

資格指定科目
教職課程(社会・地理歴史)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	50%	0%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	50%	0%	0%	50%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>古典についての知識</td> <td>古典についての関係性を含めた多様な知識を持つとともに、その評価の歴史的背景の変遷についての知識を指摘できた。</td> <td>古典の基本知識や歴史的背景の知識を持ち、複数の古典について、その関係性を指摘できた。</td> <td>古典の時代、作者などの基本知識に加え、その歴史的背景の知識を持つことができた。</td> <td>古典の時代、作者などの基本知識を持つことができた。</td> <td>古典の時代、作者などの基本知識を持つことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>テキスト読解</td> <td>授業内において、テキスト読解において、適切に現代語訳でき、そのテキストについて説明し、それに対する評価を行うことができた。</td> <td>授業内において、テキスト読解において、適切に現代語訳でき、かつそのテキストについての説明ができた。</td> <td>授業内において、テキスト読解において、現代語訳し、適切に表現できた。</td> <td>授業内において、テキスト読解において、現代語訳(速語訳)することができた。</td> <td>授業内において、テキスト読解が行うことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>テキストについての考察</td> <td>レポートにおいて、取り上げた3つ以上のテキストについて、現代語訳を行い、その意味について考察がなされているとともに、その関係性を分析できていた。</td> <td>レポートにおいて、取り上げた複数のテキストについて、現代語訳を行い、その意味について考察がなされているとともに、その関係性を分析できていた。</td> <td>レポートにおいて、取り上げた複数のテキストについて、現代語訳を行い、その意味について考察がなされていない。</td> <td>レポートにおいて、取り上げたテキストの現代語訳を行い、その意味について考察がなされていない。</td> <td>レポートにおいて、取り上げたテキストの現代語訳を行えず、その意味についての考察がなされていない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	古典についての知識	古典についての関係性を含めた多様な知識を持つとともに、その評価の歴史的背景の変遷についての知識を指摘できた。	古典の基本知識や歴史的背景の知識を持ち、複数の古典について、その関係性を指摘できた。	古典の時代、作者などの基本知識に加え、その歴史的背景の知識を持つことができた。	古典の時代、作者などの基本知識を持つことができた。	古典の時代、作者などの基本知識を持つことができなかった。	テキスト読解	授業内において、テキスト読解において、適切に現代語訳でき、そのテキストについて説明し、それに対する評価を行うことができた。	授業内において、テキスト読解において、適切に現代語訳でき、かつそのテキストについての説明ができた。	授業内において、テキスト読解において、現代語訳し、適切に表現できた。	授業内において、テキスト読解において、現代語訳(速語訳)することができた。	授業内において、テキスト読解が行うことができなかった。	テキストについての考察	レポートにおいて、取り上げた3つ以上のテキストについて、現代語訳を行い、その意味について考察がなされているとともに、その関係性を分析できていた。	レポートにおいて、取り上げた複数のテキストについて、現代語訳を行い、その意味について考察がなされているとともに、その関係性を分析できていた。	レポートにおいて、取り上げた複数のテキストについて、現代語訳を行い、その意味について考察がなされていない。	レポートにおいて、取り上げたテキストの現代語訳を行い、その意味について考察がなされていない。	レポートにおいて、取り上げたテキストの現代語訳を行えず、その意味についての考察がなされていない。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
古典についての知識	古典についての関係性を含めた多様な知識を持つとともに、その評価の歴史的背景の変遷についての知識を指摘できた。	古典の基本知識や歴史的背景の知識を持ち、複数の古典について、その関係性を指摘できた。	古典の時代、作者などの基本知識に加え、その歴史的背景の知識を持つことができた。	古典の時代、作者などの基本知識を持つことができた。	古典の時代、作者などの基本知識を持つことができなかった。																								
テキスト読解	授業内において、テキスト読解において、適切に現代語訳でき、そのテキストについて説明し、それに対する評価を行うことができた。	授業内において、テキスト読解において、適切に現代語訳でき、かつそのテキストについての説明ができた。	授業内において、テキスト読解において、現代語訳し、適切に表現できた。	授業内において、テキスト読解において、現代語訳(速語訳)することができた。	授業内において、テキスト読解が行うことができなかった。																								
テキストについての考察	レポートにおいて、取り上げた3つ以上のテキストについて、現代語訳を行い、その意味について考察がなされているとともに、その関係性を分析できていた。	レポートにおいて、取り上げた複数のテキストについて、現代語訳を行い、その意味について考察がなされているとともに、その関係性を分析できていた。	レポートにおいて、取り上げた複数のテキストについて、現代語訳を行い、その意味について考察がなされていない。	レポートにおいて、取り上げたテキストの現代語訳を行い、その意味について考察がなされていない。	レポートにおいて、取り上げたテキストの現代語訳を行えず、その意味についての考察がなされていない。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史(M) (科目ナンバリング: HIS122133, HIS422057)				
授業担当者(所属・職名)	牧之内 友(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 牧之内 友)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション	シラバスを熟読し、本講義について理解する(90分)	説明内容を確認しまとめる(90分)
2	日本文化史概観 特に文化観について	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
3	古典を読む1 『古事記』 『日本書紀』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
4	古典を読む2 『風土記』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
5	古典を読む3 『竹取物語』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
6	古典を読む4 『日本霊異記』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
7	古典を読む5 『今昔物語』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
8	古典を読む6 『古今著聞集』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
9	古典を読む7 『方丈記』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
10	古典を読む8 『徒然草』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
11	古典を読む9 御伽草子 その1	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
12	古典を読む10 御伽草子 その2	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
13	古典を読む11 『愚管抄』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
14	古典を読む12 『神皇正統記』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
15	古典を読む13 『談史余論』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
16	まとめ	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史(M) (科目ナンバリング: POL122131, POL422059)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

速読法の取得。テーマと論点を明記するレジメの作成能力の構築。正しい本の読み方が身につけば、知識はそれについてくることが実感できる。

授業の位置づけ

経営学科のDP「1(2)」、「2(1)」に対応する。

到達目標

明治以降の近代日本の政治制度の特色を理解し、戦後の政治体制との類似性と相違性を理解できる。

授業全体の内容と概要

北岡伸一著『日本政治史』を読むことで、明治維新から第二次世界大戦直前までの日本政治の特色と問題点の解明を目指します。各時代の政治的な課題を的確に把握し、漠然とした歴史像ではなく、象徴的な問題点と関連させて歴史を見る目を養ってもらいたい。

授業の方法

講義の前半の60分弱を通常の講義にあて、残りの30分は各学生が講義内容について何が理解でき、何がわからなかったかを論述してもらいます。3週ないし4週に一度、書き出したメモ書きの提出を求めます。毎回出席して、メモ書きさえ出せば、単位習得可能な講義とします。わからなかったことについて黒板に書き出すことを求めます。それを前提として、事象について議論します。学生の数人に対して、次週の章について、テーマ、論点を整理したレジメの作成を求めます。わからなかったことについての積極的な調査と発表を歓迎します。学生の数人に対して、次週の章について、テーマ、論点を整理したレジメの作成を求めるともします。質問は随時受け付け、フィードバックします。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。(最低出席数は10回とします。)講義の過程で、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の事由がない限り、不可とします。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上。授業開始後20分以降の出席は受講回数から除外する(公共交通機関などの遅延の場合は例外とする)。テキストを購入しない学生は、無条件で不可とします。(ただし、各講義にその時間のコピーなどを持参した学生は例外とします。)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジメ作成を2時間以内にできた。	各章のレジメ作成3時間以内でできた。	レジメの作成の仕方が理解できた。	レジメの意義を理解できた。	レジメの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理が一応できた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点の理解が得られなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着けた。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識の習得ができなかった。
自主性	発表回数多数回以上を達成した学生。	発表回数3回以上を達成した学生。	発表回数2回以上を達成した学生。	発表回数1回以上を達成した学生。	発表できなかった学生。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本政治史』	北岡 伸一	有斐閣	2011年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史(M) (科目ナンバリング: POL122131, POL422059)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	レジメの作り方の確認(90分)
2	幕藩体制の政治的特質	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
3	西洋の衝撃への対応	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
4	明治国家の建設	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
5	政治批判の噴出	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
6	明治憲法体制の成立	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
7	議会政治の定着	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
8	日清・日露戦争	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
9	帝国の膨張	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
10	政党政治の発展	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
11	国際協調と政党内閣	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
12	軍部の台頭	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
13	最帝国の崩壊	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
14	敗戦・占領・講和	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
15	植民地とその後	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
16	まとめ (レポートの解説、フィードバック)	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法(M) (科目ナンバリング: LAW122144, LAW423055)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	国際社会のルールが国際法である。国際法は国際社会を構成する各々国家が遵守すべき法である。国際社会の秩序維持に欠かすことのできない国際法についての関心を深め、国際社会のルールについて学ぶ。				
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。				
到達目標	「国際社会の平和と安全」を維持するための国際法について理解を深め、更に高度な知識を得るための基礎をつくる。				
授業全体の内容と概要	国際法の存在意義について考え、国際法に関する基礎知識の習得を目指す。				
授業の方法	板書、パワーポイントを用い、講義形式・学生参加型授業を実施する。 中間テスト、定期試験の解説等のフィードバックを実施する。				
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)	
履修上の注意事項	出席重視, テキスト持参				
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
成績評価には10回以上の出席が必要。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績9割以上。用語・理論共によく理解していた。	試験の成績8割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績7割以上。用語・理論をある程度理解していた。	試験の成績6割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績6割以下。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができていた。	思考力・表現能力共に良。自分の考えを適切に伝えることができていた。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができていた。	思考力・表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えるのに苦労していた。	思考力・表現力共に弱かった。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『はじめての国際法 第2版』	尾崎 哲夫	自由国民社	2016	978-4-426	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法(M) (科目ナンバリング: LAW122144, LAW423055)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業の進め方、採点に関すること、その他授業に関するガイダンス。(シラバスの説明) 国際法とは何か	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
2	国際私法と国際公法について	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
3	国際公法とは何か 国際法主体・国際法の法源	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
4	国際法の歴史・現代国際法制度	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
5	条約、条約の改定・修正	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
6	国家とは 国家は国際法の主体	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
7	国家の承認 政府の承認	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
8	中間テスト 国家の権利・義務・権能	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
9	国家領域 「陸」「海」「空	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
10	海の区分 内水・領海・	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
11	海の区分 接続水域・排他的経済水域・公海	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
12	領空と国際空域	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
13	宇宙空間	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
14	国際紛争・領土問題	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
15	国際紛争・領土問題	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
16	総合評価 定期試験60分、解説30分	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)

授業計画			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

概要

履修目標
情報通信技術の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
多岐にわたる経営学と情報分野の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
情報通信技術とシステム開発に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法
講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
30分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点として積算される。最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。原則として5評価は全出席者に限る。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>100%</td> <td>%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	%	%	%	%	100%	%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
%	%	%	%	100%	%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>知識・技能を得るために十分積極的に活動した。</td> <td>知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。</td> <td>知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動を行った。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をしていた。</td> <td>各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつあった。</td> <td>各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。</td> <td>ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるが、なかなか定着していなかった。</td> <td>ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きの姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性</td> <td>自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がっていた。</td> <td>授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。</td> <td>積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。</td> <td>何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることなく、日々の活動も受動的であった。</td> <td>自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をしていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつあった。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きの姿勢が見られなかった。	主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がっていた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることなく、日々の活動も受動的であった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。																																				
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をしていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつあった。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きの姿勢が見られなかった。																																				
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がっていた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることなく、日々の活動も受動的であった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	シラバスの確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	授業 情報技術に関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	授業 情報技術に関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	授業 情報技術に関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	授業 ハードウェアに関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	授業 ハードウェアに関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	授業 ハードウェアに関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	授業 ハードウェアに関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	授業 コンピューター組み立て実習	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	授業 コンピューター組み立て実習	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	授業 コンピューター組み立て実習	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	授業 コンピューター組み立て実習	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	授業 OSインストール	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	授業 OSインストール	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	授業 性能評価と調整	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	まとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	100%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	100%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>知識・技能を得るために十分積極的に活動した。</td> <td>知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。</td> <td>知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動を行った。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。</td> <td>各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。</td> <td>各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。</td> <td>ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。</td> <td>ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性</td> <td>自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。</td> <td>授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに關して前向きで、努力が窺える。</td> <td>積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。</td> <td>何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。</td> <td>自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。	主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに關して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。																																				
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。																																				
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに關して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標						
授業の位置づけ						
到達目標						
授業全体の内容と概要						
授業の方法						
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		
履修上の注意事項						
資格指定科目						

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標						
授業の位置づけ						
到達目標						
授業全体の内容と概要						
授業の方法						
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		
履修上の注意事項						
資格指定科目						

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標					
授業の位置づけ					
到達目標					
授業全体の内容と概要					
授業の方法					
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)	
履修上の注意事項					
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

概要

履修目標												
授業の位置づけ												
到達目標												
授業全体の内容と概要												
授業の方法												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
資格指定科目												

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身につけ、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得することとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(3)」に対応する。

到達目標
会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

授業の方法
専門演習を進める上で、「商法」「会社法」(講義)を受講することが前提条件になります。専門演習は基本的に講義・発表(報告者はあらかじめ決めて順次報告)・討論する方法をとります。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
・演習科目なので、積極的な出席が必要 ・私語などの迷惑行為は厳禁 ・講義中スマホの操作は厳禁

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組む、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組む、日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものとして、不明点を質問したりする受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 個別面談・履修登録チェック	授業への参加の心構えを考える。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
2	個別面談・履修登録チェック アセスメントテスト	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
3	株式会社(1)・設立・株式 キャリアデザイン(1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
4	株式会社(2)・設立・株式 キャリアデザイン(2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
5	株式会社の機関設計(1) キャリアデザイン(3)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
6	株式会社の機関設計(2) キャリアデザイン(4)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
7	株式会社の機関設計(3) キャリアデザイン(5)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
8	株式会社の機関設計(4)事例研究 キャリアデザイン(6)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
9	株式会社の機関設計(5)事例研究 キャリアデザイン(7)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
10	株式会社の機関設計(6)事例研究 キャリアデザイン(8)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
11	株式会社の経営体制・骨格と役割(1)株主総会 キャリアデザイン(9)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
12	株式会社の経営体制・骨格と役割(2)株主総会・ 取締役・取締役会 キャリアデザイン(10)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
13	株式会社の経営体制・骨格と役割(3)取締役・取 締役会 キャリアデザイン(11)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
14	株式会社の経営体制・骨格と役割(4)取締役・取 締役会 キャリアデザイン(12)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
15	株式会社の経営体制・骨格と役割(5)事例研究 キャリアデザイン(13)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
16	株式会社の経営体制・骨格と役割(6)事例研究 個別面談・履修指導	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	前期全体の振り返りを行う。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
専門演習 A では、経営の専門知識と実務について、グループワークやフィールドワークを通じて学び、将来、社会人になるにあたり、必要なスキルや考え方を養成することを目的とする。

授業の位置づけ
経営学部でのDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「2(3)」に対応する。

到達目標
本演習における到達目標は、以下の3つである。与えられたテーマに対して、グループワークで一定の答えを導き出すことができる。同じゼミの学生や指導教官と会話をしてコミュニケーションを図ることができる。本演習で学ぶ経営の専門知識やスキルを踏まえて、経営的なものの考え方ができる。

授業全体の内容と概要
本演習で最も重要視しているのは、グループディスカッションである。本演習では、グループディスカッションの基本ルールから実践までを時間を掛けて学ぶ。その後、グループディスカッションで出された問題や課題について、フィールドワークをしながら、解決策を導き出すまでの手法を学ぶ。

授業の方法
本演習における運営・活動は受講生が主体になることを期待します。そのため、P D C A サイクルを活用して、演習の計画を立てる段階から、実行、振り返り、そして、次の課題に向けた行動を考えていきます。その過程において、適宜、グループワークと、各自のプレゼンテーションを繰り返します。グループディスカッションの中で出てきた問題や課題はフィールドワークを実施して解決策を検討します。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
本演習を受講するにあたり、以下の3つを重要視します。提出物などの約束が守れること、無断欠席はしないこと、ゼミに積極的に参加すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	90%	%	%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
グループディスカッションの参加度	グループディスカッションで、周りの雰囲気を感じながら、的確かつ抜本的な発言をした。	グループディスカッションで、積極的に的確な発言をした。	グループディスカッションで積極的に発言をした。	グループディスカッションで進行役から当てられてから発言した。	グループディスカッションに参加しなかった。
他人とのコミュニケーション力	どんな人でも分け隔てなく、その人に対応した意思疎通ができた。	相手の意見を傾聴し尊重した上で、相互に意思疎通ができた。	相手と相互に意思疎通ができた。	必要に応じて、相手と意思疎通ができた。	相手と意思疎通を取ることができなかった。
課題に対応したプレゼンテーション力	課題に対して、適度な時間内に、的確な内容を身振り手振りを加え、わかりやすく発表ができた。	課題に対して、聞き取りやすい言葉で適度な時間内に発表することができた。	課題に対して、適度な時間内に発表することができた。	課題に対して、最低限の内容を発表することができた。	そもそも人前で発表ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(ゼミナールの進め方、ゼミ長の選出等)	シラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	演習内容の復習(90)
2	グループディスカッションの導入(KJ法)	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
3	グループディスカッションの実践 ゼミナールの運営計画を立てる	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
4	ゼミナールの研究テーマの設定 グループディスカッションにより案を複数個に絞る。	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
5	ゼミナールの研究テーマの設定 グループディスカッションで絞られた内容を1つに決定する。	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
6	研究テーマの学習 基本情報の整理	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
7	研究テーマの学習 グループディスカッション	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
8	研究テーマの学習 問題や課題の整理	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
9	研究テーマの学習 フィールドワーク先の選定	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
10	フィールドワーク	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
11	フィールドワーク	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
12	フィールドワーク	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
13	報告書の作成	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
14	報告書の作成	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
15	研究テーマのまとめ プレゼンテーション	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)
16	前期の自己評価	次回の演習について予習をしてこること。(90)	演習内容の復習(90)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。 ・新たな指導法を確立する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(4)」、「2(3)」に対応する。

到達目標
データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。 統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要
主にデータ収集、テーマを各自決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・トレーニング ・各部活における新たな指導法 ・ゲーム分析 ・簡単な動作分析 など

授業の方法
自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。 途中経過をパワーポイントで発表し、意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>25%</td> <td>25%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	25%	25%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	25%	25%	0%	50%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論文の内容を理解したか</td> <td>十分に理解した</td> <td>理解した</td> <td>おおむね理解した</td> <td>理解できていない力所がある</td> <td>全く理解できていない</td> </tr> <tr> <td>データ分析やパワーポイントの操作を理解したか</td> <td>十分に理解した</td> <td>理解した</td> <td>おおむね理解した</td> <td>理解できていない力所がある</td> <td>全く理解できていない</td> </tr> <tr> <td>発表の際の工夫は行われていたか</td> <td>十分に行われた</td> <td>行われた</td> <td>おおむね行われた</td> <td>行われていない力所がある</td> <td>全く行われていない</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない	データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない	発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない																																				
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない																																				
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス		学習内容の復習(90分)
2	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
3	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
4	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
5	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
6	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
7	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
8	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
9	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
10	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
11	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
12	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
13	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
14	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
15	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
16	まとめ・発表	パワーポイントでの作成	学習内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

概要

履修目標
情報通信技術の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
多岐にわたる経営学と情報分野の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
情報通信技術とシステム開発に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法
講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
30分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点として積算される。最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。原則として5評価は全出席者に限る。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>100%</td> <td>%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	%	%	%	%	100%	%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
%	%	%	%	100%	%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>知識・技能を得るために十分積極的に活動した。</td> <td>知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。</td> <td>知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動を行った。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をしていた。</td> <td>各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつあった。</td> <td>各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。</td> <td>ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるが、なかなか定着していなかった。</td> <td>ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きの姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性</td> <td>自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がっていた。</td> <td>授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。</td> <td>積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。</td> <td>何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることなく、日々の活動も受動的であった。</td> <td>自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をしていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつあった。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きの姿勢が見られなかった。	主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がっていた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることなく、日々の活動も受動的であった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。																																				
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をしていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつあった。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きの姿勢が見られなかった。																																				
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がっていた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることなく、日々の活動も受動的であった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	シラバスの確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	授業 情報技術に関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	授業 情報技術に関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	授業 情報技術に関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	授業 オペレーティングシステムに関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	授業 オペレーティングシステムに関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	授業 オペレーティングシステムに関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	授業 オペレーティングシステムに関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	授業 オペレーティングシステムインストール実習	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	授業 の評価	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	授業 オペレーティングシステムインストール実習	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	授業 の評価	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	授業 オペレーティングシステムインストール実習	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	授業 の評価	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	授業 の最適化	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	まとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)	経営学科各教員		研究室所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がり、日本における社会人としての素養が身についた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに關して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)	経営学科各教員		研究室所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標			
授業の位置づけ			
到達目標			
授業全体の内容と概要			
授業の方法			
アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項			
資格指定科目			

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)			
授業担当者(所属・職名)		研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身につけ、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得することとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(3)」に対応する。

到達目標
会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

授業の方法
専門演習を進める上で、「商法」「会社法」(講義)を受講することが前提条件になります。専門演習は基本的に講義・発表(報告者はあらかじめ決めて順次報告)・討論する方法をとります。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
・演習科目なので、積極的な出席が必要 ・私語などの迷惑行為は厳禁 ・講義中スマホの操作は厳禁

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組む。十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組む。日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分。知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む。余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものとして、不明点を質問したりする受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 個別面談・履修登録チェック	授業への参加の心構えを考える。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
2	個別面談・履修登録チェック 株式会社の経営体制・資格と役割(6)事例研究 大学の学びとキャリア(1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
3	株式会社の経営体制・資格と役割(7)事例研究 大学の学びとキャリア(2) 大学で何を学び、身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
4	株式会社の経営体制・責任(1)役員 大学の学びとキャリア(3) 大学で何を学び、身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
5	株式会社の経営体制・責任(2)役員 大学の学びとキャリア(4) 大学で何を学び、身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
6	株式会社の経営体制・責任(3)事例研究 大学の学びとキャリア(5) 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
7	株式会社の経営体制・責任(4)事例研究 大学の学びとキャリア(6) 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
8	株式会社の経営体制・責任(5)事例研究 大学の学びとキャリア(7) 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
9	株式会社の経営体制・資格と役割(5)指名委員会 等・監査等委員会・執行役 大学の学びとキャリア(8)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
10	株式会社の経営体制・資格と役割(6)監査役・監査役会 大学の学びとキャリア(9)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
11	株式会社の経営体制・資格と役割(7)会計参与・ 会計監査人 就職活動の準備(1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
12	株式会社の経営体制・資格と役割(8)事例研究 就職活動の準備(2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
13	株式会社の経営体制・資格と役割(9)事例研究 就職活動の準備(3)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
14	株式会社の経営体制・資格と役割(10)事例研究 就職活動の準備(4)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
15	株式会社の経営体制・資格と役割(11)事例研究 就職活動の準備(5)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
16	個別面談・履修登録チェック	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	前期全体の振り返りを行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
専門演習 B では、経営の専門知識と実務について、グループワークやフィールドワークを通じて学び、将来、社会人になるにあたり、必要なスキルや考え方を養成することを目的とする。

授業の位置づけ
経営学部でのDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「2(3)」に対応する。

到達目標
本演習における到達目標は、以下の3つである。与えられたテーマに対して、グループワークで一定の答えを導き出すことができる。同じゼミの学生や指導教官と会話をしてコミュニケーションを図ることができる。本演習で学ぶ経営の専門知識やスキルを踏まえて、経営的なものの考え方ができる。

授業全体の内容と概要
本演習で最も重要視しているのは、グループディスカッションである。本演習では、グループディスカッションの基本ルールから実践までを時間を掛けて学ぶ。その後、グループディスカッションで出された問題や課題について、フィールドワークをしながら、解決策を導き出すまでの手法を学ぶ。

授業の方法
本演習における運営・活動は受講学生が主体になることを期待します。そのため、P D C Aサイクルを活用して、演習の計画を立てる段階から、実行、振り返り、そして、次の課題に向けた行動を考えていきます。その過程において、適宜、グループワークと、各自のプレゼンテーションを繰り返します。グループディスカッションの中で出てきた問題や課題はフィールドワークを実施して解決策を検討します。

アクティブラーニングの実施方法
○ プレゼンテーション ○ グループワーク ○ フィールドワーク P B L
模擬授業 ロールプレイ 調査学習 反転授業
ディスカッション 実験・実習・実技 双方向授業 その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
本演習を受講するにあたり、以下の3つを重要視します。提出物などの約束が守れること、無断欠席はしないこと、ゼミに積極的に参加すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。
評価方法
定期試験 レポート 課題・作品 中間テスト 平常点 その他
% % 90% % % 10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
グループディスカッションの参加度	グループディスカッションで、周りの雰囲気を感じながら、的確かつ抜本的な発言をした。	グループディスカッションで、積極的に的確な発言をした。	グループディスカッションで積極的に発言をした。	グループディスカッションで進行役から当てられてから発言した。	グループディスカッションに参加しなかった。
他人とのコミュニケーション力	どんな人でも分け隔てなく、その人に対応した意思疎通ができた。	相手の意見を傾聴し尊重した上で、相互に意思疎通ができた。	相手と相互に意思疎通ができた。	必要に応じて、相手と意思疎通ができた。	相手と意思疎通を取ることができなかった。
課題に対応したプレゼンテーション力	課題に対して、適度な時間内に、的確な内容を身振り手振りを加え、わかりやすく発表ができた。	課題に対して、聞き取りやすい言葉で適度な時間内に発表することができた。	課題に対して、適度な時間内に発表することができた。	課題に対して、最低限の内容を発表することができた。	そもそも人前で発表ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No 書籍名 著者 出版社 出版年 I S B N 備考						
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No 書籍名 著者 出版社 出版年 I S B N 備考						
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸	研究室所在	1号館 2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。 新たな指導法を確立する。
------	--

授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(4)」、「2(3)」に対応する。
---------	-----------------------------------

到達目標	<p>データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。 統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。</p>
------	---

授業全体の内容と概要	<p>主にデータ収集、テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレーニング ・各部活における新たな指導法 ・ゲーム分析 ・簡単な動作分析 など
------------	--

授業の方法	<p>自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。 途中経過をパワーポイントで発表し、意見交換を行う。</p>
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。
----------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス		学習内容の復習(90分)
2	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
3	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
4	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
5	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
6	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
7	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
8	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
9	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
10	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
11	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
12	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
13	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
14	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
15	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
16	まとめ・発表	パワーポイントでの作成	学習内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

概要

履修目標
情報通信技術の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
多岐にわたる経営学と情報分野の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
情報通信技術とシステム開発に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法
講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
30分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点として積算される。最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。原則として5評価は全出席者に限る。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>100%</td> <td>%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	%	%	%	%	100%	%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
%	%	%	%	100%	%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>知識・技能を得るために十分積極的に活動した。</td> <td>知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。</td> <td>知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動を行った。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をしていた。</td> <td>各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつあった。</td> <td>各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。</td> <td>ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるが、なかなか定着していなかった。</td> <td>ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きの姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性</td> <td>自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がっていた。</td> <td>授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。</td> <td>積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。</td> <td>何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることなく、日々の活動も受動的であった。</td> <td>自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をしていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつあった。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きの姿勢が見られなかった。	主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がっていた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることなく、日々の活動も受動的であった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。																																				
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をしていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつあった。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きの姿勢が見られなかった。																																				
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がっていた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることなく、日々の活動も受動的であった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	シラバスの確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	授業 基礎知識 システム開発とプログラミングに関する基礎	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	授業 基礎知識 システム開発とプログラミングに関する基礎	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	授業 システム開発と環境構築	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	授業 プログラミングの基礎	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	授業 プログラミングの基礎	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	授業 課題解決のためのプログラミング	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	授業 課題解決のためのプログラミング	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	授業 Web環境とプログラミング	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	授業 Web環境とプログラミング	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	授業 Web環境とプログラミング	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	授業 システム開発の基礎	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	授業 システム開発の基礎	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	授業 システム開発の基礎	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	授業 ドキュメンテーション	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	まとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)	経営学科各教員		研究室所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	100%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	100%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>知識・技能を得るために十分積極的に活動した。</td> <td>知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。</td> <td>知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動を行った。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。</td> <td>各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解の深まりがみられた。</td> <td>各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。</td> <td>ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。</td> <td>ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性</td> <td>自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。</td> <td>授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。</td> <td>積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。</td> <td>何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。</td> <td>自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解の深まりがみられた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。	主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。																																				
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解の深まりがみられた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。																																				
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)	経営学科各教員		研究室所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
授業の位置づけ												
到達目標												
授業全体の内容と概要												
授業の方法												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
資格指定科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1	(単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身につけ、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得することとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。</p>

授業の位置づけ
<p>経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(3)」に対応する。</p>

到達目標
<p>会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。</p>

授業の方法
<p>専門演習を進める上で、「商法」「会社法」(講義)を受講することが前提条件になります。専門演習は基本的に講義・発表(報告者はあらかじめ決めて順次報告)・討論する方法をとります。</p>

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・演習科目なので、積極的な出席が必要 ・私語などの迷惑行為は厳禁 ・講義中スマホの操作は厳禁

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
<p>単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上</p>					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組む、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組む、日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすもの、不明点を質問したりするが、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 個別面談・履修登録チェック	授業への参加の心構えを考える。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
2	個別面談・履修登録チェック アセスメントテスト	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
3	株式会社の機関設計(1) 卒業論文テーマ作成(1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
4	株式会社の機関設計(2) 卒業論文テーマ作成(2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
5	株式会社の機関設計(3) 卒業論文テーマ作成(3)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
6	株式会社の経営体制・骨格と役割(1)株主総会 卒業論文テーマ作成(4)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
7	株式会社の経営体制・骨格と役割(2)取締役・取締役会 卒業論文テーマ作成(5)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
8	株式会社の経営体制・骨格と役割(3)取締役・取締役会 卒業論文調べ学習(1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
9	株式会社の経営体制・責任(1)役員 卒業論文調べ学習(2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
10	株式会社の経営体制・責任(2)役員 卒業論文調べ学習(3)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
11	株式会社の経営体制・責任(3)役員 卒業論文調べ学習(4)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
12	株式会社の経営体制・責任(4)役員 卒業論文調べ学習(5)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
13	株式会社の経営体制・骨格と役割(5)指名委員会等・監査等委員会・執行役 卒業論文概要発表会(1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
14	株式会社の経営体制・骨格と役割(6)監査役・監査役会 卒業論文概要発表会(2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
15	株式会社の経営体制・骨格と役割(7)会計参与・会計監査人 卒業論文概要発表会(3)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
16	個別面談・履修登録チェック	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	前期全体の振り返りを行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	専門演習 Aでは、経営の専門知識と実務について、グループワークやフィールドワークを通じて学び、将来、社会人になるにあたり、必要なスキルや考え方を養成することを目的とする。
授業の位置づけ	経営学部DP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「2(3)」に対応する。
到達目標	本演習における到達目標は、以下の3つである。与えられたテーマに対して、グループワークで一定の答えを導き出すことができる。同じゼミの学生や指導教官と会話をしてコミュニケーションを図ることができる。本演習で学ぶ経営の専門知識やスキルを踏まえて、経営的なものの考え方ができる。
授業全体の内容と概要	本演習で最も重要視しているのは、グループディスカッションである。本演習では、グループディスカッションの基本ルールから実践までを時間を掛けて学ぶ。その後、グループディスカッションで出された問題や課題について、フィールドワークをしながら、解決策を導き出すまでの手法を学ぶ。
授業の方法	本演習における運営・活動は受講生が主体になることを期待します。そのため、P D C Aサイクルを活用して、演習の計画を立てる段階から、実行、振り返り、そして、次の課題に向けた行動を考えていきます。その過程において、適宜、グループワークと、各自のプレゼンテーションを繰り返します。グループディスカッションの中で出てきた問題や課題はフィールドワークを実施して解決策を検討します。
アクティブラーニングの実施方法	○ プレゼンテーション ○ グループワーク ○ フィールドワーク P B L 模範授業 ロールプレイ 調査学習 反転授業 ディスカッション 実験・実習・実技 双方向授業 その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	本演習を受講するにあたり、以下の3つを重要視します。提出物などの約束が守れること、無断欠席はしないこと、ゼミに積極的に参加すること。
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	90%	%	%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
グループディスカッションの参加度	グループディスカッションで、周りの雰囲気を感じながら、的確かつ抜本的な発言をした。	グループディスカッションで、積極的に的確な発言をした。	グループディスカッションで積極的に発言をした。	グループディスカッションで進行役から当てられてから発言した。	グループディスカッションに参加しなかった。
他人とのコミュニケーション力	どんな人でも分け隔てなく、その人に対応した意思疎通ができた。	相手の意見を傾聴し尊重した上で、相互に意思疎通ができた。	相手と相互に意思疎通ができた。	必要に応じて、相手と意思疎通ができた。	相手と意思疎通を取ることができなかった。
課題に対応したプレゼンテーション力	課題に対して、適度な時間内に、的確な内容を身振り手振りを加え、わかりやすく発表ができた。	課題に対して、聞き取りやすい言葉で適度な時間内に発表することができた。	課題に対して、適度な時間内に発表することができた。	課題に対して、最低限の内容を発表することができた。	そもそも人前で発表ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸	研究室所在	1号館 2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。 ・新たな指導法を確立する。

授業の位置づけ
経営学科のDP<学修目標>の1.と4. <履修すべき科目と単位>の3.に対応する。

到達目標
データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。 統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要
主にデータ収集、テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・トレーニング ・各部活における新たな指導法 ・ゲーム分析 ・簡単な動作分析 など

授業の方法
自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。 途中経過をパワーポイントで発表し、意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>25%</td> <td>25%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	25%	25%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	25%	25%	0%	50%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論文の内容を理解したか</td> <td>十分に理解した</td> <td>理解した</td> <td>おおむね理解した</td> <td>理解できていない力所がある</td> <td>全く理解できていない</td> </tr> <tr> <td>データ分析やパワーポイントの操作を理解したか</td> <td>十分に理解した</td> <td>理解した</td> <td>おおむね理解した</td> <td>理解できていない力所がある</td> <td>全く理解できていない</td> </tr> <tr> <td>発表の際の工夫は行われていたか</td> <td>十分に行われた</td> <td>行われた</td> <td>おおむね行われた</td> <td>行われていない力所がある</td> <td>全く行われていない</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない	データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない	発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない																																				
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない																																				
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス		学習内容の復習(90分)
2	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
3	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
4	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
5	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
6	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
7	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
8	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
9	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
10	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
11	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
12	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
13	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
14	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
15	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
16	まとめ・発表	パワーポイントでの作成	学習内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

概要

履修目標
情報通信技術の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
多岐にわたる経営学と情報分野の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
情報通信技術とシステム開発に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法
講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
30分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点として積算される。最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。原則としてS評価は全出席者に限る。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>100%</td> <td>%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	%	%	%	%	100%	%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
%	%	%	%	100%	%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>知識・技能を得るために十分積極的に活動した。</td> <td>知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。</td> <td>知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動を行った。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をしていた。</td> <td>各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつあった。</td> <td>各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。</td> <td>ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるが、なかなか定着していなかった。</td> <td>ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きの姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性</td> <td>自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がっていた。</td> <td>授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。</td> <td>積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。</td> <td>何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることなく、日々の活動も受動的であった。</td> <td>自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をしていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつあった。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きの姿勢が見られなかった。	主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がっていた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることなく、日々の活動も受動的であった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。																								
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をしていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつあった。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きの姿勢が見られなかった。																								
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がっていた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることなく、日々の活動も受動的であった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	シラバスの確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	授業 セキュリティに関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	授業 セキュリティに関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	授業 セキュリティに関する基礎知識	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	授業 システム開発 テーマ選定(個人またはグループ別)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	授業 システム開発環境の構築	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	授業 システム開発	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	授業 システム開発	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	授業 システム開発	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	授業 中間評価	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	授業 システム開発	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	授業 システム開発	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	授業 システム開発	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	授業 システム開発	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	授業 ドキュメンテーション	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	まとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)	経営学科各教員		研究室所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	100%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	100%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>知識・技能を得るために十分積極的に活動した。</td> <td>知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。</td> <td>知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動を行った。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。</td> <td>各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつある。</td> <td>各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。</td> <td>ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。</td> <td>ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性</td> <td>自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。</td> <td>授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺えた。</td> <td>積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。</td> <td>何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。</td> <td>自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつある。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。	主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。																																				
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得に向けた理解が深まりつつある。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。																																				
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)	経営学科各教員		研究室所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身につけ、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得することとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(3)」に対応する。

到達目標
会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

授業の方法
専門演習を進める上で、「商法」「会社法」(講義)を受講することが前提条件になります。専門演習は基本的に講義・発表(報告者はあらかじめ決めて順次報告)・討論する方法をとります。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
・演習科目なので、積極的な出席が必要 ・私語などの迷惑行為は厳禁 ・講義中スマホの操作は厳禁

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組む、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組む、日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりする活動は受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 個別面談・履修登録チェック	授業への参加の心構えを考える。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
2	株式会社の経営体制・資格と役割(1)コンプライアンス 事例研究 卒業論文要領確認(1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
3	株式会社の経営体制・資格と役割(2)コンプライアンス 事例研究 卒業論文要領確認(2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
4	株式会社の経営体制・資格と役割(3)コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成(1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
5	株式会社の経営体制・資格と役割(4)コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成(2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
6	株式会社の経営体制・資格と役割(5)コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成(3)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
7	株式会社の経営体制・責任(1)コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成(4)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
8	株式会社の経営体制・責任(2)コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成(5)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
9	株式会社の経営体制・責任(3)コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成(6)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
10	株式会社の経営体制・責任(4)コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成(7)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
11	株式会社の経営体制・責任(5)コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成(8)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
12	株式会社の経営体制・責任(6)コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成(9)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
13	株式会社の経営体制・責任(7)コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成(10)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
14	株式会社の経営体制・責任(8)コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成(11)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
15	株式会社の経営体制・責任(9)コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成(12)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
16	個別面談・履修登録チェック	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	前期全体の振り返りを行う。(45分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
専門演習 B では、経営の専門知識と実務について、グループワークやフィールドワークを通じて学び、将来、社会人になるにあたり、必要なスキルや考え方を養成することを目的とする。

授業の位置づけ
経営学部DP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「2(3)」に対応する。

到達目標
本演習における到達目標は、以下の3つである。与えられたテーマに対して、グループワークで一定の答えを導き出すことができる。同じゼミの学生や指導教官と会話をしてコミュニケーションを図ることができる。本演習で学ぶ経営の専門知識やスキルを踏まえて、経営的なものの考え方ができる。

授業全体の内容と概要
本演習で最も重要視しているのは、グループディスカッションである。本演習では、グループディスカッションの基本ルールから実践までを時間を掛けて学ぶ。その後、グループディスカッションで出された問題や課題について、フィールドワークをしながら、解決策を導き出すまでの手法を学ぶ。

授業の方法
本演習における運営・活動は受講学生が主体になることを期待します。そのため、P D C Aサイクルを活用して、演習の計画を立てる段階から、実行、振り返り、そして、次の課題に向けた行動を考えていきます。その過程において、適宜、グループワークと、各自のプレゼンテーションを繰り返します。グループディスカッションの中で出てきた問題や課題はフィールドワークを実施して解決策を検討します。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
本演習を受講するにあたり、以下の3つを重要視します。提出物などの約束が守れること、無断欠席はしないこと、ゼミに積極的に参加すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	90%	%	%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
グループディスカッションの参加度	グループディスカッションで、周りの雰囲気を感じながら、的確かつ抜本的な発言をした。	グループディスカッションで、積極的に的確な発言をした。	グループディスカッションで積極的に発言をした。	グループディスカッションで進行役から当てられてから発言した。	グループディスカッションに参加しなかった。
他人とのコミュニケーション力	どんな人でも分け隔てなく、その人に対応した意思疎通ができた。	相手の意見を傾聴し尊重した上で、相互に意思疎通ができた。	相手と相互に意思疎通ができた。	必要に応じて、相手と意思疎通ができた。	相手と意思疎通を取ることができなかった。
課題に対応したプレゼンテーション力	課題に対して、適度な時間内に、的確な内容を身振り手振りを加え、わかりやすく発表ができた。	課題に対して、聞き取りやすい言葉で適度な時間内に発表することができた。	課題に対して、適度な時間内に発表することができた。	課題に対して、最低限の内容を発表することができた。	そもそも人前で発表ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸	研究室所在	1号館 2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。 新たな指導法を確立する。
------	--

授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(4)」、「2(3)」に対応する。
---------	-----------------------------------

到達目標	<p>データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。 統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。</p>
------	---

授業全体の内容と概要	<p>主にデータ収集、テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレーニング ・各部活における新たな指導法 ・ゲーム分析 ・簡単な動作分析 など
------------	--

授業の方法	<p>自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。 途中経過をパワーポイントで発表し、意見交換を行う。</p>
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。
----------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない	
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない	
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない	

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス		学習内容の復習(90分)
2	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
3	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
4	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
5	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
6	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
7	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
8	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
9	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
10	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
11	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
12	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
13	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
14	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
15	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
16	まとめ・発表	パワーポイントでの作成	学習内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	%	%	%	%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標					
授業の位置づけ					
到達目標					
授業全体の内容と概要					
授業の方法					
アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)	
履修上の注意事項					
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標					
授業の位置づけ					
到達目標					
授業全体の内容と概要					
授業の方法					
アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)	
履修上の注意事項					
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者: 篠原諒介)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
 セミナールで修得した研究方法や研究に対する知見を踏まえ、履修者みずからの問題関心に基き、これまで進めてきた研究と学生生活の集大成として、卒業論文の執筆を行うための方法を学習する。

授業の位置づけ
 経営学科のDP「1(1)」、「1(4)」、「2(3)」に対応する。

到達目標
 ・学修から得られた幅広く豊かな知識と教養、および自己の倫理観に基づき、果たすべき社会的責任を実現するための方法を適切に選択できる。
 ・具体的な社会現象や社会問題を入り口に、「あたりまえ」の理解からは読み取れない現代社会の多層性と多様性を、収集したデータに基づき論理的・批判的に理解し、その本質を他者に説明することができる。
 ・どのような研究課題や社会問題に対しても、その解決のために必要な情報や知識、資源を集め、分析を通じて解決策を提示することができる。

授業全体の内容と概要
 全ての回を課題研究でおこなう。毎回、メールにて課題研究の内容を担当教員に提出し、担当教員はメールでフィードバックをおこなう。

授業の方法
 個人による研究成果報告とそれに対する教員による講評や解説をメインとするが、教員による講義ならびに履修者に対する個別指導も適宜おこなっていく。本授業の事前・事後学習は、各90分の学習を目安とする。なお、各回における受講生からの報告や質問については、Teamsを用いて応答しつつ、受講者全体にフィードバックされるように授業を展開する。また登壇の回においても、重要な報告や質問について解説する時間を設ける。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
 データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。

資格指定科目

1	
2	
3	
4	
5	

評価方法・基準

評価前提条件
 単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的事項 チームの一員としてのルールやマナーを守り、周りとの協調性を持って研究に取り組むことができる。 相手の視点に立って、相手の考え方や感情を理解することができる(共感力)を有する。 研究活動に関わる諸規	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできている	できていない
計画 研究テーマに関連する知識を能動的に得ることができる。 得られた知識を論理的に組み上げることができる。 問題点(課題)を抽出することができる。 その解決のための適切な	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできている	できていない
技能(実施・検証) 確固たる技術の基に実験を遂行することができる。 実験に用いる薬品、器具、機器等を正しく取扱い、管理することができる。 研究活動中に生じたトラブルを指導者や研究委員	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできている	できていない
まとめ・考察・発表 研究結果を適切に整理することができる。 得られた結果が示唆する事柄について、先行研究を適切に引用しながら、論理的に考察することができる。 研究の成果を発表し、的確な質疑応答をすること	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできている	できていない

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者: 篠原諒介)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス		調査・研究データを整理する(90分)
2	調査・研究の結果をレジュメにまとめる	調査・研究データを整理する(90分)	論文の目次構成を作成する(90分)
3	調査・研究の結果をレジュメにまとめる	調査・研究データを整理する(90分)	論文の目次構成を作成する(90分)
4	調査・研究の結果をレジュメにまとめる	調査・研究データを整理する(90分)	論文の目次構成を作成する(90分)
5	調査・研究の結果をレジュメにまとめる	調査・研究データを整理する(90分)	論文の目次構成を作成する(90分)
6	卒業論文の執筆	卒業論文を執筆する(90分)	議論や難点をリストアップする(90分)
7	卒業論文の執筆	卒業論文を執筆する(90分)	議論や難点をリストアップする(90分)
8	卒業論文の執筆	卒業論文を執筆する(90分)	議論や難点をリストアップする(90分)
9	卒業論文の執筆	卒業論文を執筆する(90分)	議論や難点をリストアップする(90分)
10	卒業論文の執筆	卒業論文を執筆する(90分)	議論や難点をリストアップする(90分)
11	卒業論文の執筆	卒業論文を執筆する(90分)	議論や難点をリストアップする(90分)
12	書き上げた草稿を持参して、相互に内容確認する	草稿を書き上げる(90分)	リライトの内容を確定する(90分)
13	草稿をリライトして精度を上げる	草稿のリライトを行う(90分)	草稿のリライトを行う(90分)
14	草稿をリライトして精度を上げる	草稿のリライトを行う(90分)	草稿のリライトを行う(90分)
15	草稿をリライトして精度を上げる	草稿のリライトを行う(90分)	草稿のリライトを行う(90分)
16	卒業論文の完成	卒業論文を完成させる(90分)	内容の要旨を完成させ、発表の準備を行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	対象者なし	対象学科・配当	対象者なし		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	対象者なし
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）				
授業担当者（所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	4（単位認定責任者：由水 伸）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	対象者なし				
授業の位置づけ	対象者なし				
到達目標	対象者なし				
授業全体の内容と概要	対象者なし				
授業の方法	対象者なし				
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）	
履修上の注意事項	対象者なし				
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
対象者なし					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	%	%	%	%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
対象者がいないので、記述なし	対象者なし	対象者なし	対象者なし	対象者なし	対象者なし

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	対象者なし	対象学科・配当	対象者なし		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	対象者なし
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）				
授業担当者（所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室所在	1号館2階	
単位数	4	（単位認定責任者：由水 伸）		CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	対象者なし	対象者なし	対象者なし
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）				
授業担当者（所属・職名）		研究室所在			
単位数	4（単位認定責任者：）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	4（単位認定責任者：）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）				
授業担当者（所属・職名）		研究室所在			
単位数	4（単位認定責任者：）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	4（単位認定責任者：）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	4（単位認定責任者：）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）				
授業担当者（所属・職名）		研究室所在			
単位数	4（単位認定責任者：）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	4（単位認定責任者：）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）				
授業担当者（所属・職名）			研究室所在		
単位数	4	（単位認定責任者：）		CAP制	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	4（単位認定責任者：）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）				
授業担当者（所属・職名）			研究室所在		
単位数	4	（単位認定責任者：）		CAP制	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	4（単位認定責任者：）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）				
授業担当者（所属・職名）			研究室所在		
単位数	4	（単位認定責任者：）		CAP制	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	4（単位認定責任者：）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE134159，THE434101，THE534112）		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	4（単位認定責任者：）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文(9月期卒) (科目ナンバリング: THE433097, THE533108)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE433097，THE533108）		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	1（単位認定責任者：）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文(9月期卒) (科目ナンバリング: THE433097, THE533108)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE433097，THE533108）		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	1（単位認定責任者：）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文(9月期卒) (科目ナンバリング: THE433097, THE533108)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文（9月期卒）（科目ナンバリング：THE433097，THE533108）		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	1（単位認定責任者：）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	卒業研究 A (科目ナンバリング: THE433097, THE533108)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータシステム開発に必要な知識の指導を行う。		

概要

履修目標
情報通信技術(ICT)の利用方法の探求を通して、主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、学生が自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かすことを主な目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
情報通信技術について総合的な理解を深め、情報システムにおける応用的な利用方法を考案できるようになること。

授業全体の内容と概要
情報システム開発における基本的な知識を講義と実技を交えて学ぶ。その後、各自で研究テーマを定め取り組み、動作可能なソフトウェアまたはシステムとして完成させる。その後、作成過程と実行結果の評価をレポートにまとめる。

授業の方法
個人の研究テーマに応じて個別に指導する。手順の詳細は授業の初めにガイダンスする。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
情報システム論を受講しておくこと。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。S評価は原則として欠席回数1回以内とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	50%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るための活動を行うことで、高度にこなすことができた。	知識・技能を得るための活動を行うことで、十分にこなすことができた。	知識・技能を得るための活動を行うことで、良好にこなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	研究テーマに積極的に取り組み、積極的に調査、研究を進め、試行を繰り返し、独自の結果を生み出した。	研究テーマに真摯に取り組み、考え方や手法を工夫し、優れた結果を生み出した。	研究テーマにまじめに取り組み、考え方や手法を工夫し、良好な結果が得られた。	研究テーマにまじめに取り組み姿勢が見られ、評価可能な結果が得られた。	研究テーマへの取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分から調査・研究する姿勢が顕著に現れ、文献やインターネットを活用して、自らの力で問題解決を行なうだけでなく、周囲の学生に対し支援、指導を行っていた。	自分から調査・研究する姿勢が積極的に現れ、不明点を質問するだけでなく、文献やインターネットを活用して、自らの力で問題解決を行っていた。	自分から調査・研究する姿勢が見られ、不明点を質問するなど、自主性がかつがわられた。	自分から調査・研究する姿勢が見られ、指示された課題に素直に取り組んでいた。	自分から調査・研究する姿勢が見られず、指示された課題に取り組む姿勢も不十分であった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	卒業研究 A (科目ナンバリング: THE433097, THE533108)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータシステム開発に必要な知識の指導を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(卒業研究の進め方、研究レポートと発表会について)	シラバスの確認(45分)	配布資料復習(45分)
2	開発環境作成 PCの割り当て、動作確認、開発環境の構築(1)	予習課題(45分)	授業振り返り(45分)
3	開発環境作成 PCの割り当て、動作確認、開発環境の構築(2)	予習課題(45分)	授業振り返り(45分)
4	テーマ選定と研究計画書作成(1)	事前準備(45分)	授業復習(45分)
5	テーマ選定と研究計画書作成(2)	事前準備(45分)	卒業研究準備(45分)
6	卒業研究(1:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
7	卒業研究(2:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
8	卒業研究(3:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
9	卒業研究(4:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
10	卒業研究(5:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
11	卒業研究(6:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
12	卒業研究(7:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
13	卒業研究(8:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
14	卒業研究(9:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	レポート作成(45分)
15	研究のまとめ(レポート作成、発表資料作成)	レポート作成(45分)	発表資料作成(45分)
16	研究発表会	発表資料作成(45分)	評価と反省(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	卒業研究 B (科目ナンバリング: THE433098, THE533109)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室所在	1号館 2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータシステム開発に必要な知識の指導を行う。		

概要

履修目標
情報通信技術(ICT)の利用方法の探求を通して、主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、学生が自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かすことを主な目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
情報通信技術について総合的な理解を深め、情報システムにおける応用的な利用方法を考案できるようになること。

授業全体の内容と概要
情報システム開発における基本的な知識を講義と実技を交えて学ぶ。その後、各自で研究テーマを定め取り組み、動作可能なソフトウェアまたはシステムとして完成させる。その後、作成過程と実行結果の評価をレポートにまとめる。

授業の方法
個人の研究テーマに応じて個別に指導する。手順の詳細は授業の初めにガイダンスする。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
情報システム論を受講しておくこと。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。S評価は原則として欠席回数1回以内とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	50%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るための活動を行うことで、高度にこなすことができた。	知識・技能を得るための活動を行うことで、十分にこなすことができた。	知識・技能を得るための活動を行うことで、良好にこなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	研究テーマに積極的に取り組み、積極的に調査、研究を進め、試行を繰り返し、独自の結果を生み出した。	研究テーマに真摯に取り組み、考え方や手法を工夫し、優れた結果を生み出した。	研究テーマにまじめに取り組み、考え方や手法を工夫し、良好な結果が得られた。	研究テーマにまじめに取り組み姿勢が見られ、評価可能な結果が得られた。	研究テーマへの取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分から調査・研究する姿勢が顕著に現れ、文献やインターネットを活用して、自らの力で問題解決を行なうだけでなく、周囲の学生に対し支援、指導を行っていた。	自分から調査・研究する姿勢が積極的に現れ、不明点を質問するだけでなく、文献やインターネットを活用して、自らの力で問題解決を行っていた。	自分から調査・研究する姿勢が見られ、不明点を質問するなど、自主性がうかがわれた。	自分から調査・研究する姿勢が見られ、指示された課題に素直に取り組んでいた。	自分から調査・研究する姿勢が見られず、指示された課題に取り組む姿勢も不十分であった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	卒業研究 B (科目ナンバリング: THE433098, THE533109)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータシステム開発に必要な知識の指導を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(卒業研究の進め方、研究レポートと発表会について)	シラバスの確認(45分)	配布資料復習(45分)
2	開発環境作成 PCの割り当て、動作確認、開発環境の構築(1)	予習課題(45分)	授業振り返り(45分)
3	開発環境作成 PCの割り当て、動作確認、開発環境の構築(2)	予習課題(45分)	授業振り返り(45分)
4	テーマ選定と研究計画書作成(1)	事前準備(45分)	授業復習(45分)
5	テーマ選定と研究計画書作成(2)	事前準備(45分)	卒業研究準備(45分)
6	卒業研究(1:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
7	卒業研究(2:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
8	卒業研究(3:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
9	卒業研究(4:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
10	卒業研究(5:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
11	卒業研究(6:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
12	卒業研究(7:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
13	卒業研究(8:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
14	卒業研究(9:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	レポート作成(45分)
15	研究のまとめ(レポート作成、発表資料作成)	レポート作成(45分)	発表資料作成(45分)
16	研究発表会	発表資料作成(45分)	評価と反省(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	卒業研究 A (科目ナンバリング: THE434099, THE534110)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室所在	1号館 2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータシステム開発に必要な知識の指導を行う。		

概要

履修目標
情報通信技術(ICT)の利用方法の探求を通して、主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、学生が自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かすことを主な目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
情報通信技術について総合的な理解を深め、情報システムにおける応用的な利用方法を考案できるようになること。

授業全体の内容と概要
情報システム開発における基本的な知識を講義と実技を交えて学ぶ。その後、各自で研究テーマを定め取り組み、動作可能なソフトウェアまたはシステムとして完成させる。その後、作成過程と実行結果の評価をレポートにまとめる。

授業の方法
個人の研究テーマに応じて個別に指導する。手順の詳細は授業の初めにガイダンスする。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
情報システム論を受講しておくこと。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。S評価は原則として欠席回数1回以内とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	50%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るための活動を行うことで、高度にこなすことができた。	知識・技能を得るための活動を行うことで、十分にこなすことができた。	知識・技能を得るための活動を行うことで、良好にこなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	研究テーマに積極的に取り組み、積極的に調査、研究を進め、試行を繰り返し、独自の結果を生み出した。	研究テーマに真摯に取り組み、考え方や手法を工夫し、優れた結果を生み出した。	研究テーマにまじめに取り組み、考え方や手法を工夫し、良好な結果が得られた。	研究テーマにまじめに取り組み姿勢が見られ、評価可能な結果が得られた。	研究テーマへの取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分から調査・研究する姿勢が顕著に現れ、文献やインターネットを活用して、自らの力で問題解決を行なうだけでなく、周囲の学生に対し支援、指導を行っていた。	自分から調査・研究する姿勢が積極的に現れ、不明点を質問するだけでなく、文献やインターネットを活用して、自らの力で問題解決を行っていた。	自分から調査・研究する姿勢が見られ、不明点を質問するなど、自主性がかつがわられた。	自分から調査・研究する姿勢が見られ、指示された課題に素直に取り組んでいた。	自分から調査・研究する姿勢が見られず、指示された課題に取り組む姿勢も不十分であった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	卒業研究 A (科目ナンバリング: THE434099, THE534110)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータシステム開発に必要な知識の指導を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(卒業研究の進め方、研究レポートと発表会について)	シラバスの確認(45分)	配布資料復習(45分)
2	開発環境作成 PCの割り当て、動作確認、開発環境の構築(1)	予習課題(45分)	授業振り返り(45分)
3	開発環境作成 PCの割り当て、動作確認、開発環境の構築(2)	予習課題(45分)	授業振り返り(45分)
4	テーマ選定と研究計画書作成(1)	事前準備(45分)	授業復習(45分)
5	テーマ選定と研究計画書作成(2)	事前準備(45分)	卒業研究準備(45分)
6	卒業研究(1:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
7	卒業研究(2:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
8	卒業研究(3:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
9	卒業研究(4:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
10	卒業研究(5:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
11	卒業研究(6:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
12	卒業研究(7:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
13	卒業研究(8:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
14	卒業研究(9:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	レポート作成(45分)
15	研究のまとめ(レポート作成、発表資料作成)	レポート作成(45分)	発表資料作成(45分)
16	研究発表会	発表資料作成(45分)	評価と反省(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	卒業研究 B (科目ナンバリング: THE434100, THE534111)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータシステム開発に必要な知識の指導を行う。		

概要

履修目標
情報通信技術(ICT)の利用方法の探求を通して、主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、学生が自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かすことを主な目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
情報通信技術について総合的な理解を深め、情報システムにおける応用的な利用方法を考案できるようになること。

授業全体の内容と概要
情報システム開発における基本的な知識を講義と実技を交えて学ぶ。その後、各自で研究テーマを定め取り組み、動作可能なソフトウェアまたはシステムとして完成させる。その後、作成過程と実行結果の評価をレポートにまとめる。

授業の方法
個人の研究テーマに応じて個別に指導する。手順の詳細は授業の初めにガイダンスする。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
情報システム論を受講しておくこと。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。S評価は原則として欠席回数1回以内とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	50%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るための活動を行うことで、高度にこなすことができた。	知識・技能を得るための活動を行うことで、十分にこなすことができた。	知識・技能を得るための活動を行うことで、良好にこなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	研究テーマに積極的に取り組み、積極的に調査、研究を進め、試行を繰り返し、独自の結果を生み出した。	研究テーマに真摯に取り組み、考え方や手法を工夫し、優れた結果を生み出した。	研究テーマにまじめに取り組み、考え方や手法を工夫し、良好な結果が得られた。	研究テーマにまじめに取り組み姿勢が見られ、評価可能な結果が得られた。	研究テーマへの取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分から調査・研究する姿勢が顕著に現れ、文献やインターネットを活用して、自らの力で問題解決を行なうだけでなく、周囲の学生に対し支援、指導を行っていた。	自分から調査・研究する姿勢が積極的に現れ、不明点を質問するだけでなく、文献やインターネットを活用して、自らの力で問題解決を行っていた。	自分から調査・研究する姿勢が見られ、不明点を質問するなど、自主性がかつがわかれた。	自分から調査・研究する姿勢が見られ、指示された課題に素直に取り組んでいた。	自分から調査・研究する姿勢が見られず、指示された課題に取り組む姿勢も不十分であった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	卒業研究 B (科目ナンバリング: THE434100, THE534111)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータシステム開発に必要な知識の指導を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(卒業研究の進め方、研究レポートと発表会について)	シラバスの確認(45分)	配布資料復習(45分)
2	開発環境作成 PCの割り当て、動作確認、開発環境の構築(1)	予習課題(45分)	授業振り返り(45分)
3	開発環境作成 PCの割り当て、動作確認、開発環境の構築(2)	予習課題(45分)	授業振り返り(45分)
4	テーマ選定と研究計画書作成(1)	事前準備(45分)	授業復習(45分)
5	テーマ選定と研究計画書作成(2)	事前準備(45分)	卒業研究準備(45分)
6	卒業研究(1:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
7	卒業研究(2:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
8	卒業研究(3:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
9	卒業研究(4:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
10	卒業研究(5:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
11	卒業研究(6:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
12	卒業研究(7:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
13	卒業研究(8:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	卒業研究復習(45分)
14	卒業研究(9:各自の研究計画書に沿った進行)	卒業研究予習(45分)	レポート作成(45分)
15	研究のまとめ(レポート作成、発表資料作成)	レポート作成(45分)	発表資料作成(45分)
16	研究発表会	発表資料作成(45分)	評価と反省(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導（M） （科目ナンバリング：ESS323055, SOE423072, SOE523083）				
授業担当者（所属・職名）	伴 秀実（経営学科・特任教授）		研究室所在	1号館3階	
単位数	2（単位認定責任者：伴 秀実）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	複数企業への就業経験によって業界、業種、職種、職業観の醸成を経験し、これらを活かして「職業指導」に関する実践事例を講義する。		

概要

履修目標
就職・就業を取巻く環境変化により学生の職業観・勤労観等の課題が指摘されており、キャリア教育の推進が重要である。本講義では「働くこと」への意識向上と学習意欲向上を目指し、自立・社会性の涵養と豊かな人間性の育成を目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「1(4)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
自分自身の職業観、勤労観を自覚できる。

授業全体の内容と概要
一人一人の職業観の状況把握を行い、業界や企業の仕組みの理解、キャリア教育としての事例研究を通じて職業観・勤労観を醸成する。

授業の方法
板書、配布資料、事例研究ビデオの聴取等に基づいて講義とディスカッションをまじえた授業を行う。毎回学生が各自要点整理の講義ノートを作成し、提出する。学生記入ノートによって理解度を確認し、次回以降に返還する。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	

履修上の注意事項
出席を重視し、15分以上の遅刻・途中退中は欠席扱いとする。居眠り、携帯・スマートフォン利用は厳禁。

資格指定科目
教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	0%	30%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	0%	30%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>自分自身の職業観の自覚。</td> <td>業種・職種を完全に理解し、現在ある自らの職業観を完全なものにした。</td> <td>業種・職種を十分に理解し、自らの職業観を充実させた。</td> <td>業種・職種を理解し、自らの職業観を強く自覚できた。</td> <td>業種・職種を理解し、自らの職業観を持っていた。</td> <td>業種・職種を理解してなく、自らの職業観に至っていないかった。</td> </tr> <tr> <td>「働くこと」への意欲向上</td> <td>「働くこと」への意欲が益々向上し、自らの将来に向かって更なる強い意欲につながった。</td> <td>「働くこと」への意欲が向上しており、自らの将来への期待が強くなった。</td> <td>「働くこと」への意欲が出てきており、将来を具体的に考えるようになった。</td> <td>徐々に「働くこと」への意欲が出てきた。</td> <td>「働くこと」への意欲が出ていなかった。</td> </tr> <tr> <td>学習意欲の向上と社会性・人間性の向上。</td> <td>将来に向かって学習意欲が大いに向上し、社会性・人間性の向上を強く意識していた。</td> <td>将来に向かって学習意欲が向上し、社会性・人間性の向上を意識していた。</td> <td>将来に向かって学習意欲が湧いてきており、社会性・人間性の必要性を意識していた。</td> <td>将来に向かって学習意欲が少しづつ湧いてきており、社会性・人間性も意識していた。</td> <td>将来に向かって学習意欲が湧かず、社会性・人間性の意識も不足していた。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	自分自身の職業観の自覚。	業種・職種を完全に理解し、現在ある自らの職業観を完全なものにした。	業種・職種を十分に理解し、自らの職業観を充実させた。	業種・職種を理解し、自らの職業観を強く自覚できた。	業種・職種を理解し、自らの職業観を持っていた。	業種・職種を理解してなく、自らの職業観に至っていないかった。	「働くこと」への意欲向上	「働くこと」への意欲が益々向上し、自らの将来に向かって更なる強い意欲につながった。	「働くこと」への意欲が向上しており、自らの将来への期待が強くなった。	「働くこと」への意欲が出てきており、将来を具体的に考えるようになった。	徐々に「働くこと」への意欲が出てきた。	「働くこと」への意欲が出ていなかった。	学習意欲の向上と社会性・人間性の向上。	将来に向かって学習意欲が大いに向上し、社会性・人間性の向上を強く意識していた。	将来に向かって学習意欲が向上し、社会性・人間性の向上を意識していた。	将来に向かって学習意欲が湧いてきており、社会性・人間性の必要性を意識していた。	将来に向かって学習意欲が少しづつ湧いてきており、社会性・人間性も意識していた。	将来に向かって学習意欲が湧かず、社会性・人間性の意識も不足していた。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
自分自身の職業観の自覚。	業種・職種を完全に理解し、現在ある自らの職業観を完全なものにした。	業種・職種を十分に理解し、自らの職業観を充実させた。	業種・職種を理解し、自らの職業観を強く自覚できた。	業種・職種を理解し、自らの職業観を持っていた。	業種・職種を理解してなく、自らの職業観に至っていないかった。																								
「働くこと」への意欲向上	「働くこと」への意欲が益々向上し、自らの将来に向かって更なる強い意欲につながった。	「働くこと」への意欲が向上しており、自らの将来への期待が強くなった。	「働くこと」への意欲が出てきており、将来を具体的に考えるようになった。	徐々に「働くこと」への意欲が出てきた。	「働くこと」への意欲が出ていなかった。																								
学習意欲の向上と社会性・人間性の向上。	将来に向かって学習意欲が大いに向上し、社会性・人間性の向上を強く意識していた。	将来に向かって学習意欲が向上し、社会性・人間性の向上を意識していた。	将来に向かって学習意欲が湧いてきており、社会性・人間性の必要性を意識していた。	将来に向かって学習意欲が少しづつ湧いてきており、社会性・人間性も意識していた。	将来に向かって学習意欲が湧かず、社会性・人間性の意識も不足していた。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導（M） （科目ナンバリング：ESS323055, SOE423072, SOE523083）				
授業担当者（所属・職名）	伴 秀実（経営学科・特任教授）		研究室所在	1号館3階	
単位数	2 （単位認定責任者：伴 秀実）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	複数企業への就業経験によって業界、業種、職種、職業観の醸成を経験し、これらを活かして「職業指導」に関する実践事例を講義する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
2	働く目的 （VIDEO）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
3	業界・業種の概要 （VIDEO）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
4	業界・業種の概要 （VIDEO）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
5	業界・業種の概要 （VIDEO）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
6	自己分析	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
7	自己紹介書	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
8	業界・企業研究 （VIDEO）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
9	業界・企業研究 （VIDEO）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
10	業界・企業研究 （VIDEO）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
11	特別講義	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
12	業界・企業研究まとめ （VIDEO）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
13	就活 （VIDEO）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
14	就活 （VIDEO）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
15	まとめ講義	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（90分）
16	課題に対する解説とフィードバック	授業内容を振り返り理解を深める。（90分）	解説を受けて講義全体を復習する。（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニケーション論 (科目ナンバリング: SOC422014, SOC522019)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
コミュニケーションという人間行動の意味を知り、小集団・組織から社会全体にいたるまで、さまざまな場面の社会的相互作用としてのコミュニケーションについて考え、理解することができる。

授業の位置づけ
経営学科のDPの「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
コミュニケーションの理論について単に知識を習得するだけでなく、日々の生活場面におけるコミュニケーション行動のもつ意味と、コミュニケーションをめぐる現代的な問題について自ら考える姿勢をもてるようになることができる。

授業全体の内容と概要
まず、コミュニケーションの原理、形式、過程、メディアに目を向ける。次に組織コミュニケーション、とりわけネットワークおよびリーダーシップとフォロワーシップに焦点を当て、経営組織をコミュニケーションの視点から考察する。最後に、広く社会的コミュニケーションをとり上げ、特にオーディエンスの権利はどうあるべきかを追究し、合わせて現代社会のコミュニケーション問題を考える。

授業の方法
授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td>○</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合の評価はCとする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は11回												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>90%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	90%	0%	0%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
90%	0%	0%	0%	0%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識</td> <td>定期試験における基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。</td> <td>同部分が80%以上90%未満の正答であった。</td> <td>同部分が70%以上80%未満の正答であった。</td> <td>同部分が60%以上70%未満の正答であった。</td> <td>同部分の正答が60%に届かなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力等</td> <td>コミュニケーション原理を軸にして、さまざまな場面のコミュニケーション行動を十分に考察できていた。</td> <td>左記の事項について概ね考察できていた。</td> <td>左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。</td> <td>左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。</td> <td>考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション問題への分析力・主体性等</td> <td>授業の中心的テーマである組織はイノベーション中心に、さまざまなコミュニケーション問題について十分な主体的分析ができていた。</td> <td>左記の事項について概ね考察できていた。</td> <td>左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。</td> <td>左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。</td> <td>考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識	定期試験における基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	同部分が80%以上90%未満の正答であった。	同部分が70%以上80%未満の正答であった。	同部分が60%以上70%未満の正答であった。	同部分の正答が60%に届かなかった。	思考力・判断力等	コミュニケーション原理を軸にして、さまざまな場面のコミュニケーション行動を十分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。	コミュニケーション問題への分析力・主体性等	授業の中心的テーマである組織はイノベーション中心に、さまざまなコミュニケーション問題について十分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識	定期試験における基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	同部分が80%以上90%未満の正答であった。	同部分が70%以上80%未満の正答であった。	同部分が60%以上70%未満の正答であった。	同部分の正答が60%に届かなかった。																								
思考力・判断力等	コミュニケーション原理を軸にして、さまざまな場面のコミュニケーション行動を十分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。																								
コミュニケーション問題への分析力・主体性等	授業の中心的テーマである組織はイノベーション中心に、さまざまなコミュニケーション問題について十分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニケーション論 (科目ナンバリング: SOC422014, SOC522019)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・教授)		研究室所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス……全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法説明、(シラバスの説明を含む)	シラバス内容の事前確認(90分)	目的とねらいについての復習・確認(90分)
2	…人間行動としてのコミュニケーション …コミュニケーションとはどのような営みか	コミュニケーション概念についての事前考察(90分)	コミュニケーションが人と人との社会的相互作用であることの復習・理解(90分)
3	…コミュニケーションの形式と過程 …類型とモデル	人間の社会的相互作用にどのような型があるかについての事前考察(90分)	コミュニケーションについての学問的な「類型とモデル」の復習・理解(90分)
4	組織コミュニケーションとリーダーシップ 1. フォーマル・コミュニケーションとインフォーマル・コミュニケーション	組織と基礎集団におけるコミュニケーションの違いについての事前考察(90分)	組織のフォーマルとインフォーマルの両面性についての復習・理解(90分)
5	組織コミュニケーションとリーダーシップ 2. コミュニケーション・ネットワークと集団の効果性	組織の中にあるネットワークの種類についての事前考察(90分)	ネットワークの種類とその機能的特徴についての復習・理解(90分)
6	組織コミュニケーションとリーダーシップ 3. コミュニケーションとリーダーシップ (1) マネジメントとリーダーシップ	組織コミュニケーションでのリーダーシップについての事前考察(90分)	良いマネジメントを超える対人的影響力についての復習・理解(90分)
7	組織コミュニケーションとリーダーシップ 3. コミュニケーションとリーダーシップ (2) リーダーシップ理論の変化	リーダーシップをとらえる視点についての事前考察(90分)	古典的リーダーシップ理論の特質・限界についての復習・理解(90分)
8	組織コミュニケーションとリーダーシップ 3. コミュニケーションとリーダーシップ (2) リーダーシップ理論の変化	「個人的属性」に根拠を求めないリーダーシップ理論についての事前考察(90分)	集団・組織機能向上とリーダーシップの関係についての復習・理解(90分)
9	組織コミュニケーションとリーダーシップ 4. リーダーシップとフォロワーシップ	組織メンバーの行動とフォロワーシップについての事前考察(90分)	リーダーシップとフォロワーシップの不可分性についての復習・理解(90分)
10	組織コミュニケーションとリーダーシップ 4. リーダーシップとフォロワーシップ	フォロワーシップにはどのようなタイプがあるかについての事前考察(90分)	フォロワーシップが組織機能に不可欠であることについての復習・理解(90分)
11	社会的コミュニケーション 1. コミュニケーションとメディア	コミュニケーションにとってメディアとは何かについての事前考察(90分)	メディア類型についての復習・理解(90分)
12	社会的コミュニケーション 2. メディアと社会的現実	われわれにとっての社会的現実とは何かについての事前考察(90分)	メディア環境と社会的現実の構成のされ方との関係についての復習・理解(90分)
13	社会的コミュニケーション 3. オーディエンスの権利 …「知る権利」と「アクセス権」	現代のオーディエンスにとって必要となる権利についての事前考察(90分)	メディア環境とオーディエンスの権利の関係についての復習・理解(90分)
14	現代コミュニケーションの特質と諸問題	人々の社会的相互作用に生じている問題についての事前考察(90分)	社会的技術的変化によるコミュニケーション問題についての復習・理解(90分)
15	総括と試験概要説明	ノートの整理と重要事項のチェック(90分)	試験対応のための復習・理解(90分)
16	試験および解説 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備(90分)	解説内容の確認・理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ビジネスコミュニケーション演習 (科目ナンバリング: CME421021, CME521025)				
授業担当者(所属・職名)	本間 智子 (キャリア支援センター・センター員)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 本間 智子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	CAエアラインスクールにてビジネスマナーやコミュニケーション力を学ぶ。入社した旅行業・航空業にてビジネスマナー等の徹底した接客業を実践。企業にて採用業務も携わる。韓国の大学にて日本語学科専攻学生へ日本語の為の講義を行う。現在道都大学キャリア支援センターにて就職活動に必要なマナー講座を実施している。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・ガイダンス・シラバスの説明(授業の目的、進め方、評価方法、履修上の注意等)	シラバスで授業内容を把握しておくこと(90分)	オリエンテーション・ガイダンスについて振り返り・確認しておくこと(90分)
2	コミュニケーションの要素(言語・非言語)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること(90分)
3	コミュニケーションの要素(傾聴力・質問力)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること(90分)
4	コミュニケーションの要素(発信力・伝える力)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること(90分)
5	演習(1-4回の振り返りと自己理解)小テスト	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること(90分)
6	社会人基礎力(必要なスキルと自己理解)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること(90分)
7	ビジネスマナーの基本(立ち居 振る舞い・名刺交換)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること(90分)
8	ビジネスマナーの基本(ビジネスの言葉遣い・敬語)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること(90分)
9	ビジネスマナーの基本(報告・連絡・相談・タスク管理)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること(90分)
10	ビジネスマナーの基本(会社内での行動・電話対応)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること(90分)
11	ビジネスマナーの基本(ビジネス文書・ビジネスメールの注意点)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること(90分)
12	自分との対話(ストレスコーピング)小テスト	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること(90分)
13	問題解決の基本(ゼロベース思考・情報整理)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること(90分)
14	演習(グループディスカッション)	学習内容に関連する事柄について準備をし練習しておくこと(90分)	努力が必要な部分を明確にし、今後の目標を立て、練習すること(90分)
15	演習(1-14回の振り返りとしてのプレゼンテーション)	1-14回の授業を理解し、プレゼンテーションでできる状態にしておくこと(90分)	出来た成功体験は認め、努力が必要な部分は繰り返し練習すること(90分)
16	小テストまとめ(解説と全授業に対するフィードバック)	全授業内容を見直し不明点を無くしておくこと(90分)	全授業を振り返り、理解を一層深め、努力が必要な部分を明確にし、目標を立て日常的に練習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス創造論 (科目ナンバリング: MAN422016, MAN522020)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 裕樹(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 阿部 裕樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、起業・創業において、ビジネスに成功するための事業計画の策定方法について実例を挙げて解説する。		

概要

履修目標	本講義では社会にとっての起業・創業の意義、並びにアントレプレナーシップ(起業家精神)について理解する。起業して成功することは簡単ではないが、アイデアとビジネスモデルがあり、それを適切にマネジメントすることで、飛躍的に成長できる可能性があることをこれらの若い世代に知ってもらいたい。
------	--

授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」に対応する。
---------	-----------------------------------

到達目標	授業を通して「起業・創業の面白さ」を感じ取るとともに、アントレプレナーシップとはどのようなことをイメージし、合わせて実際の事業化にあたって必要な経営スキル等の要素について理解する。
------	--

授業全体の内容と概要	アントレプレナーシップ(起業家精神)とは何かということを起業・創業で成功した事例を紹介することで理解する。また、スタートアップから企業が成長する段階で超えなければいけないハードル、資金調達、チームづくり、リスクマネジメント、知的財産の管理等の理論を学ぶことで起業・創業に必要な知識を習得する。また、起業時のビジネスプランの作り方にも触れていきたい。
------------	--

授業の方法	授業はパワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明をして基礎理論を習得したあと、事例を動画で視聴することで、より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと、考えたことを改めて認識する機会とし、気づきを得てほしい。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	本講義は出席および授業参加度を重視する。出席とは、ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し、試験と合わせて最終評価の対象とする。
----------	---

資格指定科目	教職課程(商業) 選択科目
--------	---------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	20%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アントレプレナーシップの意義についての理解	アントレプレナーシップの社会的意義を様々な側面から説明できた。	アントレプレナーシップとは何か、そして成功するための必要な要素について説明できた。	アントレプレナーシップとは何かを説明できた。	アントレプレナーシップとは何かを理解していた。	アントレプレナーシップについて全く理解していなかった。
事業化に必要な経営スキルの理解	事業化に必要な経営スキルについてのイメージができた。	事業化に必要な経営スキルについて、完全に説明することができた。	事業化に必要な経営スキルについて、完全に理解していた。	事業化に必要な経営スキルについて、部分的に理解していた。	事業化に必要な経営スキルについて全く理解していなかった。
事業計画策定に必要な知識の習得	事業計画策定の様々な局面においての有用性を具体的に理解し、策定手順について完全に説明することができた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に説明することができた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に理解していた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について部分的に理解していた。	事業計画策定について全く理解していなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス創造論 (科目ナンバリング: MAN422016, MAN522020)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 裕樹 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 阿部 裕樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現代の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、起業・創業において、ビジネスに成功するための事業計画の策定方法について実例を挙げて解説する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 本授業における概要とガイダンス	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
2	アントレプレナーシップとは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
3	新しいビジネスの創造	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
4	企業の役割と社会的責任	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
5	マーケティングと販路開拓	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
6	組織づくりと人材育成	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
7	資金の調達について	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
8	お金の流れを管理する	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
9	スタートアップから企業成長段階へ	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
10	ソーシャルビジネスの起業	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
11	知的財産とベンチャー	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
12	起業のリスクマネジメント	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
13	ビジネスプランの作り方	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
14	ビジネスモデルについて	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策。(90分)	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ社会学 (科目ナンバリング: SPS422060, SPS512007)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一 (経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階研究室		
単位数	2 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	東京オリンピック・パラリンピック実施年であることを踏まえ、その意義はもとより、スポーツ全体と社会の関わりを理解し、スポーツの価値・魅力、地域社会への貢献などを考え、認識を深めることにより、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。
------	---

授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(1)」に対応する。
---------	-----------------------------------

到達目標	スポーツへの関心を高め、スポーツ全体と社会の関わりを理解できる。
------	----------------------------------

授業全体の内容と概要	スポーツを楽しむ、参加する、応援するなど、多様な関わり方を理解し、各々のスポーツ観を向上させる。
------------	--

授業の方法	授業の前段として、折々の主なスポーツニュースについてその背景や重要な視点を解説する。そのあと、全体の授業計画に基づく各回のテーマについて講義する。またレポート提出も数回行う。レポートに対しては解説を加えてフィードバックする。なお、資料にて説明したことをもとに、プレゼンテーションやディスカッション、調査学習を用いた講義を展開する。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	各回で配布したプリントを保存、復習し、自ら補充して自分のものとする。5回欠席で不合格。遅刻(15分)は2回につき1回の欠席。私語は厳禁。携帯・タブレットの持ち込みは許可するが、必要のない場合の使用は禁ずる。
----------	---

資格指定科目	スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程
--------	---

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な出席回数は、10回以上レポートも評価の基準とする。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	50%	20%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツと社会との関連	積極的にスポーツと社会との関連性を理解し、自分の考え方、主張を持っていた。	スポーツと社会との関連性を理解しており、自分の考え方、主張を持つため、資料等を収集していた。	スポーツと社会との関連性を概ね理解することができた。	スポーツと社会との関連性に関心を持ち、少し理解することができた。	関心が薄く、ほとんど興味を示さなかった。
オリンピックへの理解	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで理解し、今大会を解析していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで概ね理解していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解しようとして努力していた。	オリンピック・パラリンピックに興味を示さなかった。
スポーツと地域貢献	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、自分の考え方、主張を持っていた。	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、資料等を収集していた。	スポーツと地域の結びつきを概ね理解していた。	スポーツと地域の結びつきに一定の理解を示し始めていた。	スポーツと地域の結びつきや、スポーツが地域活性化にどんな影響をもたらしているかなどに全く関心なかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ社会学 (科目ナンバリング: SPS422060, SPS512007)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・准教授)		研究室所在	1号館2階研究室	
単位数	2 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明・ガイダンスとスポーツの意義(スポーツの社会性・文化性を探る)	体協のテキスト「共通科目」を見る(90分)	シラバス全体を見る(90分)
2	世界、日本のスポーツの歴史・発展の歩み(戦争、ゲリラ等も含めて)	同「共通科目」に目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
3	東京オリンピック・パラリンピックの展望④	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
4	東京オリンピック・パラリンピックの展望⑤(問題点、課題も)	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
5	障害者全体にパラリンピックが及ぼす影響	前回のプリントに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
6	「文化」としてのスポーツ(拡がる共鳴、政治化)	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
7	スポーツの4つの柱(する、みる、支える、知る)	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
8	スポーツと人権(差別、体罰、LGBTなど)	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
9	現代スポーツの多面性(スポンサー、放映権など)	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
10	新スポーツの誕生や底辺の拡大	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
11	生涯スポーツ(子どもから高齢者)と生きがい	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
12	アマチュアリズムとコマースリズム	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
13	スポーツの地域貢献	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
14	良き指導者の条件とは	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
15	もう一度、東京五輪・パラリンピックの総括	前回のノートに目を通す(90分)	これまでのノートを読み返す(90分)
16	定期試験(60分)と解説(30分)	これまでのノートをじっくり読み返す(90分)	解説を受けて試験のふりかえりを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ社会学（SP）（科目ナンバリング：SPS422060，SPS512007）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・准教授）	研究室所在	1号館2階研究室		
単位数	2（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
 東京オリンピック・パラリンピック実施年であることを踏まえ、その意義はもとより、スポーツ全体と社会の関わりを理解し、スポーツの価値・魅力、地域社会への貢献などを考え、認識を深めることにより、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ
 経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(1)」に対応する。

到達目標
 スポーツへの関心を高め、スポーツ全体と社会の関わりを理解できる。

授業全体の内容と概要
 スポーツを楽しむ、参加する、応援するなど、多様な関わり方を理解し、各々のスポーツ観を向上させる。

授業の方法
 授業の前段として、折々の主なスポーツニュースについてその背景や重要な視点を解説する。そのあと、全体の授業計画に基づく各回のテーマについて講義する。またレポート提出も数回行う。レポートに対しては解説を加えてフィードバックする。なお、資料にて説明したことをもとに、プレゼンテーションやディスカッション、調査学習を用いた講義を展開する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
 各回で配布したプリントを保存、復習し、自ら補充して自分のものとする。5回欠席で不合格。遅刻（15分）は2回につき1回の欠席。私語は厳禁。携帯・タブレットの持ち込みは許可するが不要のない場合の使用は禁ずる。

資格指定科目
 スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件
 単位認定に必要な出席回数は、10回以上レポートも評価の基準とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツと社会との関連	積極的にスポーツと社会との関連性を理解し、自分の考え方、主張を持っている。	スポーツと社会との関連性を理解しており、自分の考え方、主張を持つため、資料等を収集している。	スポーツと社会との関連性を概ね理解することができる。	スポーツと社会との関連性に関心を持ち、少し理解することができる。	関心が薄く、ほとんど興味を示さない。
オリンピックへの理解	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで理解し、今大会を解析している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで概ね理解している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解しようと努力している。	オリンピック・パラリンピックに興味を示さない。
スポーツと地域貢献	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、自分の考え方、主張を持っている。	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、資料等を収集している。	スポーツと地域の結びつきを概ね理解している。	スポーツと地域の結びつきに一定の理解を示し始めている。	スポーツと地域の結びつきや、スポーツが地域活性化にどんな影響をもたらしているかなどに全く関心がない。

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ社会学（SP）（科目ナンバリング：SPS422060，SPS512007）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・准教授）	研究室所在	1号館2階研究室		
単位数	2（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・ガイダンスとスポーツの意義（スポーツの社会性・文化性を探る）	体協のテキスト「共通科目」を見る（90分）	シラバス全体を見る（90分）
2	世界、日本のスポーツの歴史・発展の歩み（戦争、ゲリラ等も含めて）	同「共通科目」に目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
3	東京オリンピック・パラリンピックの展望④	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
4	東京オリンピック・パラリンピックの展望⑤（問題点、課題も）	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
5	障害者全体にパラリンピックが及ぼす影響	前回のプリントに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
6	「文化」としてのスポーツ（拡がる共鳴、政治化）	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
7	スポーツの4つの柱（する、みる、支える、知る）	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
8	スポーツと人権（差別、体罰、LGBTなど）	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
9	現代スポーツの多面性（スポンサー、放映権など）	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
10	新スポーツの誕生や底辺の拡大	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
11	生涯スポーツ（子どもから高齢者）と生きがい	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
12	アマチュアリズムとコマースリズム	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
13	スポーツの地域貢献	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
14	良き指導者の条件とは	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
15	もう一度、東京五輪・パラリンピックの総括	前回のノートに目を通す（90分）	これまでのノートを読み返す（90分）
16	定期試験（60分）と解説（30分）	これまでのノートをじっくり読み返す（90分）	解説を受けて試験のふりかえりを行うこと（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学概論 (M) (科目ナンバリング: ECT122148, ECT422031, ECT522035)				
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
講義をつうじて受講者は、経済のニュースや記事を理解するために必要な基礎的知識を身につける。また、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済事象について考察する基礎力を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
経済のニュースや記事の概要を理解できる。また、経済事象の簡単な分析・解釈ができる。

授業全体の内容と概要
経済学をはじめて学ぶことを前提として、経済学の基礎知識とその考え方を説明する。実際の経済ニュースを紹介しながら、国内所得や成長率などの経済学の知識・考え方について演習問題もまじえて学ぶ。

授業の方法
各回の計画にそって、板書やスライドによる講義と演習問題とを組み合わせた授業をおこなう。また、授業中に随時、受講生の理解の確認や受講生自身に考えさせることを目的とした問いかけ(質問・対話)と演習問題をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
演習への取り組みを評価するため、履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。																					

資格指定科目
教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	80%	0%	0%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
80%	0%	0%	0%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経済用語の理解</td> <td>授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて的確に説明できた。</td> <td>授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。</td> <td>授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。</td> <td>授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。</td> <td>授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>経済学の考え方の理解</td> <td>経済学の考え方をを用いて身近な経済事象を説明できた。</td> <td>経済学の考え方をを用いて身近な経済事象をある程度説明できた。</td> <td>経済学の考え方を図や式を用いて説明できた。</td> <td>経済学の考え方をある程度説明できた。</td> <td>経済学の考え方を説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>演習問題への取り組み</td> <td>ほぼすべての演習問題に取り組み、適切な解答を書くことができた。</td> <td>ほぼすべての演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。</td> <td>ある程度の演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。</td> <td>評価前提基準回数程度の演習問題に取り組めた。</td> <td>演習問題に取り組みなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。	経済学の考え方の理解	経済学の考え方をを用いて身近な経済事象を説明できた。	経済学の考え方をを用いて身近な経済事象をある程度説明できた。	経済学の考え方を図や式を用いて説明できた。	経済学の考え方をある程度説明できた。	経済学の考え方を説明できなかった。	演習問題への取り組み	ほぼすべての演習問題に取り組み、適切な解答を書くことができた。	ほぼすべての演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	ある程度の演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	評価前提基準回数程度の演習問題に取り組めた。	演習問題に取り組みなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。																								
経済学の考え方の理解	経済学の考え方をを用いて身近な経済事象を説明できた。	経済学の考え方をを用いて身近な経済事象をある程度説明できた。	経済学の考え方を図や式を用いて説明できた。	経済学の考え方をある程度説明できた。	経済学の考え方を説明できなかった。																								
演習問題への取り組み	ほぼすべての演習問題に取り組み、適切な解答を書くことができた。	ほぼすべての演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	ある程度の演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	評価前提基準回数程度の演習問題に取り組めた。	演習問題に取り組みなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『マンキュー入門経済学(第3版)』</td> <td>N・グレゴリー・マンキュー</td> <td>東洋経済新報社</td> <td>2019</td> <td>4492315217</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『マンキュー入門経済学(第3版)』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『マンキュー入門経済学(第3版)』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学概論 (M) (科目ナンバリング: ECT122148, ECT422031, ECT522035)				
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)	研究室所在	1号館 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	経済学とは: この授業で学ぶこと・授業計画 (シラバス) の説明	経済学とは何かを考える (90分)	経済学とは何かノートにまとめる (90分)
2	日本の景気について: 景気を知る方法・景気と大学生の生活	景気ウォッチャー調査とは何か調べる (90分)	景気を調べる方法についてノートにまとめる (90分)
3	国内総生産からみた世界経済: 国内総生産 (GDP) とは・世界の国内総生産 (GDP) による世界地域比較	国内総生産について調べる (90分)	地域比較で気付いたことをノートにまとめる (90分)
4	希少な資源と生産活動: 生産活動と資源・富裕国と最貧国との比較	生産要素について調べる (90分)	生産要素と生産活動についてノートにまとめる (90分)
5	経済成長とは: 経済成長率の計算	経済成長率について調べる (90分)	経済成長率の計算式と意味をノートにまとめる (90分)
6	経済成長と国民所得: 生産要素と経済成長・途上国の経済成長率の例	成長著しい国の成長率を調べる (90分)	生産要素と成長についてノートにまとめる (90分)
7	経済と幸福の問題: 幸福の要因	幸福の要因について考える (90分)	幸福と経済的豊かさのまとめ (90分)
8	所得と限界効用逓減: 限界効用逓減の法則	所得の伸びとゆたかさの実感のまとめ (90分)	所得の伸びと豊かさの実感についてノートにまとめ (90分)
9	実質値と名目値: 値上げのニュース・物価とインフレ, 実質値	実質値と名目値の違いを調べる (90分)	実質値と名目値の違いをノートにまとめる (90分)
10	市場経済と価格: 市場というしくみについて・供給の変動と市場価格への影響	市場のしくみについて調べる (90分)	供給の市場価格への影響をノートにまとめる (90分)
11	通貨と中央銀行: 通貨の機能・中央銀行と通貨	通貨・中央銀行の機能を調べる (90分)	中央銀行と通貨についてノートにまとめ (90分)
12	日銀の資金供給と金利: 金利とは・日銀と資金供給	金利について調べる (90分)	日銀の政策と金利についてノートにまとめ (90分)
13	通貨供給量と信用創造: 通貨供給量とは・信用創造とは	通貨供給量について調べる (90分)	信用創造と通貨供給量についてノートにまとめる (90分)
14	日銀と金融政策: 金融政策にかんするニュース・金融政策の影響	金融政策の現状を調べる (90分)	日銀の金融政策をノートにまとめる (90分)
15	経済政策とこれまでの授業のまとめ	ノート見直しと不明点の確認 (90分)	ノートの整理 (90分)
16	定期試験 (60分) と試験の説明	各回の演習問題に再挑戦 (90分)	わからなかった試験問題の復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学概論 (M-SP) (科目ナンバリング: ECT122148, ECT422031, ECT522035)				
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
講義をつうじて受講者は、経済のニュースや記事を理解するために必要な基礎的知識を身につける。また、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済事象について考察する基礎力を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
経済のニュースや記事の概要を理解できる。また、経済事象の簡単な分析・解釈ができる。

授業全体の内容と概要
経済学をはじめて学ぶことを前提として、経済学の基礎知識とその考え方を説明する。実際の経済ニュースを紹介しながら、国内所得や成長率などの経済学の知識・考え方について演習問題もまじえて学ぶ。

授業の方法
各回の計画にそって、板書やスライドによる講義と演習問題とを組み合わせた授業をおこなう。また、授業中に随時、受講生の理解の確認や受講生自身に考えさせることを目的とした問いかけ(質問・対話)と演習問題をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
演習への取り組みを評価するため、履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

資格指定科目
教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。
経済学の考え方の理解	経済学の考え方をを用いて身近な経済事象を説明できた。	経済学の考え方をを用いて身近な経済事象をある程度説明できた。	経済学の考え方を図や式を用いて説明できた。	経済学の考え方をある程度説明できた。	経済学の考え方を説明できなかった。
演習問題への取り組み	ほぼすべての演習問題に取り組み、適切な解答を書くことができた。	ほぼすべての演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	ある程度の演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	評価前提基準回数程度の演習問題に取り組めた。	演習問題に取り組みなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マンキュー入門経済学(第3版)』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学概論 (M-SP) (科目ナンバリング: ECT122148, ECT422031, ECT522035)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)	研究室所在	1号館 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	経済学とは: この授業で学ぶこと・授業計画 (シラバス) の説明	経済学とは何かを考える (90分)	経済学とは何かノートにまとめる (90分)
2	日本の景気について: 景気を知る方法・景気と大学生の生活	景気ウォッチャー調査とは何か調べる (90分)	景気を調べる方法についてノートにまとめる (90分)
3	国内総生産からみた世界経済: 国内総生産 (GDP) とは・世界の国内総生産 (GDP) による世界地域比較	国内総生産について調べる (90分)	地域比較で気付いたことをノートにまとめる (90分)
4	希少な資源と生産活動: 生産活動と資源・富裕国と最貧国との比較	生産要素について調べる (90分)	生産要素と生産活動についてノートにまとめる (90分)
5	経済成長とは: 経済成長率の計算	経済成長率について調べる (90分)	経済成長率の計算式と意味をノートにまとめる (90分)
6	経済成長と国民所得: 生産要素と経済成長・途上国の経済成長率の例	成長著しい国の成長率を調べる (90分)	生産要素と成長についてノートにまとめる (90分)
7	経済と幸福の問題: 幸福の要因	幸福の要因について考える (90分)	幸福と経済的豊かさのまとめ (90分)
8	所得と限界効用逓減: 限界効用逓減の法則	所得の伸びとゆたかさの実感のまとめ (90分)	所得の伸びと豊かさの実感についてノートにまとめ (90分)
9	実質値と名目値: 値上げのニュース・物価とインフレ, 実質値	実質値と名目値の違いを調べる (90分)	実質値と名目値の違いをノートにまとめる (90分)
10	市場経済と価格: 市場というしくみについて・供給の変動と市場価格への影響	市場のしくみについて調べる (90分)	供給の市場価格への影響をノートにまとめる (90分)
11	通貨と中央銀行: 通貨の機能・中央銀行と通貨	通貨・中央銀行の機能を調べる (90分)	中央銀行と通貨についてノートにまとめ (90分)
12	日銀の資金供給と金利: 金利とは・日銀と資金供給	金利について調べる (90分)	日銀の政策と金利についてノートにまとめ (90分)
13	通貨供給量と信用創造: 通貨供給量とは・信用創造とは	通貨供給量について調べる (90分)	信用創造と通貨供給量についてノートにまとめる (90分)
14	日銀と金融政策: 金融政策にかんするニュース・金融政策の影響	金融政策の現状を調べる (90分)	日銀の金融政策をノートにまとめる (90分)
15	経済政策とこれまでの授業のまとめ	ノート見直しと不明点の確認 (90分)	ノートの整理 (90分)
16	定期試験 (60分) と試験の説明	各回の演習問題に再挑戦 (90分)	わからなかった試験問題の復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史(M) (科目ナンバリング: ECH122134, ECH422037)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

近世から現代にかけての日本経済の歴史的發展を多角的に学び、日本がどのように「資本主義」の国家として経済發展を遂げてきたのかを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDPにおける「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

日本経済の歴史の全体像を把握し、何処に転換点があったのかを理解する。

授業全体の内容と概要

鎖国下の江戸時代という特殊な条件から、いかにして資本主義体制を形成していったのかを、歴史的事件や経済制度の観点から考察する。

授業の方法

PDFを利用した講義形式で行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義中は内容の把握に努め、重要な点はしっかりとノートに取る。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数は10回以上とする。 単位認定は、定期試験80%と平常点(小テストなど)20%の合計100%のうち、60%以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近世から現代へ：封建社会から資本主義経済への移行	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解し、どのような条件が日本経済の発展に寄与したかを示すことが出来るようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解できた。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを理解し、説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかを説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかについて、理解が見られなかった。
明治～昭和へ：日本経済における変化	明治期以降の日本の資本主義發展のプロセスを理解しており、何が經濟發展の要因になったのかを、具体的な事例と伴に説明することが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義發展のプロセスを理解しており、具体的な歴史的事件を示すことが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義發展のプロセスを理解出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義發展のプロセスを説明できるようになった。	明治期以降の日本の資本主義發展について、理解が見られなかった。
敗戦から經濟成長へ：經濟的成功と挫折	日本經濟が敗戦からどのように復興し、經濟發展を遂げたのかを深く理解し、今日日本が直面する諸問題も説明することが出来るようになった。	日本經濟が敗戦からどのように復興し、經濟發展を遂げたのかを理解し、今日日本が直面する諸問題も挙げることが出来るようになった。	日本經濟が敗戦からどのように復興し、經濟發展を遂げたのかを理解できるようになった。	戦後の日本經濟がたどった経緯を説明することが出来るようになった。	戦後の日本經濟がたどった経緯について、理解が見られなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史(M) (科目ナンバリング: ECH122134, ECH422037)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	初回オリエンテーション、シラバス説明:日本の経済発展とその歴史的前提	日本経済史に関する所説を、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
2	「近世経済」の成立と展開1-農村社会の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
3	「近世経済」の成立と展開2-武士階級及び都市経済の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
4	移行期の日本経済1-維新前夜の日本経済	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
5	移行期の日本経済2-維新政府の諸改革	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
6	移行期の日本経済3-資本主義の導入へ	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
7	明治-大正時代の日本経済1-生産組織や技術導入による経済成長	明治-大正にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
8	明治-大正時代の日本経済2-資本と労働	明治-大正にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
9	明治-大正時代の日本経済3-戦間期の日本経済	明治-大正にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
10	明治-大正時代の日本経済4-変貌する都市と農村	明治-大正にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
11	昭和初期-第二次世界大戦期の日本経済	第2次世界大戦までの道のりを、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
12	敗戦と経済復興1-統制・計画経済から市場経済へ	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
13	敗戦と経済復興2-高度経済成長と産業構造の変化	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
14	経済低迷とバブル経済	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
15	今日の日本経済の課題	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(90分)	講義中に取りったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
16	定期試験(60分)と試験の解説	これまでの総復習を行うこと(90分)	講義の全体を良く振り返っておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史 (M) (科目ナンバリング: ECH122135, ECH422036)				
授業担当者 (所属・職名)	松本 哲人 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 松本 哲人)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

<p>履修目標</p> <p>現代の世界経済はヨーロッパ経済が世界に拡大する形で形成されたものであり、日本やアジア諸国の経済成長はその経済システムの中で達成されたものである。西洋経済史を学ぶことによって、歴史に学ぶだけでなく、現代の経済を理解するための素養を身につける。</p> <p>とりわけ以下の2点に着目する。</p> <p>資本主義（資本制）の成立と展開、農業中心の社会経済構造から工業化へ。特に産業革命を中心に、その前提として必要なものは何であったか、また産業革命によってどのような社会経済構造がもたらされたのか。</p> <p>市場経済化、需給関係に基づき最適な形で価格が調整される範囲の拡大。ヨーロッパにおける商業の発達と市場経済の形成の関連、歴史的存在としての市場の構造・役割、その変容を知る。</p>
--

<p>授業の位置づけ</p> <p>経営学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。</p>

<p>到達目標</p> <p>資本制の成立と展開がいかにして行われたのかを理解し、資本制の本質を理解する。市場経済化の進展が歴史上、どのようになされたのかを理解し、市場経済とは何かを説明することができる。</p>

<p>授業全体の内容と概要</p> <p>Intro. 古代から中世へ 1. 近世（初期近代） 2. 近代 3. 現代</p>
--

<p>授業の方法</p> <p>教科書に沿った板書を中心とした講義および受講者間のディスカッション等のアクティブラーニング</p>
--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

<p>履修上の注意事項</p> <p>教科書を必ず持参すること</p>
--

<p>資格指定科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は全授業回数の3分の2以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中世ヨーロッパ経済の発達を市場経済の発達と関連させて理解できた	教科書を超える内容について詳しく理解できた	中世の経済について教科書の内容を理解できている	農業および商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	農業ないし商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
近代における資本制の発生と展開について理解できた	教科書を超える内容について詳しく理解できた	近代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパの様々な国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパのある国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
世界大戦とその後のヨーロッパ経済について理解できた	教科書を超える内容について詳しく理解できた	現代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	大戦の発生及びその戦後処理からEUの誕生とその発展に至るまで教科書の内容を理解できている	EUの誕生とその発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『西洋経済史』	奥西孝至	有斐閣	2010年	9784641124042	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『スタートアップ経済学シリーズ 経済学史』	小峯敦	ミネルヴァ書房	2021	9784623090839	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史(M) (科目ナンバリング: ECH122135, ECH422036)				
授業担当者(所属・職名)	松本 哲人(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 松本 哲人)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ヨーロッパの拡大と国際競争の開始	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
2	17-18世紀の「経済危機」と国家の形成(オランダ&イギリス)	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
3	17-18世紀の「経済危機」と国家の形成(フランス&中・東欧)	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
4	ヨーロッパの工業化をどうとらえるか	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
5	「産業革命」とは何だったのか	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
6	ヨーロッパにおける工業化の始動	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
7	様々な工業化	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
8	「第二次産業革命」の時代	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
9	工業国と社会政策	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
10	北アメリカの台頭とビッグビジネス	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
11	第一次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
12	第二次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
13	第二次大戦後のヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
14	EUへの道	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
15	まとめ	授業ノートの見直し(90分)	期末試験勉強(90分)
16	定期試験(60分)と試験の解説(30分)	授業全体の復習(90分)	試験問題・解説の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	中小企業論 (科目ナンバリング: MAN423024, MAN523028)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、タイムリーな事例を活用した講義を展開する。		

概要

履修目標
本講義の対象学年は1年生であることから、受講学生が中小企業論を理解するために、受講方法やノートの取り方を含めて、専門科目の基礎を学ぶことを目的としている。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
本講義の達成目標は、企業という組織を理解している。中小企業の特徴について述べるができる。中小企業の問題点を述べるができる。中小企業における現状の問題解決法について自分の視点から述べるができる。これからの中小企業について自分の視点から述べるができる。

授業全体の内容と概要
本講義は、日本の中小企業における基礎的な考察を中心に講義を進める。具体的には、中小企業の経営、経営革新、下請け構造、労働、金融などにポイントを絞り、事例考察などを織り交せたカリキュラム構成にしている。但し、学生の理解度に応じて、カリキュラムは、適宜、変更する場合がある。

授業の方法
本講義は、パワーポイント及び配布物資料を進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は、スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして、講義レポートを実施し、レポートを提出した学生を出席扱いとする。また、講義を進めるにあたり、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
本講義では、講義ノートの作成を義務付ける。講義の際、筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」10%については、講義ノートの評価とする。

資格指定科目
教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>90%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	90%	0%	0%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
90%	0%	0%	0%	0%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中小企業論に係るレポート・試験に対応した文章力</td> <td>講義で学んだ以上の内容を含み、論理性の優れた文章を書いていた。</td> <td>講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。</td> <td>講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。</td> <td>講義で学んだ内容が書かれていた。</td> <td>読み手に内容が伝わらなかった。</td> </tr> <tr> <td>中小企業の特徴について</td> <td>中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ考え方を活用して、大企業との比較の中で、中小企業の特徴を述べる事ができた。</td> <td>中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を3つ以上述べる事ができた。</td> <td>中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を最低1つでも述べる事ができた。</td> <td>最低限、中小企業の定義を理解していた。</td> <td>そもそも中小企業とは何かを理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>中小企業の課題について</td> <td>講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題について、業種別に課題を述べる事ができた。</td> <td>講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。</td> <td>講義の内容から、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。</td> <td>最低限、中小企業の課題を1つでも述べる事ができた。</td> <td>そもそも中小企業の課題を見つけている事ができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	中小企業論に係るレポート・試験に対応した文章力	講義で学んだ以上の内容を含み、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。	中小企業の特徴について	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ考え方を活用して、大企業との比較の中で、中小企業の特徴を述べる事ができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を3つ以上述べる事ができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を最低1つでも述べる事ができた。	最低限、中小企業の定義を理解していた。	そもそも中小企業とは何かを理解していなかった。	中小企業の課題について	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題について、業種別に課題を述べる事ができた。	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。	講義の内容から、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。	最低限、中小企業の課題を1つでも述べる事ができた。	そもそも中小企業の課題を見つけている事ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
中小企業論に係るレポート・試験に対応した文章力	講義で学んだ以上の内容を含み、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。																								
中小企業の特徴について	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ考え方を活用して、大企業との比較の中で、中小企業の特徴を述べる事ができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を3つ以上述べる事ができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を最低1つでも述べる事ができた。	最低限、中小企業の定義を理解していた。	そもそも中小企業とは何かを理解していなかった。																								
中小企業の課題について	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題について、業種別に課題を述べる事ができた。	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。	講義の内容から、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。	最低限、中小企業の課題を1つでも述べる事ができた。	そもそも中小企業の課題を見つけている事ができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『現代中小企業論(増補版)』</td> <td>高田亮爾/上野純/村杜隆/前田啓一編著</td> <td>同友館</td> <td>2011年</td> <td>978-4496047589</td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『現代中小企業論(増補版)』	高田亮爾/上野純/村杜隆/前田啓一編著	同友館	2011年	978-4496047589		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『現代中小企業論(増補版)』	高田亮爾/上野純/村杜隆/前田啓一編著	同友館	2011年	978-4496047589																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	中小企業論 (科目ナンバリング: MAN423024, MAN523028)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、タイムリーな事例を活用した講義を展開する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	「中小企業論」ガイダンス、シラバスの説明(講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など)	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	企業の基本 会社とは？企業活動とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
3	中小企業の定義 なぜ企業規模で分けるのか？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
4	中小企業の研究動向 学術研究とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
5	中小企業の経営問題 経営とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
6	中小企業の経営問題 事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
7	中小企業の経営革新 経営革新とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し(90分)準備すること。
8	中小企業の経営革新 事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
9	中小企業と下請けの関係 下請けとは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
10	中小企業と労働者 賃金とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
11	中小企業と金融 財務諸表とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
12	中小企業と金融 事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
13	地域経済と地場産業	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
14	中小企業と産業連関構造 経済効果とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
15	まとめ 試験対策	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備をする(90分)	試験のフィードバックを受けて中小企業論を総括する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中小企業論 (SP) (科目ナンバリング: MAN423024, MAN523028)				
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)	研究室所在	1号館 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、タイムリーな事例を活用した講義を展開する。		

概要

履修目標
本講義の対象学年は1年生であることから、受講学生が中小企業論を理解するために、受講方法やノートの取り方を含めて、専門科目の基礎を学ぶことを目的としている。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
本講義の達成目標は、企業という組織を理解している。中小企業の特徴について述べるができる。中小企業の問題点を述べるができる。中小企業における現状の問題解決法について自分の視点から述べるができる。これからの中小企業について自分の視点から述べるができる。

授業全体の内容と概要
本講義は、日本の中小企業における基礎的な考察を中心に講義を進める。具体的には、中小企業の経営、経営革新、下請け構造、労働、金融などにポイントを絞り、事例考察などを織り交せたカリキュラム構成になっている。但し、学生の理解度に応じて、カリキュラムは、適宜、変更する場合がある。

授業の方法
本講義は、パワーポイント及び配布物資料を進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は、スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして、講義レポートを実施し、レポートを提出した学生を出席扱いとする。また、講義を進めるにあたり、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
本講義では、講義ノートの作成を義務付ける。筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」10%は、講義ノートの評価とする。

資格指定科目
教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>90%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	90%	0%	0%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
90%	0%	0%	0%	0%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中小企業論に係るレポート・試験に対応した文章力</td> <td>講義で学んだ内容を自分の言葉で要約ができ、かつ自分の意見があった。</td> <td>講義で学んだ内容を自分の言葉で要約できた。</td> <td>講義で学んだ内容が書かれていた。</td> <td>最低限、読み手に内容が伝わった。</td> <td>読み手に内容が伝わらなかった。</td> </tr> <tr> <td>中小企業の特徴について</td> <td>中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ考え方を活用して、大企業との比較の中で、中小企業の特徴を述べる事ができた。</td> <td>中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を3つ以上述べる事ができた。</td> <td>中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を最低1つでも述べる事ができた。</td> <td>最低限、中小企業の定義を理解していた。</td> <td>そもそも中小企業とは何かを理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>中小企業の課題について</td> <td>講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題について、業種別に課題を述べる事ができた。</td> <td>講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。</td> <td>講義の内容から、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。</td> <td>最低限、中小企業の課題を1つでも述べる事ができた。</td> <td>そもそも中小企業の課題を見つけないことができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	中小企業論に係るレポート・試験に対応した文章力	講義で学んだ内容を自分の言葉で要約ができ、かつ自分の意見があった。	講義で学んだ内容を自分の言葉で要約できた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	最低限、読み手に内容が伝わった。	読み手に内容が伝わらなかった。	中小企業の特徴について	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ考え方を活用して、大企業との比較の中で、中小企業の特徴を述べる事ができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を3つ以上述べる事ができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を最低1つでも述べる事ができた。	最低限、中小企業の定義を理解していた。	そもそも中小企業とは何かを理解していなかった。	中小企業の課題について	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題について、業種別に課題を述べる事ができた。	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。	講義の内容から、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。	最低限、中小企業の課題を1つでも述べる事ができた。	そもそも中小企業の課題を見つけないことができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
中小企業論に係るレポート・試験に対応した文章力	講義で学んだ内容を自分の言葉で要約ができ、かつ自分の意見があった。	講義で学んだ内容を自分の言葉で要約できた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	最低限、読み手に内容が伝わった。	読み手に内容が伝わらなかった。																								
中小企業の特徴について	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ考え方を活用して、大企業との比較の中で、中小企業の特徴を述べる事ができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を3つ以上述べる事ができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を最低1つでも述べる事ができた。	最低限、中小企業の定義を理解していた。	そもそも中小企業とは何かを理解していなかった。																								
中小企業の課題について	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題について、業種別に課題を述べる事ができた。	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。	講義の内容から、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。	最低限、中小企業の課題を1つでも述べる事ができた。	そもそも中小企業の課題を見つけないことができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『現代中小企業論(増補版)』</td> <td>高田亮爾/上野紘/村杜隆/前田啓一編著</td> <td>同友館</td> <td>2011年</td> <td>978-4496047589</td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『現代中小企業論(増補版)』	高田亮爾/上野紘/村杜隆/前田啓一編著	同友館	2011年	978-4496047589		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『現代中小企業論(増補版)』	高田亮爾/上野紘/村杜隆/前田啓一編著	同友館	2011年	978-4496047589																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中小企業論 (SP) (科目ナンバリング: MAN423024, MAN523028)				
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、タイムリーな事例を活用した講義を展開する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	「中小企業論」ガイダンス、シラバスの説明 (講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など)	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	企業の基本 会社とは？企業活動とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
3	中小企業の定義 なぜ企業規模で分けるのか？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
4	中小企業の研究動向 学術研究とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
5	中小企業の経営問題 経営とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
6	中小企業の経営問題 事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
7	中小企業の経営革新 経営革新とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
8	中小企業の経営革新 事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
9	中小企業と下請けの関係 下請けとは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
10	中小企業と労働者 賃金とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
11	中小企業と金融 財務諸表とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
12	中小企業と金融 事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
13	地域経済と地場産業	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
14	中小企業と産業連関構造 経済効果とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
15	まとめ 試験対策	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備をする(90分)	試験のフィードバックを受けて中小企業論を総括する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ行政学 (科目ナンバリング: SPS422061, SPS522051)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツの捉え方や位置づけを学ぶ。		

概要

履修目標
本授業では、文化としてのスポーツの捉え方や位置づけを学ぶと共に、国及び地方公共団体の全体的枠組みや関係法令等スポーツ振興の係りについて学習する。また、地域スポーツクラブ等における指導者の必要性や役割等についても学ぶ。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
国及び地方公共団体等における行政のスポーツ振興施策の現状と目指すべき方向性の概要を理解すると共に、スポーツ指導者のスポーツ振興への役割や心得等について理解することができる。

授業全体の内容と概要
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト「共通科目」・「共通科目」に準拠して授業を進める。授業に必要な資料等は、その都度配布する。

授業の方法
本授業は、テキストに準拠し、パワーポイントや配布資料を参照しながら進める。また、授業回によってグループワーク等で思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行い学習する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
ノートを持参し板書する。 携帯電話の電源を切る。イヤホン着用禁止。 私語は慎む。 脱帽・飲食禁止。 授業中の体調不良等は申し出ること。 無断での退席は認めない。 20分以上の遅刻は欠席とする。 *以上に反する場合は退席とし欠席扱いとする。

資格指定科目
教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの概念における関心・意欲および授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問・発言するなど積極的な授業態度であった。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなしていた。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。	授業中着席するものの課題や板書をしていなかった。
スポーツ振興の知識・理解	授業内容を越える知識を積極的に勉強し理解度を深めていた。	授業内容をほぼ全て理解していた。	授業内容の概ね理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解できていなかった。
スポーツ振興の分析・展開	授業内容に留まらず、問題点と課題を掘り出し、より良い生涯スポーツ社会の実現に向けた実践的展開を提案できた。	授業内容をほぼ全て理解し、問題点を複合的に捉え分析していた。	授業内容を概ね理解し、複数の問題点を見つけることができた。	授業内容の一部から問題点を見つけていた。	授業内容が理解できないため、問題点を見つけることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト「共通科目」』		日本スポーツ協会			
2	『日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト「共通科目」』		日本スポーツ協会			
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ行政学 (科目ナンバリング: SPS422061, SPS522051)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツの捉え方や位置づけを学ぶ。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明)	シラバスを読んでおく(90分)	オリエンテーションの内容を理解しておく(90分)
2	スポーツの概念と歴史	スポーツの歴史について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
3	わが国のスポーツの固有性と特性および制度	わが国のスポーツの固有性と特性および制度について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
4	わが国のスポーツ行政のしくみ	わが国のスポーツ行政のしくみについて調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
5	わが国のスポーツ振興の根拠法とスポーツ振興施策について調べておく(90分)	わが国のスポーツ振興の根拠法とスポーツ振興施策について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
6	生涯スポーツの推進と総合型地域スポーツクラブについて調べておく(90分)	生涯スポーツの推進と総合型地域スポーツクラブについて調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
7	地方公共団体におけるスポーツ振興施策	地方公共団体におけるスポーツ振興施策について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
8	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」	スポーツ少年団について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
9	スポーツ行政と地域スポーツ振興施策の課題	学修課題を整理しておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
10	スポーツ指導者とスポーツ行政	スポーツ指導者とスポーツ行政について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
11	スポーツ指導者の役割(指導者の倫理)	指導者の倫理について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
12	スポーツ指導者の役割(指導者の心構え, 視点)	指導者の心構え, 視点について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
13	スポーツ事故における指導者の法的責任(リスクマネジメント)	スポーツのリスクマネジメントについて調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
14	スポーツ事故における指導者の法的責任(スポーツ事故判例)	スポーツ事故判例について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
15	スポーツと人権(スポーツ倫理と基本的人権)	スポーツ倫理と基本的人権について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
16	定期試験及び解説 試験時間60分, 解説30分	授業全体を振り返り試験準備をしておく(90分)	試験および解説を踏まえ授業内容の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ心理学 (科目ナンバリング: SPS422064, SPS522063)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツ心理学についての基礎的な科学的知識を深め指導する。		

概要

履修目標
スポーツの実践や指導に関わる様々な問題を心理学の側面からとらえることを目的とする。また、競技者や指導者がスポーツを実践する上で必要となる心理学的諸理論を知り、各自の問題解決の一助として活用していくための視点を養う。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
スポーツを見つめる科学的な視点を養う。スポーツにおける心理学の基礎理論を理解する。スポーツにおける心理学の応用について理解する。

授業全体の内容と概要
スポーツに対する科学としての心理学的視点(認知モデルの紹介)、スポーツにおける人間の行動特徴(モチベーション、行動の個人差)、スポーツにおける人間の行動マネジメント(メンタルトレーニング)スポーツにおける関係としての個人と集団(個人者集団と指導者集団との関係)、スポーツにおける心理学の活用事例(事例から自分自身への適用)。

授業の方法
授業はパワーポイント及び配布資料で実施しスポーツ心理学の事例を紹介しメンタルトレーニングの実践などのDVDも活用しながら講義形式で行う。また、授業の終わりに確認の小テストを実施し、フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
ノートやプリントは毎回必ず持参すること。授業中は口頭説明にも注意を向けノートやプリント等にメモしながらノート作成を行うこと。口頭で説明したことにも重要な事柄が含まれる。

資格指定科目
教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	50%	30%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされてはいるが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなかった。
スポーツ心理学についての基礎知識と領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解できなかった。
スポーツ心理学の知識に基づいた多様な思考力・判断力	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身についた。	多様な思考力・判断力が一定程度身についた。	多様な思考力・判断力がある程度身についた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけられなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目』	日本体育協会	日本体育協会	2005		
2	『日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目』	日本体育協会	日本体育協会	2005		
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ心理学 (科目ナンバリング:SPS422064, SPS522063)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツ心理学についての基礎的な科学的知識を深め指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく(90分)	ガイダンスの内容を理解しておく(90分)
2	スポーツと心(スポーツにおけるこころの問題)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
3	スポーツと心(スポーツにおける個人差と集団の理解)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
4	スポーツと心(チームビルディング)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
5	スポーツにおける動機づけ(動機づけ概念の理解)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
6	スポーツにおける動機づけ(適切な動機づけ水準)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
7	コーチングの心理(コーチングの手法)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
8	コーチングの心理(コーチング評価)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
9	メンタルマネジメント(メンタルトレーニング)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
10	メンタルマネジメント(あがりの対処法)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
11	メンタルマネジメント(プレッシャーの対処法)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
12	メンタルマネジメント(スランプの対処法)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
13	指導者のメンタルマネジメント(リーダーシップ)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
14	指導者のメンタルマネジメント(感情コントロール)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
15	指導者のメンタルマネジメント(指導者の自己管理)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
16	まとめ	ノート・プリントで講義内容を確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	トレーニング科学 (科目ナンバリング: SPS422062, SPS522052)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>トレーニングは、働きかけの対象である身体機能を良く理解しなければ、効果が得られない場合もある。本講義では、トレーニングに関わる身体の仕組み・働きについて解説し、各種スポーツ、体力づくりに必要なトレーニングの基礎理論を理解させ、女性と運動、中高年における健康に対する構成要素の知識を学ぶと共に障害者における運動と健康についても詳しく学習する。</p>

授業の位置づけ
<p>経営学科のDP「1(5)」、「2(2)」、「2(3)」に対応する。</p>

到達目標
<p>身体機能の特性を理解し、トレーニングの原理・原則を熟知させ各人の性、年齢、体力、健康状態を考慮し、適正なトレーニングの処方計画を作成できるようにする。</p>

授業全体の内容と概要
<p>テキストを中心に授業を進め、授業の展開に応じて、レポートの提出やビデオを利用して理解を確実なものにする。</p>

授業の方法
<p>授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施する。また、レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。他にも、課題は講義内で学生に発表を行わせる。</p>

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<p>注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明</p>

資格指定科目
<p>教職課程(保健体育)選択科目 スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格過程</p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>25%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>25%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	25%	30%	0%	25%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
25%	30%	0%	25%	20%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した</td> <td>学修した知識・技能を確実に修得した</td> <td>学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった</td> <td>学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった</td> <td>学修に真面目に取り組みなかった</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力等</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組まなかった</td> </tr> <tr> <td>主体性・多様性・協働性</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組まなかった</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組みなかった	思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった	主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組みなかった																																				
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった																																				
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『日本体育協会講習会テキスト「共通科目」』</td> <td></td> <td>公益財団法人 日本体育協会</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『日本体育協会講習会テキスト「共通科目」』		公益財団法人 日本体育協会				2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『日本体育協会講習会テキスト「共通科目」』		公益財団法人 日本体育協会																																							
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	トレーニング科学 (科目ナンバリング: SPS422062, SPS522052)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	体力とは シラバスの説明	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
2	トレーニングの進め方(原理、原則、トレーニング処方)	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
3	トレーニングの種類	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
4	運動器のしくみと働き 筋・骨格・神経系のしくみと働き	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
5	運動器のしくみと働き 間接・運動器の機能	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
6	運動器のしくみと働き 神経のコントロール	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給 呼吸循環器系の働き	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
8	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給 エネルギーの供給	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
9	スポーツバイオメカニクスの基礎(歩く、走る、跳ぶ、泳ぐ、投げる、蹴るなど)	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
10	中高年者とスポーツ	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
11	女性とスポーツ 身体的特徴について	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
12	女性とスポーツ 心理的特徴について	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
13	女性とスポーツ トレーナビリティとプログラム	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
14	障害者とスポーツ 障害者の理解	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
15	障害者とスポーツ 障害者の理解	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
16	テスト及び解説 60分の試験終了後、残り30分で解説	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	トレーニング科学 (科目ナンバリング: SPS422063, SPS522053)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
人間の体は、意図的に働きかけることにより、構造的にも機能的にも変化させることができる。本講義ではトレーニングに必要な基礎的理論、トレーニングの方法を概説し、トレーニング計画、筋力トレーニングの基礎、ストレッチングや体力テストの活用について学ぶ。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(5)」、「2(2)」、「2(3)」に対応する。

到達目標
身体機能の特性を理解し、トレーニングの原理・原則を熟知させ各人の性、年齢、体力、健康状態を考慮し、適正なトレーニングの処方計画を作成できるようにする。

授業全体の内容と概要
テキストを中心に授業を進め、授業の展開に応じて、レポートの提出、ビデオを利用し、トレーニング理論、トレーニング計画などについて詳しく説明する。

授業の方法
授業は、板書及び配布資料を活用しながら講義形式で行い、レポートの提出を求める。レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明。

資格指定科目
スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	30%	0%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	30%	0%	0%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した</td> <td>学修した知識・技能を確実に修得した</td> <td>学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった</td> <td>学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった</td> <td>学修に真面目に取り組みなかった</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力等</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組まなかった</td> </tr> <tr> <td>主体性・多様性・協働性</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組まなかった</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組みなかった	思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった	主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組みなかった																								
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった																								
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『日本体育協会講習会テキスト「共通科目」』</td> <td></td> <td>公益財団法人日本体育協会</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『日本体育協会講習会テキスト「共通科目」』		公益財団法人日本体育協会				2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『日本体育協会講習会テキスト「共通科目」』		公益財団法人日本体育協会																																							
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	トレーニング科学 (科目ナンバリング: SPS422063, SPS522053)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・助教)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	トレーニング理論と方法論 トレーニング学の理論体系シラバスの説明	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
2	トレーニング理論と方法論 スポーツパフォーマンス構造論	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
3	トレーニング理論と方法論 トレーニング手段における基礎論	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
4	トレーニング理論と方法論 筋力トレーニングにおける基礎論	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
5	トレーニング理論と方法論 筋力トレーニングの方法	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
6	トレーニング計画とその実際 トレーニング目標の設定	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
7	トレーニング計画とその実際 トレーニング・プログラムの設計	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
8	トレーニング計画とその実際 トレーニング計画と疲労およびその回復	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
9	トレーニング計画とその実際 トレーニング環境の整備と効果的遂行の条件	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
10	体力テストとその活用 体力テストの位置づけについて	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
11	体力テストとその活用 形態および身体組成の測定と評価について	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
12	体力テストとその活用 筋力・筋パワーの測定と評価について	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
13	スキルの獲得とその獲得過程 スキルとは	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
14	スキルの獲得とその獲得過程 スキル獲得の過程	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
15	スキルの獲得とその獲得過程 スキル獲得にかかわる要因	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
16	テスト及び解説 60分の試験終了後、残り30分で解説	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科 2年		
開講時期	2Q		授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 (科目ナンバリング: MAN422008, MAN522013)					
授業担当者(所属・職名)	山崎 誠(経営学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 山崎 誠)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	20年近く中小企業の事業再生コンサルティング手掛けしている経験を踏まえ具体的実践的な講義を行う。			

概要

履修目標
現代の経営において情報管理の重要性は年ごとに増している。なぜそのような状況になったのか、「テクノロジーの進歩」(情報機材の発達と普及)、「情報リテラシー」(情報の受け手としての経営者、や補助者が持つべき情報分析力)、「情報リスク」(情報の取り扱いに関する規制、情報がきちんと伝わらないことによる企業経営リスク)に授業内容を関連させ講義を行うことで情報管理の重要性を履修する。情報化が進んだことで経済が発展し、経済が発展することで情報化が進むという相関関係を事例を交えて考察する。授業は「半導体とは」「GAFAとは」「柔軟なサービス提供/クラウド化」など項目ごとにとまとめる。これらの考察を通じ自身がこの世界でどのように情報と接していくかを常に考える内容とする。

授業の位置づけ
正確な情報の把握を早期に行うことが経営における意思決定の重要な前提となる。企業の内部でどのような情報収集と分析を行うべきか、そのために企業はどのような準備をしそれに対応する組織づくりをすべきか、企業を成長させ継続させるために情報をどう利用すべきかを学習することは本学のディプロマ・ポリシーの「2.」および経営学科の学習目標の(1)、「2」に資する。また「履修すべき科目と単位の(2)」に該当する。

到達目標
現代の経営において経営情報システムは不可欠のものである。なぜ不可欠なものとなったのか、現状は情報がどのように意思決定に利用されているかという大きな流れを背景に、経営情報システムの基本要素とそれぞれの概要を理解することを一応の理解の目標とする。また、大局的には経営の意思決定に経営情報をどのように活かすべきか、また身近なところでは自身の周囲に大量に流通する情報をどのように取捨選択し自身のキャリアに活かすべきかについて自分なりの見識を持つことを最終的な到達目標とする。最初3回の授業は「現代資本主義の成り立ち」「日本経済の現況」「中国の現況」を学び、経営情報論講義を理解する基礎とする。

授業全体の内容と概要
経営情報システムとは何かを講義する。意思決定、コンピュータシステム、データベースシステム、情報ネットワーク、情報セキュリティ、情報倫理などの経営情報論の基本項目は現在につながるものみの解説にとどめる。ビッグデータ、GAFA、AI、半導体などホットトピックの説明を行い、最新の情報通信技術の状況を把握する。経営の意思決定に情報がどう影響するか、また意思決定の場に当事者としてどのようにかわるべきか、AIの発達により働き方がどう変わっていくかも考察する。

授業の方法
シラバスの授業予定に沿い、主にPowerPointを使用し図表、画像、動画などを適し各項目の理解を深める。毎週の授業では授業に関するまとめを提出する。これをもって出席とみなす。「まとめ」に独自の所見や分析があるものは上限30点を加算する。これに加え、定期試験の評価70点を加えて合計100点満点で評価する。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
出席者は、教科書、過去の配布資料、授業ノート、筆記用具を持参して授業に臨むこと。「まとめ」を指示に従って適切に記入し提出することで出席とみなす。受講態度については、授業中の居眠り、私語、および授業中のスマホ等の操作を厳禁とし、再度の注意をしたときには退室させ欠席扱いとする。授業中に高い見識に基づいた意見発表や質問をした場合には授業一回につき1点を上限に加算する。全体の評価が100点を超えるときには切り捨てる。

資格指定科目
該当なし。

評価方法・基準

評価前提条件												
10回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>%</td> <td>30%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	%	30%	%	%	%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	%	30%	%	%	%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能(教科書や配布した資料を基に定期試験に出題する。試験問題に「知識・技能」と表示する)</td> <td>定期試験の知識、技能を問う分野で8割以上の得点をあげた。</td> <td>定期試験の知識、技能を問う分野で7割以上の得点をあげた。</td> <td>定期試験の知識、技能を問う分野で6割以上の得点をあげた。</td> <td>定期試験の知識、技能を問う分野で5割以上の得点をあげた。</td> <td>定期試験の知識、技能を問う分野で得点が5割を下回った。</td> </tr> <tr> <td>思考力、判断力、表現力(定期試験にこれらの力を測る問題を出題する。試験問題に「思考・判断・表現」と表示する)</td> <td>右の記述を高いレベルで表現している。</td> <td>与えられたテーマについて学習した知識と自身の経験などを組み合わせ多面的に思考し、根拠を明らかにしながら論理的に意見をまとめている。</td> <td>与えられたテーマについて思考し、根拠を明らかにしながら論理的に意見をまとめている。</td> <td>与えられたテーマについて思考し、自身の意見をまとめているが根拠の示し方、論理展開に難がある。</td> <td>与えられたテーマについて思考し、自身の意見をまとめているが根拠の示し方、論理展開に欠けている。</td> </tr> <tr> <td>主体性を持って協働し学ぶ態度</td> <td>授業の事前事後の学習を十分に行っており、授業中の質問、発言のレベルが高くなり、この授業の目的を深く理解していることがわかる。</td> <td>授業の事前事後の学習が十分で授業中の課題に取り組み、板書をノートをきちんと組んでいる。理解を深めようとする姿勢を持ち授業を真剣に聞いている。</td> <td>授業の事前事後の学習は十分だが授業中の課題や板書のノートに前向きに取り組んでいる。理解を深めようとする姿勢があり授業を真剣に聞いている。</td> <td>授業の事前事後の学習は十分で授業中の課題や板書をこなしのが精一杯である。</td> <td>左のレベルを下回り、授業の内容を理解しているとは言えない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能(教科書や配布した資料を基に定期試験に出題する。試験問題に「知識・技能」と表示する)	定期試験の知識、技能を問う分野で8割以上の得点をあげた。	定期試験の知識、技能を問う分野で7割以上の得点をあげた。	定期試験の知識、技能を問う分野で6割以上の得点をあげた。	定期試験の知識、技能を問う分野で5割以上の得点をあげた。	定期試験の知識、技能を問う分野で得点が5割を下回った。	思考力、判断力、表現力(定期試験にこれらの力を測る問題を出題する。試験問題に「思考・判断・表現」と表示する)	右の記述を高いレベルで表現している。	与えられたテーマについて学習した知識と自身の経験などを組み合わせ多面的に思考し、根拠を明らかにしながら論理的に意見をまとめている。	与えられたテーマについて思考し、根拠を明らかにしながら論理的に意見をまとめている。	与えられたテーマについて思考し、自身の意見をまとめているが根拠の示し方、論理展開に難がある。	与えられたテーマについて思考し、自身の意見をまとめているが根拠の示し方、論理展開に欠けている。	主体性を持って協働し学ぶ態度	授業の事前事後の学習を十分に行っており、授業中の質問、発言のレベルが高くなり、この授業の目的を深く理解していることがわかる。	授業の事前事後の学習が十分で授業中の課題に取り組み、板書をノートをきちんと組んでいる。理解を深めようとする姿勢を持ち授業を真剣に聞いている。	授業の事前事後の学習は十分だが授業中の課題や板書のノートに前向きに取り組んでいる。理解を深めようとする姿勢があり授業を真剣に聞いている。	授業の事前事後の学習は十分で授業中の課題や板書をこなしのが精一杯である。	左のレベルを下回り、授業の内容を理解しているとは言えない。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能(教科書や配布した資料を基に定期試験に出題する。試験問題に「知識・技能」と表示する)	定期試験の知識、技能を問う分野で8割以上の得点をあげた。	定期試験の知識、技能を問う分野で7割以上の得点をあげた。	定期試験の知識、技能を問う分野で6割以上の得点をあげた。	定期試験の知識、技能を問う分野で5割以上の得点をあげた。	定期試験の知識、技能を問う分野で得点が5割を下回った。																								
思考力、判断力、表現力(定期試験にこれらの力を測る問題を出題する。試験問題に「思考・判断・表現」と表示する)	右の記述を高いレベルで表現している。	与えられたテーマについて学習した知識と自身の経験などを組み合わせ多面的に思考し、根拠を明らかにしながら論理的に意見をまとめている。	与えられたテーマについて思考し、根拠を明らかにしながら論理的に意見をまとめている。	与えられたテーマについて思考し、自身の意見をまとめているが根拠の示し方、論理展開に難がある。	与えられたテーマについて思考し、自身の意見をまとめているが根拠の示し方、論理展開に欠けている。																								
主体性を持って協働し学ぶ態度	授業の事前事後の学習を十分に行っており、授業中の質問、発言のレベルが高くなり、この授業の目的を深く理解していることがわかる。	授業の事前事後の学習が十分で授業中の課題に取り組み、板書をノートをきちんと組んでいる。理解を深めようとする姿勢を持ち授業を真剣に聞いている。	授業の事前事後の学習は十分だが授業中の課題や板書のノートに前向きに取り組んでいる。理解を深めようとする姿勢があり授業を真剣に聞いている。	授業の事前事後の学習は十分で授業中の課題や板書をこなしのが精一杯である。	左のレベルを下回り、授業の内容を理解しているとは言えない。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『みずほ銀行システム統合、苦闘の19年史』</td> <td>日経コンピュータ</td> <td>日経BP</td> <td>2020</td> <td>9784296105359</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『経営情報論 新版補訂』</td> <td>遠山 暁</td> <td>有斐閣</td> <td>2015</td> <td>9784641220577</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『みずほ銀行システム統合、苦闘の19年史』	日経コンピュータ	日経BP	2020	9784296105359		2	『経営情報論 新版補訂』	遠山 暁	有斐閣	2015	9784641220577		3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『みずほ銀行システム統合、苦闘の19年史』	日経コンピュータ	日経BP	2020	9784296105359																																					
2	『経営情報論 新版補訂』	遠山 暁	有斐閣	2015	9784641220577																																					
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科 2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 (科目ナンバリング: MAN422008, MAN522013)				
授業担当者(所属・職名)	山崎 誠 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 山崎 誠)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	20年近く中小企業の事業再生コンサルティング手掛けている経験を踏まえ具体的実践的な講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	「現代資本主義の成り立ち、資本形成と経済成長、産業革命、双録制度、格差社会、アフリと人口減、世界は運動している。ESG、SDG、sなど」	ノートの準備など20分	復習とまとめ作成(45分)
2	「日本の近代経済史/世界初が続く半世紀、公害問題、交通事故、人口減、世界に類を見ない中小企業政策、人口減(日本、北海道)、コロナ前と後、な」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成(45分)
3	「日本と中国/中国とは何か/アリババとは/アリババの上場中止問題/中国政府の経済規制/中国に依存する世界経済(旅客機製造など)/中国の力は」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成(45分)
4	「情報化とは/経営情報論とは何か、情報とは/モノから情報へ/ターニングポイント1995年/情報は安く、早く、大量処理へ/情報化で広がる・中」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成(45分)
5	「開発手法の変遷/ウォーターフォール型/SDLC法/SOC法/みずほ銀行MINORシステムの開発/IT/パブルとは/DXとは」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成(45分)
6	「半導体とAI/半導体製造にかかわる会社はさまざま/産業のコメ半導体/ムーアの法則/AIはどこまで来たか/チェス、将棋では人間を超越/人間の」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成(45分)
7	「コンピューターとは何か/コンピューター開発の歴史/スパコンの歴史/量子コンピューターとは/セキュリティ/情報セキュリティ/フェイクニュース」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成(45分)
8	「サプライチェーンマネジメントSCM/情報化を実務に反映した精密な仕組み/SCMは国境を超える/ネットビジネスの実情/ケーススタディ/レナウ」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成(45分)
9	「実録システム開発・みずほ銀行MINORシステム/CIOとは/組織構造/みずほはどのような組織を作りプロジェクトを完遂したか/みずほ悪夢のシス」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成(45分)
10	「柔軟なシステム提供/SaaSとは/キーワード「クラウド化」/小規模なアプリ提供から大規模なERP提供まで広がるクラウド化/Amazonはクラウド業者」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	授業全体の復習(45分)
11	「GAFAとは/Amazon、GAFAの概観/プラットフォームとは/アップルとEPIの紛争/仮想通貨/マウントゴックス事件/デジタル人民元・デジタル円は」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	授業全体の復習(45分)
12	「GAFAとは/Google/広告が変わる/日本の広告史/スパコンとGAFA/Googleと独禁法/ニュース使用料問題/アップルカー」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	授業全体の復習(45分)
13	「デジタル機材/古い産業補とITが威力を発揮する/農業/建設業/3D地図/RPA」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	授業全体の復習(45分)
14	「情報化が進んできたもの/〇〇を開発することでできた/情報化投資の効果は測れない/でも情報化投資はしなければならない/情報化が進ん」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	授業全体の復習(45分)
15	授業の総まとめ	ノートの準備、関連項目の予習など30分	授業全体の復習(45分)
16	定期テストと正答解説	まとめ内容の確認90分	授業全体の復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	原価計算論 (科目ナンバリング: ACC422010, ACC522015)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
製造業を対象として発展した原価計算は、現在サービス業も含めすべての企業を対象としている。伝統的な原価計算を学んだうえで、最新の原価計算の展開を学び、経営の意思決定力を養う。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
企業経営における適正なコスト把握を行う能力を有する。短期的な経営の意思決定能力を有する。

授業全体の内容と概要
テーマの説明を行い、練習問題を解きながら講義を進めていく。また時事問題についても解説を行い、学生から意見を発言してもらう。

授業の方法
毎回プリントを配布し、講義内容の原価計算における位置づけを説明し、本題に入る。毎回の課題について、学生によるプレゼンテーションを実施する。講義の最後にミニテストを毎回実施する。ミニテスト、試験などの解説のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。電卓を持参すること。ノートをしっかり取ること。毎回講義の最後に小テスト(2点満点×15回=30点)を行う。

資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
伝統的な原価計算を理解し活用できる	伝統的な原価計算とABC(活動基準原価計算)との相違を指摘できた。	個別原価計算と総合原価計算が適正に行えた。	間接費の配賦を理解し、正しい費用を算出できた。	直接費と間接費、そして原材料費、労務費、経費を正しく計算できた。	直接費と間接費を算定できなかった。
新しい原価計算を理解し活用できる	ABC(活動基準原価計算)を用いて事業変革を提案できた。	ABCを用いて業務改善提案ができた。	ABCを用いて無駄なコストを発見することができた。	ABCを用いたコスト計算ができた。	ABCを用いたコスト計算ができなかった。
原価計算を用いた短期的な経営意思決定能力を有する	埋没原価、ライフサイクルコストおよび失敗原価の概念を駆使して、短期的な経営の意思決定力を有していた。	CVP分析を用いて経営戦略を策定できた。	CVP分析を用いた損益分岐点、利益目標を算出できた。	原価計算を用いた短期的な経営の意思決定のための計算ができた。	原価計算を用いた短期的な経営の意思決定のための計算ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	原価計算論 (科目ナンバリング: ACC422010, ACC522015)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明など)、企業経営と原価計算の目的	シラバスを読んでおくこと(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
2	材料費(先入先出法・移動平均法)・労務費・経費の計算	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
3	個別原価計算	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
4	総合原価計算(平均法)	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
5	総合原価計算(先入先出法)	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
6	標準原価計算と原価差異	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
7	伝統的な原価計算とABC(活動基準原価計算)	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
8	ABCの適用事例	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
9	CVP分析の基本(固定費と変動費、損益分岐点)	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
10	CVP分析と利益計画	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
11	意思決定のための原価計算 機会原価の概念、販売先の選別	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
12	意思決定のための原価計算 特別注文受諾の可否、資産売却	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
13	投資の意思決定 キャッシュフロー	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
14	投資の意思決定 資本コスト	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
15	ライフサイクルコスト、バリューチェーン(予防原価失敗原価)、試験の説明	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
16	定期試験および解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	総復習(90分)	管理会計への取り組み(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	商法 (科目ナンバリング: LAW422006, LAW522011)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
企業を巡る法律関係を規定する商法および手形法・小切手法、その関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう、条文を理解し、適用・解釈できるようになる。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。

到達目標
企業を巡る法律関係を規定する商法および手形法・小切手法、その関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できるようになる。

授業全体の内容と概要
商法および手形法・小切手法、その関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。商法は、法律の全体像をつかむことに主眼し、企業法といわれる商法・会社法の基本的な説明を行い、具体的には、商法総則・商行為、手形法・小切手法などの分野を解説する。

授業の方法
授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料(第3回から第15回の計13回)を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。確認テストは、講義の理解を深めるために4回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(オンライン授業の場合は実施しない)実施する。課題は、講義の理解を深めるために1回(前年実績)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講は原則2回を限度として実施する(公欠などの学生に対しては、補講を出席することによって単位認定基準を満たす場合のみ実施する)。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・私語などの迷惑行為は厳禁。 ・講義中スマホの操作は厳禁。 ・マナーモードで受講してください。 ・六法を持参することを推奨。 ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後、プリント配布はしません。

資格指定科目
教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は、10回以上。課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	10%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べた	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた	法律の条文を読み取り、理解できた	法律の条文を読み取れた	法律の条文を読み取れなかった
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べた	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた	事例を理解し、法律の条文を適用できた	事例を理解し、法律の条文を理解できた	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えられた	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えられた	解答が一通り答えているが、改善すべき点があった	解答を部分的には答えているが、的確ではなかった	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ポケット六法 令和3年版』	佐伯 仁志、大村 敦志 / 編集代表	有斐閣	2020年	9784641009219	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	商法 (科目ナンバリング: LAW422006, LAW522011)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 商法の意義・目的・全体像	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	ガイダンス シラバスの説明 商法総則・商行為の概要	シラバスの確認、 商法総則・商行為についての調べ学習(90分)	復習(90分)
3	商人と商行為	商人と商行為についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
4	知的財産権と商号・商標 確認テスト1(前年実績)	知的財産権と商号・商標についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
5	商号・類似商号事例研究、名板貸し	類似商号・名板貸しについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
6	営業譲渡、商業帳簿 確認テスト2(前年実績)	営業譲渡と商業帳簿についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
7	代理商 確認テスト3(前年実績)	代理商についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
8	商業使用人 確認テスト4(前年実績)	商業使用人についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
9	商業登記	商業登記についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
10	商行為法、商行為の代理	商行為法・商行為の代理についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
11	契約の成立、債務の履行・債券担保 課題1(前年実績)	契約の成立・債務の履行・債券担保についての調べ学習(90分)	課題の作成 配布資料の復習(90分)
12	商人間の留置権	課題の作成 商人間の留置権についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
13	手形小切手法・有価証券(手形、小切手) 手形の要件、白地手形、債権譲渡	手形小切手法・有価証券(手形、小切手)・手形の要件、白地手形・債権譲渡についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
14	裏書、手形の抗弁・物的抗弁・人的抗弁 善意取得、人的抗弁の切斷	裏書・手形の抗弁・物的抗弁・人的抗弁・善意取得・人的抗弁の切斷についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
15	支払免費・満期前の支払い、手形行為独立の原則 まとめ、定期試験の説明	支払免費・満期前の支払い・手形行為独立の原則 第3回から第14回まで復習(90分)	配布資料の復習(90分) 試験範囲の確認により、第3回から第15回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説、採点方法の説明	試験範囲の確認、第3回から第15回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営戦略論 (科目ナンバリング: MAN423007, MAN523012)				
授業担当者(所属・職名)	伴 秀実(経営学科・特任教授)		研究室所在	1号館3階	
単位数	2	(単位認定責任者: 伴 秀実)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での経営戦略策定・実践業務の経験を活かして、経営戦略に関する理論及び実践事例を講義する。		

概要

履修目標
企業の経営戦略は取り巻く環境・経営資源等によって策定・選択される。実践的な経営戦略論を学ぶことにより、企業の環境・経営資源をふまえた経営戦略の策定・選択プロセスを理解し、企業や社会組織の中で活用できるようにする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「1(4)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
戦略の内容、策定・選択のプロセスを理解するとともに、戦略的フレームワークを活用する能力を身につけること。

授業全体の内容と概要
戦略の内容、策定・選択のプロセスの概要と、その中で用いられる具体的な理論、フレームワークの理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的な経営戦略を理解する。

授業の方法
パワーポイントによるプロジェクト投影と配布レジメによる講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
15分以上の遅刻・途中退回は欠席扱いとする。居眠り、携帯・スマートフォン利用は厳禁。

資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営戦略策定プロセスの理解	戦略策定プロセスを完全に理解し、事例に対して自らの革新的戦略プロセスを策定できた。	戦略策定プロセスを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	戦略策定プロセスを理解し、事例に対して戦略プロセスをあてはめることができた。	戦略策定プロセスを理解していた。	戦略策定プロセスを理解していなかった。
環境分析、全社戦略の理解	環境分析、全社戦略を完全に理解し、事例に対して自らの革新的経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を十分に理解し、事例に対して自らの経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を理解し、事例の経営戦略をあてはめることができた。	環境分析、全社戦略を理解していた。	環境分析、全社戦略を理解していなかった。
事業戦略、機能別戦略、戦略フレームの理解	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを完全に理解し、事例に対して自らの革新的戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解し、事例にあてはめることができた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営戦略論 (科目ナンバリング: MAN423007, MAN523012)				
授業担当者(所属・職名)	伴 秀実(経営学科・特任教授)		研究室所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伴 秀実)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 企業での経営戦略策定・実践業務の経験を活かして、経営戦略に関する理論及び実践事例を講義する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	イントロダクション・シラバスの説明(経営戦略とは何か)	シラバスを読んでおくこと。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
2	戦略的思考とは、経営戦略の基本	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
3	戦略策定プロセスの概要	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
4	環境分析	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
5	環境分析	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
6	全社戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
7	全社戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
8	事業戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
9	事業戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
10	機能別戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
11	機能別戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
12	戦略フレーム	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
13	戦略フレーム	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
14	新たな戦略の方向	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
15	総括レビュー	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	試験に向け全体を復習する。(90分)
16	定期試験及び解説(60分の試験終了後、解説を30分行う)	試験に向け全体を復習する。(90分)	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	財務会計論 (科目ナンバリング: ACC422011, ACC522016)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		

概要

履修目標	本講義は「簿記論」の応用として、学生が企業における会計の仕組みと原則を理解し、会計の重要性を認識することを目的としている。
------	---

授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。
---------	--

到達目標	本講義修了時の達成目標は、財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算)から企業の状況を読み取ることができる能力を身に付けることである。
------	---

授業全体の内容と概要	本講義は、財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)の仕組みを学びながら、実際に企業ではどのくらいのお金が動いているのかを実感してもらうことに重点を置く。毎回、各企業における実際の財務諸表を使い、受講生に作業をもらいながら演習形式で講義を進める。
------------	---

授業の方法	本講義は、パワーポイント及び配布資料で進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は、スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして、演習問題を実施・提出した学生を出席扱いとする。また、講義を進めるにあたり、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	本講義は、簿記の発展科目であることから、「簿記論」の単位を取得していない者は受講できない。
----------	---

資格指定科目	教職課程(商業)選択科目
--------	--------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。
財務諸表の理解	3つの財務諸表を使いこなすことができ、企業財務の現状を述べることができた。	3つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。	3つの財務諸表の違いを述べることができた。	3つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。
数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『財務会計・入門 企業活動を描き出す会計情報とその活用法(第12版補訂)』	桜井 久勝・須田 一幸	有斐閣	2019年	978-4641221345	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	財務会計論 (科目ナンバリング: ACC422011, ACC522016)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	「財務会計論」ガイダンス シラバスの説明(講義の概要、講義の進め方、評価方法など)	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
2	財務3表とは何か 家計簿 将来の人生設計	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
3	損益計算書 勘定科目について	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
4	損益計算書 損益計算書の「535」とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
5	損益計算書 演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
6	貸借対照表 資産とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
7	貸借対照表 負債とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
8	貸借対照表 純資産とは 演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
9	キャッシュフロー計算書 キャッシュフローとは 減価償却とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
10	キャッシュフロー計算書 営業キャッシュフロー	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
11	キャッシュフロー計算書 投資キャッシュフロー	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
12	キャッシュフロー計算書 財務キャッシュフロー	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
13	財務3表のつながり 演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
14	財務3表のつながり 演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
15	試験対策 演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けた対策をしておくこと。(90分)	定期試験後のフィードバックを受けて、財務会計論を総括する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (科目ナンバリング: ECS422018, ECS522022)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
複数の基本統計量とそれを組み合わせたデータの読みかたを理解することで、統計にだまされない能力を身につける。また、統計的有意性や推測統計の考え方を理解することで、統計分析の結果が意味することを理解する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
複数の基本統計量を組み合わせて、データの特性について述べることができる。 正規分布に従う分布について、統計的有意性を判断できる。 推測統計の考え方の枠組みがわかる。

授業全体の内容と概要
データの分析に必要な基本統計量や統計分析の基礎を学ぶ。具体的には、代表値などの基本統計量やヒストグラムによるデータの要約・整理、基本統計量を応用したデータ分析、推測統計学の考え方などについて学ぶ。

授業の方法
各回の計画にそって、板書による講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、現実データも使用しながら基本統計量や推測統計の考え方について解説をおこなう。演習では、実際にノートを使って統計量を計算したり・グラフを描いたりする。さらに、得られた計算結果やグラフに関する自分なりの解釈も検討する。また、理解の確認の意味もふくめて、解説と演習のあいまに受講生に対して随時質問をして意見をもとめながら授業をすすめる。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
基礎統計の演習では、統計量の計算や統計データにかんする意見をまとめるために、電卓やノートが必要である。平常点は、この演習への取り組みを評価するため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本統計量・グラフの理解	複数の基本統計量とグラフとを比較・組み合わせてデータを分析できた。	複数の基本統計量やグラフを求めて、データの性質を読みとれた。	ひとつの基本統計量もしくはグラフを求めて、データの性質を読みとれた。	データから基本統計量を求める・グラフを描くことができた。	基本統計量を求めることができなかった。グラフが描けなかった。
基礎的な統計学の考え方の理解	推測統計の考え方を理解し、かつ正規分布に従う簡単な分布の事例で統計的有意性の判断ができた。	推測統計の考え方を理解、または正規分布に従う分布の事例をもとに簡単な統計的有意性を判断できた。	統計的有意性の意味や推測統計の考え方を説明できた。	推測統計の基礎的な用語をある程度理解した。	推測統計の用語を理解できなかった。
統計学にかんする演習問題への取り組み	ほぼすべての演習問題に取り組み、適切な解答を書くことができた。	ほぼすべての演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	ある程度の演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	評価前提基準回数程度の演習問題に取り組めた。	演習問題に取り組みなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『完全独習 統計学入門』	小島 寛之	ダイヤモンド社	2006	4478820090	
2	『数学ガールの秘密ノート やさしい統計』	結城 浩	SBCクリエイティブ	2016	4797387122	
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (科目ナンバリング: ECS422018, ECS522022)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	この授業で学ぶこと ・統計とは ・授業計画(シラバス)の説明	統計とは何か調べる(90分)	統計とは何かとこの授業で学ぶことについてノートにまとめる(90分)
2	データを表す値: ・中央値と平均値 ・最頻値と平均値	代表値とは何か調べる(90分)	授業に出てきた代表値のまとめと演習問題(90分)
3	データの分布と代表値との関係: ・範囲(レンジ)と最大値・最小値 ・分布と代表値	範囲(レンジ)について調べる(90分)	範囲のまとめと演習問題(90分)
4	代表値とグラフ: ・代表値と分布の偏り	統計における分布とは何か調べる(90分)	代表値と分布の関係のまとめと演習問題(90分)
5	度数分布表によるデータの整理: ・度数分布表とヒストグラム	ヒストグラムとは何か調べる(90分)	度数分布表・ヒストグラムのまとめと演習問題(90分)
6	グラフによるデータの直感的理解: ・ヒストグラムと分布 ・範囲・四分位範囲と分布	四分位範囲とは何かを調べる(90分)	グラフと分布との関係のまとめと演習問題(90分)
7	データのバラツキを知る(1): ・範囲・四分位範囲とバラツキ ・バラツキの平均	範囲・四分位範囲とバラツキとの関係について調べる(90分)	範囲・四分位範囲とバラツキとの関係のまとめ(90分)
8	データのバラツキを知る(2): ・バラツキの代表値:標準偏差	標準偏差とは何か調べる(90分)	標準偏差の計算のまとめと演習問題(90分)
9	バラツキの比較とその意味: ・変動係数とは ・バラツキとビジネスのリスク	変動係数について調べる(90分)	変動係数とバラツキのリスクに関するまとめ、演習問題(90分)
10	バラツキの事例と演習 ・標準偏差とバラツキの問題 ・身長分布の特徴	身長分布の特徴について調べる(90分)	バラツキに関する演習問題(90分)
11	統計でもっとも重要な分布 ・正規分布の特徴 ・正規分布を描いてみる	正規分布について調べる(90分)	正規分布の演習問題(90分)
12	統計的有意性と正規分布: ・身長の平均・標準偏差と分布 ・標準偏差と統計的有意性	正規分布と統計的有意性の関係について調べる(90分)	標準偏差と統計的有意性のまとめと演習問題(90分)
13	推測統計学と標本調査: ・母集団と標本	推測統計とは何かについて調べる(90分)	推定の考え方のまとめ(90分)
14	推測統計と検定: ・仮説検定の考え方と例	仮説検定とは何かについて調べる(90分)	仮説検定の考え方のまとめ(90分)
15	推測統計と推定: ・推定の考え方と例	推定とは何かについて調べる(90分)	推定の考え方のまとめ(90分)
16	定期試験(60分)と試験の説明	各回の演習問題に再度とりくむ(90分)	試験にでた問題の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ミコ経済学 (科目ナンバリング: ECT422033, ECT522037)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																					
ミコ経済学の用語や考え方を学ぶことで、市場の基礎的なしくみ・意味を理解し、身近な経済のさまざまな事象を分析するための思考力を身につける。																					
授業の位置づけ																					
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標																					
基礎的なミコ経済学の用語を説明できる。 身近な経済事象をミコ経済学の視点から考察できる。 市場で決まる価格のしくみと意味がわかる。																					
授業全体の内容と概要																					
トレード・オフや機会費用などの経済学の考え方について、身近な事例をもとにした演習も行いながら学ぶ。また、余剰の計算や限界概念にかんする演習をつうじて、市場で価格が決まるしくみやその社会的な意味について理解する。																					
授業の方法																					
各回の計画にそって、板書やスライドによる講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、ミコ経済学の用語や基本的な考え方について事例をまじえて解説する。演習では、ミコ経済学に関連する計算問題やグラフの作成、例をあげた用語の説明などの問題に取り組む。また、理解の確認の意味もふくめて、解説と演習のあいまに受講生に対して随時質問をして意見をもとめながら授業をすすめる。																					
アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
演習への取り組みを評価するため、履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点は、この演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。																					
資格指定科目																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ミコ経済学の用語の理解	事例をあげてミコ経済学の用語を的確に説明できた。	事例をあげてミコ経済学の用語を説明できた。	ミコ経済学の用語を説明できた。	ミコ経済学の用語をある程度説明できた。	ミコ経済学の用語を説明できなかった。
ミコ経済理論の理解	ミコ経済学の図や式を利用して、市場の仕組みだけでなく、身近なミコ経済の事象を説明できた。	ミコ経済学の図や式を利用して、市場の仕組みもしくは身近なミコ経済の事象について明でできた。	ミコ経済理論の基礎的な図や式を正確に書き、計算できた。	ミコ経済理論の基礎的な図や式をある程度書くことができた。	ミコ経済学の理論を説明できなかった。
ミコ経済学の問題演習への取り組み	ほぼすべての演習問題に取り組み、適切な解答を書くことができた。	ほぼすべての演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	ある程度の演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	評価前提基準回数程度の演習問題に取り組めた。	演習問題に取り組みなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マンキュー入門経済学(第3版)』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ミ加経済学 (科目ナンバリング: ECT422033, ECT522037)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ミクロ経済学とは: ・ミクロ経済学とマクロ経済学(シラバス)の説明	ミクロ経済学という用語について調べる(90分)	ミクロ経済学とは何かについてノートにまとめる(90分)
2	希少な資源とトレードオフ: ・トレードオフとは ・資源の希少性と経済学の目的	用語「トレード・オフ」・「資源の希少性」について調べる(90分)	資源の希少性とトレード・オフの関係についてノートにまとめる(90分)
3	経済学的費用とは ・ある行動の経済学的費用とは ・機会費用の考え方	「機会費用」について調べる(90分)	経済学的費用の考え方についてノートにまとめる(90分)
4	機会費用とインセンティブ・効用: ・意思決定と意志力 ・インセンティブと効用	「インセンティブ」「効用」について調べる(90分)	経済学におけるインセンティブの考え方についてノートにまとめる(90分)
5	割引現在価値: ・現在価値と将来価値 ・割引現在価値の計算演習	「割引現在価値」について調べる(90分)	割引現在価値の考え方についてノートにまとめる(90分)
6	買手の行動について: ・意思決定と機会費用、コミットメント ・買手の意思決定について	「コミットメント」について調べる(90分)	買手の意思決定についてノートにまとめる(90分)
7	需要曲線と消費者余剰: ・商品に対する買手の評価と需要 ・消費者余剰とは	「消費者余剰」について調べる(90分)	買手の評価と需要の考え方についてノートにまとめる(90分)
8	需要の変化と需要曲線: ・需要曲線上の変化 ・需要曲線のシフト	「需要曲線」について調べる(90分)	需要の変化と需要曲線との関係についてノートにまとめる(90分)
9	財と財との関係: ・代替財とは ・補完財とは	「代替財」「補完財」について調べる(90分)	代替財と補完財について事例もまじえてノートにまとめる(90分)
10	需要の価格弾力性と価格差別: ・需要の価格弾力性とは ・価格弾力性と需要曲線	「需要の価格弾力性」について調べる(90分)	需要の価格弾力性と需要曲線との関係についてノートにまとめる(90分)
11	価格差別と買手の需要・売手の費用: ・価格差別とは ・価格差別と需要曲線	「価格差別」について調べる(90分)	価格差別と需要曲線との関係についてノートにまとめる(90分)
12	経済学における限界概念: ・限界効用とは ・限界費用とは	「限界効用」と「限界費用」について調べる(90分)	経済学の限界概念についてノートにまとめる(90分)
13	市場価格とは(1): 市場価格とその意味 ・需要曲線と買手の限界的な評価 ・供給曲線と売手の限界的な費用	「市場価格」について調べる(90分)	需要曲線・供給曲線の高さの意味についてノートにまとめる(90分)
14	市場価格とは(2): 市場均衡 ・均衡価格と買手の評価・売手の費用	経済学における均衡について調べる(90分)	市場均衡のしくみと市場価格の意味についてノートにまとめる(90分)
15	全体のまとめ	これまでの授業ノートを見直して疑問・質問をまとめる(90分)	不明な点を確認して授業ノートを完成させる(90分)
16	定期試験(60分)と試験の説明	各回の演習問題に再度とりくむ(90分)	試験で間違えた問題に再度とりくむ(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	マクロ経済学 (科目ナンバリング: ECT422032, ECT522036)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

マクロ経済学の用語や考え方を理解することで、マクロ経済学に関する問題が解け、マクロ経済のニュースが理解できる。

授業の位置づけ

経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

均衡国民所得の計算やグラフなどマクロ経済理論に関する基礎問題が解ける。
日本のマクロ経済の大きさ等をイメージできる
マクロ経済の動向に関するニュースが理解できる。

授業全体の内容と概要

三面等価や国民所得、通貨供給量などのマクロ経済の用語について学ぶ。また、財市場や金融市場の均衡など、マクロ経済市場にかんする基礎的な理論について演習をまじえて学ぶ。

授業の方法

各回の計画にそって、板書やスライドによる講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、ミクロ経済学の用語や基本的な考え方について事例をまじえて解説する。演習では、ミクロ経済学に関連する計算問題やグラフの作成、例をあげて用語を説明するなどの演習問題に取り組む。また、理解の確認の意味もふくめて、解説と演習のあいまに受講生に対して随時質問をして意見をもとめながら授業をすすめる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

演習への取り組みを評価するため、履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
マクロ経済の用語の理解	事例をあげてマクロ経済の用語を明確に説明できた。	事例をあげてマクロ経済の用語を説明できた。	マクロ経済の用語を説明できた。	マクロ経済の用語をある程度説明できた。	マクロ経済の用語を説明できなかった。
マクロ経済理論の理解	マクロ経済理論の基礎的な図や式の利用した応用問題をとき、その結果についてコメントできた。	マクロ経済理論の基礎的な図や式を利用した応用問題がとれた。	マクロ経済理論の基礎的な図や式を正確に書くことができた。	マクロ経済理論の基礎的な図や式をある程度書くことができた。	マクロ経済理論を説明できなかった。
マクロ経済学の問題演習への取り組み	ほぼすべての演習問題に取り組む、適切な解答を書くことができた。	ほぼすべての演習問題に取り組む、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。組み、友人と互いに解答を確認しあえる。	ある程度の演習問題に取り組む、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	評価前提基準回数程度の演習問題に取り組めた。	演習問題に取り組めなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マンキュー入門経済学(第3版)』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	マクロ経済学 (科目ナンバリング: ECT422032, ECT522036)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	マクロ経済学とは ・マクロ経済学とミクロ経済学 ・授業計画(シラバスの説明)	マクロ経済学とは何かについて調べる(90分)	マクロ経済学とは何かについてノートにまとめる(90分)
2	日本のマクロ経済について ・経済活動と国民経済計算 ・日本のマクロ経済の動向	国内総生産GDP・月例経済報告について調べる(90分)	国民経済計算とは何かについてノートにまとめる(90分)
3	マクロ経済学の基本要素 ・マクロ経済の3つの面 ・マクロ経済の3つの市場と経済主体	経済の3つの面と経済主体について調べる(90分)	マクロ経済学の基本要素についてノートに整理してまとめる(90分)
4	経済の三面とその関係 ・経済の3つの面と国民の所得 ・経済の3つの面の関係	三面等備について調べる(90分)	経済の3つの面の関係をノートに整理してまとめる(90分)
5	マクロ経済の需要と供給 ・マクロ経済学の記号と式 ・財市場における総需要と総供給の均衡	財市場の均衡について調べる(90分)	財市場の均衡についてノートにまとめる(90分)
6	国内総生産と国内総支出 ・演習: 国民経済計算 ・所得と消費の関係式	消費関数について調べる(90分)	国民経済計算の復習(ノート整理)と演習問題(90分)
7	均衡国民所得の計算 ・均衡国民所得の計算 ・演習: 均衡国民所得	均衡国民所得について調べる(90分)	均衡国民所得の計算方法のノート整理と演習問題(90分)
8	有効需要と財政政策 ・有効需要と不況 ・景気対策	有効需要と財政政策について調べる(90分)	財政政策にかんするノート整理と演習問題(90分)
9	均衡国民所得の図解 ・総供給と総需要の図 ・均衡国民所得の図解	45度線分析について調べる(90分)	均衡国民所得の図の描きかたをノートにまとめる(90分)
10	完全雇用と需給ギャップ ・日本の雇用状況 ・完全雇用と完全雇用国民所得	完全雇用について調べる(90分)	完全雇用国民所得の説明をノートにまとめる(90分)
11	需給ギャップと経済政策 ・需給ギャップの復習 ・演習: 需給ギャップ	需給ギャップの復習(90分)	需給ギャップにかんする演習問題(90分)
12	投資の決定について ・金利とは ・投資の決定の考え方	金利・期待収益について調べる(90分)	投資決定の考え方についてノートにまとめる(90分)
13	日本の金利と金融 ・金利の現状 ・通貨と日本銀行	日本銀行について調べる(90分)	通貨と日銀についてノートにまとめる(90分)
14	金融政策と通貨供給量、金利 ・金融政策とは ・日銀と金融政策	金融政策について調べる(90分)	日銀と金融政策についてノートにまとめる(90分)
15	マクロ経済政策のまとめ ・経済状況と経済政策	これまでの授業ノートを見直して疑問点をまとめる(90分)	不明な点を確認して授業ノートを完成させる(90分)
16	定期試験(60分)と試験の説明	各回の演習問題に再度とりくむ(90分)	試験で間違えた問題に再度とりくむ(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道経済論 (科目ナンバリング: ECP422034, ECP522038)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
本講義は、学生が日常のビジネスで使われている言語の概念を理解した上で、北海道経済の変遷と現段階における経済政策について事例を挙げて解説しながら、経済学的な視点から「物事を見る力」を養うことを目的としている。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
本講義終了時の達成目標は、日常使用されているビジネス用語を理解する。北海道経済における歴史的特徴を述べることができる。現段階における北海道の経済政策について何か一つ述べる事ができる。経済学的な視点から、これからの北海道について自分の言葉で展望を述べることができる。

授業全体の内容と概要
本講義は、初めて経済学を学ぶ学生であっても十分に理解できる内容とする。そのため、講義の前半で経済学の基本事項を学んだ後は、「食」「観光」「T P P」など、メディア等で良く耳にするキーワードから北海道経済の変遷と現状、そして、現段階の経済政策について概観する。

授業の方法
本講義は、パワーポイント及び配布物資料を進める。1枚のパワーポイントを掲示し、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。講義の最後には、本日のフィードバックとして、講義レポートを実施し、レポートを提出した学生を出席扱いとする。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
本講義ではノートの作成を義務付ける。筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」10%は講義ノートの評価とする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>90%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	90%	0%	0%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
90%	0%	0%	0%	0%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北海道経済に係るレポート・試験に対応した文章表現力</td> <td>講義で学んだ以上の内容を含み、論理性の優れた文章を書いていた。</td> <td>講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。</td> <td>講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。</td> <td>講義で学んだ内容が書かれていた。</td> <td>読み手に内容が伝わらなかった。</td> </tr> <tr> <td>北海道経済論で学んだビジネス用語の理解</td> <td>講義で学んだビジネス用語全ての意味と用法の両方を理解した上で、日常でも活用できた。</td> <td>講義で学んだビジネス用語全ての意味と用法の両方を理解していた。</td> <td>講義で学んだビジネス用語全ての意味を理解していた。</td> <td>最低限、講義で学んだビジネス用語1つの意味は理解していた。</td> <td>講義で学んだビジネス用語を全く理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>北海道経済の特徴について</td> <td>講義で学んだ考え方を活用して、自分の言葉で北海道経済の特徴について業種別に課題を述べることができた。</td> <td>講義で学んだ考え方を活用して、自分の言葉で北海道経済の特徴を3つ以上述べることができた。</td> <td>講義の内容から、北海道経済の特徴を3つ以上述べることができた。</td> <td>最低限、北海道経済の特徴を1つでも述べることができた。</td> <td>そもそも北海道経済の特徴を理解していなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	北海道経済に係るレポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ以上の内容を含み、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。	北海道経済論で学んだビジネス用語の理解	講義で学んだビジネス用語全ての意味と用法の両方を理解した上で、日常でも活用できた。	講義で学んだビジネス用語全ての意味と用法の両方を理解していた。	講義で学んだビジネス用語全ての意味を理解していた。	最低限、講義で学んだビジネス用語1つの意味は理解していた。	講義で学んだビジネス用語を全く理解していなかった。	北海道経済の特徴について	講義で学んだ考え方を活用して、自分の言葉で北海道経済の特徴について業種別に課題を述べることができた。	講義で学んだ考え方を活用して、自分の言葉で北海道経済の特徴を3つ以上述べることができた。	講義の内容から、北海道経済の特徴を3つ以上述べることができた。	最低限、北海道経済の特徴を1つでも述べることができた。	そもそも北海道経済の特徴を理解していなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
北海道経済に係るレポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ以上の内容を含み、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。																								
北海道経済論で学んだビジネス用語の理解	講義で学んだビジネス用語全ての意味と用法の両方を理解した上で、日常でも活用できた。	講義で学んだビジネス用語全ての意味と用法の両方を理解していた。	講義で学んだビジネス用語全ての意味を理解していた。	最低限、講義で学んだビジネス用語1つの意味は理解していた。	講義で学んだビジネス用語を全く理解していなかった。																								
北海道経済の特徴について	講義で学んだ考え方を活用して、自分の言葉で北海道経済の特徴について業種別に課題を述べることができた。	講義で学んだ考え方を活用して、自分の言葉で北海道経済の特徴を3つ以上述べることができた。	講義の内容から、北海道経済の特徴を3つ以上述べることができた。	最低限、北海道経済の特徴を1つでも述べることができた。	そもそも北海道経済の特徴を理解していなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『北海道の経済と開発』</td> <td>小林好宏</td> <td>北海道大学出版</td> <td>2010年</td> <td>978-4832967298</td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1	『北海道の経済と開発』	小林好宏	北海道大学出版	2010年	978-4832967298		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1	『北海道の経済と開発』	小林好宏	北海道大学出版	2010年	978-4832967298																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道経済論 (科目ナンバリング: ECP422034, ECP522038)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	「北海道経済論」ガイダンス シラバスの説明(講義の進め方, 評価方法など)	必ずシラバスを読んでから, 初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	北海道経済の概括 ビデオ鑑賞	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
3	北海道経済の概括 ビデオ鑑賞からキーワード	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
4	統計でみる北海道経済 統計とは, 様々な統計書について	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
5	統計でみる北海道経済 他府県との比較分析	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
6	食で盛り上げる北海道 付加価値とは	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
7	T P Pが北海道に与える影響 T P Pとは	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
8	北海道の観光産業 外部講師を招聘予定	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
9	北海道の産業力強化 中小企業の支援とは	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
10	北海道の環境ビジネス 新エネルギー, 雪の利活用	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
11	北海道固有の民族 アイヌ民族の歴史など	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
12	北海道の領土 北方領土について	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
13	道州制について考える 官僚制とは, 地方自治体の役割など	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
14	北海道経済への提言を考える ディスカッション	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
15	総括 試験対策	北海道経済に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けた準備をしておくこと。(90分)	定期試験のフィードバックを受けて, 北海道経済論を総括する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論（M）（科目ナンバリング：ECP123146, ECP422035, ECP522039）				
授業担当者（所属・職名）	小早川 俊哉（社会福祉学部・教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：小早川 俊哉）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

経済・国際経済の基礎となる理論を学び、日本経済・国際経済の動き（特に要因）を把握し、政治動向やその他の状況変化等を考慮することにより、将来の日本社会及び国際情勢を展望できるようにする。日本経済の他国への影響、他国経済の日本社会への影響を考えつつ、グローバル化した経済が我々の日々の生活に大きく関わっていることを理解できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP「1（2）と（3）」、「2（2）」に対応する。

到達目標

国際経済の修学基礎として、需要と供給、財政政策、金融政策を理解する。国際経済の中心となる代表的な貿易理論、外国為替理論を理解する。地域の経済統合に関するFTA・EPAの理解と共に、EUの経済統合の大切を理解する。

授業全体の内容と概要

グローバル化の進展と瞬時に変化する国際情勢を念頭に、講義前半は経済学の基礎・基本理論の理解を深めることに集中する。講義後半では、貿易、外国為替、国際経済システム、経済統合（EU・ユーロ圏）の課題を考察すると共に、時事問題を通して世界経済の課題と解決策を探っていく。

授業の方法

授業のポイントを記したレジュメ（プリント）を配布する。開始5～10分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は、配布済みレジュメに従い空き時間に重要事項をメモする形の講義形式をとるが、理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。復習を兼ねて、授業中のメモをテキストなどを参考にノートにまとめることを推奨する。中間試験（論述）を採点后返す際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の積極性は、授業終了時に名前を呼んでの出席確認を行うことで判定する。遅刻3回で欠席1回とみなす。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は、10回以上。積極的な授業参加（発言する、質問する、回答する、メモを取る、など）を平常点とする。論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	25%	25%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済政策の基礎	どの国の経済政策が、どの国に、日本経済に影響を及ぼすのか、その要因を説明することができた。	どの国の経済政策が国際経済、特に日本経済に影響を及ぼすのかを説明することができた。	主要国の財政政策および金融政策が国際経済に影響を及ぼすことを理解することができた。	財政政策、金融政策の主体と方法を理解することができた。	財政政策、金融政策の主体と方法を理解することができなかった。
貿易と外国為替	主要国の経済政策と貿易・外国為替との因果関係をその要因から説明することができた。	経済政策と貿易・外国為替との関係を説明することができた。	貿易と外国為替の因果関係を説明することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができなかった。
地域の経済統合	EUの経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	経済統合の深化として、通関統合のメリットとデメリットを説明することができた。	貿易を主とした経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論（M）（科目ナンバリング：ECP123146，ECP422035，ECP522039）				
授業担当者（所属・職名）	小早川 俊哉（社会福祉学部・教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：小早川 俊哉）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明を含む）と市場メカニズムについて	シラバスの読み込みと価格メカニズムを調べてくる（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
2	総需要と総供給（GDP, GNI, など）及び景気	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
3	経済活動と物価（インフレーションとデフレーション）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
4	財政政策（政府の役割を含む）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
5	金融政策（中央銀行の役割・機能をj含む）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
6	ポリシー・ミックス（財政政策と金融政策）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため直しを行う（90分）
7	経済学の基本的考え方についての復習と中間テスト（小試験）	中間試験の準備をする（90分）	自身の解答を振り返る（90分）
8	貿易理論（比較優位など）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	今回のノートをまとめるとともに自身の課題克服の方法を考える（90分）
9	外国為替理論（中央銀行のスタンスなど）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
10	貿易と外国為替（為替リスク，多国籍企業の行動）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
11	ブレトンウッズ体制（IMF，世界銀行，GATT，WTO，変動相場制など）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
12	経済統合（FTA，EPA，TPP，APEC，EU，ASEAN など概要）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
13	経済統合（統合の深化およびメリットとデメリット）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
14	欧州通貨統合とユーロの課題	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
15	まとめとして経済統合とポリシー・ミックス	ポリシー・ミックスを復習してくる（90分）	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後、試験のポイントを解説）	定期試験の準備をする90分）	試験の振り返り（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネスプランニング論 (科目ナンバリング: MAN424020, MAN524024)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)、石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北海道内各地の商工会にて、創業計画セミナーの開催や創業計画書の指導経験を活かし、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		

概要

履修目標	本講義は、学生が経営における専門知識を広範に活用して創業計画を作成することを目的としている。
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標	本講義は、事業計画の重要性を理解する。企業(経営者)がとるべき戦略について理解する。経営に関する専門用語についての意味や概念を理解する。以上の3つを理解した上で、創業計画書を作成することができることを到達目標としている。
授業全体の内容と概要	本講義は、創業計画書の作成を通して、事業コンセプト、企業理念、ビジョン、ビジネスモデル、ターゲット、市場の概念、マーケティングなど、事業計画の重要性と事業計画策定の肝を学ぶ。講義の後半は、創業計画の作成に傾注し、最終的には、ビジネスプランをプレゼンテーションしてもらい評価とする。

授業の方法	本講義の前半は、パワーポイント及び配布資料で講義を進める。1枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。講義の後半は、アクティブラーニングを活用し、講師とディスカッションしながら、創業計画を作成してもらい、最終的には、創業計画の内容をパワーポイントを使いプレゼンテーションする。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										

履修上の注意事項	本講義は、積極的に経営を学びたいという意欲ある学生の受講を期待する。
----------	------------------------------------

資格指定科目	教職課程(商業)選択科目
--------	--------------

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要となる最低出席回数は、13回以上。創業計画をプレゼンテーションした学生。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
創業計画書の作成に対応した文章表現力	創業計画書の各項目に対して、自分で調べた内容がわかりやすく書かれていた。	創業計画書の各項目に対して、自分で調べた内容が書かれていた。	創業計画書の各項目に対応する内容が書かれていた。	創業計画書の内容が最低限、読み手に伝わった。	創業計画書の内容が読み手に伝わらなかった。
創業計画書に対応したプレゼンテーション力	ビジネスプランの内容を聞き取りやすい言葉で相手に伝える発表ができた。	ビジネスプランの内容を聞き取りやすい言葉で発表することができた。	ビジネスプランの内容を時間内に発表することができた。	最低限、ビジネスプランの内容を発表することができた。	そもそも前日で発表ができなかった。
創業計画における総合的な実現性	オリジナリティがあり、戦略、財務計画までもが現実的な内容であった。	ある程度、オリジナリティのあるビジネスで市場性が高かった。	既存のビジネスに追随しつつも、差別化戦略が明確であった。	既存のビジネスに追随する内容であった。	創業計画書が完成していなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『MBAビジネスプラン』	グロービス経営大学院	ダイヤモンド社	2010年	978-4478014745	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネスプランニング論 (科目ナンバリング: MAN424020, MAN524024)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)、石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北海道内各地の商工会にて、創業計画セミナーの開催や創業計画書の指導経験を活かして、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明(講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など)	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	起業・創業とはどういうことか? ビジネスプラン・キャリアプランの意味	起業家と呼ばれる人材を事前に調べること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
3	創業・事業計画のから何がわかるのか? 何のために計画を策定するのか?	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
4	企業理念、ビジョンとは? 端的な言葉が人を動かす	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
5	市場と顧客の概念、ターゲットとは?	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
6	ビジネスモデルと業態 どんな儲け方をするのか?	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
7	マーケティングの基本的な考え方	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
8	マーケティング分析のフレームワーク(4P、3C分析など)	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
9	マーケティング分析のフレームワーク(SWOT分析、STP分析など)	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
10	プレゼンテーションの基本 伝えるではなく 伝えることの重要性	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
11	ビジネスプランの作成	自分の作成するビジネスプランを決めること。(90分)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)
12	ビジネスプランの作成とブラッシュアップ(個別対応)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)
13	ビジネスプランの作成とブラッシュアップ(個別対応)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)
14	ビジネスプランのプレゼンテーション(学籍番号前半)	プレゼンテーションの準備をする。(90分)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)
15	ビジネスプランのプレゼンテーション(学籍番号後半)	プレゼンテーションの準備をする。(90分)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)
16	ビジネスプランのプレゼンテーション(残り)、講評とフィードバック	プレゼンテーションの準備をする。(90分)	フィードバックを受けて自分のビジネスプランを見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論（M）（科目ナンバリング：POL123145，POL422054）				
授業担当者（所属・職名）	金子 敏也（社会福祉学科・特任准教授）	研究室所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：金子 敏也）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
速読法の取得する。テーマと論点を明記するレジメの作成能力の構築する。																								
授業の位置づけ																								
経営学科のDP「1（1）と（2）」、「2（3）」に対応する。																								
到達目標																								
正しい読書法を身に着ければ、知識は自然とついてくることを実感できる。講義を通して、国際政治の成り立ち、今後の行方を展望できるようになる。																								
授業全体の内容と概要																								
佐古丞著、『変容する国際政治』を使い、現在の国際政治の体系の成立の歴史的な推移を学びます。理解に必要なのは集中力と論点の整理がうまくできるか否かです。時間をかければよいというものではありません。効率よく学んでください。																								
授業の方法																								
講義の前半の60分弱を通常の講義にあて、残りの30分は各学生が講義内容について何が理解でき、何がわからなかったかを論述してもらいます。3週ないし4週に一度、書き出したメモ書きの提出を求めます。毎回出席して、メモ書きさえ出せば、単位習得可能な講義とします。わからなかったことについて黒板に書き出すことを求めます。それを前提として、事象について議論します。学生の数人に対して、次週の章について、テーマ、論点を整理したレジメの作成を求めます。質問は随時受け付け、フィードバックします。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。（最低出席数は10回とします。）講義の過程で、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の事由がない限り、不可とします。																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上。授業開始後20分以降の出席は受講回数から除外する（公共交通機関などの遅延の場合は例外とする）。テキストを購入しない学生は、無条件で不可とします。（ただし、各講義にその時間のコピーなどを持参したものは例外とします。）					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジメ作成を2時間以内にできた。	各章のレジメ作成3時間以内でできた。	レジメの作成の仕方が理解できた。	レジメの意義を理解できた。	レジメの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理が一応できた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点が理解できなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着けた。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識が習得できなかった。
自主性	発表回数多数回以上を達成した。	発表回数3回以上を達成した。	発表回数2回以上を達成した。	発表回数1回以上を達成した。	発表できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『変容する国際政治』	佐古 丞	見洋書房	2003年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論(M) (科目ナンバリング: POL123145, POL422054)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	シラバスの確認(90分)
2	並存した複数の国際体系	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
3	並存した複数の国際体系	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
4	ヨーロッパ国際体系の世界的拡大	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
5	ヨーロッパ国際体系の世界的拡大	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
6	ヨーロッパ国際体系の世界的拡大	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
7	第一次世界大戦と第二次世界大戦の衝撃	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
8	第一次世界大戦と第二次世界大戦の衝撃	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
9	第一次世界大戦と第二次世界大戦の衝撃	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
10	変革期としての現代	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
11	変革期としての現代	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
12	変革期としての現代	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
13	日本と世界	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
14	日本と世界	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
15	日本と世界	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
16	まとめ(レポートの解説、フィードバック)	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	観光体験実習（留学生（科目ナンバリング：TOS421045））				
授業担当者（所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）・信濃 吉彦（経営学科・教授）・鈴木 重政（経	研究室所在	1号館2階（由水） 2号館6階（信濃） 1号館3階（鈴木）		
単位数	1（単位認定責任者：由水 伸）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

<p>履修目標</p> <p>北海道の観光地をテーマに、実地調査を行い、経営学の目線から調査・分析し、国際的視点から振興策を考える。合わせて、コミュニケーション・プレゼンテーション・レポート作成の能力についても学ぶことを目的とする。</p>

<p>授業の位置づけ</p> <p>経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「1(4)」、「2(2)」に対応する。</p>
--

<p>到達目標</p> <p>北海道の観光地の実情、魅力、抱える問題がわかる。旅行業についての知見を広める。わかりやすく魅力的なプレゼンテーションができる。</p>

<p>授業全体の内容と概要</p> <p>アクティブラーニングとして位置づけ、北海道の観光資源を地域毎に調べ魅力特色や他の、問題点や課題を発見し、解決方法を探る。グループに分かれ研修旅行を企画・実施し、自分たちの目と耳、足を使って情報を収集する。集めた情報は整理・分析の後、レポートにまとめ、発表会を通じて意見交換を行う。</p>
--

<p>授業の方法</p> <p>旅行企画、旅行の実施、反省点の抽出、観光プランの修正版（完成）の流れで進める。（P D C A サイクル）3人以上のグループワークで行い、適時、担当教員の指示とアドバイスを受けながら進める。</p>
--

<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td>○</td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	

<p>履修上の注意事項</p> <p>自ら観光プランを立案し、企画した旅行を実際に体験することが重要な位置を占めるので、その旅行に参加することが単位認定の条件となる。（費用自己負担）企画した旅行を実施しなかった場合、または欠席した場合は単位認定しない。研修旅行期間中はアルバイトや他のイベントに参加できないので、スケジュール調整をしっかりと行うこと。</p>
--

<p>資格指定科目</p>

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <p>授業で企画した旅行に実際に参加すること。</p>																	
<p>評価方法</p> <table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </table>						定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	50%	0%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他												
0%	50%	0%	0%	50%	0%												

<p>ルーブリック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北海道の観光をテーマに課題を発見し、効果的な手法を活用して課題解決することができた。</td> <td>北海道の観光をテーマに、それを幅広く捉え、自ら課題を発見し、効果的な手法を活用して課題解決を行い、その結果を評価して次の課題を明確にできた。</td> <td>北海道の観光をテーマに、自ら課題を発見し、学習した手法を活用して課題解決を行い、その結果を評価することができた。</td> <td>北海道の観光をテーマに、課題を明確にし、学習した手法を活用して課題解決を行うことができた。</td> <td>北海道の観光をテーマに、課題を明確にし、課題を解決する行動をとることができた。</td> <td>北海道の観光をテーマに、課題を見いだすことが難しかった。</td> </tr> <tr> <td>観光を目的とする旅行プランの作成</td> <td>観光に必要な情報を十分集め、新しい発想で詳細な旅行計画を作成し、それに沿って自ら観光体験し、改善を加えて、実現可能な計画書を作成することができた。</td> <td>観光に必要な情報を集め、詳細な旅行計画を作成し、それに沿って自ら観光体験し、改善を加えて、実現可能な計画書を作成することができた。</td> <td>観光に必要な情報を集め、正確な旅行計画を作成し、それに沿って自ら観光体験し、改善を加えて、計画書を作成することができた。</td> <td>観光に必要な情報の収集が不足した状態で旅行計画を作成し、それに沿って自ら観光体験したが、準備不足が露呈し、大幅な改善を加えることで、計画書を作成できた。</td> <td>観光に必要な情報の収集、旅行計画の作成、自らの観光体験、最終的な旅行計画書の提出のいずれかが行われなかった。</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションの本質を理解し、多人数の前で効果的にプレゼンテーションができた。そこから、話し合いを進めることができた。</td> <td>多人数の前での聞き手のニーズに対応した説得力のあるプレゼンテーションができた。そこから、話し合いを進めることができた。</td> <td>多人数の前での聞き手のニーズに対応したプレゼンテーションができた。話し合いによって結論を導き出した。</td> <td>多人数の前で明瞭なプレゼンテーションができ、話し合いによって結論を導き出した。</td> <td>多人数の前でのプレゼンテーションができ、話し合いによって意見をまとめた。</td> <td>多人数の前でのプレゼンテーションができず、意見もまとめることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>グループ活動において相手の立場を理解して意見を交換し、必要に応じてリーダーシップを取るなど、適切に行動できた。</td> <td>多様な立場からの意見を理解して、考えを引き出す意見交換をし、グループ状況を把握し必要であればリスクをとめるなど、グループに貢献できる行動を取れた。</td> <td>多様な立場からの意見を理解して、考えを引き出す意見交換をし、グループ状況を把握しグループに貢献できる行動を取れた。</td> <td>相手の立場を理解して意見交換し、自らの責任を積極的に果たして、グループ活動に貢献できた。</td> <td>相手の立場を理解して意見交換し自らの責任を果たしてグループ活動に参加できた。</td> <td>相手の立場を理解した意見交換も、自らの責任を果たしたグループ活動もできなかった。</td> </tr> </tbody> </table>						評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	北海道の観光をテーマに課題を発見し、効果的な手法を活用して課題解決することができた。	北海道の観光をテーマに、それを幅広く捉え、自ら課題を発見し、効果的な手法を活用して課題解決を行い、その結果を評価して次の課題を明確にできた。	北海道の観光をテーマに、自ら課題を発見し、学習した手法を活用して課題解決を行い、その結果を評価することができた。	北海道の観光をテーマに、課題を明確にし、学習した手法を活用して課題解決を行うことができた。	北海道の観光をテーマに、課題を明確にし、課題を解決する行動をとることができた。	北海道の観光をテーマに、課題を見いだすことが難しかった。	観光を目的とする旅行プランの作成	観光に必要な情報を十分集め、新しい発想で詳細な旅行計画を作成し、それに沿って自ら観光体験し、改善を加えて、実現可能な計画書を作成することができた。	観光に必要な情報を集め、詳細な旅行計画を作成し、それに沿って自ら観光体験し、改善を加えて、実現可能な計画書を作成することができた。	観光に必要な情報を集め、正確な旅行計画を作成し、それに沿って自ら観光体験し、改善を加えて、計画書を作成することができた。	観光に必要な情報の収集が不足した状態で旅行計画を作成し、それに沿って自ら観光体験したが、準備不足が露呈し、大幅な改善を加えることで、計画書を作成できた。	観光に必要な情報の収集、旅行計画の作成、自らの観光体験、最終的な旅行計画書の提出のいずれかが行われなかった。	コミュニケーションの本質を理解し、多人数の前で効果的にプレゼンテーションができた。そこから、話し合いを進めることができた。	多人数の前での聞き手のニーズに対応した説得力のあるプレゼンテーションができた。そこから、話し合いを進めることができた。	多人数の前での聞き手のニーズに対応したプレゼンテーションができた。話し合いによって結論を導き出した。	多人数の前で明瞭なプレゼンテーションができ、話し合いによって結論を導き出した。	多人数の前でのプレゼンテーションができ、話し合いによって意見をまとめた。	多人数の前でのプレゼンテーションができず、意見もまとめることができなかった。	グループ活動において相手の立場を理解して意見を交換し、必要に応じてリーダーシップを取るなど、適切に行動できた。	多様な立場からの意見を理解して、考えを引き出す意見交換をし、グループ状況を把握し必要であればリスクをとめるなど、グループに貢献できる行動を取れた。	多様な立場からの意見を理解して、考えを引き出す意見交換をし、グループ状況を把握しグループに貢献できる行動を取れた。	相手の立場を理解して意見交換し、自らの責任を積極的に果たして、グループ活動に貢献できた。	相手の立場を理解して意見交換し自らの責任を果たしてグループ活動に参加できた。	相手の立場を理解した意見交換も、自らの責任を果たしたグループ活動もできなかった。
評価項目	評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																			
北海道の観光をテーマに課題を発見し、効果的な手法を活用して課題解決することができた。	北海道の観光をテーマに、それを幅広く捉え、自ら課題を発見し、効果的な手法を活用して課題解決を行い、その結果を評価して次の課題を明確にできた。	北海道の観光をテーマに、自ら課題を発見し、学習した手法を活用して課題解決を行い、その結果を評価することができた。	北海道の観光をテーマに、課題を明確にし、学習した手法を活用して課題解決を行うことができた。	北海道の観光をテーマに、課題を明確にし、課題を解決する行動をとることができた。	北海道の観光をテーマに、課題を見いだすことが難しかった。																																			
観光を目的とする旅行プランの作成	観光に必要な情報を十分集め、新しい発想で詳細な旅行計画を作成し、それに沿って自ら観光体験し、改善を加えて、実現可能な計画書を作成することができた。	観光に必要な情報を集め、詳細な旅行計画を作成し、それに沿って自ら観光体験し、改善を加えて、実現可能な計画書を作成することができた。	観光に必要な情報を集め、正確な旅行計画を作成し、それに沿って自ら観光体験し、改善を加えて、計画書を作成することができた。	観光に必要な情報の収集が不足した状態で旅行計画を作成し、それに沿って自ら観光体験したが、準備不足が露呈し、大幅な改善を加えることで、計画書を作成できた。	観光に必要な情報の収集、旅行計画の作成、自らの観光体験、最終的な旅行計画書の提出のいずれかが行われなかった。																																			
コミュニケーションの本質を理解し、多人数の前で効果的にプレゼンテーションができた。そこから、話し合いを進めることができた。	多人数の前での聞き手のニーズに対応した説得力のあるプレゼンテーションができた。そこから、話し合いを進めることができた。	多人数の前での聞き手のニーズに対応したプレゼンテーションができた。話し合いによって結論を導き出した。	多人数の前で明瞭なプレゼンテーションができ、話し合いによって結論を導き出した。	多人数の前でのプレゼンテーションができ、話し合いによって意見をまとめた。	多人数の前でのプレゼンテーションができず、意見もまとめることができなかった。																																			
グループ活動において相手の立場を理解して意見を交換し、必要に応じてリーダーシップを取るなど、適切に行動できた。	多様な立場からの意見を理解して、考えを引き出す意見交換をし、グループ状況を把握し必要であればリスクをとめるなど、グループに貢献できる行動を取れた。	多様な立場からの意見を理解して、考えを引き出す意見交換をし、グループ状況を把握しグループに貢献できる行動を取れた。	相手の立場を理解して意見交換し、自らの責任を積極的に果たして、グループ活動に貢献できた。	相手の立場を理解して意見交換し自らの責任を果たしてグループ活動に参加できた。	相手の立場を理解した意見交換も、自らの責任を果たしたグループ活動もできなかった。																																			

教科書・参考文献・資料等

<p>教科書</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>							No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																										
1																																																
2																																																
3																																																
4																																																
5																																																

<p>参考文献・資料等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>							No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																										
1																																																
2																																																
3																																																
4																																																
5																																																

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	観光体験実習（留学生）（科目ナンバリング：TOS421045）				
授業担当者（所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）・信濃 吉彦（経営学科・教授）・鈴木 重政（経		研究室所在	1号館2階（由水）2号館6階（信濃）1号館3階（鈴木）	
単位数	1（単位認定責任者：由水 伸）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 対象地域の選定、調査グループ分け シラバスの説明	シラバス確認と北海道の観光地を調べる。（45分）	授業で示された対象地域を詳しく調べる。（45分）
2	北海道と観光（講演）	資料を確認し読んでおくこと。（45分）	内容をふりかえり、まとめること。（45分）
3	調査地区の検討と旅程の決定（訪問先、決定理由、内容、移動方法、宿泊、イベント等）	調査準備を行うこと。（45分）	内容をふりかえり、整理すること。（45分）
4	調査地区の検討と旅程の決定（費用と時間のシミュレーション、予約、レジュメまたは旅のしおり作成）	調査準備を行うこと。（45分）	内容をふりかえり、整理すること。（45分）
5	観光実習 1日目 移動（往路）と情報収集	出張準備を行うこと。（45分）	収集情報を整理してまとめること。（45分）
6	目的地1の情報収集（訪問客の動向、商業・宿泊施設、案内所、写真撮影、文書収集、聞き取り他）	休憩時間中に調査準備を行うこと。（45分）	収集情報を整理してまとめること。（45分）
7	目的地2の情報収集（訪問客の動向、商業・宿泊施設、案内所、写真撮影、文書収集、聞き取り他）	休憩時間中に調査準備を行うこと。（45分）	収集情報を整理してまとめること。（45分）
8	宿泊施設と周辺の情報収集	休憩時間中に調査準備を行うこと。（45分）	収集情報を整理してまとめること。（45分）
9	ナイトイベントほかの実施	休憩時間中に調査準備を行うこと。（45分）	収集情報を整理してまとめること。（45分）
10	観光実習 2日目 情報収集と移動（帰路）	出張準備を行うこと。（45分）	収集情報を整理してまとめること。（45分）
11	目的地3の情報収集（訪問客の動向、商業・宿泊施設、案内所、写真撮影、文書収集、聞き取り他）	休憩時間中に調査準備を行うこと。（45分）	収集情報を整理してまとめること。（45分）
12	目的地4の情報収集（訪問客の動向、商業・宿泊施設、案内所、写真撮影、文書収集、聞き取り他）	休憩時間中に調査準備を行うこと。（45分）	収集情報を整理してまとめること。（45分）
13	情報分析とレポート作成	レポート作成のため資料を揃えて整理すること。（45分）	レポート作成の続きと見直しをすること。（45分）
14	レポート作成と発表資料作成（PowerPoint）	レポート内容を箇条書きしておくこと。（45分）	時間を計り発表練習を行うこと。（45分）
15	発表報告会	発表準備を行うこと。（45分）	発表会をふりかえり、まとめること。（45分）
16	発表報告会 意見交換 全てのプレゼンテーションの終了後に講評	発表準備を行うこと。（45分）	発表会をふりかえり、まとめること。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	まちづくり論 (科目ナンバリング：SOC423040)				
授業担当者(所属・職名)	松本 懿 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：松本 懿)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務(23年)や北海道地域づくりアドバイザー(34年)としての実務経験をもとに、まちづくりの考え方、あり方を説明します。		

概要

履修目標
「まちづくり」という言葉は広く使われているが、その意味・内容や成果についての受け止め方は一様ではない。本講では、住民自治をベースに地域経営をいかに展開・確立するかという観点から、改めてまちづくりの概念、今日的意義と課題、成功要因等を理解するとともに、自らの関わり方についても考究する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「1(4)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
「まちづくり」への知識や興味・関心が高まり、周りにある様々なまちづくり活動の特徴や成否に関する分析的視点・評価尺度が身につくとともに、今後、一住民として、あるいは自治体職員等として自ら積極的姿勢をもって企画、参画することができる。

授業全体の内容と概要
「まちづくり」とは、誰が、何を、どうすることなのか。また、成功とはどんな状態を指し、到達するための条件・ポイントは何か。さらに、リーダーやメンバーに求められる心構えや行動とは…。こうした疑問や問題意識を念頭に、道内外の実際例をていねいに分析・検討する中から、その答えを見出してゆく。

授業の方法
講義、グループワーク、レポート作成などを併用する。講義は、個別のまちづくりに関する経過資料やビデオを活用するなど事例を中心に進める。グループワークでは、まちづくり文献・データ等から、成功要因や学ぶべき事柄等を討議、発表し合う(5回程度)。レポート作成を数多く求めるが(7回程度)、グループワークやレポートへのコメントは、質問や要望事項に対する回答も含めて、次週にフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
私語厳禁。メモやノートをしっかりとる。遅刻の取り扱いは、授業開始時に説明。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	30%	10%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
まちづくりの意義・概念・成功条件への知識・理解	授業内容を超える知識・情報を積極的に勉強・収集し、理解度を高めている。	授業内容をほぼ全て理解している。	授業内容を概ね理解している。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容を理解できていない。
まちづくりへの関心・意欲および授業態度	事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問・発言するなど模範的な授業態度である。	事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなし、理解を深めるため真剣に聴いている。	授業中の課題や板書をこなし、理解を深めるため内容を真剣に聞いている。	授業中の課題や板書をこなし、理解を深めるため内容を真剣に聞いている。	授業中着席するものの課題や板書に取り組んでいない。
具体的な市町村等を対象に地域特性や課題を踏まえたまちづくりプランを構想・提言	問題意識が鮮明で、内容も具体的に富み、魅力に溢れている。	問題意識が鮮明で、内容も具体的、魅力的である。	問題意識が鮮明で、内容も具体的でわかりやすい。	内容に一定の具体性がある。	問題意識が不鮮明で、内容も具体性や魅力に欠けている。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	まちづくり論 (科目ナンバリング: SOC423040)				
授業担当者(所属・職名)	松本 懿 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 松本 懿)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務(23年)や北海道地域づくりアドバイザー(34年)としての実務経験をもとに、まちづくりの考え方、あり方を説明します。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス～シラバスを中心に説明(本講の目的・内容・意義・進め方・試験・評価方法、遅刻の取り扱い、受講上の留意点など)	シラバスによく目を通しておく(90分)	授業内容に関連した「作文」作成(90分)
2	まちづくりへのアプローチ(1)「まちをつくる」とは、様々な事例に学ぶ究極の意義・目的	事前配布「米百俵」を読んでおく(90分)	授業内容に関するノートを整理する(90分)
3	まちづくりへのアプローチ(2) まちづくりの構造～その主体、対象、目標、手法	事前配布「旭川買物公園」を読む(90分)	授業内容に関するノートを整理する(90分)
4	まちづくりへのアプローチ(3) 住民自治とまちづくり～樫の木の下での民主主義、補充原理、参加・協働	事前配布「長井市レインボープラン」を読んでおく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
5	まちづくりの事例研究(1) まちの美化・環境改善への挑戦<長野県飯田市>	事前配布「柳川の堤割」を読んでおく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
6	まちづくりの事例研究(2) 過疎を逆にとる<鹿児島県鹿屋市やねたん集落>	過疎地域の今日的状況・課題を考察しておく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
7	まちづくりの事例研究(3) 商店街の再生・活性化<東京都足立区東和銀座商店街及び愛知県岡崎市まちぞめ>	事前配布「東和銀座商店街」「岡崎まちぞめ」を読む(90分)	出身地の商店街の現状・課題を検討してみる(90分)
8	まちづくりの事例研究(4) 地域の産業をつくる<北海道士幌町、福井県鯖江市>	事前配布「士幌農協物語」「鯖江眼鏡産地」を読んでおく(90分)	代表的な地域産業の生成・発展過程を調べてみる(90分)
9	まちづくりの事例研究(5) 障がい者が働くコミュニティ・ビジネス<スワンペーカー>	事前配布「スワンペーカー」を読んでおく(90分)	障がい者が働きやすい地域社会や職場を考えてみる(90分)
10	まちづくりの事例研究(6) 高齢者の生きがい・働きがい創造<徳島県上勝町>	事前配布「上勝町の高齢者」を読んでおく(90分)	身近な高齢者に生きがいやまちのあり方を聞く(90分)
11	まちづくりの事例研究(7) イベント・観光地づくり<札幌市YOSAKOIソーラン祭り、長野県小布施町>	配付資料からレポート「YOSAKOIの特徴・成功要因」作成(90分)	授業内容に関するノートを整理する(90分)
12	ゲスト講話「自治体職員とまちづくり」<北広島市職員を予定>	事前配布「内子町の町並み保存」を読んでおく(90分)	ゲスト講話の内容に関するレポート作成(90分)
13	まとめ(1) 事例研究の総括とまちづくりステップ論	事前配布「日本理化学工業」「道はまなす食品」を読む(90分)	北広島市の特徴・課題を調べる(90分)
14	まとめ(2) 「北広島市のまちづくりへの提言」(仮題)<発表・質疑・コメント>	レポート「北広島市への提言」を作成しておく(90分)	他の学生の提言を再吟味・整理(90分)
15	まとめ(3) 改めて、まちづくりの意義・課題と要諦を考える	まちづくりの意義、若者の関わり方を整理する(90分)	定期試験の準備(90分)
16	「定期試験」(60分)及び解説(30分)	定期試験の準備(90分)	試験及び解説を受けて本講全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	体育史 (科目ナンバリング: SPS522056)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

近代体育・スポーツの特徴とその成立過程を学び、ヨーロッパの近代体育の成立・展開過程を踏まえて、日本の近代体育の成立・展開過程についての認識を深め、体育の特徴と相違点について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP「1(1)と(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

スポーツの意味と語源理解ができる。
 古代、中世期、近代現代において、それぞれの時代のスポーツの概念を理解ができる。
 近代スポーツの誕生と成立の背景、発展の過程を理解できる。
 日本におけるスポーツの意味を捉え方の変遷を理解できる。
 現代及びこれからのスポーツを歴史的な視点から捉えることができる。

授業全体の内容と概要

現在オリンピックなどで行われているルールの整備されたスポーツを近代スポーツといいますが、近代スポーツに限らず、体育・スポーツとは何かという点から出発し、古代、中世、近世、近代における体育・スポーツがどのようなものであったか、体育・スポーツの各時代における特色や要点を概説します。これまでスポーツがどのように捉えられ、行われてきたのか、そして体育がどのように制度として確立していったかという考察を通して、これからの体育・スポーツのあり方について概説する。

授業の方法

- ・授業は板書及び配布資料で実施し、資料にて説明する。
- ・パワーポイントで1人1回課題を発表する。
- ・課題回収後、解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・得意・不得意等あると思いますが、積極的に取り組むことを期待します。
- ・自分の健康は自分で管理し体調を整えて参加してください。
- ・20分以上の遅刻は欠席とみなします。3回で1回の欠席となります。

資格指定科目

教職課程(保健体育) 必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	50%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
体育およびスポーツに対する概念理解	体育・スポーツについての概念について深く理解できた。	体育・スポーツに対する概念についておおむね理解できた。	体育・スポーツに対する概念の基礎的な知識を理解できた。	体育・スポーツに対する概念の基礎的な知識を多少理解できた。	体育・スポーツに対する概念の基礎的な知識を理解できなかった。
オリンピックの歴史と定義	オリンピックの歴史についての知識を深く理解できた。	オリンピックの歴史についての知識をおおむね理解できた。	オリンピックの歴史についての知識を理解できた。	オリンピックの歴史についての知識が多少理解できた。	オリンピックの歴史についての知識を理解できなかった。
各種スポーツ競技の歴史	各種スポーツ競技の歴史について深く理解できた。	各種スポーツ競技の歴史についておおむね理解できた。	各種スポーツの歴史について基礎的な知識を理解できた。	各種スポーツの歴史について基礎的な知識を多少理解できた。	各種スポーツの歴史について基礎的な知識をりかすることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『「使用しない」』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『体育史講義』	岸野雄三	大修館書店	1984年	978-4-469-26101-1	
2	『体育・スポーツ史概論』	木村吉次	市村出版	2001年	978-4-902109-39-9	
3	『資料配布』					
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	体育史 (科目ナンバリング: SPS522056)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
2	体育・スポーツの歴史を学ぶ意義	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
3	競技の歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
4	競技の歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
5	競技の歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
6	競技の歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
7	競技の歴史発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
8	競技の歴史発表(小テスト)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
9	オリンピックの歴史の歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
10	オリンピックの歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
11	我が国における体育スポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
12	女性とスポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
13	スポーツとメディア	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
14	近世の体育・スポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
15	スポーツの背景(小テスト)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
16	まとめ	ノートに記載された内容を再度確認し、理解する。(90分)	解説の内容を確認する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	観光マネジメント論 (科目ナンバリング: TOS422042)				
授業担当者(所属・職名)	五ノ井 壽一(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 五ノ井 壽一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業における実務経験を有する教員がその経験を活かし観光マネジメントについて講義する。		

概要

履修目標	観光マネジメントの特性・重要性を理解し講師の経験を通して学ぶ。																								
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「3」,「2(2)」に対応する。																								
到達目標	観光産業の現状と課題を認識することで観光マネジメントの重要性を理解する。																								
授業全体の内容と概要	観光の概念と特徴を説明し、主な観光産業の歴史・特徴・現状等を紹介し観光学の基礎、観光ビジネスの基本知識を観光サービスの視点から解説していく。																								
授業の方法	授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。日々の授業において様々な質問や提案をすることで自分なりの意見をすくぬまとめて発表すること。問いかけに対する答えや各種フィードバックは、その都度行ったり、講義で全体的に行ったりする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	最低限の規則を守ること。教科書を持参し欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視します。																								
資格指定科目																									

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる出席回数は、11回以上。 出席率・授業参加度等の平常点、レポートの結果等を総合的に判断する。特に平常点を重視する。期限までにレポートの提出がなかったものは評価の対象としない。また、授業中のスマホ使用は厳にこれを慎むこと。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
観光産業の現状と課題の認識	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解し、自身の意見を持つことができた。	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解できた。	観光産業の現状と課題を認識できた。	観光産業の現状と課題の理解は十分ではないが、理解するために努めてはいいた。	観光産業の現状と課題が理解できておらず、理解する姿勢もみられなかった。
レポートについて(思考力・判断力・表現力)	極めて優れたレポートで到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥当と認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限は満たしていた。	合格と認められる最低限のレポートに達しておらず、到達目標を充足していなかった。
授業に対する積極性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分けるなど、授業に対する積極性が顕著にみられた。	積極的に授業に参加しており、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかえた。	積極性は乏しいものの、申し分なく授業に参加していた。	最低限授業には参加していた。	授業に参加していると言いつつも難い取り組みだった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『観光サービス論』	安田 亘宏	古今書院	2015		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	観光マネジメント論 (科目ナンバリング: TOS422042)				
授業担当者(所属・職名)	五ノ井 壽一(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 五ノ井 壽一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容。 旅行業における実務経験を有する教員がその経験を活かし観光マネジメントについて講義する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明・ガイダンス	シラバスを読んでおくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
2	観光と観光サービス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
3	観光の歴史	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
4	国内旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
5	海外旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
6	訪日外国人旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
7	観光行政	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
8	観光ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
9	旅行業ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
10	宿泊業ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
11	観光交通ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
12	観光施設ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
13	観光まちづくり	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
14	ニューツーリズム(1)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
15	ニューツーリズム(2)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと(90分)	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと(90分)
16	まとめ(レポート総評と解説)	講義を振り返り、質問事項等があれば整理しておくこと(90分)	講義全体をふりかえり、まとめておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ホテルマネジメント論 (科目ナンバリング: TOS422044)				
授業担当者(所属・職名)	五ノ井 壽一(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 五ノ井 壽一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業・ホテル業における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、日本国内外の観光地・ホテルについて講義をする。		

概要

履修目標	観光産業の中核を担うホテル産業の基本理念とホテルビジネスの仕組みやあり方を理解することを目的とする。																								
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「3」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	ホテル産業の基礎知識と日常行われている実務を体系的に理解する。																								
授業全体の内容と概要	日本国内外におけるホテル産業の基礎知識とホテルの発生から近代産業に至る発展過程を紹介し理解を深めていく。																								
授業の方法	授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。日々の授業において様々な質問や提案をすることで自分なりの意見をすくまとめて発表すること。問いかけに対する答えや各種フィードバックは、その都度行ったり、講義で全体的に行ったりする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	最低限の規則を守ること。教科書を必ず持参し、平常点を重視します。30分以上の遅刻は欠席とみなす。																								
資格指定科目																									

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる出席回数は、11回以上。平常点(出席率・授業態度)およびレポートの成果を総合的に判断する。特に平常点を重視します。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ホテル産業についての認識・理解	ホテル産業の基本理念を十分認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を体系的に理解できた。	ホテル産業の基本理念を認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を概ね理解できた。	ホテル産業の基本理念を認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を部分的に理解できた。	ホテル産業について理解するには至っていないが、ある程度認識することはできた。	ホテル産業について認識することができなかった。
レポートについて	極めて優れたレポートと到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥協を認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を達成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限を満たした。	合格を認められる最低限のレポートに達しておらず到達目標を充足しなかった。
受講態度・その他	質疑応答などの確であり、極めて真面目に受講した。	ノート試験など、真面目に受講した。	妥当と思われる受講態度を showed。	妥当と思われる最低限の受講態度を満たした。	妥当な受講態度が見受けられず、遅刻・欠席も多かった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ホテル・ビジネス・ブック』	仲谷秀一・テイラー雅子・中村永信	中央経済社	2016		
2						
3						
4						
5						
参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ホテルマネジメント論 (科目ナンバリング: TOS422044)				
授業担当者(所属・職名)	五ノ井 壽一(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 五ノ井 壽一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業・ホテル業における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、日本国内外の観光地・ホテルについて講義をする。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
2	ホテルの語源及び特色	ホテルについて情報を収集しておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
3	ホテルの誕生と発展	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
4	ヨーロッパ・アメリカにおけるホテルの歴史	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
5	日本におけるホテルの歴史	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
6	ホテルの分類(ヨーロッパ・アメリカ・日本)	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
7	ホテルの経営形態	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
8	ホテルの収益構造	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
9	ホテルの情報システム	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
10	ホテルの組織と総支配人の役割	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
11	宿泊部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
12	料飲部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
13	セールス&マーケティング部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
14	管理部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
15	人事システムとキャリアデザイン	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
16	まとめ(レポート総評と解説)	講義を振り返り執事応答があれば整理しておくこと(90分)	総評・解説を受けて講義全体を振り返ること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	会社法 (科目ナンバリング: LAW422023, LAW522027)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(1)」に対応する。

到達目標
会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要
会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。会社法は、前期開講された商法をもとに、会社に関する法規制を中心に講義を行う。具体的には、会社法分野を解説する。

授業の方法
授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料(第3回から第14回の計12回)を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。確認テストは、講義の理解を深めるために4回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(オンライン授業の場合は実施しない)実施する。課題は、講義の理解を深めるために2回(前年実績)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講は原則2回を限度として実施する(公欠などの学生に対しては、補講を出席することによって単位認定基準を満たす場合のみ実施する)。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・私語などの迷惑行為は厳禁。 ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。 ・六法を持参することを推奨。 ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後、プリント配布はしません。

資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	20%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	20%	0%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法律の条文を読み取り、理解できる</td> <td>法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる</td> <td>法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できる</td> <td>法律の条文を読み取り、理解できる</td> <td>法律の条文を読み取れる</td> <td>法律の条文を読み取れない</td> </tr> <tr> <td>事例を理解し、法律の条文を適用できる</td> <td>事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる</td> <td>事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる</td> <td>事例を理解し、法律の条文を適用できる</td> <td>事例を理解し、法律の条文を理解できる</td> <td>事例を読み取れず、法律の条文を理解できない</td> </tr> <tr> <td>課題に対し、問題解決ができる</td> <td>解答が的確で、過不足なく網羅して答えている</td> <td>一部に解答と関係ないことを答えている、解答は答えている</td> <td>改善すべき点があるが、解答が一通り答えている</td> <td>的確ではないが、解答を部分的には答えている</td> <td>解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できる	法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取れる	法律の条文を読み取れない	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない	課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	一部に解答と関係ないことを答えている、解答は答えている	改善すべき点があるが、解答が一通り答えている	的確ではないが、解答を部分的には答えている	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できる	法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取れる	法律の条文を読み取れない																								
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない																								
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	一部に解答と関係ないことを答えている、解答は答えている	改善すべき点があるが、解答が一通り答えている	的確ではないが、解答を部分的には答えている	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『ポケット六法 令和3年版』</td> <td>佐伯 仁志, 大村 敦志 / 編集代表</td> <td>有斐閣</td> <td>2020年</td> <td>9784641009219</td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『ポケット六法 令和3年版』	佐伯 仁志, 大村 敦志 / 編集代表	有斐閣	2020年	9784641009219		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『ポケット六法 令和3年版』	佐伯 仁志, 大村 敦志 / 編集代表	有斐閣	2020年	9784641009219																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	会社法 (科目ナンバリング: LAW422023, LAW522027)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ガイダンス 会社法総論 - 会社法とは	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	シラバスの説明 ガイダンス 株式会社とは	シラバスの確認。株式会社についての調べ学習(90分)	復習(90分)
3	会社法の概要 株式会社自由譲渡の原則・株主有限責任の原則・株主平等の原則	会社法と株式会社についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
4	株式会社の機関設計(1)	持分会社と株式会社についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
5	株式会社の機関設計(2)大会社で公開会社のCASE	監査役会設置会社、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
6	株式会社の機関設計(3)大会社で公開会社のCASE しっかり条文を読んでみよう 確認テスト2(前年実績)	監査役会設置会社、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
7	株式会社の機関設計(4)大会社で株式譲渡制限会社 株式会社の経営体制・資格と役割(1)会計監査人	大会社で株式譲渡制限会社・会計監査人、内部統制システムについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
8	株式会社の機関設計(5)大会社で株式譲渡制限会社 株式会社の経営体制・資格と役割(2)会計監査人	会計監査人・内部統制システムについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
9	株式会社の経営体制・資格と役割(3)株主総会	株主総会についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)。特に株主総会決議に瑕疵がある場合についての調べ学習
10	株式会社の経営体制・資格と役割(4)株主総会 株式会社の経営体制・責任(1)役員 確認テスト3(前年実績)	株主総会・取締役についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
11	株式会社の経営体制・責任(2)役員 課題1(前年実績)	役員についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、課題作成
12	株式会社の経営体制・責任(3)役取締役の責任 株式会社の経営体制・資格と役割(1)取締役会 確認テスト4(前年実績)	取締役の責任・取締役会についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
13	株式会社の経営体制・資格と役割(2)取締役会・代表取締役・表見代表取締役	取締役会・代表取締役・表見代表取締役についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
14	株式会社の経営体制・資格と役割(3)指名委員会等・監査等委員会・監査役・会計参与・会計監査人 課題2(前年実績)	指名委員会等・監査等委員会・監査役・会計参与・会計監査人についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、課題作成
15	まとめ 定期試験の説明	課題作成。第3回から第14回まで復習(90分)。	試験範囲の確認により、第3回から第14回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説、採点方法の説明	試験範囲の確認、第3回から第14回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	情報システム論 (科目ナンバリング: COS423050, COS522046)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		

概要

履修目標
情報システムの構築を行うには、コンピューター、ネットワーク、OSなど総合的な仕組みを理解していることが必要である。本講義では、PCほか情報機器を駆使して企業内で活躍できる人材の育成を目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
コンピューターシステムのハードウェアを理解し、オフィス内の情報システムの提案ができる。各種OSやアプリケーションソフトの特徴や用途を理解する。CompTIA認定資格 Strata IT Fundamentalsの合格水準。

授業全体の内容と概要
コンピューター本体や周辺機器などのハードウェアについての知識を得る。同時に、OSとアプリケーションソフトの役割を理解する。また、ネットワークと企業内業務についても学習し、コンピューターシステムの総合的な利用法を身につける。

授業の方法
授業はスライドとプリントを利用した講義形式で進行する。授業中、スマートフォンを利用したオンライン小テストまたはアンケートを行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
定期試験を受けて単位を得るには、11回以上の出席があることを条件とする。また、30分以上の遅刻は欠席とみなす。毎回の授業の冒頭でオンライン小テストを行う。PC、タブレットまたはスマートフォンを持っていくこと。(充電量確認)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は11回以上。講義で毎回行われるオンライン小テストの結果は中間テストとして評価する。オンライン小テストは出席確認を兼ねているので、遅刻などで受けなかった場合は欠席とみなす。S評定は原則として欠席1回以内の場合に限る。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	50%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コンピューターや情報技術の基本原則を踏まえて、ハードウェアとソフトウェア、ネットワークの関係を理解し、デジタル情報を活用できる。	コンピューターや情報技術、ハードウェアとソフトウェアについて詳細に熟知し、適切な組み合わせのもとで目的に適した情報システムを構築し、仕様書にまとめることができた。	コンピューターや情報技術、ハードウェアとソフトウェアについて詳細に熟知し、適切な組み合わせのもとで目的に適した情報システムを構築できた。	コンピューターや情報技術、ハードウェアとソフトウェアについて熟知し、目的に合わせた情報システムを構築できた。	コンピューターや情報技術、ハードウェアとソフトウェアの知識を持ち、簡単な情報システムを構築できた。	コンピューターや情報技術、ハードウェアとソフトウェアの知識が不十分で、情報システムの構築はできなかった。
代表的な基本ソフトウェア(OS)について知識を持ち、使用目的に応じて設定を変更できる。	Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性を熟知し、利用目的に応じた設定を行うことができた。	Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性を熟知し、利用目的に応じた設定ができた。	Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性を理解し、利用目的に応じた設定ができた。	Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性を理解し、目的の利用目的に合わせた設定ができた。	Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性の理解が不十分で、利用目的に合わせた設定もできなかった。
長期間にわたって、安定した性能で稼働するよう保守を行い、システムを維持できる。	情報機器の特性を熟知し、ハードウェア、ソフトウェア両面で、長期にわたって性能を維持できた。また、必要に応じて機能や性能を拡張することができた。	情報機器の特性を熟知し、ハードウェア、ソフトウェア両面で、長期にわたって性能を維持できた。	情報機器の特性を理解し、一定期間、ハードウェアの保守を行うことができた。	情報機器の特性を理解し、消耗品等の補充で、一定期間、動作を維持できた。	情報機器の特性に合わせた保守ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	情報システム論 (科目ナンバリング: COS423050, COS522046)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明 コンピューターの歴史、2進数、16進数	2進数、16進数の復習(90分)	コンピューターの歴史をノートにまとめる(90分)
2	コンピューターの概要 コンピューターの5つの構成要素と技術の進化	「コンピューターの5大装置」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
3	補助記憶装置とデータの保存	「電気と磁石」「レーザー光線」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
4	Webブラウザ	「NCSA Mosaic」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
5	CPUとメモリー	「Intel 4004から80486までの歴史」を調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
6	プリンター	「DTPとWYSIWYG」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
7	ディスプレイ	「液晶ディスプレイと有機ELディスプレイ」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
8	接続コネクタ	「HDMIとケーブル規格」について調べる(90分)	授業で紹介された新しい用語をノートに整理(90分)
9	入出力デバイス	「USB 3.1規格」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
10	Windowsとシステムツール Windows以外のOS(MacOS、Linux)	Windows10の「設定」の設定項目を確認しておく(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
11	Windowsのセキュリティ	「マルウェア」について調べる(90分)	授業で紹介された新しい用語をノートに整理(90分)
12	ネットワーク入門	「LAN」「WAN」「インターネット」を調べる(90分)	授業で紹介された新しい用語をノートに整理(90分)
13	ネットワークの規格	「ISO」「EIA」「TIA」「ANSI」「JIS」を調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
14	コンピューターのメンテナンスと運用	コンピューター部品の平均寿命について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
15	まとめ 講義で得た総合的な知識から情報システムを考える	課題プリント予習(90分)	課題の修正・完成(90分)
16	定期試験(60分)、振り返り(解答解説)	定期試験に備えて全講義内容を復習(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	マルチメディア表現(1年) (科目ナンバリング: MUD422052, MUD522048)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

概要

<p>履修目標</p> <p>情報通信技術に基づく、現代のマルチメディアコンテンツおよびその技術、技法について理解する。基本的なマルチメディアコンテンツの作成能力を身につけ、応用利用できることを目指す。マルチメディアが生活や社会に及ぼす影響についても理解し、経営学的視点からの利用価値について理解する。</p>																								
<p>授業の位置づけ</p> <p>経営学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」、「2(3)」に対応する。</p>																								
<p>到達目標</p> <p>情報通信技術をベースとしたマルチメディア技術について説明できる。マルチメディアの基本的な技法を組み合わせてコンテンツを作成できる。マルチメディアと市場、社会の現状と近未来を理解できる。</p>																								
<p>授業全体の内容と概要</p> <p>1年生ということでコンピューターの基礎知識の習得を終えていないので、冒頭、必要になるICTの基本知識を学ぶ。その後、マルチメディアを支える技術、技法、取り巻く環境を順を追って理解する。講義の合間に、実機による演習を行うことで体感的に理解することを可能としている。</p>																								
<p>授業の方法</p> <p>講義16回、演習5回で構成される。演習はPCを利用して行う。演習課題については良好な事例について発表、講評などを予定している。</p>																								
<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
<p>履修上の注意事項</p> <p>30分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。専門用語が多いため、自ら調べ、理解する姿勢が必要となる。</p>																								
<p>資格指定科目</p>																								

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <p>授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は定期試験と演習の評価を合わせて、総合的に判断し決定する。原則として5評価は全出席者に限る。</p>																	
<p>評価方法</p> <table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>						定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	40%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他												
60%	0%	40%	0%	0%	0%												

<p>ルーブリック</p>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科目に対する知識・技能の修得状況	知識・技能を得るために真摯な取り組みを見せ、修得が高度に行われていた。また、周囲の学生を支援していた。	知識・技能を得るために真摯な取り組みを見せ、修得が十分に行われた。	知識・技能を得るためにまじめな取り組みを見せ、修得が良好に行われた。	知識・技能を得るためにまじめな取り組みを見せ、修得が行われた。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
演習課題への取り組み状況と成果物	演習課題に積極的に取り組み、創意工夫を持って、魅力ある作品に仕上げる事ができた。	演習課題に積極的に取り組み、高い表現力のある作品を完成できた。	演習課題に真面目に取り組み、表現力のある作品を完成できた。	演習課題に真面目に取り組み、作品を完成できた。	演習課題に取り組む姿勢が不足し、作品は未完成であった。
主体的に学ぶ姿勢	周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んでいた。また、予習復習を効果的にを行い、学生として模範的であった。	授業中に積極的に質問し、与えられた課題をこなすための相談あり前向きな努力がうかがわれた。	授業中、質問に適切に答えたり、不明点を質問するなどの前向きな姿勢がうかがわれた。	積極性は少ないが、受講姿勢はまじめで、学ぼうとする姿勢がうかがわれた。	授業内容を身につけようと努力する姿勢が見られなかった。

教科書・参考文献・資料等

<p>教科書</p>						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

<p>参考文献・資料等</p>						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	マルチメディア表現(1年) (科目ナンバリング: MUD422052, MUD522048)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 総論 マルチメディアを取り巻く環境 市場ニーズ ハードウェア性能 インターネット	シラバスの確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	コンピューターに関する基礎知識 演算と制御装置(CPU) 記憶装置 入力機器 出力機器 画面表示の仕組み	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	数値と数字に関する基礎知識 整数型 浮動小数点型 2進数 10進数 16進数 メモリ使用量	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	テキストとフォントに関する基礎知識 プレーンテキスト リッチテキスト ハイパーテキスト 文字コード フォントの種類	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	テキスト表現 【演習】パワーポイントを使ったテキストによる表現	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	音声に関する基礎知識 アナログとデジタル 音声フォーマット サンプリングと量子化 圧縮音源 録音機材	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	音声編集 【演習】音声編集ソフトを使った波形の取り扱い	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	画像に関する基礎知識 ビットマップ画像 ベクター画像 色深度 ペジエ曲線 画像圧縮 画像ファイルと形式	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	画像編集 【演習】画像編集ソフトを使った図形の取り扱い	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	動画に関する基礎知識 アニメーション GIF 動画形式 動画圧縮 コーデック 撮影機材	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	動画編集 【演習】動画編集ソフトを使った映像の取り扱い	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	3Dに関する基礎知識 画像における3D技術 動画における3D技術 音声サラウンド	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	仮想現実に関する基礎知識 VR(仮想現実) AR(拡張現実) MR(複合現実) 応用利用	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	AIとマルチメディア Society 5.0 人間工学 マルチメディアと近未来 ゲームの世界	予習課題(45分)	総合課題の準備(45分)
15	総合的な演習 【演習】学んだ知識を活かした総合的なコンテンツを作成	総合課題の準備(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	定期試験(60分)、振り返り(解答解説)	定期試験に備えて全講義内容を復習(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目		対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	マルチメディア表現(2年) (科目ナンバリング: MUD422052, MUD522048)					
授業担当者(所属・職名)	近澤 潤(経営学科・専任講師)		研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 近澤 潤)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間企業での実務経験を活かし、実社会に即した各種コンテンツ制作について、実際の事例を交えて解説・教授する。			

概要

履修目標
マルチメディアの理論、文字・画像・音声・動画などの情報メディアに関する知識を習得し、それらを複合的に活用する表現法について、理解を深める。マルチメディアコンテンツの基礎知識・基本技術を習得する。情報化社会とマルチメディアの関係性について理解し、経営学的視点でマルチメディアの活用方法や情報発信の知識・技術を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」、「2(3)」に対応する。

到達目標
マルチメディアに関する基礎知識を習得する。文字・画像・音声・動画などの情報メディアを組み合わせ、簡単なマルチメディアコンテンツを制作できる。マルチメディアを経営学的視点で捉え、新しい活用方法や情報発信の方法について、着想を得ることができる。

授業全体の内容と概要
マルチメディアの理論・考え方について、身近なものや、実社会での事例を踏まえ解説する。習得した知識を運用する機会を設け、マルチメディアについて体感的に理解を深めることを目的とし、コンテンツ(ポスター・ストップモーションアニメーション・動画・Webサイト)の制作演習を行う。

授業の方法
基礎知識の解説の際は、教材(スライド資料)を画面に提示する。制作演習を行う際は、コンピュータや自分のスマートフォンを利用して、制作を行う(スマートフォンを所有していない場合は、教員が用意するので申し出ること)。複数回にわたり制作課題の提出を求め、各課題に対してフィードバックを行う。なお、提出された制作課題は可能な限り全体で共有し、履修者間の意見交換を図る。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
受講条件あり 本科目は、情報に関する基礎的な理論・技術の習得を前提とした内容であるため、「情報基礎演習」及び「情報基礎演習」の評価が、どちらも「B(良)」以上でなければ履修できないものとする(編入学等で履修していない場合は、申し出ること)。また、履修希望者は第1回授業(オリエンテーション)に必ず出席すること(無断欠席した場合は、履修を認めない)。
課題提出日に出席できない場合は、事前に受け付けるので申し出ること。「参考文献・資料等」に定めている書籍については、購入する必要はない。自分で所有するパソコンを、持ち込んで受講しても構わない。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要となる出席回数は、12回以上とする。30分以上の遅刻・早退は、欠席とみなす。5評価は、全授業回に出席した者に限る。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	40%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	40%	0%	0%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>マルチメディアの理論(基礎知識)</td> <td>マルチメディアの理論について、十分に理解した上で、他の理論や技術に結び付けて説明することができた。</td> <td>マルチメディアの理論について、80%以上理解することができた。</td> <td>マルチメディアの理論について、70%以上理解することができた。</td> <td>マルチメディアの理論について、60%以上理解することができた。</td> <td>マルチメディアの理論について、理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>マルチメディアコンテンツの制作技術</td> <td>提示された制作要件を十分に満たすコンテンツを制作でき、自ら考えた独創的なアイデアを基に、コンテンツを制作することができた。</td> <td>提示された制作要件を十分に満たしたコンテンツを制作することができた。</td> <td>提示された制作要件を概ね満たしたコンテンツを制作することができた。</td> <td>提示された制作要件を最低限満たしたコンテンツを制作することができた。</td> <td>提示された制作要件を満たしたコンテンツを制作することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>情報化社会とマルチメディア</td> <td>情報化社会とマルチメディアについて、十分に理解することができ、身の回りにおけるマルチメディアを見つけ、マルチメディアが創り出す未来を踏まえて、説明することができた。</td> <td>情報化社会とマルチメディアについて、80%以上理解することができ、身の回りにおけるマルチメディアを見つけ、説明することができた。</td> <td>情報化社会とマルチメディアについて、70%以上理解することができた。</td> <td>情報化社会とマルチメディアについて、60%以上理解することができた。</td> <td>情報化社会とマルチメディアについて、理解することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	マルチメディアの理論(基礎知識)	マルチメディアの理論について、十分に理解した上で、他の理論や技術に結び付けて説明することができた。	マルチメディアの理論について、80%以上理解することができた。	マルチメディアの理論について、70%以上理解することができた。	マルチメディアの理論について、60%以上理解することができた。	マルチメディアの理論について、理解することができなかった。	マルチメディアコンテンツの制作技術	提示された制作要件を十分に満たすコンテンツを制作でき、自ら考えた独創的なアイデアを基に、コンテンツを制作することができた。	提示された制作要件を十分に満たしたコンテンツを制作することができた。	提示された制作要件を概ね満たしたコンテンツを制作することができた。	提示された制作要件を最低限満たしたコンテンツを制作することができた。	提示された制作要件を満たしたコンテンツを制作することができなかった。	情報化社会とマルチメディア	情報化社会とマルチメディアについて、十分に理解することができ、身の回りにおけるマルチメディアを見つけ、マルチメディアが創り出す未来を踏まえて、説明することができた。	情報化社会とマルチメディアについて、80%以上理解することができ、身の回りにおけるマルチメディアを見つけ、説明することができた。	情報化社会とマルチメディアについて、70%以上理解することができた。	情報化社会とマルチメディアについて、60%以上理解することができた。	情報化社会とマルチメディアについて、理解することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
マルチメディアの理論(基礎知識)	マルチメディアの理論について、十分に理解した上で、他の理論や技術に結び付けて説明することができた。	マルチメディアの理論について、80%以上理解することができた。	マルチメディアの理論について、70%以上理解することができた。	マルチメディアの理論について、60%以上理解することができた。	マルチメディアの理論について、理解することができなかった。																								
マルチメディアコンテンツの制作技術	提示された制作要件を十分に満たすコンテンツを制作でき、自ら考えた独創的なアイデアを基に、コンテンツを制作することができた。	提示された制作要件を十分に満たしたコンテンツを制作することができた。	提示された制作要件を概ね満たしたコンテンツを制作することができた。	提示された制作要件を最低限満たしたコンテンツを制作することができた。	提示された制作要件を満たしたコンテンツを制作することができなかった。																								
情報化社会とマルチメディア	情報化社会とマルチメディアについて、十分に理解することができ、身の回りにおけるマルチメディアを見つけ、マルチメディアが創り出す未来を踏まえて、説明することができた。	情報化社会とマルチメディアについて、80%以上理解することができ、身の回りにおけるマルチメディアを見つけ、説明することができた。	情報化社会とマルチメディアについて、70%以上理解することができた。	情報化社会とマルチメディアについて、60%以上理解することができた。	情報化社会とマルチメディアについて、理解することができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『入門マルチメディア』</td> <td>画像情報教育振興協会(CG-ARTS)</td> <td>画像情報教育振興協会(CG-</td> <td>2019年</td> <td>978-4-903474-</td> <td>[改訂新版]</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『入門マルチメディア』	画像情報教育振興協会(CG-ARTS)	画像情報教育振興協会(CG-	2019年	978-4-903474-	[改訂新版]	2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『入門マルチメディア』	画像情報教育振興協会(CG-ARTS)	画像情報教育振興協会(CG-	2019年	978-4-903474-	[改訂新版]																																				
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	マルチメディア表現(2年) (科目ナンバリング: MUD422052, MUD522048)				
授業担当者(所属・職名)	近澤 潤(経営学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 近澤 潤)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間企業での実務経験を活かし、実社会に即した各種コンテンツ制作について、実際の事例を交えて解説・教授する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション】 シラバスを中心に、授業の目的や進め方を説明する。	シラバスを確認する(90分)	説明事項について再度確認する(90分)
2	【マルチメディア概論】 情報化の歴史、デジタルとアナログ、メディアとマルチメディアについて解説する。	マルチメディアについて調べる(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
3	【マルチメディア概論】 コンピュータの構成について解説する。	コンピュータの構成について調べる(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
4	【マルチメディア概論】 セキュリティと情報テラシーについて解説する。	情報リテラシーについて調べる(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
5	【制作演習(文字・画像)】 文字・画像について解説し、演習(ポスター制作)を行う。	PowerPointの操作方法を確認する(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
6	【制作演習(アニメーション)】 画像表現法について解説し、演習(ストップモーションアニメーション制作)を行う。	ストップモーションアニメーションについて調べる(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
7	【制作演習(アニメーション)】 画像表現法について解説し、演習(ストップモーションアニメーション制作)を行う。	前回の制作進捗状況を確認する(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
8	【制作演習(アニメーション・音声)】 音声について解説し、演習(ストップモーションアニメーション制作)を行う。	音声データについて調べる(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
9	【マルチメディア概論】 動画表現法について解説する。	動画を使った表現法について調べる(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
10	【制作演習(動画)】 動画について解説し、演習(CM制作)を行う。	動画データについて調べる(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
11	【制作演習(動画)】 動画について解説し、演習(CM制作)を行う。	前回の制作進捗状況を確認する(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
12	【マルチメディア概論】 インターネットの仕組み、インターネットサービス、インターネットビジネスについて解説する。	インターネットについて調べる(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
13	【制作演習(Web)】 Webサイトについて解説し、演習(Web制作)を行う。	Webサイトの仕組みについて調べる(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
14	【制作演習(Web)】 Webサイトについて解説し、演習(Web制作)を行う。	前回の制作進捗状況を確認する(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
15	【マルチメディア概論】 社会に広がるマルチメディアについて解説する。	身の回りにあるマルチメディアをリストアップする(90分)	事後学習用教材に取り組み、授業内容を整理する(90分)
16	【定期試験(60分)・解説(30分)】	ここまでの授業内容を整理し復習する(90分)	定期試験の結果をまとめ、フィードバックをもとに復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ医学 (科目ナンバリング: AHS422065, SP5522064)				
授業担当者(所属・職名)	黒川 泰任(経営学科・客員教授)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 黒川 泰任)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、外傷治療と栄養学の実務から、運動の医学的背景について経験がある。		

概要

履修目標	運動時の生理、病態生理、外傷・けがなどを、医学的背景から考察・学習する。
------	--------------------------------------

授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」に対応する。
---------	-----------------------------------

到達目標	医学的知識の背景を元に、スポーツ指導の現場において、対象者の状態や外的環境に対して適切な対応ができ、また緊急時の救急処置ができるようにする。
------	--

授業全体の内容と概要	身体運動がヒトの体にどのような影響を与えるか、スポーツが生体に及ぼす影響を、ヒトの状態・性別・年齢・外的環境によってどのように異なるのかを知る。緊急時における対処方法を、具体的に修得する。
------------	--

授業の方法	講義は配布資料を使用し、対話・質問形式で行う。また、確認小テストを講義後に行い、解答と講義内容の確認を行う。毎回の小テスト結果は、定期試験得点に加算する。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	小テストと講義内容要約が重要なので、欠席しないように。首席は表彰される。
----------	--------------------------------------

資格指定科目	教職課程(保健体育)選択科目
--------	----------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、10回以上。定期試験と、各講義終了時の小テストの合計点で目標到達を判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	40%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動のしくみを科学的に理解する。	討論を元に、運動のしくみを科学的に考えられる。	運動のしくみについて興味を持ち、理解しようとしている。	ヒトの運動の特徴がわかる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
効率的な運動方法を理解し、スポーツ指導の現場で活躍できる。	討論を元に、運動のしくみを理解し、科学的知識にもとづいた指導ができる。	科学的知識にもとづいた運動のしくみへの理解が、スポーツ指導に必要なと理解している。	ヒトの運動を科学的に説明できる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
運動がヒトに及ぼす影響を理解できる。	運動がヒトに及ぼす影響を、科学的立場から理解できる。	運動が良くも悪くも、ヒトに大きく影響することが理解できる。	運動と健康の関係を説明できる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
講義態度。	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられている。	講義や旨の発言に耳を傾け、書き取っていた。	板書しており、疑問点や不明点をメモできていた。	板書はできていた。	講義に参加していない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『健康・スポーツ科学講義』	出村慎一	杏林書院	2011		
2	『スポーツ栄養学』	寺田 新	東京大学出版会	2017		
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ医学 (科目ナンバリング: AHS422065, SPS522064)				
授業担当者(所属・職名)	黒川 泰任(経営学科・客員教授)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 黒川 泰任)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する。脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、外傷治療と栄養学の実務から、運動の医学的背景について経験がある。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明	シラバスを確認しておく(90分)	運動やスポーツ医学について興味ある点を、まとめておく(90分)
2	健康と運動・スポーツ	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておく(90分)	当日講義内容の確認のため小テストを行うが、これを利用して理解を深める(90分)
3	体力、運動とは何か	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
4	運動の仕組み	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
5	発達と運動	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
6	運動の医学的背景 1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
7	運動の医学的背景 2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
8	運動と栄養(運動栄養学) 1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
9	運動と栄養(運動栄養学) 2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
10	運動と脱水	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
11	スポーツ活動中に多いケガ・障害 1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
12	スポーツ活動中に多いケガ・障害 2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
13	救急処置 1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
14	救急処置 2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
15	スポーツと心理・ストレス	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残り30分で解説を行う。	試験準備(90分)	定期試験内容を参考として、ヒトが生きていく仕組みについて、参考になる読書をする(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ指導論 (科目ナンバリング: SPS422066, SPS522065)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校の部活動顧問や道体連役員の指導経験を活かしてスポーツ指導論に関連する諸事項を講義する。		

概要

履修目標
スポーツ活動における望ましい指導者像、科学的・合理的な指導方法等を学ぶ。また、スポーツ指導に必須とされる競技者育成と評価、スポーツ活動と安全管理、ミーティングの方法、指導計画について理解できる。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
指導者としての心構え・視点、さまざまなスポーツ指導現場に対応できる基礎能力を身につける。

授業全体の内容と概要
・スポーツ指導者に必要とされるプログラム作成手順、教授技術、指導に関わる評価及び評定について概説する。 ・競技者を一番に考え指導のあたり方を認識し、お互いに意見交換をしながら、指導者としてあるべき姿を身につける。

授業の方法
・各回のテーマに關してのプリント等を使用して説明を行う。 ・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関してグループワークで思考・考察 ・意見交換、発表等の一連の活動を行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。 ・講義中、スマホや飲食物はカバン等に入れておくこと。スマホや飲料水は指示があれば可。 ・講義で配布するプリント類はクリアファイル等に整理と保管し必要時に参照できるようにすること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻は3回で欠席1回とみなす。

資格指定科目
スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	40%	20%	20%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
40%	20%	20%	0%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指導者としての心構え、視点についての理解</td> <td>指導者としての心構え、視点を理解しスポーツ指導現場でできる基礎能力が身についた。(9割)</td> <td>指導者としての心構え、視点を理解しスポーツ指導現場でできる基礎能力が身についた。(8割)</td> <td>指導者としての心構え、視点を理解しスポーツ指導現場でできる基礎能力が身についた。(7割)</td> <td>指導者としての心構え、視点を理解できた。</td> <td>指導者としての心構え、視点を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>より良い指導者になるための効果的な指導法についての思考</td> <td>より良い指導者になるためにさらに効果的なスポーツ指導法を考へることができた。(9割)</td> <td>より良い指導者になるためにさらに効果的なスポーツ指導法を考へることができた。(8割)</td> <td>より良い指導者になるためにさらに効果的なスポーツ指導法を考へることができた。(7割)</td> <td>良い指導者になるためにスポーツ指導法を考へることができた。</td> <td>良い指導者になるためのスポーツ指導法を考へることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>指導者としてあるべき姿を自指すための主体性や協同性</td> <td>競技者を一番に考え指導の在り方を認識し、グループワーク等で意見交換や発表しながら指導者としてあるべき姿を身につけた。(9割)</td> <td>競技者を一番に考え指導の在り方を認識し、グループワーク等で意見交換や発表しながら指導者としてあるべき姿を身につけた。(8割)</td> <td>競技者を一番に考え指導の在り方を認識し、グループワーク等で意見交換や発表しながら指導者としてあるべき姿を身につけた。(7割)</td> <td>競技者を一番に考え指導の在り方を認識できた。</td> <td>競技者を一番に考え指導の在り方を認識できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	指導者としての心構え、視点についての理解	指導者としての心構え、視点を理解しスポーツ指導現場でできる基礎能力が身についた。(9割)	指導者としての心構え、視点を理解しスポーツ指導現場でできる基礎能力が身についた。(8割)	指導者としての心構え、視点を理解しスポーツ指導現場でできる基礎能力が身についた。(7割)	指導者としての心構え、視点を理解できた。	指導者としての心構え、視点を理解できなかった。	より良い指導者になるための効果的な指導法についての思考	より良い指導者になるためにさらに効果的なスポーツ指導法を考へることができた。(9割)	より良い指導者になるためにさらに効果的なスポーツ指導法を考へることができた。(8割)	より良い指導者になるためにさらに効果的なスポーツ指導法を考へることができた。(7割)	良い指導者になるためにスポーツ指導法を考へることができた。	良い指導者になるためのスポーツ指導法を考へることができなかった。	指導者としてあるべき姿を自指すための主体性や協同性	競技者を一番に考え指導の在り方を認識し、グループワーク等で意見交換や発表しながら指導者としてあるべき姿を身につけた。(9割)	競技者を一番に考え指導の在り方を認識し、グループワーク等で意見交換や発表しながら指導者としてあるべき姿を身につけた。(8割)	競技者を一番に考え指導の在り方を認識し、グループワーク等で意見交換や発表しながら指導者としてあるべき姿を身につけた。(7割)	競技者を一番に考え指導の在り方を認識できた。	競技者を一番に考え指導の在り方を認識できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
指導者としての心構え、視点についての理解	指導者としての心構え、視点を理解しスポーツ指導現場でできる基礎能力が身についた。(9割)	指導者としての心構え、視点を理解しスポーツ指導現場でできる基礎能力が身についた。(8割)	指導者としての心構え、視点を理解しスポーツ指導現場でできる基礎能力が身についた。(7割)	指導者としての心構え、視点を理解できた。	指導者としての心構え、視点を理解できなかった。																								
より良い指導者になるための効果的な指導法についての思考	より良い指導者になるためにさらに効果的なスポーツ指導法を考へることができた。(9割)	より良い指導者になるためにさらに効果的なスポーツ指導法を考へることができた。(8割)	より良い指導者になるためにさらに効果的なスポーツ指導法を考へることができた。(7割)	良い指導者になるためにスポーツ指導法を考へることができた。	良い指導者になるためのスポーツ指導法を考へることができなかった。																								
指導者としてあるべき姿を自指すための主体性や協同性	競技者を一番に考え指導の在り方を認識し、グループワーク等で意見交換や発表しながら指導者としてあるべき姿を身につけた。(9割)	競技者を一番に考え指導の在り方を認識し、グループワーク等で意見交換や発表しながら指導者としてあるべき姿を身につけた。(8割)	競技者を一番に考え指導の在り方を認識し、グループワーク等で意見交換や発表しながら指導者としてあるべき姿を身につけた。(7割)	競技者を一番に考え指導の在り方を認識できた。	競技者を一番に考え指導の在り方を認識できなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『公認スポーツ指導者養成テキスト「共通科目」』</td> <td></td> <td>日本スポーツ協会</td> <td>2019</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『公認スポーツ指導者養成テキスト「共通科目」』</td> <td></td> <td>日本スポーツ協会</td> <td>2019</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『公認スポーツ指導者養成テキスト「共通科目」』		日本スポーツ協会	2019			2	『公認スポーツ指導者養成テキスト「共通科目」』		日本スポーツ協会	2019			3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『公認スポーツ指導者養成テキスト「共通科目」』		日本スポーツ協会	2019																																						
2	『公認スポーツ指導者養成テキスト「共通科目」』		日本スポーツ協会	2019																																						
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ指導論 (科目ナンバリング: SPS422066, SPS522065)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校の部活動顧問や道高体連役員の指導経験を活かしてスポーツ指導論に関連する諸事項を講義する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 スポーツ指導者とは(スポーツ医学に関する知識の必要性)(#03)、スポーツ指導者の倫理	スポーツ指導者として大切にしたいことを説明できるようにしておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
2	世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割(#06)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
3	指導計画の立て方(集団の指導計画、個人の指導計画、期別計画)(#14)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
4	スポーツ活動と安全管理1(個人的要因、環境的要因)(#15)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
5	スポーツ活動と安全管理2(競技特性)(#15)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
6	ミーティングの方法1(#36)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
7	ミーティングの方法2(#36)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
8	世界の頂点を目指すアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割1(#37)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
9	世界の頂点を目指すアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割2(#37)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
10	トップアスリートを育てるために-指導者が持つべき視点-(#48)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
11	トップアスリートの育成・強化の方法とその評価(#49)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
12	競技力向上のためのチームマネジメント(#50)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
13	競技力向上のための情報とその活用1(#51)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
14	競技力向上のための情報とその活用2(#51)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
15	プレーヤーと指導者の望ましい関係(#35)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容を復習する。(90分)	本時の学修内容をまとめて提出する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	管理会計論 (科目ナンバリング: ACC423012, ACC523017)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
適正な経営の意思決定を行うことができるようにマーケティングと経営戦略に会計をミックスし、経営の総合力をつける。戦略的な予算を策定することができる能力を涵養する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
会計情報をもとに経営戦略と予算を策定できる基本能力を有する。

授業全体の内容と概要
テーマの説明を行い、練習問題を解きながら講義を進めていく。また時事問題についても解説を行い、学生から意見を発言してもらう。

授業の方法
毎回プリント(ケース)を配布し、講義内容の管理会計における位置づけを説明し、本題に入る。双方向授業を活用して、学生から意見を発言してもらう。講義の最後にミニテストを実施する。ミニテスト、試験などの解説のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。電卓を持参すること。ノートをしっかり取ること。原簿計算論を履修済みであることが望ましい。

資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
CVP分析を用いた分析を行うことができ、経営戦略を策定できる。	CVP分析を用いた経営戦略(販売価格決定、固定費、変動費の設定)ができた。	CVP分析を用いて、目標利益を達成するための営業料を算定することができた。	CVP分析を正しく行うことができた(損益分岐点の算定)。	固定費と変動費の分析ができた。	固定費と変動費の区分ができず、CVP分析を正しく行うことができなかった。
マーケティングと経営戦略を合わせた予算策定	実在する企業について、不足する情報を推察し、適正な経営戦略と予算編成ができた。	経営戦略を達成するための予算を策定することができた。	PPTとSforce分析から経営戦略の策定ができた。	SWOT分析とPPTを行うことができた。	SWOT分析ができなかった。
全社戦略を策定することができる	実在する企業について、不足する情報を推察し、適正なM&A計画を策定することができた。	M&A、多角化における資産評価と投資価値の算定を行うことができた。	DCF(ディスカウントキャッシュフロー)法を用いて全社戦略を策定することができた。	全社戦略について理解していた。	全社戦略について理解が不足していた。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	管理会計論 (科目ナンバリング: ACC423012, ACC523017)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明など) 企業経営と管理会計の目的	シラバスを読んでおくこと(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
2	管理会計のフレームワーク	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
3	管理会計の歴史	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
4	原価計算	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
5	A B C・A B M	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
6	E R Pパッケージ	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
7	戦略評価、D C F法	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
8	事業戦略・全社戦略	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
9	製品開発	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
10	短期利益計画	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
11	予算管理	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
12	生産管理	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
13	事業部制会計	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
14	研究開発	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
15	投資計画、M & A	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
16	定期試験および解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	総復習(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営分析論 (科目ナンバリング: MAN423019, MAN523023)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		

概要

履修目標
本講義は、経営学部における会計科目の仕上げ科目と位置づけ、学生が会社経営の安全性、収益性、成長性など、財務分析の手法について学ぶことを目的としている。分析の結果を踏まえて、会社とはどうあるべきか考えられる力を養成することも本講義のねらいである。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
本講義終了時の達成目標は以下の通り、貸借対照表、損益決算書、キャッシュフロー計算書の内容が理解できる。対象企業における資産状況、負債状況、自己資本比率を理解できる。貸借対照表、損益決算書、キャッシュフロー計算書を使い会社経営の安全性、収益性、成長性の数値を導き出すことができる。

授業全体の内容と概要
本講義は、会社経営における財務分析の手法を学ぶ。貸借対照表(B/S)、損益決算書(P/L)、キャッシュフロー計算書(C/S)の数値を使い会社の安全性、収益性、成長性などを導き出す。経営分析の過程で数学を使うが、基本的には割り算と掛け算である。計算の際は計算機の使用を認める。

授業の方法
本講義はパワーポイント及び配布資料で進める。1枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、一つの公式を解説後、グループワークやディスカッションを行い、学生の理解をより深めることとする。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
本講義は、財務会計論の発展科目であることから、「財務会計論」の単位を取得していなければ受講できない。

資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>90%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	90%	0%	0%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
90%	0%	0%	0%	0%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業会計の必要性について</td> <td>企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。</td> <td>企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。</td> <td>企業における会計の必要性について理解していた。</td> <td>企業における会計の必要性を最低限理解していた。</td> <td>企業における会計の必要性を理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>財務諸表の理解</td> <td>3つの財務諸表を使いこなすことができ、それぞれの諸表を読み解くことができた。</td> <td>3つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読み解くことができた。</td> <td>3つの財務諸表の違いを述べることができた。</td> <td>3つの財務諸表を述べることができた。</td> <td>そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>経営分析に対応した数学的計算力</td> <td>企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。</td> <td>企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。</td> <td>企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。</td> <td>企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。</td> <td>企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。	財務諸表の理解	3つの財務諸表を使いこなすことができ、それぞれの諸表を読み解くことができた。	3つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読み解くことができた。	3つの財務諸表の違いを述べることができた。	3つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。	経営分析に対応した数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。																								
財務諸表の理解	3つの財務諸表を使いこなすことができ、それぞれの諸表を読み解くことができた。	3つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読み解くことができた。	3つの財務諸表の違いを述べることができた。	3つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。																								
経営分析に対応した数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『経営分析入門』</td> <td>森田松太郎</td> <td>日本経済新聞出版社</td> <td>2009年</td> <td>978-4532133658</td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『経営分析入門』	森田松太郎	日本経済新聞出版社	2009年	978-4532133658		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『経営分析入門』	森田松太郎	日本経済新聞出版社	2009年	978-4532133658																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営分析論 (科目ナンバリング: MAN423019, MAN523023)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明(講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など)	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
2	財務諸表の見方 貸借対照表	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
3	財務諸表の見方 損益決算書	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
4	会社分析のねらいと財務分析の手法	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
5	会社の財務安全性 流動比率 当座比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
6	会社の財務安全性 自己資本比率 固定比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
7	会社の収益性 資本の収益力	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
8	会社の収益性 売上対利益と損益分岐点	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
9	会社の活性化 回転率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
10	会社の活性化 設備効率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
11	会社の発展性 成長性	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
12	キャッシュフロー	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
13	会社の人材	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
14	会社の総合評価	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
15	まとめ 試験対策	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備をしておくこと。(90分)	定期試験のフィードバックを受けて、経営分析論を総括する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コーポレートファイナンス論 (科目ナンバリング: MOF422009, MOF523014)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
 コーポレートファイナンス論の中心的なテーマである、企業価値を最大化する資金調達(負債・株主資本)、最適資本構成や配当政策について理解を深め、企業経営者としての戦略的な意思決定の能力を養う。

授業の位置づけ
 経営学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
 企業価値最大化のための財務手段について理解し、ケース分析ならびに代替案作成の能力を有する。

授業全体の内容と概要
 テーマの説明を行い、練習問題を解きながら講義を進めていく。また時事問題についても解説を行い、学生から意見を発言してもらう。

授業の方法
 毎回プリントを配布し、講義内容のコーポレートファイナンスにおける位置づけを説明し、本題に入る。また双方向授業を活用して、学生から意見を発言してもらう。講義の最後にミニテストを実施する。ミニテスト、試験などの解説のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	〇	双方向授業
その他(授業の方法参照)			

履修上の注意事項
 正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。電卓を持参すること。ノートをしっかり取ること。毎回講義の最後に小テスト(2点満点×15回=30点)を行う。

資格指定科目
 教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件
 単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資金調達について、手法と評価を正しく理解し、数値を計算することができる。	株式市場におけるリスクとリターンを勘案し、WACC(資本コスト)を正確に算定することができる。	WACCを正確に算定することができた。	直接金融(株式、債券)による資金調達を理解し、コストを算定することができた。	直接金融と間接金融について理解し、金利の変動の仕組みと効果について理解していた。	資金調達の手法の理解が不足していた。
投資のポートフォリオについて理解し期待値を算定することができる。	実在する企業の投資案について評価をおこなうことができた。	ハイリスク・ハイリターンとローリスク・ローリターンの投資をミックスさせ、期待に沿う投資案を策定することができた。	ポートフォリオ理論を理解し、リターンを算定することができた。	期待値と偏差を理解し、投資のリターンを計算することができた。	投資のリスクについて理解していなかった。
M&Aについて理解し評価することができる。	実在する企業M&Aについて価値の評価を行うことができた。	公開企業への敵対的買収の株価について適正に算定することができた。	公開企業における株主と経営者のハードルレート算出することができた。	M&Aの種類とコストについて理解していた。	M&Aについて理解が不足していた。

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コーポレートファイナンス論 (科目ナンバリング: MOF422009, MOF523014)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明など) キャッシュフローと企業経営	シラバスを読んでおくこと(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
2	現在価値、企業の目的とコーポレート・ガバナンス	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
3	DCF ケース	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
4	投資のリスクとリターン 「リスクとリターン」とそのばらつき	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
5	投資のリスクとリターン ポートフォリオ理論	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
6	投資のリスクとリターン CAPM: 資本資産評価モデル	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
7	資本コスト	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
8	戦略と資本投資決定 EVA ケース	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
9	資金調達 株式、社債、金融機関からの借入	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
10	WACC ケース	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
11	オプション	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
12	リース	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
13	財務計画	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
14	合併と企業支配権 ケース	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
15	海外企業のコーポレートファイナンス 試験説明	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
16	定期試験および解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	総復習(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	情報ネットワーク論 (科目ナンバリング: COS422051, COS523047)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワークの構築・運用に必要な知識について講義を行う			

概要

履修目標	情報ネットワークの構築技術(設計、設置、運用、保守、セキュリティ)を学ぶ科目である。インターネットを支える技術を中心に、ネットワークとサーバーの仕組みを理解する。												
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	ネットワークとプロトコルに関する知識が身につくこと。 ネットワーク機器と各種サーバーの役割を理解し、正しく設定ができる。 ネットワークを構築する技術を修得する。 ネットワークセキュリティの重要性と適切な対処法がわかる。												
授業全体の内容と概要	TCP/IPを使ったネットワークを前提に、LANケーブル作成、ネットワーク機器の接続と設定、サーバー構築と動作確認、保守とセキュリティまで、実作業を通して学ぶ。												
授業の方法	座学での説明は2割程度、残りは実習を通して学んでいく。 全員を3人程度のグループに分けて進めていき、グループ内で役割を交代しながら、課題に沿ってネットワークを構築し、全体像をつかむ。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	機材、ソフト数の制限より、受講人数は20名までとする。(情報システム論単位取得者を優先する) 講義内容には前後の相関性があるので、特段の理由が無い限り全回出席が望ましい。												
資格指定科目													

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は11回以上。(集中授業のため、欠席した日の分の補講はできない) 30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。 5評価は原則として全回出席者に限る。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コンピュータネットワークの基本を理解し、ネットワークとサーバーの構築技術を理解する。	コンピュータネットワークの知識を深く習得し、サーバーを含めたLAN構築の設計ができた。	コンピュータネットワークの知識を広く習得し、サーバーを使ったLAN間接続ができた。	コンピュータネットワークの基本知識を習得し、LAN構築とネットワーク機器の設定ができた。	コンピュータネットワークの基本知識を習得し、PCを含む機器をLANに接続することができた。	ネットワークに関する知識が不十分でLAN構築ができなかった。
コンピュータネットワークを利用する際に発生するリスクを最小限にとどめるセキュリティ知識を有する。	ネットワークを利用する場合のリスクに精通し、業務レベルでの効果的な防御と対処法を考案することができた。	ネットワークを利用する場合のリスクと、その技術的背景を理解し、業務に必要なレベルで防御と対処法をとることができた。	ネットワークを利用する場合のリスクに対し、個人レベルの対処法をとることができた。	ネットワークを利用する場合のリスクに気づき、適切な防御法をとる必要性を認識できた。	ネットワークを利用する場合のリスクに関心が低く、興味を示さなかった。
コンピュータネットワーク上の情報の流れとコミュニケーションの特性、情報社会のリスクに関する知識を有する。	コミュニケーションツールの特性や危険性を踏まえた上で、問題を避けながら有効に活用する方法を周囲に伝えることができた。	コミュニケーションツールの特性や危険性を踏まえた上で、問題を避けながら有効に活用することができた。	コミュニケーションツールの特性や危険性を理解し問題に対応できた。	コミュニケーションツールには危険性が潜んでいることを理解した。	コミュニケーションツールの危険性を理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	情報ネットワーク論 (科目ナンバリング: COS422051, COS523047)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワークの構築・運用に必要な知識について講義を行う		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバス説明、グループ分け、ネットワーク概論、インターネットとTCP/IP	コンピュータネットワークとは(90分)	インターネットの成り立ちについて整理する(90分)
2	LANとは、ケーブル作成、ネットワーク機器の名称と役割、通信とメディア IPアドレス、サブネットとサブネットマスク、	ネットワーク機器の種類を調べる(90分)	IPアドレスとMACアドレスの役割の違いを整理(90分)
3	LAN構築 サーバー機準備、設定、通信確認	コンピュータの構成部品と役割について調べる(90分)	サーバーに使うOSについてまとめる(90分)
4	セキュリティ ユーザー管理、アクセス制御、ファイアウォール他	コンピュータセキュリティに関する事件の調査(90分)	セキュリティ上重要な点を整理(90分)
5	ルーター設定 各種設定、NATの理解、DHCP、DNS、ルーティング管理他	IPv4のアドレス枯渇問題とは何か調べる。(90分)	ルーターの設定項目と役割を整理(90分)
6	サーバー構築実習 WebサーバーとHTML	Webサーバーの種類、ハイパーテキストについて調べる(90分)	HTTPとSSLサーバ証明書について整理(90分)
7	サーバー構築実習 FTPサーバー、TFTPサーバー	有名なFTPクライアントについて調べる(90分)	FTP、SFTP、FTPSの違い(90分)
8	サーバー構築実習 ブラウザ	ブラウザの歴史について調べる(90分)	ブラウザの種類別特徴(90分)
9	サーバー構築実習 メールサーバーとメールクライアント	メールプロトコル(SMTP、POP、IMAP)について調べる(90分)	メールクライアントの設定方法の再確認(90分)
10	サーバー構築実習 ファイル共有	Windowsにおけるファイル共有について調べる(90分)	現存のCloudドライブサービスについて調べる(90分)
11	サーバー構築実習 リモート管理: リモートデスクトップ	リモートデスクトップとは何か調べる(90分)	リモートデスクトップの利用例についてまとめる(90分)
12	サーバー構築実習 リモート管理: SSHとコマンド	Telnet、SSHについて調べる(90分)	コマンドラインによる遠隔操作の利点と主なコマンド(90分)
13	ワイヤレスネットワーク機器 機器の設定: 暗号化	WEP暗号の危険性について調べる(90分)	ワイヤレスネットワークの暗号化の脆弱性の有無について調べる(90分)
14	ネットワークとセキュリティ インターネット上に存在する危険と対応法	マルウェアについて調べる(90分)	情報流出事件について過去3年分をまとめる(90分)
15	ネットワークとセキュリティ ネット社会でのモラル、ルール、まとめ	パソコン遠隔操作事件について調べる(90分)	ネット上のいじめ問題について調べる(90分)
16	定期試験(60分)、振り返り(解答解説)	定期試験に備えて全講義内容を復習(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	プログラミング論 (科目ナンバリング: S0F422053, S0F522049)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータプログラミングに必要な知識について講義を行う。		

概要

履修目標
コンピュータとプログラムに関する基本的な知識を修得し、問題解決のためのアルゴリズムやプログラムの開発手順について理解を深める。また、A Iと機械学習、深層学習の基本的な原理を学び、プログラミングとの関わりを学ぶ。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
プログラミング言語の種類と用途がわかる。 アルゴリズムの基本を理解し、オリジナルプログラムを考えて作成できる。 作成したプログラムの説明とドキュメンテーションができる。 A Iとプログラミングの関係性がわかる。

授業全体の内容と概要
プログラム言語の各種概念の理解と、課題の作成を通して問題解決のアルゴリズムを考える力を養い、プログラミング技法の基礎を学ぶ。後半でA Iとプログラムの関わりについて学ぶ。

授業の方法
1、2、14回目は講義形式で行う。 3から10回目まではコンピュータを使い、基本的なアルゴリズムを例示し、プログラム作成、動作確認を行う。 11から13回目まで、各自オリジナルのプログラムを設計し作成する。 15、16回目は成績判定のための修了課題を作成する。 実習中は教員および学生同士で対話しながら質問やアドバイスを受けながら進める。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
受講生あり。機器台数より受講者40名を上限とする。 プログラミングは繰り返し作成し慣れることが必要である。授業と同じ内容で良いので、講義の前後に自主的にトレーニングを行うこと。 講義内容には前後の相関性があるので、特段の理由が無い限り全出席が望ましい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は11回以上。(集中授業のため、欠席した日の分の補講はできない) 30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。 課題については授業中に毎回評価・採点し、最終評価に加算する。 修了課題はプログラミング実習であり、できない場合は不合格となる。 S評価は原則として全授業出席者に限られる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に差をレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
データ構造やプログラミングについて理解し、問題解決のためのアルゴリズムを捉え、フローチャートなどの方法で図式化できる。	データ構造やプログラミングについて深く理解し、問題解決のためのアルゴリズムを複数考え、最適なものを図式化することができた。	データ構造やプログラミングについて深く理解し、問題解決のためのアルゴリズムを考え、最適化されたものを図式化することができた。	データ構造やプログラミングについて理解し、問題解決のためのアルゴリズムを決めるための基本的な考え、図式化することができた。	データ構造やプログラミングについて基礎を理解し、問題解決のための基本的なアルゴリズムは図式化することができた。	データ構造やプログラミングについて理解が不足し、アルゴリズムを図式化できなかった。
フローチャートや状態遷移図、データフロー図等で示された設計書面に沿って、プログラムを作成することができる。	フローチャートや状態遷移図、データフロー図等で示された設計書面を良く理解し、要求に最適化されたプログラムを作成できる。必要な修正点や改良点があればフィードバックできた。	フローチャートや状態遷移図、データフロー図等で示された設計書面を良く理解し、正しいことを確認したプログラムを作成できた。	フローチャートや状態遷移図、データフロー図等で示された設計書面を理解し、要求に沿って最適なプログラムを作成できた。	フローチャートや状態遷移図、データフロー図等で示された設計書面を理解し、要求に沿ったプログラムを作成できた。	フローチャートや状態遷移図、データフロー図等で示された設計書面を理解できず、プログラムを作成できなかった。
プログラム言語の特徴を生かしたプログラミングができる。	プログラミング言語の特徴を生かし、動作が正確で安定し、無駄な処理がなく、可読性や拡張性、保守性に優れたプログラミングができる。	プログラミング言語の特徴を生かし、動作が正確で可読性が高く、拡張性や保守性に配慮したプログラミングができる。	プログラミング言語の特徴を生かし、動作が正確で可読性が高く、保守性に配慮したプログラミングができる。	プログラミング言語の特徴を理解し、正確に動作するプログラミングができる。	プログラミング言語の仕様を理解できず、正常に動作するプログラムの作成ができない。
機械学習、Deep Learningを中心としたAI(人工知能)を理解し、AIが社会にどのような影響を与えるかがわかる。	AI、機械学習、Deep Learningの基本的な原理とその問題点を説明でき、AIが社会に与える影響や課題を多様な観点から説明でき、どう対応すべきか自分の考えを論述できた。	AI、機械学習、Deep Learningの基本的な原理を理解し、AIが社会に与える影響や課題を説明でき、どう対応すべきか自分の考えを論述できた。	AI、機械学習、Deep Learningの基本的な原理を理解し、AIが社会に与える影響、課題を説明できた。	AIが社会に与える影響、課題を説明できた。	AIとは何か、それが社会に与える影響について、理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	プログラミング論 (科目ナンバリング: S0F422053, S0F522049)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータプログラミングに必要な知識について講義を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、コンピュータとプログラム、プログラミング言語の種類と特徴、CPUと機械語、アセンブラ、コンパイラ、シラバスの説明	プログラミング言語の種類歴史について(90分)	講義内容の整理と確認(90分)
2	アルゴリズムとフローチャート、状態遷移図、データフロー図ほか	アルゴリズムについて(90分)	講義内容の整理と確認(90分)
3	プログラミング環境の構築、テキストエディターの使い方、プログラムの書き方、ソースとコンパイル、実行ファイル	文字コード、改行コード(90分)	テキストエディターの操作練習(90分)
4	変数と値、演算子、計算結果の表示、配列、リスト、ポインタ、アドレス、プログラムと可読性、コメントの効果的利用法	変数の型と配列変数について(90分)	事例プログラムの作成と動作確認(90分)
5	I F文、制御文、繰り返し文	条件式、論理和、論理積について(90分)	事例プログラムの作成と動作確認(90分)
6	関数、サブルーチン、メソッド	メソッドとは(90分)	事例プログラムの作成と動作確認(90分)
7	基本技法 データ検索 線形探索法、二分探索法	線形探索のアルゴリズム(90分)	二分探索法のプログラムの完成(90分)
8	基本技法 ソート技法 バブルソート、クイックソート	バブルソートのアルゴリズム(90分)	クイックソートのプログラムの完成(90分)
9	基本技法 データ構造、レコードの作成、更新、追加	ボリューム、ファイル、レコードの関係(90分)	階層ディレクトリーについてのまとめ(90分)
10	基本技法 ファイル処理 テキストファイルとバイナリファイルの取り扱い	固定長レコードと可変長レコード(90分)	ファイル処理プログラムの完成(90分)
11	オリジナル課題作成 課題設定、設計(フローチャート)、プログラミング	オリジナルプログラムの立案(90分)	プログラミング作業(90分)
12	オリジナル課題作成 プログラミング	プログラミングの続き(90分)	プログラミング作業(90分)
13	オリジナル課題作成 プログラミング完成、ドキュメンテーション	プログラミングの続き(90分)	ドキュメント完成(90分)
14	A Iとプログラミング A I(人工知能)と機械学習、深層学習について	A Iとは何かを予習(90分)	A I、機械学習、Deep learningの整理(90分)
15	修了課題作成(指定された内容に従い、プログラム課題を作成する)	データ構造の復習(90分)	修了課題作成(90分)
16	修了課題作成(指定された内容に従い、プログラム課題を作成、提出する)	修了課題作成(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	レクリエーション概論 (科目ナンバリング: AHS422069, AHS522068)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において、レクリエーションの授業を担当した経験を活かし指導する。		

概要

履修目標
人々の健康づくりや体力向上、スポーツの振興、高齢者や障がい児(者)福祉、子育て支援や保育・幼児教育、子どもたちの健全育成や学校教育、ボランティアによる地域づくりなど、幅広い連携体制について理解する。

授業の位置づけ
経営学科のDP 「1(1)と(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
レクリエーションの意義や歴史・制度について理解を深め、レクリエーション・インストラクターの役割を確認するとともに、現代社会における、ライフステージごとの課題や乳幼児・児童・障がい児(者)のレクリエーション課題について学び、レクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解でき、また、レクリエーション事業の考え方や展開方法について理解し、且つ安全管理等についても理解できる。

授業全体の内容と概要
一人ひとりの意欲の強化、成功や成就の達成感や喜びを味わいながら、元気や活力づくりへの意欲を高められるように概説する。

授業の方法
授業は板書及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークにてグループ発表 グループ発表(全2回)レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業に関係のない私語は慎むとともに、スマホ、携帯電話の電源は必ず切ること。 特に授業の習熟度を判断するために小テストを提示するので、欠席しないようにすること。

資格指定科目
教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	0%	60%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レクリエーションの基礎知識と理解	レクリエーションの歴史や制度について理解がされている。さらに人を支える支援の方法について、どんな働きができるのか、支援者の姿勢について知識と理解を深めることができた。	レクリエーションの歴史や制度について理解がされている。さらに人を支える支援の方法について、どんな働きができるのか、支援者の姿勢について深く理解をすることができた。	レクリエーションの歴史や制度について理解がされている。さらに人を支える支援の方法について、どんな働きができるのか、支援者の姿勢について知識を深めることができた。	レクリエーションの歴史や制度について理解がされている。	レクリエーションの意義や歴史、制度について、知識や理解力がほとんどできていなかった。
レクリエーション支援の知識と理解	レクリエーション支援における乳幼児・児童・障がい児(者)の生活課題とレクリエーションの働きかけに関する専門的な知識について理解を深めることができた。	レクリエーション支援における乳幼児・児童・障がい児(者)の生活課題とレクリエーションの働きかけに関する知識が比較的理解を深めることができた。	レクリエーション支援における乳幼児・児童・障がい児(者)の生活課題とレクリエーションの働きかけに関する知識が比較的理解を深めることができた。	レクリエーション支援における乳幼児・児童・障がい児(者)の生活課題とレクリエーションの働きかけの基礎ができた。	レクリエーション支援における乳幼児・児童・障がい児(者)の生活課題とレクリエーションの働きかけの知識や理解ができなかった。
レクリエーション事業の知識と理解	レクリエーション事業の展開方法に乳幼児・児童・障がい児(者)を対象にしたレクリエーションプログラム・事業計画およびレクリエーション活動の安全管理に対して専門的な深い知識と理解を深めることができた。	レクリエーション事業の展開方法に乳幼児・児童・障がい児(者)を対象にしたレクリエーションプログラム・事業計画およびレクリエーション活動の安全管理に対して比較的理解を深めることができた。	レクリエーション事業の展開方法に乳幼児・児童・障がい児(者)を対象にしたレクリエーションプログラム・事業計画およびレクリエーション活動の安全管理に対して知識と理解を深めることができた。	レクリエーション事業の展開方法に乳幼児・児童・障がい児(者)を対象にしたレクリエーションプログラム・事業計画およびレクリエーション活動の安全管理に対して理解をすることができた。	レクリエーション事業の展開方法に乳幼児・児童・障がい児(者)に対する基本的知識が理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『「使用しない」』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『レクリエーション支援の基礎』	浅野祥三	日本レクリエーション協会	2007年	978-4-931180-81-9	
2	『資料配布』					
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	レクリエーション概論 (科目ナンバリング: AHS422069, AHS522068)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾西 則昭)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において、レクリエーションの授業を担当した経験を活かし指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス 「シラバス説明」	事前にシラバスを読んで確認する90(分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
2	レクリエーションの意義及び歴史や制度	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
3	レクリエーション運動の歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
4	レクリエーション・インストラクターに期待される役割	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
5	レクリエーションの指導法	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
6	高齢者社会の課題とレクリエーション(小テスト)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
7	レクリエーション事業と実施	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
8	レクリエーションの事業評価	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
9	レクリエーションの運営	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
10	障がい者とレクリエーション	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
11	レクリエーション活動の安全管理(小テスト)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
12	障がい児(者)の生活課題レクリエーション集団への働きかけ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
13	レクリエーション事業の考え及び展開方法	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
14	加盟団体とスポーツ種目	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
15	ホスピタリティトレーニング(小テスト)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
16	まとめ	ノートに記載された内容を再度確認し、理解する(90分)	解説の内容を確認する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	障がい者スポーツ (科目ナンバリング: SPS423075, SPS523086)				
授業担当者(所属・職名)	荒井 秀樹(経営学科・特任教授) 米野 宏(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現在、バラスポーツ(障がい者スキー)の現場で指導している経験を活かし、障がい者スポーツの指導者資格を取得したい学生に教授する。		

概要

履修目標	初級障がい者スポーツ指導員として必要な知識、技能、態度を身につかせる。																					
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(5)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	障がい者スポーツ指導員として必要な知識、技能、態度が身についていること。																					
授業全体の内容と概要	授業の前半は、障がい者スポーツ指導員として必要な「障がい者スポーツの理念」に加え、バラスポーツやパラリンピックの歴史を学ぶ。後半は、実践を通してバラスポーツのルールや競技の特性を理解しながら、指導の留意点を学ぶ。																					
授業の方法	教室において、パワーポイントや板書にて理論的学習を行い、理解を深めるためにビデオ視聴も実施する。体育館や屋外スポーツ施設において、障がい者スポーツの紹介と実技体験も行う。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	20分以上の遅刻は欠席とみなします。実技もあるので、運動しやすい服装と屋内用シューズを用意してほしい。																					
資格指定科目	障がい者スポーツ指導員資格課程																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	60%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障がい者スポーツのルールの理解	ルールや競技特性をとて詳しく理解し審判法も得られた。	ルールや競技特性を理解し審判法も得られた。	ルールや競技特性を良く知ることができた。	ルールや競技の特性をある程度理解できた。	ルールの知識がほとんど得られなかった。
障がい者スポーツの歴史や現状の知識と理解	歴史的な知識や現状をよく理解でき、課題に対する意識がとて強く持てた。	歴史的な知識や現状をよく理解でき、課題に対する意識も持てた。	歴史的な知識や現状をよく理解できた。	歴史的な知識や現状をある程度理解できた。	歴史的な知識をほとんど得られなかった。
障がいの種類や区分の知識と理解	障害の種類や区分の知識をよく理解し、留意点も把握できた。	障害の種類や区分の知識をよく理解し、留意点も把握できた。	障害の種類や区分の知識をよく理解できた。	障害の種類や区分の知識がある程度得られた。	障害の種類や区分の知識がほとんど得られなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『障がい者スポーツ指導教本 初級・中級』	日本障がい者スポーツ協会	ぎょうせい	2018	978-4-324	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	障がい者スポーツ (科目ナンバリング: SPS423075, SPS523086)				
授業担当者(所属・職名)	荒井 秀樹(経営学科・特任教授) 米野 宏(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現在、パラスポーツ(障がい者スキー)の現場で指導している経験を活かし、障がい者スポーツの指導者資格を取得したい学生に教授する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
2	夏季パラリンピックの歴史	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
3	パラスポーツ(夏競技)の特徴と取組み	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
4	冬季パラリンピックの歴史	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
5	パラスポーツ(冬競技)の特徴と取組み	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
6	パラスポーツ(ゴールボール)ルールと魅力 1	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
7	パラスポーツ(ゴールボール)ルールと魅力 2	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
8	パラスポーツ(ゴールボール)実技 1	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
9	パラスポーツ(ゴールボール)実技 2	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
10	パラスポーツ(ボッチャ)ルールと魅力 1	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
11	パラスポーツ(ボッチャ)ルールと魅力 2	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
12	パラスポーツ(ボッチャ)実技 1	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
13	パラスポーツ(ボッチャ)実技 2	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
14	パラリンピックの環境	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
15	パラリンピックとレガシー	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
16	パラリンピックの未来と価値	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	障がい者スポーツ (科目ナンバリング: SPS423076, SPS523087)				
授業担当者(所属・職名)	荒井 秀樹(経営学科・特任教授) 米野 宏(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現在、バラスポーツ(障がい者スキー)の現場で指導している経験を活かし、障がい者スポーツの指導者資格を取得したい学生に教授する。		

概要

履修目標	初級障がい者スポーツ指導員として必要な知識、技能、態度を身につかせる。																					
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(5)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	障がい者スポーツ指導員として必要な知識、技能、態度が身についていること。																					
授業全体の内容と概要	授業の前半は、身体障害のほかに知的障害、聴覚障害、視覚障害者とスポーツ活動について学ぶ。後半は実践を通してバラスポーツのルールや競技の特性を理解しながら、指導する際の留意点を学ぶ。																					
授業の方法	教室において、理論的学習を行い、理解を深めるためにビデオ視聴も実施する。体育館や屋外スポーツ施設において、障がい者スポーツの紹介と実技体験を行う。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	20分以上の遅刻は欠席とみなします。実技もあるので、運動しやすい服装と屋内用シューズを用意してほしい。																					
資格指定科目	障がい者スポーツ指導員資格課程																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	60%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ルールと競技特性の理解	ルールや競技特性を深く理解し審判法も幅広く得られた。	ルールや競技特性を理解し審判法も得られた。	ルールや競技特性を良く知ることができた。	ルールや競技の特性をある程度理解できた。	ルールの知識がほとんど得られなかった。
障害の種類と区分の理解	障害の種類や区分の知識をよく理解し、留意点も広く把握できた。	障害の種類や区分の知識をよく理解し、留意点も把握できた。	障害の種類や区分の知識をよく理解できた。	障害の種類や区分の知識がある程度得られた。	障害の種類や区分の知識がほとんど得られなかった。
パラリンピックの現状と課題の理解	パラリンピックについての知識や現状の理解が得られ、課題解決の意識も強く持てた。	パラリンピックについての知識や現状の理解が得られた。	パラリンピックについての知識や現状の理解が得られた。	パラリンピックについての知識がある程度得られた。	パラリンピックについての知識がほとんど得られなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『障がい者スポーツ指導教本』	日本障がい者スポーツ協会	ぎょうせい	2018	978-4-324-	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	障がい者スポーツ (科目ナンバリング: SPS423076, SPS523087)				
授業担当者(所属・職名)	荒井 秀樹(経営学科・特任教授) 米野 宏(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現在、バラスポーツ(障がい者スキー)の現場で指導している経験を活かし、障がい者スポーツの指導者資格を取得したい学生に教授する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
2	知的障害とバラスポーツ	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
3	聴覚障害とデフスポーツ	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
4	身体障害とバラスポーツ	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
5	視覚障害とバラスポーツ	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
6	2020東京パラリンピックを振り返る 1	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
7	2020東京パラリンピックを振り返る 2	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
8	2020東京パラリンピックを振り返る 3	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
9	バラスポーツ(ボッチャ)ルールと魅力 1	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
10	バラスポーツ(ボッチャ)ルールと魅力 2	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
11	バラスポーツ(ボッチャ)実技 1	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
12	バラスポーツ(ボッチャ)実技 2	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
13	バラスポーツ(フライングディスク)ルールと魅力 1	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
14	バラスポーツ(フライングディスク)ルールと魅力 2	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
15	バラスポーツ(フライングディスク)実技 1	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
16	バラスポーツ(フライングディスク)実技 2	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツとヘルスケア (科目ナンバリング: SPS422068, SPS522067)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)、三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツとヘルスケアについての基礎的な科学的知識を深め指導する。		

概要

履修目標
身体運動に異常が出ればスポーツ選手個人がもつパフォーマンスの発揮ができないばかりか、障害をまねく危険性がある。そこで外傷・障害の予防とコンディショニングの手法に関して学習する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
スポーツを見つめる科学的な視点。スポーツにおける基礎理論の理解と実践的应用について理解することができる。

授業全体の内容と概要
アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画(実施上の留意点、進め方)。予防・治療・再発防止のテーピングの解説と演習。スポーツマッサージの解説。アイシング・ストレッチングなどの解説。特殊環境下での対応。アンチテーピング(ドーピング防止とドーピングコントロール)。トップアスリートの育成・強化の方法とその評価。競技力向上のためのチームマネジメント。について分かりやすく講義する。

授業の方法
授業はパワーポイント及び配布物資料で実施しコンディショニングの事例を紹介しコンディショニングのDVDも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。また、授業の終わりに確認の小テストを実施し、フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
ノートやプリントは毎回必ず持参すること、授業中は口頭説明にも注意を向けノートやプリント等にメモしながらノート作成を行うこと。口頭で説明したことにも重要な事柄が含まれる。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	50%	30%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされたいないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされたいないが、板書や課題提出ができなかった。
コンディショニングについての基礎知識・領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解できなかった。
知識に基づく思考・判断	幅広い分野の知識・理解をもち、問題に対して多角的な思考・判断力を示すことができた。	多様な思考力・判断力が身につけることができた。	多様な思考力・判断力が一定程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がある程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目』	日本体育協会	日本体育協会	2005		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツとヘルスケア (科目ナンバリング: SPS422068, SPS522067)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)、三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツとヘルスケアについての基礎的な科学的知識を深め指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく(90分)	ガイダンスの内容を理解しておく(90分)
2	アスリートの外傷・障害と対策	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
3	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画(実施上の留意点)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
4	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画(進め方)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
5	コンディショニングの手法(テーピング)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
6	コンディショニングの手法(テーピング演習)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
7	コンディショニングの手法(テーピング演習)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
8	コンディショニングの手法(テーピング演習)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
9	コンディショニングの手法(スポーツマッサージ)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
10	コンディショニングの手法(ストレッチング・アイシング)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
11	特殊環境下での対応	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
12	アンチドーピング(ドーピング防止)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
13	アンチドーピング(ドーピングコントロール)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
14	トップアスリートの育成・強化の方法とその評価	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
15	競技力向上のためのチームマネジメント	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
16	まとめ	ノート、プリントで講義内容を確認しておく(90分)	専門用語の意味や授業内容を理解しておく(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツと栄養 (科目ナンバリング: SPS422067, SPS522066)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
この科目では「スポーツと栄養」についての理解と実践方法を学ぶ。また、スポーツ選手の栄養・食事管理・コンディショニング維持に必要な知識を修得する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)と(4)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
基本的な栄養学について理解をするとともに日常の食材や食品から栄養のバランスや摂取量を判断できる能力も養い、コンディショニングの維持が実際にできるよつにする。

授業全体の内容と概要
スポーツ種目別の栄養・食事内容の特徴、身体組成の測定方法、また、トレーニング期、調整期、試合前後それぞれのステージにおける食事の特徴や、アスリートと一般人における食事の相違点などについて解説する。

授業の方法
板書を中心に、実際のスポーツチームの栄養管理方法等のDVDなども取り入れながら講義形式で実施する。実際に食事調査に関しても実際にグループワークで行い、そこから見えてくる問題に対して取り上げ解説する。小テストは5回実施し、回収後フィードバックとして回答解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
単位認定に必要な出席回数は1全体授業数の3分の2以上とする。また遅刻3回で欠席1回とみなす。日本体育協会講習会科目#12、#36使用。「公認スポーツ指導者養成テキスト」のワークブックから問題を出す。詳細については授業中に指示する。

資格指定科目
スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は全体授業数の3分の2以上とする。定期試験、出席、レポート提出を上表の基準で評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	5%	5%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(理解力)	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を深く理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を概ね理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を多少理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を理解できなかった。
汎用的機能(思考力)	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について深く考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について概ね考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について多少考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について考察できなかった。
態度・志向性(意欲)	授業を休まず出席できた。(15回)	授業を概ね休まず出席できた。(14-13回)	授業を休むことがあるが出席できた。(12-11回)	授業を休みがちだ(10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(9-0回)

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本体育協会講習会科目#12、#36』	日本体育協会				
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ホ-ツと栄養 (科目ナンバリング:SPS422067, SPS522066)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及びスポーツと栄養(5大栄養素・栄養のバランス)(#12)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
2	炭水化物・穀物・主食	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
3	たんぱく質・筋肉づくり・主食	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
4	脂質の栄養学的意義	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
5	食物繊維・野菜	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
6	スポーツと栄養(食事の摂り方・水分補給)(#12)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
7	コンディショニング維持とビタミン	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
8	コンディショニング維持とミネラル	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
9	アスリートの栄養摂取と食生活 (#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
10	アスリートの栄養摂取と食生活 (#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
11	アスリートの栄養摂取と食生活 (#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
12	アスリートの栄養摂取と食生活 (#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
13	外食と栄養のバランス	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
14	減量と食事	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
15	まとめ	今までの小テストについて確認をしておく事(90分)	整理したノートから試験範囲をまとめる事(90分)
16	定期試験実施日 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	試験準備(90分)	試験のふりかえり(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経営論 (科目ナンバリング: MAN423027, MAN523031)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
国際経営の歴史的变化、全体像、国際経営の成果、課題について学ぶ。国際企業の社会的責任や役割、グローバル企業として成長していく為の資質を考える。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
国際経営についての基礎的知識の修得。

授業全体の内容と概要
日本企業の国際経営について学び、実際の動きや将来の課題について考える。

授業の方法
板書、パワーポイントを用い、講義形式・学生参加型授業を行う。中間テスト、定期試験の解説等のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
出席重視、テキスト持参

資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
成績評価には10回以上の出席が必要です。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績9割以上。用語・理論共によく理解していた。	試験の成績8割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績7割以上。用語・理論をある程度理解していた。	試験の成績6割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績6割以下。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができていた。	思考力・表現能力共に良い。自分の考えを適切に伝えることができていた。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができていた。	思考力・表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えるのに苦労していた。	思考力・表現力共に弱い。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『はじめての国際経営』	中川 功一, 林 正 他	有華閣ストウディア	2017	978-4-641-	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経営論 (科目ナンバリング: MAN423027, MAN523031)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業全般、評価方法についてガイダンス(シラバスの説明) 国際経営とは何か	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
2	国際経営とは何か 海外進出の理由	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
3	海外直接投資の理論	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
4	多国籍企業による国際競争の歴史 多国籍企業の栄枯盛衰	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
5	多国籍企業による国際競争の歴史 第二次世界大戦前後	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
6	多国籍企業の組織デザイン 組織デザインから見ること	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
7	多国籍企業の組織デザイン 多国籍企業の戦略と組織	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
8	中間テスト 海外子会社の経営	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
9	海外子会社の経営 海外子会社が担う多様な役割	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
10	国際マーケティング マーケティングとは何か	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
11	国際マーケティング 国際マーケティングのプロセス	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
12	ものづくりの国際拠点展開 単独海外生産拠点の設立・運営	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
13	ものづくりの国際拠点展開 国際生産ネットワーク	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
14	国際的な人的資源管理 グローバル人材の時代	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
15	国際的な人的資源管理 海外駐在員のマネジメント	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
16	総合評価 定期試験60分、解説30分	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)

授業計画			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イノベーションマネジメント論 (科目ナンバリング: MAN423030, MAN523034)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 裕樹 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 阿部 裕樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について実例を挙げて解説する。		

概要

履修目標
近年、グローバル社会においてイノベーションの創出は国家レベルの重点政策として取り込まれている。我が国においても少子高齢化、人口減少社会、経済のグローバル化の進展といった課題解決に向けてイノベーションの必要性が益々高まってきている。本講義では、イノベーションの本質を理解し、その創出過程のメカニズムを明らかにするとともに、成功する為に必要な条件について理解することをねらいとする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
イノベーションの本質について理解し、将来、自らイノベーションを起こすことで、社会に価値を提供できるような考え方、発想を持てるようにする。選ばれた天才が発明するのではなく、身近なレベルでもイノベーションを起こせるということを感じることが出来る。

授業全体の内容と概要
イノベーションとは単に技術的な発明だけでなく、既に存在するものを組み合わせる新しい価値を創出することも可能である。古典的な理論から始まり、主流となった破壊的イノベーション、そして最新のオープンイノベーション等の概念について体系的に学習することで、イノベーションの多様な在り方について理解する。また、イノベーションを起こす際のマネジメント理論についても習得する。

授業の方法
授業はパワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明をして基礎理論を習得したあと、事例を動画で視聴することで、より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと、考えたことを改めて認識する機会とし、気づきを得てほしい。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
本講義は出席および授業参加度を重視する。出席とは、ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し、試験と合わせて最終評価の対象とする。

資格指定科目
教職課程(商業) 選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	20%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションについての理解	国家戦略としてのイノベーションの重要性についてグローバルの視点から説明することができた。	イノベーションの価値について様々な例を挙げて説明することができた。	イノベーションの意味について説明することができた。	イノベーションの意味について理解していた。	イノベーションの意味について全く理解していなかった。
イノベーションの理論についての理解	今後、有望なイノベーションのテーマについてイメージすることができた。	イノベーションの理論について様々な例を挙げて説明することができた。	イノベーションの理論について説明することができた。	イノベーションの理論について理解していた。	イノベーションの理論について全く理解していなかった。
イノベーションを起こす戦略とマネジメントについての理解	イノベーションを起こすことが可能な企業像を具体的にイメージすることができた。	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて成功する要素を具体的に説明することができた。	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて説明することができた。	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて理解していた。	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて全く理解していなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イノベーションマネジメント論 (科目ナンバリング: MAN423030, MAN523034)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 裕樹 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 阿部 裕樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について実例を挙げて解説する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 本授業における概要とガイダンス	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
2	イノベーションとは何か?	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
3	日本発のイノベーション	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
4	ドラッカーの「7つの機会」(1)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
5	ドラッカーの「7つの機会」(2)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
6	ドラッカーの「7つの機会」(3)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
7	破壊的イノベーション(1)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
8	破壊的イノベーション(2)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
9	オープンイノベーション	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
10	リバース・イノベーション	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
11	イノベーション実現のための戦略(1)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
12	イノベーション実現のための戦略(2)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
13	イノベーションを起こすマネジメント(1)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
14	イノベーションを起こすマネジメント(2)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策。(90分)	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	eビジネス論 (科目ナンバリング: MAN422017, MAN522021)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 裕樹 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 阿部 裕樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役のITコーディネータとしての実務経験を活かし、ビジネスにおけるIT(とりわけインターネット)の活用価値について実例を挙げて解説する。		

概要

履修目標
近年、ビジネスにおいてインターネットの活用は当たり前と言えるが、特にスマートフォンの普及によりビジネスモデルそのものが多様化しつつある。本講義では、企業がインターネットを活用することで、いかに生産性向上を図ることができるかを認識することができる。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
インターネットビジネスの多様性とその価値について理解し、安全かつ効果的な活用ができるための基礎知識を習得し、社会に出てから実践に役立つようなスキルを身に付ける。

授業全体の内容と概要
本講義ではeビジネスの基本から理解し、ビッグデータ、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)、RPA、キャッシュレス社会といった最新のトレンドの動向にも触れることでこれからのインターネットの活用価値と可能性について理解する。またソーシャルメディアの台頭により、情報発信・コミュニケーションを主目的としたインターネット活用のパラダイムシフトが急速に進行していることについても認識を深める。

授業の方法
授業はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明をして基礎理論を習得したあと、事例を動画で視聴することで、より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと、考えたことを改めて認識する機会とし、気づきを得てもらいたい。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
本講義は出席および授業参加度を重視する。出席とは、ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し、試験と合わせて最終評価の対象とする。

資格指定科目
教職課程(商業) 選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	20%	0%	0%	10%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	20%	0%	0%	10%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>eビジネスについての理解</td> <td>eビジネスで成果を上げている企業について経営戦略と関連付けて説明することができた。</td> <td>eビジネスで成果を上げている企業について成功要因について説明することができた。</td> <td>eビジネスとは何かについて例を挙げて説明することができた。</td> <td>eビジネスとは何かについて理解していた。</td> <td>eビジネスについて全く理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>eビジネスを実践している企業の調査</td> <td>eビジネスを実践している企業の調査し、経営戦略と関連付けて分析することができた。</td> <td>eビジネスを実践している企業の調査し、成功要因を分析することができた。</td> <td>eビジネスを実践している企業の調査し結果をレポートとしてまとめることができた。</td> <td>eビジネスを実践している企業の調査をすることができた。</td> <td>eビジネスを実践している企業の調査ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>eビジネスの現在と未来の可能性についての理解</td> <td>eビジネスの未来について具体的にイメージし、説明することができた。</td> <td>eビジネスの可能性について説明することができた。</td> <td>eビジネスの現在について説明することができた。</td> <td>eビジネスの現在について理解していた。</td> <td>eビジネスの現在について全く関心がなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	eビジネスについての理解	eビジネスで成果を上げている企業について経営戦略と関連付けて説明することができた。	eビジネスで成果を上げている企業について成功要因について説明することができた。	eビジネスとは何かについて例を挙げて説明することができた。	eビジネスとは何かについて理解していた。	eビジネスについて全く理解していなかった。	eビジネスを実践している企業の調査	eビジネスを実践している企業の調査し、経営戦略と関連付けて分析することができた。	eビジネスを実践している企業の調査し、成功要因を分析することができた。	eビジネスを実践している企業の調査し結果をレポートとしてまとめることができた。	eビジネスを実践している企業の調査をすることができた。	eビジネスを実践している企業の調査ができなかった。	eビジネスの現在と未来の可能性についての理解	eビジネスの未来について具体的にイメージし、説明することができた。	eビジネスの可能性について説明することができた。	eビジネスの現在について説明することができた。	eビジネスの現在について理解していた。	eビジネスの現在について全く関心がなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
eビジネスについての理解	eビジネスで成果を上げている企業について経営戦略と関連付けて説明することができた。	eビジネスで成果を上げている企業について成功要因について説明することができた。	eビジネスとは何かについて例を挙げて説明することができた。	eビジネスとは何かについて理解していた。	eビジネスについて全く理解していなかった。																								
eビジネスを実践している企業の調査	eビジネスを実践している企業の調査し、経営戦略と関連付けて分析することができた。	eビジネスを実践している企業の調査し、成功要因を分析することができた。	eビジネスを実践している企業の調査し結果をレポートとしてまとめることができた。	eビジネスを実践している企業の調査をすることができた。	eビジネスを実践している企業の調査ができなかった。																								
eビジネスの現在と未来の可能性についての理解	eビジネスの未来について具体的にイメージし、説明することができた。	eビジネスの可能性について説明することができた。	eビジネスの現在について説明することができた。	eビジネスの現在について理解していた。	eビジネスの現在について全く関心がなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	eビジネス論 (科目ナンバリング: MAN422017, MAN522021)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 裕樹 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 阿部 裕樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現代のITコーディネータとしての実務経験を活かし、ビジネスにおけるIT(とりわけインターネット)の活用価値について実例を挙げて解説する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 本授業における概要とガイダンス	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
2	eビジネスとは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
3	eビジネスにおけるWeb戦略	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
4	デジタルマーケティングの動向	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
5	ソーシャルメディア概論	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
6	BtoBモデルとBtoCモデル	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
7	クラウドコンピューティング	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
8	IoT(モノのインターネット)とは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
9	IoT(モノのインターネット)のビジネスへの応用	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
10	迫りくるキャッシュレス社会	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
11	AI(人工知能)の基本	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
12	AI(人工知能)のビジネスへの応用	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
13	RPAについて	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
14	eビジネスに必要な情報セキュリティ	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策。(90分)	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業社会論 (科目ナンバリング: SOC422038, SOC522040)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	近代産業社会はどのように成り立ってきたのか、その構造と特質はどのようなものか、また、現代の産業社会の変化について学習する。															
授業の位置づけ	経営学科のDPの「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。															
到達目標	産業社会に関する理論や実態について単に知識を習得するだけでなく、高度産業化の過程をわれわれの日常生活との多面的な関わりでとらえ、批判的に考察する姿勢を持てるようになることが目標となる。															
授業全体の内容と概要	まず、産業革命によって近代産業社会が生まれ出されたこと、近代化と産業化の関係と矛盾などについて学ぶ。次に、産業化は社会をどのように変えたかを理解し、20世紀半ば以降の第三世界の産業化にも触れる。そして、現代の産業社会の変化はわれわれの生活に何をもちたらしめているかを探り、新しい生産世界について展望し、考察する。															
授業の方法	授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。															
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>○</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL												
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業												
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業		その他(授業の方法参照)												
履修上の注意事項	さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追再試験結果が保留の場合、レポート課題の提出が必要。再試験合格の場合、評価はCとする。															
資格指定科目																

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分が90%以上の正答があった。	同部分で80%以上90%未満の正答であった。	同部分で70%以上80%未満の正答であった。	同部分で60%以上70%未満の正答であった。	同部分の正答が60%に満たなかった。
思考力・判断力等	脱工業化概念を軸にして、現代産業社会の構造的特質を十分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
高度産業社会への分析力・主体性等	近代産業社会が脱工業化社会・脱産業社会へ変化してきたことに伴うさまざまな社会的問題への十分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業社会論 (科目ナンバリング: SOC422038, SOC522040)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス…全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法説明(シラバス説明を含む)	シラバス内容の事前確認(90分)	目的とねらいについての復習・確認(90分)
2	近代化と産業社会の成立 …インダストリアリスの誕生	産業社会とは何かに関する事前考察(90分)	近代化における産業化・工業化についての復習・理解(90分)
3	産業社会の構造 …基礎社会の衰耗、エンプロイメント市場化	産業化・工業化が社会に何をもちたらしめたかの事前考察(90分)	産業化・工業化による社会変動についての復習・理解(90分)
4	高度産業社会への移行 1. 脱工業化社会の到来 (1) 産業構造・職業構造の変	現代産業社会の特質に関する事前考察(90分)	脱工業化・脱産業化の意味と趨勢についての復習・理解(90分)
5	高度産業社会への移行 1. 脱工業化社会の到来 (1) 産業構造・職業構造の変	現代の産業構造・職業構造の特質に関する事前考察(90分)	産業・職業の構造変化による働くことの変化についての復習・理解(90分)
6	高度産業社会への移行 1. 脱工業化社会の到来 (2) 知識集約化	高度産業化段階における知識集約化に関する事前考察(90分)	知識集約社会・知識基盤社会についての復習・理解(90分)
7	高度産業社会への移行 1. 脱工業化社会の到来 (3) 資本主義の文化的矛盾	現代産業社会の問題点についての事前考察(90分)	解決すべき問題の復習・確認(90分)
8	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (1) グローバリゼーションと産業	グローバル化における企業組織と官僚制に関する事前考察(90分)	グローバル化とはどのような過程かについての事前考察(90分)
9	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本の経営システム	近代社会の官僚制とは何かについての事前考察(90分)	近代組織が官僚制制であることの復習・確認(90分)
10	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本の経営システム	産業活動における企業組織と官僚制に関する事前考察(90分)	産業官僚制とは何かについての復習・理解(90分)
11	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本の経営システム	日本の経営システムの特質についての事前考察(90分)	日本の経営システムの非官僚制的側面についての復習・理解(90分)
12	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本の経営システム	日本の経営システムが迫られている変化についての事前考察(90分)	日本の経営システムに対する評価の変遷と環境変化についての復習・理解(90分)
13	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (3) 就業者のネットワーク	日本の経営システムが迫られている変化についての事前考察(90分)	働く者の連帯とネットワークのあり方に関する復習・理解(90分)
14	新しい「生産世界」へ …産業主義を超えて	産業社会を超える社会のあり方についての事前考察(90分)	インダストリアルイズムとは何であったかの復習・再確認・理解(90分)
15	総括と試験概要説明	ノートの整理と重要事項のチェック(90分)	評価に関する確認・理解 試験対応のための復習・理解(90分)
16	試験および解説 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備(90分)	解説内容の確認・理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道産業史(M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	(単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
本講義は、学生が北海道における産業の歴史の変遷について学ぶことを目的としている。北海道は明治政府によって計画的に開拓された土地であり、開拓者の苦勞や各産業の発展過程、各産業の特徴について理解することをねらいとしている。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
本講義終了時の達成目標は以下の通り。北海道の産業における歴史の変遷の概要を自分の言葉で述べるができる。北海道における各産業の特徴を自分の言葉で述べるができる。北海道における各産業の課題を自分の言葉で述べるができる。

授業全体の内容と概要
本講義は、原則1回の講義で1つの産業の歴史、特徴、課題等を網羅的に学ぶが、1次産業(農業、酪農業、漁業、林業)については、政府による保護政策や農協という特有の組織があることから、詳しく解説する。また、講義回数を重ねて行く中で、他産業と比較分析を交えながら、各産業の特徴をより深く理解する。

授業の方法
本講義は、パワーポイント及び配布資料で進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は、スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして、講義レポートを実施し、レポートを提出した学生を出席扱いとする。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
本講義は4年生を対象としていることから、受講マナーを守れる学生のみ受講を認める。マナーの守れない学生は履修中止を勧告する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
85%	0%	0%	0%	0%	15%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ内容を自分の言葉で要約ができ、かつ自分の意見もある。	講義で学んだ内容を自分の言葉で要約できている。	講義で学んだ内容が書かれている。	最低限、読み手に内容が伝わる。	読み手に内容が伝わらない。
北海道における産業別の歴史と特徴について	講義で学んだ北海道における産業別の歴史と特徴をそれぞれ自分の言葉で3つ以上述べるができる。	講義で学んだ北海道における産業別の歴史と特徴をそれぞれ3つ以上述べるができる。	講義で学んだ北海道における産業別の歴史と特徴を述べるができる。	最低限、講義で学んだ北海道全体の歴史を理解している。	北海道の歴史を全く理解していない。
課題解決策の提案力	北海道産業史の課題を3つ以上述べるができる。かつその課題に対して具体的に精度の高い解決策を提案できる。	北海道産業史の課題を3つ以上述べるができる。	北海道産業史の課題を3つ以上述べるができる。	北海道産業史の課題を最低1つ述べるができる。	そもそも北海道産業史の課題を見つけない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『北海道産業史』	大沼盛男	北海道大学図書刊行会	2002年	978-4832963313	絶版のため中古でしか購入できない
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道産業史(M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	(単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	「北海道産業史」ガイダンス シラバスの説明(講義の進め方, 評価方法など)	必ずシラバスを読んでから, 初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	北海道産業と北海道開拓のはじまり	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
3	北海道産業の歴史的区分	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
4	北海道における農業と酪農の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
5	北海道における林業と漁業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
6	北海道における食品工業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
7	北海道における石炭業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
8	北海道における製造業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
9	北海道における製造業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
10	北海道における建設業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
11	北海道における交通・運輸業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
12	北海道における卸・小売業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
13	北海道における観光・ホテル業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
14	北海道におけるIT産業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
15	まとめ 試験対策	定期試験に向けて, これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備をしてくること。(90分)	フィードバックを受けて, 北海道産業史を総括すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス法務 (科目ナンバリング: LAW422025, LAW522029)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
法令違反が企業の存亡をも左右する現在、法律を守りそれに従って行動することが強く求められる。ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得することを目指す。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
ビジネス実務法務検定試験(東京商工会議所主催)を通して、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得する。基本的法律知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できるようにする。

授業全体の内容と概要
ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を修得することにより、ビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。ビジネス活動で日常起こりうる法的な問題の認識。具体的には、民法・商法・経済刑法・知財法・独禁法・労働法・税法等、コンプライアンス・CSR(企業の社会的責任)・内部告発。ビジネス実務法務検定試験受験対策講座。

授業の方法
授業(第3回から第4回の計2回)は、資料をパワーポイントで投影し、資料を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。問題演習を行う授業(第5回から第13回の計9回)は、資料を配布して実施する。確認テストは、講義の理解を深めるために1回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(オンライン授業の場合は実施しない)実施する。小テストは、講義の理解を深めるために2回(前年実績)実施する。補講は原則2回を限度として実施する(欠欠などの学生に対しては、補講を出席することによって単位認定基準を満たす場合のみ実施する)。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
・私語などの迷惑行為は厳禁。 ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。 ・六法を持参することを推奨。 ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後、プリント配布はしません。

資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上 課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べた。	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた。	法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取れた。	法律の条文を読み取れなかった。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた。	事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を理解できた。	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった。
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えられた。	解答は答えているが一部に解答と関係ないことを答えていた	解答が一通り答えているが改善すべき点があった	解答を部分的には答えているが、的確ではなかった	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ポケット六法 令和3年版』	佐伯 仁志, 大村 敦志 / 編集代表	有斐閣	2020年	9784641009219	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス法務 (科目ナンバリング: LAW422025, LAW522029)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 ビジネス実務法務検定とは	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	ガイダンス シラバスの説明 ビジネスに関わる法律とは コンプライアンス能力とは	シラバスの確認 コンプライアンス能力についての調べ学習(90分)	復習(90分)
3	民法の概要1 民法の基本原則 契約とは 貸借・使用貸借・消費貸借	民法の基本原則、契約(貸借・使用貸借・消費貸借)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
4	民法の概要2 民法の基本原則、契約(諾成契約と要物契約) 契約の一般的なきまり(承諾・条件・期限)	民法の基本原則、契約のきまりについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
5	問題演習 契約・不動産物権変動 確認テスト1(前年実績)	契約、物権変動についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分) 確認テストの復習
6	問題演習 債務不履行、同時履行の抗弁権、担保責任、危険負担	債務不履行、同時履行の抗弁権、担保責任、危険負担についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分)
7	問題演習 未成年者、成年被後見人、意思表示(心裡留保・虚偽表示・錯誤・詐欺・強迫)	制限行為能力者、意思表示についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分)
8	制限行為能力者の法の見方・考え方	制限行為能力者についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
9	錯誤・詐欺の法の見方・考え方 問題演習 貸借・賃借人の義務、借地・借家・賃借権	貸借・賃借人の義務、借地・借家・賃借権についての調べ学習(90分)	配布資料の復習 問題演習の復習(90分)
10	電子消費者契約特例法・消費者契約法の見方・考え方 問題演習 債権譲渡、物権(留置・質・抵当権)	債権譲渡、物権(留置・質・抵当権)、保証債務についての調べ学習(90分)	配布資料の復習 問題演習の復習(90分)
11	不法行為についての演習問題	不法行為についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分) 次回小テストを実施するので、復習しておくこと
12	問題演習 代理(表見・無権)、不法行為 小テスト1(前年実績)	過失相殺、使用者責任、製造物責任、時効についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分) 小テスト1の復習 次回小テストを実施するので、復習しておくこと
13	問題演習 過失相殺、使用者責任、製造物責任、時効 小テスト2(前年実績)	第5回から第13回まで復習(90分)	問題演習の復習(90分) 小テスト2の復習
14	まとめ 問題演習の復習	第5回から第13回まで復習(90分)	問題演習の復習(90分)
15	まとめ 問題演習の復習 定期試験の説明	第5回から第13回まで復習(90分)	試験範囲の確認により、第3回から第14回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説、採点方法の説明	試験範囲の確認、第3回から第14回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ケーススタディ (科目ナンバリング: MAN424022, MAN524026)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学部・教授)・石山 玄幸(経営学部・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		

概要

履修目標	本講義は、学生が企業分析の手法を学び、数字だけではなく、企業の組織としての行動を把握できる能力を身に付けることをことを目標としている。
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標	本講義修了時の達成目標は、1年次より学んできた経営学の基本となる経営戦略、経営組織、マーケティング、財務会計等の知識を活用して、中長期のプランで企業行動を把握できること。
授業全体の内容と概要	本講義は、1つの企業について、しっかり経営分析をした上で、課題を見つけ代替案、事業計画書を作成するところまで一連の作業を行うために、前半は、経営戦略、経営組織、マーケティング、財務会計について復習する。後半は、グループで1つの企業を分析した上で、今後の事業計画を策定する。

授業の方法	本講義はパワーポイント及び配布資料を進める。1枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義の後半は、アクティブラーニングを活用し、企業の事例を基にグループワークやディスカッションを行う。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										

履修上の注意事項	本講義は、実際の企業事例から学ぶことから、財務の内容が理解できなくてはならない。そのため、「財務会計論」の単位を取得していなければ受講できない。
----------	--

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	100%	0%	0%	0%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ケーススタディに係るグループワークにおける協調性とリーダーシップ	グループワークに積極的に参加し、リーダーシップを発揮しながら、意見をまとめることができた。	グループワークに積極的に参加し、意見をまとめることに協力ができた。	グループワークに参加し、周りを協調した発言ができた。	グループワークに参加し、最低限の発言をした。	グループワークに参加せず協調性がなかった。
企業の分析力	講義で学んだ手法に加え、独自の視点で企業分析ができた。	講義で学んだ手法を使い、企業分析がしっかりとできた。	講義で学んだ手法を使い、ある程度の企業分析ができた。	講師のサポートを受けながら、最低限の企業分析ができた。	資料をみて企業の分析ができなかった。
課題解決策を含む事業計画書の総合的な実現性	企業の課題を複数個みつけ、それぞれ企業の現状を踏まえた解決策を提案することができた。	企業の課題を複数個みつけ、それぞれに対し実現可能な解決策を提案することができた。	企業の課題を複数個みつけ、それぞれに対して解決策を提案することができた。	企業の課題を見つけ、その解決策を提案できた。	そもそも企業の課題を見つけないことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『MBAビジネスプラン』	グロービス経営大学院	ダイヤモンド社	2010年	978-4478014745	
2	『MBA経営戦略』	グロービス経営大学院	ダイヤモンド社	2017年	978-4478066027	
3	『MBAファイナンス』	グロービス経営大学院	ダイヤモンド社	2009年	978-4478008768	
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ケーススタディ (科目ナンバリング: MAN424022, MAN524026)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学部・教授)・石山 玄幸(経営学部・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明(講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など。)	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
2	経営戦略 戦略的思考	経営戦略に関する新聞記事やネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
3	経営戦略 環境分析	経営戦略に関する新聞記事やネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
4	経営管理・組織 バーナードの組織論	経営管理・組織に関する新聞記事やネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
5	経営管理・組織 リーダーシップ	経営管理・組織に関する新聞記事やネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
6	マーケティング マーケティングミックス	マーケティングに関する新聞記事やネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
7	マーケティング PPMマネジメント	マーケティングに関する新聞記事やネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
8	財務会計 財務諸表の復習	財務会計に関する新聞記事やネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
9	財務会計 財務分析のポイント	財務会計に関する新聞記事やネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
10	企業分析 財務分析	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
11	企業分析 課題の析出	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
12	企業分析 経営戦略の策定	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
13	企業分析 事業計画の策定	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
14	プレゼンテーション(グループ発表)	プレゼンテーションの準備をしておくこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
15	プレゼンテーション(グループ発表)	プレゼンテーションの準備をしておくこと。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
16	課題講評(60分)、フィードバック(30分)	これまでの講義内容を自分で振り返ること。(90分)	課題講評とフィードバックを受けて自分の回答を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学 (M) (科目ナンバリング: CLP123072, CLP423049, CLP523045)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>学生が、コミュニティ心理学の理念と目標を理解し、コミュニティ心理学の介入方法について理解する。さらに、学生が、いくつかのコミュニティ活動の事例について見聞きしながら、実際のコミュニティにおける問題解決への心理学的アプローチの可能性について考察する。</p>

授業の位置づけ
<p>経営学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する科目。</p>

到達目標
<p>コミュニティ心理学で扱われる理論や専門用語の内容を理解する。実際のコミュニティ活動を通じた問題解決の事例を、心理学の知見を援用しながら説明する。コミュニティ心理学に関するテーマについて、調べ、整理し、スライド資料を用いて紹介する。</p>

授業全体の内容と概要
<p>コミュニティ心理学の理念・目的に基づき、人が環境に適応するための援助だけでなく、個人を取り巻く環境改善への介入・援助の方法について学ぶ。さらに、従来の臨床心理学的なアプローチに加え、社会心理学的アプローチの可能性についても考察する。</p>

授業の方法
<p>前半は板書とパワーポイント、配布印刷物を活用しながら、講義形式で行う。前半の最後に授業内課題を実施し、知識の定着を図る。後半は履修生によるプレゼンテーションを実施する。質問には随時対応し、課題にはコメントをしてフィードバックをする。</p>

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
<p>授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返 等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。</p>

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は星橋道都大学学生便覧に準じる。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	100%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	100%	0%	0%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門知識の理解</td> <td>専門知識について、9割以上理解できた。</td> <td>専門知識について、8割程度理解できた。</td> <td>専門知識について、7割以上理解できた。</td> <td>専門知識について、6割以上理解できた。</td> <td>専門知識について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>専門知識の応用</td> <td>提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を詳しく説明できる。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や優れた解決策を提示することができた。</td> <td>提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できる。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。</td> <td>提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できた。</td> <td>提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができた。</td> <td>提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を9割以上できた。</td> <td>プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を8割程度できた。</td> <td>プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を7割程度できた。</td> <td>プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を6割程度できた。</td> <td>プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を満たすことができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	専門知識の理解	専門知識について、9割以上理解できた。	専門知識について、8割程度理解できた。	専門知識について、7割以上理解できた。	専門知識について、6割以上理解できた。	専門知識について理解できなかった。	専門知識の応用	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を詳しく説明できる。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や優れた解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できる。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができなかった。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を9割以上できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を8割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を7割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を6割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を満たすことができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
専門知識の理解	専門知識について、9割以上理解できた。	専門知識について、8割程度理解できた。	専門知識について、7割以上理解できた。	専門知識について、6割以上理解できた。	専門知識について理解できなかった。																								
専門知識の応用	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を詳しく説明できる。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や優れた解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できる。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができなかった。																								
プレゼンテーション	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を9割以上できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を8割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を7割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を6割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を満たすことができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論』</td> <td>日本コミュニティ心理学研究委員会</td> <td>新曜社</td> <td>2019</td> <td>978-4-7885-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『コミュニティ心理学入門』</td> <td>植村勝彦</td> <td>ナカニシヤ出版</td> <td>2007</td> <td>978-4-7795-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論』	日本コミュニティ心理学研究委員会	新曜社	2019	978-4-7885-		2	『コミュニティ心理学入門』	植村勝彦	ナカニシヤ出版	2007	978-4-7795-		3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論』	日本コミュニティ心理学研究委員会	新曜社	2019	978-4-7885-																																					
2	『コミュニティ心理学入門』	植村勝彦	ナカニシヤ出版	2007	978-4-7795-																																					
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学 (M) (科目ナンバリング: CLP123072, CLP423049, CLP523045)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (シラバスの説明, コミュニティとは?)	コミュニティについて調べる (90分)	本授業で扱うテーマを確認する (90分)
2	コミュニティ心理学の歴史と特徴	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
3	コミュニティ心理学の理念と心理学者の役割	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
4	コミュニティ心理学の理論とモデル	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
5	予防プログラム	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
6	危機介入とコンサルテーション	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
7	ソーシャルサポートとセルフヘルプ	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
8	コミュニティ感覚と市民参加	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
9	これまでの振り返り	これまでの内容を振り返る (90分)	疑問点をまとめる (90分)
10	プレゼンテーション (テーマ, 発表順の決定, 準備)	関連する文献を読む (90分)	発表テーマに関する資料を収集する (90分)
11	プレゼンテーション (準備, ディスカッション)	発表テーマに関する資料を収集する (90分)	スライド資料をまとめる (90分)
12	プレゼンテーション発表とディスカッション (第1グループ)	プレゼンテーションの準備をする (90分)	発表された内容を振り返る (90分)
13	プレゼンテーション発表とディスカッション (第2グループ)	プレゼンテーションの準備をする (90分)	発表された内容を振り返る (90分)
14	プレゼンテーション発表とディスカッション (第3グループ)	プレゼンテーションの準備をする (90分)	発表された内容を振り返る (90分)
15	総合的まとめ	これまでの内容を振り返る (90分)	疑問点をまとめる (90分)
16	これまでの解説とフィードバック	これまでの内容を振り返る (90分)	疑問点をまとめる (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学（M）（科目ナンバリング：SOP123073，SOP423048，SOP523044）				
授業担当者（所属・職名）	吉澤 英里（社会福祉学科・准教授）	研究室所在	1号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：吉澤 英里）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
産業・組織について、心理学の領域ではどのような研究がなされているのかを理解する。さらに、そのような心理学的知見が社会（産業・福祉）の中でどのように活用されているのかを考える。																								
授業の位置づけ																								
経営学科のDP「1（2）」、「2（2）」に対応する。																								
到達目標																								
産業心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を説明する。 産業心理学領域で扱われる理論や専門用語が、社会活動の中でどのように活かされているのかを指摘する。 学んだ知識の枠組みを手掛かりとして、現在の産業分野の社会問題の原因や解決方法を考察する。																								
授業全体の内容と概要																								
スライドや板書、配布資料を活用しながら、講義形式で行う。また、授業中に振り返り課題を実施し、知識の定着を図る。																								
授業の方法																								
スライドや板書、配布資料を提示しながら講義形式を中心に進行する。途中にディスカッションを取り入れることがある。質問には随時対応し、振り返り課題にはコメントをしてフィードバックをする。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
授業の運営・進行を著しく妨害するような行為（私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返 等）が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
再試験は実施しない。単位認定に必要な最低出席回数は星槎道都大学学生便覧に準じる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	30%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について、9割以上理解できた。	専門知識について、8割程度理解できた。	専門知識について、7割以上理解できた。	専門知識について、6割以上理解できた。	専門知識について理解できなかった。
専門知識の活用	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業・福祉）活動を3つ以上挙げ、その理由についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業・福祉）活動を2つ以上挙げ、その理由についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業・福祉）活動を1つ以上挙げ、その理由についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業・福祉）活動を1つ以上挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業・福祉）活動を挙げることでできなかった。
専門知識の応用	提示された社会問題の原因や解決策を1つ挙げることができ、その理由を説明できた。さらに、産業心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を2つ提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を1つ挙げることができ、その理由を説明できた。さらに、産業心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を1つ提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を1つ挙げることができ、その理由を説明できた。	提示された社会問題の原因や解決策を1つ挙げることができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることでできなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『産業・組織心理学への招待』	白根三四郎	有斐閣	2009	978-4-641-	
2	『入門！産業社会心理学』	杉山崇	北樹出版	2015	978-4-7793-	
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学(M) (科目ナンバリング: SOP123073, SOP423048, SOP523044)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明, 産業心理学の歴史と研究領域)	産業心理学とはどのような学問領域かを調べる(90分)	産業心理学で扱う内容について確認する(90分)
2	動機づけ(モチベーションの理論の基礎)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
3	動機づけ(モチベーションの理論の発展)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
4	職場ストレスとカウンセリング(ストレスモデル)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
5	職場ストレスとカウンセリング(産業カウンセリング)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
6	まとめ(動機づけと職場ストレス, カウンセリング)	2回から5回までの内容を振り返る(90分)	これまでの内容について, 疑問点を整理する(90分)
7	集団と組織(集団の意思決定)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
8	集団と組織(集団状況でのパフォーマンス)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
9	集団と組織(多様性と共同社会)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
10	リーダーシップの諸理論	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
11	まとめ(集団・組織とリーダーシップ)	7回から10回までの内容を振り返る(90分)	これまでの内容について, 疑問点を整理する(90分)
12	消費者行動(消費行動を規定する心理要因)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
13	消費者行動(消費者をとりまく心理要因)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
14	人事アセスメント	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
15	まとめ	12回から14回までの内容を振り返る(90分)	これまでの内容について, 疑問点を整理する(90分)
16	60分の試験終了後, 残りの30分で解説を行う。	資料を確認し, 自分の言葉で授業内容を説明できるように準備する(90分)	試験でわからなかったことを再確認する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース以外）		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ホスピタリティマネジメント論（科目ナンバリング：TOS422043）				
授業担当者（所属・職名）	五ノ井 壽一（経営学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：五ノ井 壽一）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業での実務経験を有する教員がその経験を活かし、ホスピタリティについて講義する。		

概要

履修目標	「ホスピタリティ」が持つ基本的な理念を理解し、現代社会における重要性を学習する。																								
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」に対応する。																								
到達目標	自らの生活において「ホスピタリティ」の理念を実践できるようにホスピタリティの意義を理解する。																								
授業全体の内容と概要	観光関連産業をホスピタリティ産業とも呼ぶことがある。基本的な「ホスピタリティ」の意味や歴史などに触れ観光関連産業における「ホスピタリティ」の基本的な実践例を紹介しながら平素の講義を行う。																								
授業の方法	授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。様々な場面で意見を求めるのでしっかりと自分の意見を述べてほしい。その都度、講義中にフィードバックを行うので今後役に立ててほしい。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																		
履修上の注意事項	最低限の履修マナーを守ること。教科書を持参し、欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視するので予習復習はもちろんのこと積極的に調査研究を行うこと。																								
資格指定科目																									

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上。加えて、期日までにレポート提出のない学生は評価の対象としない。ファイナルレポートでネットからのコピー&ペーストを用いた場合、再履修とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	積極的に活動し、様々な媒体を通して調査・研究を行い、自分の意見を構築した。	やや積極性を欠くもののインターネットを中心に研究を行い自分の意見構築を試みた。	インターネットを中心にある程度研究活動をこなすことができた。自分なりの意見構築には至らなかった。	最低限の研究活動を行うこととなり、自分なりの意見を見つけ出すことができなかった。	最低限の研究活動が見られなかった。理解度も不十分で終わってしまった。
表現力（レポートについて）	十分な調査に基づいた、極めて優れたレポートを展開し、到達目標を完全に達成した。	それなりの調査に基づいたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥当と認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標をほぼ達成している。	合格と認められる最低限のレポートで到達目標に対する努力は認められる。	合格と認められる最低限のレポートに達しておらず調査・研究も不十分で到達目標を充足していない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『わかる！使える！ホスピタリティの教科書』	浦部義郎	PHP研究所			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース以外）		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ホスピタリティマネジメント論（科目ナンバリング：TOS422043）				
授業担当者（所属・職名）	五ノ井 壽一（経営学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：五ノ井 壽一）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業での実務経験を有する教員がその経験を活かし、ホスピタリティについて講義する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・ガイダンス	シラバスを読んでおくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
2	ホスピタリティとは	ホスピタリティについて情報を収集しておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
3	おもてなしの原点	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
4	ホスピタリティの文化と歴史（日本）	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
5	ホスピタリティの文化と歴史（海外）	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
6	ホスピタリティとサービスの違い	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
7	ホスピタリティ時代の到来	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
8	真実の瞬間とは	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
9	社会の潮流変化とホスピタリティ	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
10	お客様対応とホスピタリティ	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
11	環境変化とパラダイムシフト	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
12	企業の見えざる資産とは	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
13	今、企業が求めているもの	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
14	ホスピタリアンリーダーの条件	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
15	ホスピタリティの実例（日本国内外の会社）	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
16	まとめ（レポートの総評と解説）	講義を振り返り、質問事項があれば整理しておくこと（90分）	総評・解説を受けて、講義全体をふりかえること（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国書講読 (科目ナンバリング: CME423071, CME523082)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
英字新聞を読み、語彙力をつける。文法、構文を確認し読解力の向上を目指す。												
授業の位置づけ												
経営学科のDP「1(1)」、「1(4)」、「2(1)」に対応する。												
到達目標												
辞書を使い英字新聞を読み、語彙力高め、英文読解に慣れ、外国書講読のための基礎を身につける。												
授業全体の内容と概要												
毎週「The Japan Times」の中からホットな話題を選び読解の基礎を身につける。英文を読み、発音、イントネーションを確認する。構文、文法の理解を深める。												
授業の方法												
板書、パワーポイントを用いた授業を展開し、学生参加型授業を目指す。小テスト、定期試験の解説等のフィードバックを行う。												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
出席重視、辞書持参 毎週資料を用意する。テキストなし。												
資格指定科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
成績評価には10回以上の出席が必要です。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	0%	20%	40%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(発音・語彙・文法・読解等)	定期試験・小テストの合計で9割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解している。	定期試験・小テストの合計で8割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できる。	定期試験・小テストの合計で7割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解している。	定期試験・小テストの合計で6割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できない部分がある。	定期試験・小テストの合計で6割以下、文法・語彙に誤りが多く理解に問題あり。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどない。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはない。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障をきたす点がある。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思が伝わらない。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加している。クラスでの発表も多く積極的	意欲・関心・興味を持って授業に参加している。クラスでの発表に努め積極的	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加している。やや積極的	あまり意欲・関心・興味を感じられない。無難に授業を消化している。やや積極性に欠ける。	全く意欲・関心・興味を感じられない。遅刻・欠席が目立つ。積極性に欠ける。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						
参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『The Japan Times(英字新聞)』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国書講読 (科目ナンバリング: CME423071, CME523082)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業の進め方 採点に関すること、その他授業に関するガイダンス。(シラバスの説明) 経済面からの話題(1)	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
2	政治面からの話題(1) 単語小テスト(1)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
3	社会面からの話題(1)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
4	スポーツ面からの話題(1) 単語小テスト(2)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
5	芸能面からの話題(1)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
6	経済面からの話題(2) 単語小テスト(3)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
7	政治面からの話題(2)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
8	社会面からの話題(2) 単語小テスト(4)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
9	スポーツ面からの話題(2)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
10	芸能面からの話題(2) 単語小テスト(5)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
11	経済面からの話題(3)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
12	政治面からの話題(3) 単語小テスト(6)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
13	社会面からの話題(3)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
14	スポーツ面からの話題(3)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
15	芸能面からの話題(3) 単語小テスト(7)	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
16	総合評価 定期試験60分、解説30分	リーディングアサイメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人的資源管理論 (科目ナンバリング: MAN423029, MAN523033)				
授業担当者(所属・職名)	伴 秀実(経営学科・特任教授)		研究室所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伴 秀実)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での、人事・労務等の人材マネジメント業務の実践経験を活かして、人的資源管理の理論と実践事例を講義する。		

概要

履修目標
重要な経営資源である「人」の管理と、集合体である「組織」の管理や行動論の理解は、経営戦略実行や企業人の活動に大きな意義を持つ。本講義において人的資源管理論と併せて組織行動論について学び、実践的な知識や行動能力を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「1(4)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
人的資源管理論の基本を習得するとともに、組織行動論を踏まえた積極的な行動の実践力が身につく。

授業全体の内容と概要
人的資源管理論と併せて組織行動論の基本及び実践への適用を講義し議論する。

授業の方法
パワーポイントによるプロジェクト投影と配布レジメによる講義とディスカッションによる授業を行い理解度を高める。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
15分以上の遅刻、途中退回は欠席扱いとする。居眠り、携帯・スマートフォン利用は厳禁。

資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	0%	30%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	0%	0%	30%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>人材マネジメントの基本(雇用、人事、報酬、福利、キャリア開発、労使関係等)の理解</td> <td>人材マネジメントの基本を完全に理解し、事例に当てはめて評価し理解をより深めることができた。</td> <td>人材マネジメントの基本を十分に理解し、事例に当てはめて評価することができた。</td> <td>人材マネジメントの基本を理解し、事例について理解することができた。</td> <td>人材マネジメントの基本を理解していた。</td> <td>人材マネジメントの基本を理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>組織行動(モチベーション、リーダーシップ等)の理解</td> <td>組織行動を完全に理解し、事例に当てはめて評価し理解をより深めることができた。</td> <td>組織行動を十分に理解し、事例に当てはめて評価することができた。</td> <td>組織行動を理解し、事例についても理解することができた。</td> <td>組織行動を理解していた。</td> <td>組織行動を理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>組織構造、組織改革、チームマネジメントと組織文化の理解</td> <td>組織構造、改革、チームと文化を完全に理解し、事例に当てはめて評価し理解をより深めることができた。</td> <td>組織構造、改革、チームと文化を十分に理解し、事例に当てはめて評価することができた。</td> <td>組織構造、改革、チームと文化を理解し、事例についても理解することができた。</td> <td>組織構造、改革、チームと文化を理解していた。</td> <td>組織構造、改革、チームと文化を理解していなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	人材マネジメントの基本(雇用、人事、報酬、福利、キャリア開発、労使関係等)の理解	人材マネジメントの基本を完全に理解し、事例に当てはめて評価し理解をより深めることができた。	人材マネジメントの基本を十分に理解し、事例に当てはめて評価することができた。	人材マネジメントの基本を理解し、事例について理解することができた。	人材マネジメントの基本を理解していた。	人材マネジメントの基本を理解していなかった。	組織行動(モチベーション、リーダーシップ等)の理解	組織行動を完全に理解し、事例に当てはめて評価し理解をより深めることができた。	組織行動を十分に理解し、事例に当てはめて評価することができた。	組織行動を理解し、事例についても理解することができた。	組織行動を理解していた。	組織行動を理解していなかった。	組織構造、組織改革、チームマネジメントと組織文化の理解	組織構造、改革、チームと文化を完全に理解し、事例に当てはめて評価し理解をより深めることができた。	組織構造、改革、チームと文化を十分に理解し、事例に当てはめて評価することができた。	組織構造、改革、チームと文化を理解し、事例についても理解することができた。	組織構造、改革、チームと文化を理解していた。	組織構造、改革、チームと文化を理解していなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
人材マネジメントの基本(雇用、人事、報酬、福利、キャリア開発、労使関係等)の理解	人材マネジメントの基本を完全に理解し、事例に当てはめて評価し理解をより深めることができた。	人材マネジメントの基本を十分に理解し、事例に当てはめて評価することができた。	人材マネジメントの基本を理解し、事例について理解することができた。	人材マネジメントの基本を理解していた。	人材マネジメントの基本を理解していなかった。																								
組織行動(モチベーション、リーダーシップ等)の理解	組織行動を完全に理解し、事例に当てはめて評価し理解をより深めることができた。	組織行動を十分に理解し、事例に当てはめて評価することができた。	組織行動を理解し、事例についても理解することができた。	組織行動を理解していた。	組織行動を理解していなかった。																								
組織構造、組織改革、チームマネジメントと組織文化の理解	組織構造、改革、チームと文化を完全に理解し、事例に当てはめて評価し理解をより深めることができた。	組織構造、改革、チームと文化を十分に理解し、事例に当てはめて評価することができた。	組織構造、改革、チームと文化を理解し、事例についても理解することができた。	組織構造、改革、チームと文化を理解していた。	組織構造、改革、チームと文化を理解していなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人的資源管理論 (科目ナンバリング: MAN423029, MAN523033)				
授業担当者(所属・職名)	伴 秀実(経営学科・特任教授)		研究室所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伴 秀実)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 企業での、人事・労務等の人材マネジメント業務の実践経験を活かして、人的資源管理の理論と実践事例を講義する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	イントロダクションとシラバスの説明(人的資源管理と組織行動の概要)	シラバスを読んでおくこと。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
2	戦略的人的資源管理と組織の中の個人と集団	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
3	雇用形態の多様化と雇用管理	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
4	人事評価	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
5	報酬制度と福利厚生	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
6	能力・キャリア開発	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
7	労使関係	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
8	モチベーション理論	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
9	コミュニケーションとコーチング	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
10	マネジメントとリーダーシップ理論	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
11	職場のリーダーシップ	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
12	組織構造の基礎	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
13	組織改革と組織開発	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
14	チームマネジメントとTQM	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
15	組織文化と「学習する組織」	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	試験に向け全体を復習する。(90分)
16	定期試験および解説(60分の試験終了後に30分の解説を行う)	試験に向け全体を復習する。(90分)	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス英語 (科目ナンバリング: CME423070, CME523081)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	ビジネスの様々な場面で、それぞれ適切なコミュニケーションがとれるようになる。
------	--

授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。
---------	----------------------------

到達目標	ビジネスでよく使われる語彙や表現を理解する。
------	------------------------

授業全体の内容と概要	読むことでビジネスで使われる英語に触れる。語彙や表現に触れた後、リスニングと記述式の練習問題を解きながら復習と応用を行う。
------------	---

授業の方法	講義形式で、最重要事項を板書して注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。各レッスンの前半部分に導入される英文は予習で翻訳してこなければならない。授業で訳の正確さを確認し、最後にまとめたものを課題として提出する。教員が最終チェックをして返却する。これも評価の対象となる。また、各レッスンの後半に練習問題があるので、可能な範囲で予習し、疑問点を授業で解決し、応用できるようにする。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	教科書を必ず用意すること。授業内容は、英語の基礎力があることを前提としている。
----------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ビジネス英語の習熟度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	ビジネス用語と表現に慣れることができた。	ビジネス用語の理解は認められるが、文のレベルではやや不安が残る。	基本的な事項が身につけていない。
発音練習・練習問題への参加	積極的に参加し、授業の進捗に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミス指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題(英和訳)の取り組み	予め語や語句の意味を調べ、ビジネスにふさわしい英文の訳ができた。また、疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『English for Business Communication』	新田 亜紀子	南雲堂	2017	978-4-523	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス英語 (科目ナンバリング: CME423070, CME523081)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 Stating a Purpose of a Contact	テキストp.6-7 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
2	Meeting for the First Time	テキストp.8-9 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
3	Presenting a Business Card	テキストp.10-11 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
4	Transferring a Call	テキストp.12-13 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
5	Phone Troubles	テキストp.14-15 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
6	At the Airport Abroad	テキストp.16-17予習(90分)	授業内容復習 (90分)
7	Making Polite Requests	テキストp.18-19 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
8	Taking and Leaving Telephone Messages	テキストp.20-21 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
9	Making Inquiries	テキストp.22-23 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
10	Making Appointments 1	テキストp.24-25 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
11	Stating Requests Clearly	テキストp.26-27 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
12	Making Apologies	テキストp.28-29 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
13	Making Appointments 2	テキストp.30-31 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
14	Notification of Absence	テキストp.32-33 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備 (90分)	期末試験準備 (90分)
16	期末試験(60分)・解説(30分)	期末試験準備 (90分)	期末試験内容復習 (90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択科目
科目名称	経営学特講 (科目ナンバリング: MAN422089, MAN522100)				
授業担当者(所属・職名)	信濃(経営学科・教授) 河野(経営学科・教授) 石山(経営学科・准教授) 三	研究室所在	信濃2号館6階、河野1号館2階・石山1号館2階・三嶋1号		
単位数	1 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	みらいビジネスラボが主催する人材育成セミナーに参加し、実社会で役立つビジネススキルを身につける。				
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「1(4)」、「2(1)」に対応する。				
到達目標	実社会で必要となる考え方や現実に要求される基本的・実践的な理論・事柄を身につけることができる。参加するセミナーにあつては、コミュニケーションやロジカルシンキングなどに関連するビジネス技術を実践できる。				
授業全体の内容と概要	ビジネスに関連するさまざまな分野の専門家が講師をつとめる学外セミナーに参加する。どのセミナーに参加して何を学ぶかは、担当教員と受講生が相談して決める。各セミナーの内容は、主催するみらいビジネスラボの計画によって変わるため、授業全体の内容もそれに応じて変わる。また、セミナー参加後は、学内において、セミナーで学んだ内容に関する演習を行う。				
授業の方法	180分のセミナーに複数回参加する。各セミナーにおいては、板書された内容や配布物の要点はもちろんのこと、専門用語とその定義、事例等をノートにまとめること。セミナーによっては、ディスカッションやグループワーク等がある。積極的な質問は大いに歓迎する。また、セミナー後に演習を行い、興味を持った内容についてどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。				
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	○	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業
					その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	受講希望者は原則として通算GPA3.0以上のものとする。また、本講座はセミナーへの参加・出席および授業参加度を最重視する。成績評価には、少なくとも複数回のセミナー参加が必要である。やむを得ない理由を除き、セミナーの欠席は認められない。学外のセミナーであるため、セミナーの補講は実施しない。最低でも2回のセミナー参加を確保できない学生は本科目を履修できない。また、各セミナーはZOOMソフトを利用した遠隔で行われるため、ZOOMを快適に使用できるカメラつきノートパソコンやタブレット型端末が原則として必要である。				
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
2回以上のセミナー参加とそれに対応する演習への参加					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	0%	0%	60%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	セミナーに3回以上参加し最終評定时に90点以上の評価を得た。	セミナーに3回以上参加し最終評定时に80点以上の評価を得た。	セミナーに2回以上参加し最終評定时に70点以上の評価を得た。	セミナーに2回以上参加し最終評定时に60点以上の評価を得た。	セミナーに2回以上参加し最終評定时に全く評価を得られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にセミナーに取り組み、実社会において必要となる専門用語や理論の習得を図り、経営学における実践力を獲得するための努力ができた。	セミナーという与えられた機会に前向きに取り組み、自分が出会う実践力充足への理解がある程度出来た。	セミナーに取り組み、日々使用頻度の高い専門用語や実践理論の理解に対する努力が見られた。	セミナーに取り組み、専門用語や実践理論は定着していないが、理解するための努力は認められた。	セミナーへの取り組みが不十分で、専門用語や実践理論の理解に対する進歩が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間を自らが出会う実践力充足への理解に振り分けていた。	セミナー中の質問が多く、研究や実践などの相談も常であり経営学における専門用語や実践理論の習得に関して前向きで、努力がうかがえた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがえた。	セミナーにおいて、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えなかったが、何とかセミナーはこなすことができた。	自分から進んで経営学実践力を身につけようとする姿勢が見られなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択科目
科目名称	経営学特講 (科目ナンバリング: MAN422089, MAN522100)				
授業担当者(所属・職名)	信濃(経営学科・教授) 河野(経営学科・教授) 石山(経営学科・准教授) 三	研究室所在	信濃2号館6階、河野1号館2階・石山1号館2階・三嶋1号		
単位数	1 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	シラバスを読み、わからないことを調べる(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
2	セミナー(1): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
3	セミナー(1): セミナーへの参加	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
4	セミナー(1): セミナーへの参加	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
5	セミナー(1): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
6	セミナー(1): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
7	セミナー(2): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
8	セミナー(2): セミナーへの参加	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
9	セミナー(2): セミナーへの参加	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
10	セミナー(2): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
11	セミナー(2): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
12	セミナー(3): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
13	セミナー(3): セミナーへの参加	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
14	セミナー(3): セミナーへの参加	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
15	セミナー(3): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
16	セミナー(3): セミナーのテーマに関する演習	習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択科目
科目名称	経営学特講 (科目ナンバリング: MAN422090, MAN522101)				
授業担当者(所属・職名)	信濃(経営学科・教授) 河野(経営学科・教授) 石山(経営学科・准教授) 三	研究室所在	信濃2号館6階、河野1号館2階・石山1号館2階・三嶋1号		
単位数	1 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	みらいビジネスラボが主催する人材育成セミナーに参加し、実社会で役立つビジネススキルを身につける。				
授業の位置づけ	経営学科のDPの「1(1)」、「1(3)」、「1(4)」、「2(1)」に対応する。				
到達目標	実社会で必要となる考え方や現実に要求される基本的・実践的な理論・事柄を身につけることができる。参加するセミナーにあつて、コミュニケーションやロジカルシンキングなどに関連するビジネス技術を実践できる。				
授業全体の内容と概要	ビジネスに関連するさまざまな分野の専門家が講師をつとめる学外セミナーに参加する。どのセミナーに参加して何を学ぶかは、担当教員と受講生が相談して決める。各セミナーの内容は、主催するみらいビジネスラボの計画によって変わるため、授業全体の内容もそれにに応じて変わる。また、セミナー参加後は、学内において、セミナーで学んだ内容に関する演習を行う。				
授業の方法	180分のセミナーに複数回参加する。各セミナーにおいては、板書された内容や配布物の要点はもちろんのこと、専門用語とその定義、事例等をノートにまとめること。セミナーによっては、ディスカッションやグループワーク等がある。積極的な質問は大いに歓迎する。また、セミナー後に演習を行い、興味を持った内容についてどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。				
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	○	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業
					その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	受講希望者は原則として通算GPA3.0以上のものとする。また、本講座はセミナーへの参加・出席および授業参加度を最重視する。成績評価には、少なくとも複数回のセミナー参加が必要である。やむを得ない理由を除き、セミナーの欠席は認められない。学外のセミナーであるため、セミナーの補講は実施しない。最低でも2回のセミナー参加を確保できない学生は本科目を履修できない。 また、各セミナーはZOOMソフトを利用した遠隔で行われるため、ZOOMを快適に使用できるカメラつきノートパソコンやタブレット型端末が原則として必要である。				
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
2回以上のセミナー参加とそれに対応する演習への参加					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	0%	0%	60%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	セミナーに3回以上参加し最終評定时に90点以上の評価を得た。	セミナーに3回以上参加し最終評定时に80点以上の評価を得た。	セミナーに2回以上参加し最終評定时に70点以上の評価を得た。	セミナーに2回以上参加し最終評定时に60点以上の評価を得た。	セミナーに2回以上参加し最終評定时に全く評価を得られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にセミナーに取り組み、実社会において必要となる専門用語や理論の習得を図り、経営学における実践力を獲得するための努力ができた。	セミナーという与えられた機会に前向きに取り組む、自分が出会う実践力充足への理解がある程度出来た。	セミナーに取り組み、日々使用頻度の高い専門用語や実践理論の理解に対する努力が見られた。	セミナーに取り組み、専門用語や実践理論は定着していないが、理解するための努力は認められた。	セミナーへの取り組みが不十分で、専門用語や実践理論の理解に対する進歩が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組む、余った時間を自らが出会う実践力充足への理解に振り分けていた。	セミナー中の質問が多く、研究や実践などの相談も常であり経営学における専門用語や実践理論の習得に関して前向きで、努力がうかがえた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがえた。	セミナーにおいて、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えなかったが、何とかセミナーはこなすことができた。	自分から進んで経営学実践力を身につけようとする姿勢が見られなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択科目
科目名称	経営学特講 (科目ナンバリング: MAN422090, MAN522101)				
授業担当者(所属・職名)	信濃(経営学科・教授) 河野(経営学科・教授) 石山(経営学科・准教授) 三	研究室所在	信濃2号館6階、河野1号館2階・石山1号館2階・三嶋1号		
単位数	1 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	シラバスを読み、わからないことを整理する(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
2	セミナー(1): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
3	セミナー(1): セミナーへの参加	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
4	セミナー(1): セミナーへの参加	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
5	セミナー(1): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
6	セミナー(1): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
7	セミナー(2): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
8	セミナー(2): セミナーへの参加	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
9	セミナー(2): セミナーへの参加	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
10	セミナー(2): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
11	セミナー(2): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
12	セミナー(3): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
13	セミナー(3): セミナーへの参加	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
14	セミナー(3): セミナーへの参加	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
15	セミナー(3): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)
16	セミナー(3): セミナーのテーマに関する演習	予習課題(45分)	学習した内容をノートに整理(45分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース以外）		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	地域調査実習（科目ナンバリング：SOC421041）				
授業担当者（所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）・信濃 吉彦（経営学科・教授）・鈴木 重政（経営学科・教授）		研究室所在	1号館2階（由水） 2号館6階（信濃） 1号館3階（鈴木）	
単位数	1	（単位認定責任者：由水 伸）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	包括連携協定を結んだ地域を中心に行政政策の立案に携わる委員経験者が、その経験を活かして、学生の地域の課題発見・分析と解決手法の考案の指導にあたる。		

概要

履修目標
地域社会が抱える課題の調査と解決策を探る行動を通して問題解決力や大学外の人々とのコミュニケーション力、グループの内の連携力を養う。また、調査結果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを実施することで、他者に知見を発表するための能力の養成も目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「1(4)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
北海道の地域の実情、魅力、抱える問題がわかる。地方創生、まちづくり、まちおこしについて関心が深まる。魅力的な地域づくりについて、前向きな行動を行う姿勢が生まれる。知見を伝えるためのプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要
本学と連携協定を結んでいる地域を中心に、魅力やまちづくり、抱える課題について調査を行い、地域づくり、地域活性化について考える。実施にあたっては調査対象に選んだ地域に実際に出向き、グループ単位で行動する中、様々な人々と対応し、情報収集活動にあたる。調査のレポートは個人別に提出、発表会と意見交換はグループ単位で行う。

授業の方法
調査する地域を決定した後、書籍、パンフレット、インターネットを通して情報を集め、事前に調査をすべき項目を選び出す。次に、実地調査をする日時と訪問箇所を決定し、必要であれば関係機関や団体へ事前調整を行う。（先方の都合に合わせて再調整もありうる）実地調査にあたっては、資料収集のほか、メモ、写真、動画など複数の方法で記録を残し、後で整理する。整理した情報を元に、グループ内で話し合いを行い、調査報告書（レポート）を作成する。また、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、他のグループとともに発表会を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
地域に向いて調査することが重要な位置を占めるので、調査に参加することが単位認定の条件となる。（参加費要自己負担）実地調査を欠席した場合は単位認定しない。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
学外での地域の実地調査に参加することが条件である。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	30%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道の各地域を実際に調査し課題を発見し、効果的な手法を活用して課題解決することができる。	北海道の各地域を実際に調査し、それを幅広く捉え、自ら課題を発見し、効果的な手法を活用して課題解決を行い、その結果を評価して次の課題を明確にできた。	北海道の各地域を実際に調査し、自ら課題を発見し、学習した手法を活用して課題解決を行い、その結果を評価することができた。	北海道の各地域を実際に調査し、課題を明確にし、学習した手法を活用して課題解決を行うことができた。	北海道の各地域を実際に調査し、課題を明確にし、課題の発見と解決に向けた行動がとれた。	北海道の各地域を実際に調査していない、または、課題の発見と解決に向けた行動が取れなかった。
必要な情報を収集し、客観的かつ論理的に判断できる。他者の考えを踏まえて、自分の考えが客観的に適切かどうかを判断できる。	必要な情報とは何かをを理解、収集し、多様な情報の中で論理的な議論ができた。また、他者の考えを受けて自分の考えを客観的に捉え直し、建設的な議論を導き出すことができた。	必要な情報とは何かをを理解、収集し、多様な情報の中で論理的な議論ができた。また、他者の考えを受けて自分の考えを客観的に捉え直し、結論を導き出すことができた。	収集した情報に基づいて議論を行い、他者の考えをまとめて自分の考えをまとめることができた。	収集した情報に基づいて議論を行い、他者の考えをまとめることができた。	収集した情報や他者の考えを用いた議論ができず、自分としての考えをまとめることができなかった。
グループ活動において相手の立場を理解して意見を探り協働できる。必要に応じてリーダーシップを取るなど、適切に行動できる。	多様な立場からの意見を理解して、考えを引き出す意図交換をし、グループ状況を把握し必要であればリスクを取ってでもリーダーを担うなど、グループに貢献する行動を取った。	多様な立場からの意見を理解して、考えを引き出す意図交換をし、グループ状況を把握しグループに貢献する行動を取った。	相手の立場を理解して意見交換し、自らの責任を積極的に果たして、グループ活動に貢献できた。	相手の立場を理解して意見交換し自らの責任をたしてグループ活動に参加できた。	相手の立場を理解した意見交換や、自らの責任をたしたグループ活動もできなかった。
コミュニケーションの本質を理解し多数の前で効果的にプレゼンテーションができる。そこから、話し合いを進めることができる。	多数の前での聞き手のニーズに対応した説得力のあるプレゼンテーションができる。そこから、話し合いによって結論を導き出せた。	多数の前での聞き手のニーズに対応したプレゼンテーションができ、話し合いによって結論を導き出せた。	多数の前で明確なプレゼンテーションができ、話し合いによって結論を導き出した。	多数の前でのプレゼンテーションができ、話し合いによって意見をまとめた。	多数の前でのプレゼンテーションができず、意見もまとめることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース以外）		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	地域調査実習（科目ナンバリング：SOC421041）				
授業担当者（所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）・信濃 吉彦（経営学科・教授）・鈴木 重政（経営学科・教授）	研究室所在	1号館2階（由水）2号館6階（信濃）1号館3階（鈴木）		
単位数	1（単位認定責任者：由水 伸）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	包括連携協定を結んだ地域を中心に行政政策の立案に携わる委員経験者が、その経験を活かして、学生の地域の課題発見・分析と解決手法の考案の指導にあたる。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明） 対象地域の選定、調査グループ分け	シラバスを確認し、北広島市、由仁町、神恵内村について調べておくこと。（45分）	授業で示された今年の対象地域について、詳しく調べること。（45分）
2	調査目的と内容の決定（訪問先、決定理由、内容、移動方法、宿泊、イベント、費用と時間のシミュレーション等）	調査準備を行うこと。（45分）	内容をふりかえり、整理すること。（45分）
3	調査目的と内容の決定（各種調整・予約、行動計画書、レジュメ、アンケート作成）	調査準備を行うこと。（45分）	内容をふりかえり、整理すること。（45分）
4	現地調査 1日目午前 移動、到着後、目的地付近の情報収集（人の動向調査、写真撮影）	出張準備を行うこと。（45分）	収集情報を整理してまとめること。（45分）
5	現地調査 1日目午後（前半） 目的地付近の情報収集（文書収集、聞き取り他）（アンケート収集）	休憩時間中に調査準備を行うこと。（45分）	収集情報を整理してまとめること。（45分）
6	現地調査 1日目午後（後半） 地元イベント参加準備（会場設置に協力）	休憩時間中に調査準備を行うこと。（45分）	収集情報を整理してまとめること。（45分）
7	現地調査 1日目夜間 地元イベント参加	休憩時間中に調査準備を行うこと。（45分）	収集情報を整理してまとめること。（45分）
8	現地調査 2日目午前（前半） イベントの効果測定（アンケート等）	出張準備を行うこと。（45分）	アンケートを整理してまとめること。（45分）
9	現地調査 2日目前後半 イベントの効果測定続き（その後会場撤収に協力）	休憩時間中に調査準備を行うこと。（45分）	アンケートを整理してまとめること。（45分）
10	現地調査 2日目午後前半 会場にて収集資料確認、反省会	休憩時間中に調査準備を行うこと。（45分）	アンケートを整理してまとめること。（45分）
11	現地調査 2日目午後後半 地域関係者と懇談後、移動（帰路）	休憩時間中に調査準備を行うこと。（45分）	アンケートを整理してまとめること。（45分）
12	情報の分析（グループ別）	アンケートのまとめを総覧すること。（45分）	分析内容をふりかえり、再確認すること。（45分）
13	レポート作成（個人別）	調査とアンケート・まとめ等資料整理すること。（45分）	レポート作成の続きと見直しをすること。（45分）
14	発表原稿作成（PowerPoint）	レポート内容を箇条書きにしておくこと。（45分）	時間を計り発表練習を行うこと。（45分）
15	発表報告会 意見交換	発表準備を行うこと。（45分）	他者の発表内容をふりかえり、まとめること。（45分）
16	発表報告会 意見交換 全てのプレゼンテーションの終了後に講評	発表準備を行うこと。（45分）	他者の発表内容をふりかえり、まとめること。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域情報論 (科目ナンバリング: LIH422047, LIH522043)				
授業担当者(所属・職名)	猪尾 紀幸(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 猪尾 紀幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地方地域の中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、経営と地域活性化の視点から地域情報論について具体的に実践的な講義をする。		

概要

履修目標
地域は、情報の一方的な受け手ではなく、自らの地域情報を発信することにより地域への関心を高め、地域活性化を推進することが求められている。地域情報発信の意義、効果、方法について理解することを目的としている。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
地域活性化という観点から見た地域情報について理解し、地域内外に対する地域情報発信の意義、効果、方法について理解し見識を持つ。

授業全体の内容と概要
地域情報の例、地域情報発信の意義、効果、方法についての講義を行う。

授業の方法
プロジェクターでの投影や板書を行い、双方向授業を活用しながら講義を進める。必要に応じて資料を配布したり、調査学習を行う。毎回の授業では授業に関する振り返りを簡潔に「振り返りシート」に記入し提出する。振り返りシートの内容をもとに次回授業冒頭でフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
本講義は【授業態度】を重視する。【授業態度】においては、授業中の居眠り、私語、携帯電話・スマートホン等の操作は指示された場合を除き厳禁とし、再度の注意を受けたものは退室を命じ欠席扱いとする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報管理(文献・情報検索)	一観点に対して図書館等の文献調査から得た資料を基に必要な情報を整理(短文等)できた。	一観点に対して図書館等の文献調査から得た複数の資料を閲覧し必要な情報を取得できた。	一観点に対して図書館等の文献調査から得た複数の資料(3つ以上)を入手できた。	図書館等の文献調査ができた。	図書館等の文献調査ができなかった。
ICTスキル・情報リテラシー	PC等を活用して適切な体裁で図表や写真等を用いた効果的な論文やレポート、プレゼンテーション資料の作成、データ分析、授業内外で効果的にICTを活用し、必要な情報・データへ適切にアクセスでき批判的視点で評価・取捨選択・統合して使用できた。	PC等を活用して適切な体裁で図表や写真等を用いた論文やレポート、プレゼンテーション資料の作成でき、必要な情報・データへ適切にアクセスでき批判的視点で評価・取捨選択・統合して使用できた。	PC等を活用して図表や写真等を用いた論文やレポート、プレゼンテーション資料を作成できた。必要な情報・データへ適切にアクセスし使用できた。	PC等を活用して論文やレポート、プレゼンテーション資料を作成できた。必要な情報・データへ適切にアクセスし使用できた。	PC等を活用できず、指定の体裁で論文やレポート、プレゼンテーション資料が作成できなかった。必要な情報・データにアクセスできなかった。
情報整理	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等のカテゴリに分けることができる観点ごとにまとめ、それらのリスト(規格統一表記)を作成した。	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等のカテゴリに分けることができる観点ごとにまとめた。	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等を別にまとめた。	文献や電子資料の情報整理を研究関連としてまとめた。	文献や電子資料の情報整理を行っていないかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域情報論 (科目ナンバリング: LIH422047, LIH522043)				
授業担当者(所属・職名)	猪尾 紀幸(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 猪尾 紀幸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地方地域の中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、経営と地域活性化の視点から地域情報論について具体的に実践的な講義をする。		

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 地域情報論・総論 (経営的観点からみた地域活性化)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
2	地域情報論・総論 (地域活性化と地域情報)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
3	北広島市の概要 (歴史、景観)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
4	北広島市の概要 (産業、企業)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
5	北広島市の地域情報の例 (赤毛米と北広島島の稲作、久蔵翁)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
6	北広島市の地域情報の例 (フットボールパークを含めた今後の展望)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
7	北海道の他地域情報の例 (移住推進地域)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
8	北海道の他地域情報の例 (観光推進地域)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
9	情報発信手法 (メディアミックス)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
10	情報発信手法 (トリプルメディア)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
11	情報発信手法 (IT普及と消費者行動の変化)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
12	情報発信手法 (インターネット、ホームページ、SNS)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
13	情報発信手法 (その他の手法)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
14	情報発信手法 (注意点、商標権、著作権)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
15	まとめ	授業の全体についてポイントをまとめ試験対策を行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。	試験範囲の確認(90分)	復習(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科 4 年		
開講時期	3 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	金融論 (科目ナンバリング: MOF424028, MOF524032)					
授業担当者(所属・職名)	山崎 誠(経営学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 山崎 誠)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	10年間の金融機関勤務と20年間の中小企業コンサルティング経験を通じ金融機関の実情と提供サービスを説明する。			

概要

履修目標
<p>企業にとって金融とは「血液」に例えられるほど重要なもので適切な金融を受けることは必須である。資本の発生や資金再配分がどのように始まり現代の金融機関の思考や金融行政が何を重視しているかを明らかにする。「テクノロジーの進歩」(AIの発達、Fintechの登場)、「金融リテラシー」(どのようにおカネと接していくか/企業あるいは個人両方の視点から)「金融リスク」(資金を確保にはどのようなリスクがあるか、どう回避するか)、に授業内容を関連させながら講義を行う。これらを通じ業態として転換点を迎えている金融業の将来像を考察する。</p>

授業の位置づけ
<p>適切な金融を行うことが企業にとって非常に重要な事項となる。金融は企業にとって血液にも等しく、それなしでは企業は存続できない。企業を成長させ継続させるために金融はどのように役立つのか、また企業側はそれをどのように活かすべきかを学習することは本学のディプロマ・ポリシーの2、3、および経営学科の学習目標の(1)と(2)に資する。「履修すべき科目と単位」の(1)に該当する。</p>

到達目標
<p>金融(資金調達)は企業経営に必須のものである。日本においては間接金融を主流とし明治から昭和にかけて銀行業が発達した。適切な金融を受けることで企業がどう発展していくか、例えば創業する企業の金融モデルを考える。なぜ既存の金融機関がこのような営業スタイルとなっているのか、を一応の理解の目標とする。また、不況業種ともいわれ存続について議論が始まった銀行の将来や企業金融の未来について、また身近なところでは自身のおカネにまつわるリテラシーについて自分なりの見識を持つことを最終的な到達目標とする。最初3回の授業は「現代資本主義の成り立ち」「日本経済の現況」「中国の現況」を学び、金融論講義を理解する基礎とする。</p>

授業全体の内容と概要
<p>金融システムとは何かを講義する。企業側は経営計画、資金繰り予想を踏まえ、どのような資金計画をしていくか、それに対して資金供給を行う銀行はどのような視点で融資を実行するのか、また金融庁や日銀は何をみて金融行政の方向を決めているのか、固くなりがちな内容であるが、スタートアップ企業、かぼちゃの馬車事件(収入証明を改ざんしてアパートローンを実行)、個人の借入規制の変遷(多重債務の防止ともしそうだったときの出口)、クラウドファンディングなど金融に関する最新情報を織り交ぜた講義とする。</p>

授業の方法
<p>シラバスの授業予定に沿い、主にPowerPointを使用し図表、画像、動画などを通じ各項目の理解を深める。毎週の授業では授業に関するまとめを提出する。これをもって出席とみなす。「まとめ」に独自の所見や分析があるものは上限30点を加算する。これに加え、定期試験の評価70点を加えて合計100点満点で評価する。</p>

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
<p>出席者は、教科書、過去の配布資料、授業ノート、筆記用具を持参して授業に臨むこと。「まとめ」を指示に従って適切に記入し提出することで出席とみなす。受講態度については、授業中の居眠り、私語、および授業中のスマホ等の操作を厳禁とし、再度の注意をしたときには退室させ欠席扱いとする。授業中に高い見識に基づいた意見発表や質問をした場合には授業一回につき1点を上限に加算する。全体の評価が100点を超えるときには切り捨てる</p>

資格指定科目
該当なし。

評価方法・基準

評価前提条件												
10回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>%</td> <td>30%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	%	30%	%	%	%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	%	30%	%	%	%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能(参考図書や配布した資料を基に定期試験に出題する。試験問題に「知識・技能」と表示する)</td> <td>定期試験の知識・技能を問う分野で8割以上の得点をあげた。</td> <td>定期試験の知識・技能を問う分野で7割以上の得点をあげた。</td> <td>定期試験の知識・技能を問う分野で6割以上の得点をあげた。</td> <td>定期試験の知識・技能を問う分野で5割以上の得点をあげた。</td> <td>定期試験の知識・技能を問う分野で得点が5割を下回った。</td> </tr> <tr> <td>思考力、判断力、表現力(定期試験にこれらの力を測る問題を出题する。試験問題に「思考・判断・表現」と表示する)</td> <td>右の記述を高いレベルで表現している。</td> <td>与えられたテーマについて学習した知識と自身の経験などを組み合わせ多面的に思考し、根拠を明らかにしながら論理的に意見をまとめている。</td> <td>与えられたテーマについて思考し、根拠を明らかにしながら論理的に意見をまとめている。</td> <td>与えられたテーマについて思考し、自身の意見をまとめていくが根拠の示し方、論理展開に難がある。</td> <td>与えられたテーマについて思考し、自身の意見をまとめていくが根拠の示し方、論理展開に欠けている。</td> </tr> <tr> <td>主体性を持って協働し学ぶ態度</td> <td>授業の事前事後の学習を十分に振り返り、授業中の疑問、発言のレベルが高く、この授業の目的を深く理解していることがわかる。</td> <td>授業の事前事後の学習が十分に振り返り、授業中の疑問、発言のレベルが高く、この授業の目的を深く理解していることがわかる。</td> <td>授業の事前事後の学習が十分に振り返り、授業中の疑問、発言のレベルが高く、この授業の目的を深く理解していることがわかる。</td> <td>授業の事前事後の学習が十分に振り返り、授業中の疑問、発言のレベルが高く、この授業の目的を深く理解していることがわかる。</td> <td>左のレベルを下回り、授業の内容を理解しているとは言えない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能(参考図書や配布した資料を基に定期試験に出題する。試験問題に「知識・技能」と表示する)	定期試験の知識・技能を問う分野で8割以上の得点をあげた。	定期試験の知識・技能を問う分野で7割以上の得点をあげた。	定期試験の知識・技能を問う分野で6割以上の得点をあげた。	定期試験の知識・技能を問う分野で5割以上の得点をあげた。	定期試験の知識・技能を問う分野で得点が5割を下回った。	思考力、判断力、表現力(定期試験にこれらの力を測る問題を出题する。試験問題に「思考・判断・表現」と表示する)	右の記述を高いレベルで表現している。	与えられたテーマについて学習した知識と自身の経験などを組み合わせ多面的に思考し、根拠を明らかにしながら論理的に意見をまとめている。	与えられたテーマについて思考し、根拠を明らかにしながら論理的に意見をまとめている。	与えられたテーマについて思考し、自身の意見をまとめていくが根拠の示し方、論理展開に難がある。	与えられたテーマについて思考し、自身の意見をまとめていくが根拠の示し方、論理展開に欠けている。	主体性を持って協働し学ぶ態度	授業の事前事後の学習を十分に振り返り、授業中の疑問、発言のレベルが高く、この授業の目的を深く理解していることがわかる。	授業の事前事後の学習が十分に振り返り、授業中の疑問、発言のレベルが高く、この授業の目的を深く理解していることがわかる。	授業の事前事後の学習が十分に振り返り、授業中の疑問、発言のレベルが高く、この授業の目的を深く理解していることがわかる。	授業の事前事後の学習が十分に振り返り、授業中の疑問、発言のレベルが高く、この授業の目的を深く理解していることがわかる。	左のレベルを下回り、授業の内容を理解しているとは言えない。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能(参考図書や配布した資料を基に定期試験に出題する。試験問題に「知識・技能」と表示する)	定期試験の知識・技能を問う分野で8割以上の得点をあげた。	定期試験の知識・技能を問う分野で7割以上の得点をあげた。	定期試験の知識・技能を問う分野で6割以上の得点をあげた。	定期試験の知識・技能を問う分野で5割以上の得点をあげた。	定期試験の知識・技能を問う分野で得点が5割を下回った。																								
思考力、判断力、表現力(定期試験にこれらの力を測る問題を出题する。試験問題に「思考・判断・表現」と表示する)	右の記述を高いレベルで表現している。	与えられたテーマについて学習した知識と自身の経験などを組み合わせ多面的に思考し、根拠を明らかにしながら論理的に意見をまとめている。	与えられたテーマについて思考し、根拠を明らかにしながら論理的に意見をまとめている。	与えられたテーマについて思考し、自身の意見をまとめていくが根拠の示し方、論理展開に難がある。	与えられたテーマについて思考し、自身の意見をまとめていくが根拠の示し方、論理展開に欠けている。																								
主体性を持って協働し学ぶ態度	授業の事前事後の学習を十分に振り返り、授業中の疑問、発言のレベルが高く、この授業の目的を深く理解していることがわかる。	授業の事前事後の学習が十分に振り返り、授業中の疑問、発言のレベルが高く、この授業の目的を深く理解していることがわかる。	授業の事前事後の学習が十分に振り返り、授業中の疑問、発言のレベルが高く、この授業の目的を深く理解していることがわかる。	授業の事前事後の学習が十分に振り返り、授業中の疑問、発言のレベルが高く、この授業の目的を深く理解していることがわかる。	左のレベルを下回り、授業の内容を理解しているとは言えない。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『無私日本人』</td> <td>磯田 道史</td> <td>文春文庫</td> <td>2015</td> <td>978-4167903886</td> <td>「殿、利息でござる」原作</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『武士の家計簿』</td> <td>磯田 道史</td> <td>新潮新書</td> <td>2003</td> <td>978-4106100055</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>『金融の世界史』</td> <td>板谷 敬彦</td> <td>新潮社</td> <td>2013</td> <td>9784106037283</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>『世界史の新常識』</td> <td>文藝春秋</td> <td>文春新書</td> <td>2019</td> <td>9784166612086</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『無私日本人』	磯田 道史	文春文庫	2015	978-4167903886	「殿、利息でござる」原作	2	『武士の家計簿』	磯田 道史	新潮新書	2003	978-4106100055		3	『金融の世界史』	板谷 敬彦	新潮社	2013	9784106037283		4	『世界史の新常識』	文藝春秋	文春新書	2019	9784166612086		5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『無私日本人』	磯田 道史	文春文庫	2015	978-4167903886	「殿、利息でござる」原作																																				
2	『武士の家計簿』	磯田 道史	新潮新書	2003	978-4106100055																																					
3	『金融の世界史』	板谷 敬彦	新潮社	2013	9784106037283																																					
4	『世界史の新常識』	文藝春秋	文春新書	2019	9784166612086																																					
5																																										

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科 4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	金融論 (科目ナンバリング: MOF424028, MOF524032)				
授業担当者(所属・職名)	山崎 誠 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 山崎 誠)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	10年間の金融機関勤務と20年間の中小企業コンサルティング経験を通じ金融機関の実情と提供サービスを説明する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	「現代資本主義の成り立ち、資本形成と経済成長、産業革命、双務制度、格差社会、アフリカと人口減、世界は運動している。ESG、SDG's など」	ノートの準備など20分	復習とまとめ作成45分
2	「日本の近代経済史」世界初が続く半世紀、公害問題、交通事故、人口減、世界に類を見ない中小企業政策、人口減(日本、北海道)、コロナ前と後、な	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
3	「日本と中国/中国とは何か」アフリカとは何か/アフリカの上場中止問題/中国政府の経済規制/中国に依存する世界経済(旅客機製造など)/中国の力は入	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
4	「金融とは何か」金融の定義/個人、企業、国レベルの金融とは/00とは/経済成長はなぜ起こる/倒産とは/日本銀行の役割/税金の機能・富の再配	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
5	「ゼロ金利・ゼロインフレ・ゼロ成長」人類史上初に直面する日本/世界の国々が借金漬けでも破たんしない理由/世界史の中の金融/大航海時代/戦争	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
6	「通貨はなぜ通貨として流通するか、シニョリッジ(通貨発行益/デジタル円・デジタル入札元/世界通貨だったメキシコドル/通貨の価値の裏打ち・金	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
7	「金利はなぜ発生するのか、金利のおもとは儲け/銀行の役割・信用創造/信用保証基金とは/日本の信用創造はどうなっているのか/儲けのない国」	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
8	「近代国際金融史」第一次世界大戦後のドイツ/第二次世界大戦後の日本/基軸通貨ドルの誕生/ブレトンウッズ体制/ニクソンショック・ドルの金兌換	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
9	「マーケットと政府介入」バブルが起きるメカニズム/世界最古のバブルはチューリップから/日本のバブル経済とその爪痕/ITバブルがあったから	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
10	「マネーリテラシー」大正製紙事件・キャンブル依存になった社長の末路/詐欺事件・ジャパンライフ事件/同業ミッドアーツ事件/持株化給付金詐欺で大学生	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
11	「日本人とおカネ」宋銭を輸入した平将門/徳川幕府の金融政策/映画「殿、利息でござる」/映画「武士の家計簿」激動の幕末と明治維新を家計簿か	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
12	「証券取引所と金融商品取引法」証券取引所のはじまり/東京証券取引所のシステムエラー/ロンドンコーヒーハウス/ゴーンはなぜ逮捕されたのか/金	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
13	「揺らぐ銀行」銀行は儲からない/銀行が儲からないと/地銀再編圧力/金融庁の銀行行政/金融機関の未来像 なくなる支店とATM/間接金融の限界/	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
14	「担保と連帯保証」資産とは/銀行が取りはぐれるとき/不動産担保/登記制度/売掛金担保/在庫担保/大きく変わった連帯保証制度/東日本大震災と	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
15	授業の総まとめ	ノートの準備、関連項目の予習など30分	復習とまとめ作成45分
16	定期テストと正答解説	授業の総まとめの確認90分	復習とまとめ作成45分

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域政策論 (科目ナンバリング：ECP422046, ECP522042)				
授業担当者(所属・職名)	松本 懿 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：松本 懿)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務(23年)や北海道地域づくりアドバイザー(34年)としての実務経験をもとに、地域政策の今日的意義やあり方を説明します。		

概要

履修目標
<p>少子高齢化や人口減少が本格化する中、地域社会を取り巻く環境は厳しさの度を増している。様々な課題を克服していくためには、強かでない地域政策が求められる。本講では、地域政策の概念、今日的意義と課題、政策を立案・展開する際のポイント等を理解するとともに、自らの関わり方についても考究する。</p>

授業の位置づけ
<p>経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「1(4)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<p>地域社会のあり方に対する興味・関心が高まり、様々な立場にある住民の不安や悩み、要望等を踏まえた「問題」の発見・設定力、解決に向けた「目標や戦略」の立案力、事後の「評価」の際の分析力といった、一住民として、あるいは自治体職員等として必要な「政策」の基礎を立案できる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>本講では、「地域政策」を、国による地域をフィールドにした下請的な政策実施と捉えず、地域主体による自律的な政策創出として捉える。だが、資金や人材、情報等が不足しがちな地域において、産業やコミュニティを強化・再生できるような政策の立案や実行が果たして可能なか。指導者や住民たちのメンバーシップはいかにあるべきか。こうした疑問や問題意識を持ちつつ、道内外の先進事例に真摯に学びながら、改めて地域の可能性や政策づくりの核心を見出してゆく。</p>

授業の方法
<p>講義、グループワーク、レポート作成などを併用する。講義は、各回のテーマに関する基本データ・動向や解決の方向性などを、事例研究の分析結果とも関連づけながら解説する。グループワークでは、事例の文献・資料から特徴や成功要因、課題などを討議・発表し合う(5回程度)。レポートの作成を多く求めるが(7回程度)、グループワークやレポートへのコメントは、質問や要望事項に対する回答も含めて、次週にフィードバックする。</p>

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<p>私語厳禁。メモやノートをしっかりとる。遅刻の取り扱いは、授業開始時に説明。</p>

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>30%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	30%	10%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	30%	10%	0%	0%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域政策の意義・概念・成功条件への知識・理解</td> <td>授業内容を超える知識・情報を積極的に勉強・収集し、理解度を高めていた。</td> <td>授業内容をほぼ全て理解していた。</td> <td>授業内容を概ね理解していた。</td> <td>最低限の授業内容を理解していた。</td> <td>授業内容を理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>地域政策への関心・意欲および授業態度</td> <td>事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問したり、発言するなど積極的な授業態度であった。</td> <td>事前事後の学習がなされていた。</td> <td>授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容を真実に聞いていた。</td> <td>授業中の課題や板書をこなしていた。</td> <td>授業中着席するものの課題や板書に取り組んでいなかった。</td> </tr> <tr> <td>具体的な市町村等を対象に地域が抱えている問題を克服するための政策を立案・提言</td> <td>問題認識が適切で、目標設定や実現に向けた戦略が極めて優れていた。</td> <td>問題認識が適切で、目標設定や戦略が優れていた。</td> <td>問題認識が適切で、目標と戦略が設定されていた。</td> <td>問題認識はやや弱い。目標と戦略は設定されていた。</td> <td>問題認識が弱く、目標や戦略も説得力に欠けた。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	地域政策の意義・概念・成功条件への知識・理解	授業内容を超える知識・情報を積極的に勉強・収集し、理解度を高めていた。	授業内容をほぼ全て理解していた。	授業内容を概ね理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解していなかった。	地域政策への関心・意欲および授業態度	事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問したり、発言するなど積極的な授業態度であった。	事前事後の学習がなされていた。	授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容を真実に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。	授業中着席するものの課題や板書に取り組んでいなかった。	具体的な市町村等を対象に地域が抱えている問題を克服するための政策を立案・提言	問題認識が適切で、目標設定や実現に向けた戦略が極めて優れていた。	問題認識が適切で、目標設定や戦略が優れていた。	問題認識が適切で、目標と戦略が設定されていた。	問題認識はやや弱い。目標と戦略は設定されていた。	問題認識が弱く、目標や戦略も説得力に欠けた。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
地域政策の意義・概念・成功条件への知識・理解	授業内容を超える知識・情報を積極的に勉強・収集し、理解度を高めていた。	授業内容をほぼ全て理解していた。	授業内容を概ね理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解していなかった。																								
地域政策への関心・意欲および授業態度	事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問したり、発言するなど積極的な授業態度であった。	事前事後の学習がなされていた。	授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容を真実に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。	授業中着席するものの課題や板書に取り組んでいなかった。																								
具体的な市町村等を対象に地域が抱えている問題を克服するための政策を立案・提言	問題認識が適切で、目標設定や実現に向けた戦略が極めて優れていた。	問題認識が適切で、目標設定や戦略が優れていた。	問題認識が適切で、目標と戦略が設定されていた。	問題認識はやや弱い。目標と戦略は設定されていた。	問題認識が弱く、目標や戦略も説得力に欠けた。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域政策論 (科目ナンバリング: ECP422046, ECP522042)				
授業担当者(所属・職名)	松本 懿 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 松本 懿)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務(23年)や北海道地域づくりアドバイザー(34年)としての実務経験をもとに、地域政策の今日的意義やあり方を説明します。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス～シラバスを中心に説明(本講の目的、内容・意義、進め方、試験・評価方法、遅刻の取り扱い、受講上の留意点など)	シラバスによく目を通しておく(90分)	授業内容に関連した作文を作成(90分)
2	地域政策へのアプローチ(1) 「地域」の概念・区分と「政策」の概念・基本構造	事前配布「下條村」を読んでおく(90分)	授業資料とノートを整理する(90分)
3	地域政策へのアプローチ(2) 「地域政策」とは～その意味、内容と現代的課題	事前配布「猿払村」を読んでおく(90分)	所得水準の高い市町村の主力産業を調べてみる(90分)
4	地域政策へのアプローチ(3) 改めて、人口減少時代の地域課題を考える	過疎地域と過密地域の今日の状況・問題点を考察しておく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
5	地域政策の事例研究(1) 地方分権の意義と住民自治<岩手県藤沢町>	事前配布「藤沢町」を読んでおく(90分)	出身地や現在住んでいる地域での住民参加や協働の事例を調べてみる(90分)
6	地域政策の事例研究(2) 地方創生戦略のフレームワークと実際<島根県海士町及び千葉県流山市>	事前配布「海士町」「流山市」を読んでおく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
7	地域政策の事例研究(3) 農山漁村の活性化戦略<島根県邑南町>	事前配布「邑南町」を読んでおく(90分)	中山間地域の活性化策を検討・整理してみる(90分)
8	地域政策の事例研究(4) 地場産業を巡る変化と革新<愛媛県今治市>	事前配布「今治タオル」を読んでおく(90分)	代表的な地場産業の歴史と現状を調べる(90分)
9	地域政策の事例研究(5) 商業構造の変化と中心商店街の再生<香川県高松市丸亀商店街及び富良野マルシェ>	事前配布「高松市丸亀商店街」を読んでおく(90分)	出身地の商店街の現状と課題を検討してみる(90分)
10	地域政策の事例研究(6) 観光産業の特徴と地域の活性化<長野県野沢温泉村及び愛媛県内子町>	事前配布「内子町」を読んでおく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
11	地域政策の事例研究(7) 子どもの生きる力を育む～森のようちえん<島根県智頭町>	事前配布「智頭町」を読んでおく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
12	地域政策の事例研究(8) 新事業を創る～脱施設・共済型の病児保育<NPO法人フローレンス>	事前配布「フローレンス」を読んでおく(90分)	コミュニティ・ビジネスのアイデアを考え、まとめてみる(90分)
13	地域政策の事例研究(9) 起業活動の促進と起業家教育<福島県会津若松市ジュニアエコノミーカレッジ>	事前配布「会津若松ジュニアエコ」を読んでおく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
14	まとめ(1) 事例研究の総括と地域政策の核心	今回取り上げた事例研究の共通点・相違点を整理しておく(90分)	北広島の特徴・課題などを調べておく(90分)
15	まとめ(2) 「北広島市への政策提言」(仮題)<発表・質疑・コメント>	レポート「北広島市への政策提言」を作成する(90分)	定期試験の準備(90分)
16	「定期試験」(60分)及び解説(30分)	定期試験の準備(90分)	試験及び解説を受けて本講全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ文化論（科目ナンバリング：SPS512008）				
授業担当者（所属・職名）	細川 光法（経営学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：細川 光法）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
東京オリンピック・パラリンピックなどを通して、スポーツの文化性・価値・未来への展望などへの関心を高め、スポーツを多面的な視点で捉える力を養うことにより、人間・スポーツ・社会の関連を理解し、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」1、「2(2)」に対応する。

到達目標
スポーツを文化性・価値・未来への展望などの多面的な視点で理解することができる。

授業全体の内容と概要
毎回、直近のスポーツ文化関連ニュースの背景を探ることからはじめ、シラバスに基づいたテーマを学ぶ。

授業の方法
基本は「スポーツは文化である」という認識で各テーマを解説する。毎回、テーマに対応したプリントを配布し、板書など参考データを活用しながら講義形式で行う。なお、資料にて説明したことをもとに、プレゼンテーションやディスカッション、調査学習を用いた講義を展開する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
教室では他人の迷惑になる行為（私語など）をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。

資格指定科目
スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの文化性	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を十分に理解できた。	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を概ね理解できた。	スポーツはなぜ文化といえるのかを一定程度理解し、資料収集もしていた。	スポーツの文化性をわずかに理解できた。	スポーツを文化ととらえる考えが見られない。
パラリンピックと障害者への視点	単にスポーツの世界だけでなく、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力まで十分に理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を概ね理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を一定程度理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力に共感している。	スポーツ競技に参加する障害者に関心が見られない。
東京オリンピックの光と影	経済効果や遺産の陰にあるさまざまな課題まで総合的に理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを概ね理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを一定程度理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることをわずかに理解できた。	五輪の光と影について全く興味がない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『スポーツ文化を学ぶ人のために』	井上俊・亀山佳明（編）	世界思想社	1999	4-7907-0771-7	
2	『よくわかるスポーツ文化論（やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ）』	井上俊・菊幸一編著	ミネルヴァ書房	2012	978-4-623-	
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ文化論（科目ナンバリング：SPS512008）				
授業担当者（所属・職名）	細川 光法（経営学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：細川 光法）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 この授業全体のガイダンス	スポーツ関連ニュースを意識（90分）	ガイダンスの復習（90分）
2	スポーツ文化のとらえ方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
3	メディア化するスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
4	東京オリンピック、誘致成功からの準備はどう進んだか	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
5	東京オリンピックの光と影	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
6	パラリンピックの歴史と意義	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
7	スポーツとジェンダー	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
8	スポーツと地域社会	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
9	スポーツと教育	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
10	スポーツと政治・権力	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
11	職業としてのスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
12	スポーツ・ファンの文化	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
13	スポーツ指導者としての在り方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
14	スポーツとジャーナリズム	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（90分）	プリントで復習（90分）
15	東京オリンピック・パラリンピックの総括	プリントを整理（90分）	テストのポイントをまとめる（90分）
16	定期試験（60分）と解説（30分）	これまでのファイルをじっくり読み返す（90分）	解説を受けて試験のふりかえりを行うこと（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ文化論 (SP) (科目ナンバリング: SPS512008)				
授業担当者 (所属・職名)	細川 光法 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 細川 光法)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
東京オリンピック・パラリンピックなどを通して、スポーツの文化性・価値・未来への展望などへの関心を高め、スポーツを多面的な視点で捉える力を養うことにより、人間・スポーツ・社会の関連を理解し、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」1、「2(2)」に対応する。

到達目標
スポーツを文化性・価値・未来への展望などの多面的な視点で理解することができる。

授業全体の内容と概要
毎回、直近のスポーツ文化関連ニュースの背景を探ることからはじめ、シラバスに基づいたテーマを学ぶ。

授業の方法
基本は「スポーツは文化である」という認識で各テーマを解説する。毎回、テーマに対応したプリントを配布し、板書など参考データを活用しながら講義形式で行う。なお、資料にて説明したことをもとに、プレゼンテーションやディスカッション、調査学習を用いた講義を展開する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
教室では他人の迷惑になる行為(私語など)をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。

資格指定科目
スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの文化性	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を十分に理解できた。	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を概ね理解できた。	スポーツはなぜ文化といえるのかを一定程度理解し、資料収集もしていた。	スポーツの文化性をわずかに理解できた。	スポーツを文化ととらえる考えが見られない。
パラリンピックと障害者への視点	単にスポーツの世界だけでなく、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力まで十分に理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を概ね理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を一定程度理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力に共感している。	スポーツ競技に参加する障害者に関心が見られない。
東京オリンピックの光と影	経済効果や遺産の陰にあるさまざまな課題まで総合的に理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを概ね理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを一定程度理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることをわずかに理解できた。	五輪の光と影について全く興味がない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『スポーツ文化を学ぶ人のために』	井上俊・亀山佳明(編)	世界思想社	1999	4-7907-0771-7	
2	『よくわかるスポーツ文化論(やわらかアカデミズム・わかる>シリーズ)』	井上俊・菊幸一編著	ミネルヴァ書房	2012	978-4-623-	
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ文化論 (SP) (科目ナンバリング: SPS512008)				
授業担当者(所属・職名)	細川 光法 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 細川 光法)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 この授業全体のガイダンス	スポーツ関連ニュースを意識 (90分)	ガイダンスの復習 (90分)
2	スポーツ文化のとらえ方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
3	メディア化するスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
4	東京オリンピック、誘致成功からの準備はどう進んだか	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
5	東京オリンピックの光と影	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
6	パラリンピックの歴史と意義	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
7	スポーツとジェンダー	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
8	スポーツと地域社会	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
9	スポーツと教育	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
10	スポーツと政治・権力	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
11	職業としてのスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
12	スポーツ・ファンの文化	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
13	スポーツ指導者としての在り方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
14	スポーツとジャーナリズム	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	プリントで復習 (90分)
15	東京オリンピック・パラリンピックの総括	プリントを整理 (90分)	テストのポイントをまとめる (90分)
16	定期試験 (60分) と解説 (30分)	これまでのファイルをじっくり読み返す (90分)	解説を受けて試験のふりかえりを行うこと (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ原理 (科目ナンバリング: DMB522054)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かしてスポーツ原理に関連する諸事項を講義する。		

概要

履修目標
スポーツや体育の本質を考え、あるべきスポーツや体育の原理原則を学ぶための科目であり、体育の定義、目的、内容、方法などに関する代表的な見解を学習しながら、私たちの生活の中におけるスポーツの意味や価値を知り、生涯にわたるスポーツ実践者としての基本的な知識を理解することができる。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「1(4)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
・スポーツを取り巻く現状や問題点、そして今後生涯スポーツが個人や社会に果たす役割と意義について具体的に述べるができる。

授業全体の内容と概要
・人とスポーツとの多様な関わり方について知るとともに、スポーツの歴史と我が国のスポーツ振興方策の歴史を理解し、これからのスポーツの方向性を把握する。 ・我が国のスポーツの実情と問題点、スポーツが人々にもたらすさまざまな便益や効果について、意見交換しながら自分の意見をまとめ発表する活動を行う。

授業の方法
・各回のテーマに関してのプリント等を使用して説明を行う。 ・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するために、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。 ・講義で配布するプリント類はクリアファイル等に整理と保管し、必要時に参照できるようにすること。 ・講義中、スマホや飲食物等はカバン等に入れておく。但し、指示のあった場合のみ可。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻は3回で欠席1回とみなす。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は、11回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	40%	20%	20%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
40%	20%	20%	0%	20%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スポーツについての理解</td> <td>スポーツの現状や問題点、生涯スポーツの果たす役割と意義が理解できた。(9割)</td> <td>スポーツの現状や問題点、生涯スポーツの果たす役割と意義が理解できた。(8割)</td> <td>スポーツの現状や問題点、生涯スポーツの果たす役割と意義が理解できた。(7割)</td> <td>スポーツの取り巻く現状や問題点を理解できた。</td> <td>スポーツの取り巻く現状や問題点を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>人とスポーツの関わり方についての思考・判断</td> <td>人とスポーツとの多様な関わり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断できた。(9割)</td> <td>人とスポーツとの多様な関わり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断できた。(8割)</td> <td>人とスポーツとの多様な関わり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断できた。(7割)</td> <td>人とスポーツの多様な関わり方について考えることができた。</td> <td>人とスポーツの多様な関わり方について考えることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>スポーツについての意見交換・発表</td> <td>スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめ、意見交換・発表ができた。(9割)</td> <td>スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめ、意見交換・発表ができた。(8割)</td> <td>スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめ、意見交換・発表ができた。(7割)</td> <td>スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめることができた。</td> <td>スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめることができなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	スポーツについての理解	スポーツの現状や問題点、生涯スポーツの果たす役割と意義が理解できた。(9割)	スポーツの現状や問題点、生涯スポーツの果たす役割と意義が理解できた。(8割)	スポーツの現状や問題点、生涯スポーツの果たす役割と意義が理解できた。(7割)	スポーツの取り巻く現状や問題点を理解できた。	スポーツの取り巻く現状や問題点を理解できなかった。	人とスポーツの関わり方についての思考・判断	人とスポーツとの多様な関わり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断できた。(9割)	人とスポーツとの多様な関わり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断できた。(8割)	人とスポーツとの多様な関わり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断できた。(7割)	人とスポーツの多様な関わり方について考えることができた。	人とスポーツの多様な関わり方について考えることができなかった。	スポーツについての意見交換・発表	スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめ、意見交換・発表ができた。(9割)	スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめ、意見交換・発表ができた。(8割)	スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめ、意見交換・発表ができた。(7割)	スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめることができた。	スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめることができなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
スポーツについての理解	スポーツの現状や問題点、生涯スポーツの果たす役割と意義が理解できた。(9割)	スポーツの現状や問題点、生涯スポーツの果たす役割と意義が理解できた。(8割)	スポーツの現状や問題点、生涯スポーツの果たす役割と意義が理解できた。(7割)	スポーツの取り巻く現状や問題点を理解できた。	スポーツの取り巻く現状や問題点を理解できなかった。																																				
人とスポーツの関わり方についての思考・判断	人とスポーツとの多様な関わり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断できた。(9割)	人とスポーツとの多様な関わり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断できた。(8割)	人とスポーツとの多様な関わり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断できた。(7割)	人とスポーツの多様な関わり方について考えることができた。	人とスポーツの多様な関わり方について考えることができなかった。																																				
スポーツについての意見交換・発表	スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめ、意見交換・発表ができた。(9割)	スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめ、意見交換・発表ができた。(8割)	スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめ、意見交換・発表ができた。(7割)	スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめることができた。	スポーツの実情と人々にもたらすさまざまな便益や効果について自分の意見をまとめることができなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『体育原理講義』</td> <td>中村 敬雄、高橋 健夫</td> <td>大修館</td> <td>2009</td> <td>9784469261240</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『生涯スポーツの理論と実際』</td> <td>日下 裕弘、加納 弘二</td> <td>大修館</td> <td>2010</td> <td>9784469266986</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>『教養としての体育原理』</td> <td>友添 秀則、岡出 美則</td> <td>大修館</td> <td>2010</td> <td>9784469265736</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『体育原理講義』	中村 敬雄、高橋 健夫	大修館	2009	9784469261240		2	『生涯スポーツの理論と実際』	日下 裕弘、加納 弘二	大修館	2010	9784469266986		3	『教養としての体育原理』	友添 秀則、岡出 美則	大修館	2010	9784469265736		4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『体育原理講義』	中村 敬雄、高橋 健夫	大修館	2009	9784469261240																																					
2	『生涯スポーツの理論と実際』	日下 裕弘、加納 弘二	大修館	2010	9784469266986																																					
3	『教養としての体育原理』	友添 秀則、岡出 美則	大修館	2010	9784469265736																																					
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ原理 (科目ナンバリング: DMB522054)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校における勤務経験を活かしてスポーツ原理に関連する諸事項を講義する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 なぜ、スポーツ(体育)原理を学ぶのか、スポーツ(体育)原理はどのような学問か	体育教員を目指す理由を説明できるようにしておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
2	体育の理念はどのように変わってきたか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
3	体育とスポーツは何が違うか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
4	運動の持つ可能性 ヒューマン・ムーブメント研究の現在 体育における人間形成 - 体育は人間をどう創るのか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
5	体育とフェアプレイ フェアプレイは有効か	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
6	体育と身体形成 - 身体形成とは何か、身体からみた体育の可能性 - 学校における身体的位置づけ	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
7	体育にとっての競争の意味 - 競争と協同は対立するのか プレイが生み出す体育の可能性 - プレイは何をもたらすか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
8	技術指導からみた体育 - 学校における技術・技能・戦術の意味 体育と指導者 - 体育教師とコーチ、何が違う	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
9	子どもたちからみた体育の存在意義 - なぜ、子どもにも体育が必要か 社会変化と今後の体育 - これからの体育を考える	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
10	スポーツと宗教、政治、環境	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
11	スポーツとグローバル化、ビジネス、生涯スポーツ	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
12	スポーツとドーピング、ナショナリズム、勝利至上主義	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
13	スポーツとオリンピック、メディア、コミュニティ	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
14	スポーツの制度と暴力 スポーツとジェンダー	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
15	障がい者にとってのスポーツ、まとめ	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容の復習(90分)	本時の学修内容をまとめて提出する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツビジネス論 (科目ナンバリング:SPS512009)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
世界のスポーツビジネスの事例を学び、北広島に建設されるBPをケースとしてスポーツビジネスの発展をリアルタイムで学ぶことにより、成長産業としてのスポーツビジネスを理解する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。

授業全体の内容と概要
経営学の知識を総合してスポーツビジネスに応用する。

授業の方法
毎回プリントを配布し、スポーツビジネスの仕組みを説明。ディスカッションを深めるため、学生から発言を求め、レポート、試験などの解説のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業に集中しない学生には退出を指示する。授業中の問いに対する積極的な発言を歓迎する。履修にあたりマーケティング論、経営戦略論、財務会計論を履修済みであることが望ましい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	40%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツビジネスにおける、個別、種目別のビジネスモデルを理解し、経営戦略を策定することができる。	野球団の新規事業を作成することができた。	アメリカメジャーリーグのビジネスモデルを理解していた。	日本のプロ野球のビジネスモデルの変遷を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの基本を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの理解が不足していた。
オリンピックとワールドカップに関するビジネスモデルを理解する	東京2020オリンピックのビジネスモデルと課題解決策を明確にすることができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへ課題の解決策を導くことができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの課題を抽出することができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの基底的に理解していた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへの理解が不足していた。
新たなスポーツビジネスの理解と創造力を養う	北海道ボールパークと2030年札幌オリンピック構想の課題を抽出し解決策を策定することができた。	北海道ボールパーク構想の課題を抽出し解決策を策定することができた。	北海道ボールパーク構想について、価値や意義ならびに経済効果などに対して理解を深めていた。	E-SportsやBP(ボールパーク)について基底的に理解していた。	E-SportsやBP(ボールパーク)について理解が不足していた。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツビジネス論 (科目ナンバリング: SPS512009)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明) スポーツビジネスの概要	シラバスを読んでおくこと(90分)	レポート作成(90分)
2	プロ野球のビジネスモデル	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
3	アメリカスポーツのビジネスモデル MLB	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
4	アメリカスポーツのビジネスモデル NFL	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
5	ヨーロッパにおけるサッカービジネス(英国)	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
6	サッカービジネス	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
7	オリンピック	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
8	オリンピック	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
9	ワールドカップ	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
10	ワールドカップ	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
11	E-Sports	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
12	E-Sports	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
13	BP(ボールパーク)ビジネス	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
14	BP(ボールパーク)ビジネス	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
15	BP(ボールパーク)ビジネス	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
16	試験・課題に対するフィードバック	解説フィードバック(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ経営論（SP）（科目ナンバリング：SPS512009）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木 重政（経営学科・教授）	研究室所在	1号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：鈴木 重政）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	世界のスポーツビジネスの事例を学び、北広島に建設されるBPをケースとしてスポーツビジネスの発展をリアルタイムで学ぶことにより、成長産業としてのスポーツビジネスを理解する。
------	---

授業の位置づけ	経営学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。
---------	----------------------------

到達目標	スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。
------	---

授業全体の内容と概要	経営学の知識を総合してスポーツビジネスに応用する。
------------	---------------------------

授業の方法	毎回プリントを配布し、スポーツビジネスの仕組みを説明。ディスカッションを深めるため学生から発言を求める。レポート、試験などの解説のフィードバックを実施する。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項	授業に集中しない学生には退出を指示する。授業中の問いに対する積極的な発言を歓迎する。履修にあたりマーケティング論、経営戦略論、財務会計論を履修済みであることが望ましい。
----------	--

資格指定科目	教職課程（保健体育）選択科目
--------	----------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	40%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツビジネスにおける、個別、種目別のビジネスモデルを理解し、経営戦略を策定することができる。	野球団の新規事業を作成することができた。	アメリカメジャーリーグのビジネスモデルを理解していた。	日本のプロ野球のビジネスモデルの変遷を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの基本を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの理解が不足していた。
オリンピックとワールドカップに関するビジネスモデルを理解する	東京2020オリンピックのビジネスモデルと課題解決策を明確にすることができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへ課題の解決策を導くことができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの課題を抽出することができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの基本的理解していた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへの理解が不足していた。
新たなスポーツビジネスの理解と創造力を養う	北海道ボールパークと2030年札幌オリンピック構想の課題を抽出し解決策を策定することができた。	北海道ボールパーク構想の課題を抽出し解決策を策定することができた。	北海道ボールパーク構想について、価値や意義ならびに経済効果などに対して理解を深めていた。	E-SportsやBP（ボールパーク）について基本的理解していた。	E-SportsやBP（ボールパーク）について理解が不足していた。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツビジネス論（SP）（科目ナンバリング：SPS512009）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木 重政（経営学科・教授）	研究室所在	1号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：鈴木 重政）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明） スポーツビジネスの概要	シラバスを読んでおくこと（90分）	レポート作成（90分）
2	プロ野球のビジネスモデル	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
3	アメリカスポーツのビジネスモデル M L B	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
4	アメリカスポーツのビジネスモデル N F L	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
5	ヨーロッパにおけるサッカービジネス（英国）	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
6	サッカービジネス	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
7	オリンピック	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
8	オリンピック	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
9	ワールドカップ	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
10	ワールドカップ	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
11	E - S p o r t s	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
12	E - S p o r t s	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
13	B P（ボールパーク）ビジネス	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
14	B P（ボールパーク）ビジネス	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
15	B P（ボールパーク）ビジネス	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
16	試験・課題に対するフィードバック	解説フィードバック（90分）	総復習（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1		
開講時期	2Q	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	体づくり運動（科目ナンバリング：HSS522069）				
授業担当者（所属・職名）	細川 賢一（経営学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：細川 賢一）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	自己の体に関心を持ち、体力づくりにはどのような運動が効果的であるかを理解し、指導実践できるようにする。
------	---

授業の位置づけ	経営学科のDPの「1(4)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。
---------	------------------------------------

到達目標	学校教育において「体づくり運動」が導入された経緯と必要性、その目的・教育の方法を理解する。
------	---

授業全体の内容と概要	自己の体を動かしながら、体について考え、体の働きを学習する。また、仲間と交流したりするための手軽な運動や规律的な運動を学習する。
------------	--

授業の方法	授業は実技を中心に行い、学習内容の課題をグループごとに実施・発表する。中間試験は、体力づくりの基礎技術を見る。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項	運動のできる服装（上履き必須）。ピアス・ネックレス等は身に付けないこと。携帯電話は持ち込まないこと。上記のことについて厳守。守れない学生は授業に参加できない。又、授業中の私語、迷惑行為、授業中断等の態度・行為「例えば、授業中に寝る・授業に関係のない行為、協調性に欠ける・授業に集中できない」このような学生は場合によっては退席させ、その時間の授業は欠席とみなします。トイレは授業前に済ませること。やむをえず退席を希望の場合は許可を得ること。許可なく授業途中の退席は欠席とみなす。点呼時に着席していない場合は遅刻とみなす。遅刻2回で一回の欠席とみなす。10分以上の遅刻は欠席とみなす。但し、バスや列車が原因で遅れる場合は遅延証明書を出し提出すること。中間テストは必ず受講すること。受講できない学生は、評価の対象となりません。課題を提出を出された場合は期日厳守。病欠等場合診断書等を提出すること。
----------	---

資格指定科目	教職課程（保健体育）必修科目
--------	----------------

評価方法・基準

評価前提条件					
1 1 回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	20%	40%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
体づくり運動についての理解・認識	体づくり運動の目的や必要性を十分に理解し、授業で登場した運動や指導について具体的に結び付けることができ、また自ら運動や指導法を見出すことができた。	体づくり運動の目的や必要性を理解し、授業で登場した運動や指導について具体的に結び付けることができた。	体づくり運動の目的や必要性を理解し、授業で行った運動と結び付けることができた。	体づくり運動の目的や必要性は理解することができた。	体づくり運動の目的や必要性を理解することができなかった。
自分や他者の体への意識と運動の実施	自分や他者の体に意識を向けることができ、運動の効果を考え、効果的に運動や指導を実践することができた。	自分や他者の体に意識を向けることができ、運動の効果を考え、指示された運動の効果を考えながら運動を試みていた。	自分や他者の体に意識を向けることができ、指示された運動の効果を考える努力が窺えた。	指示された運動はとりあえず実施していた。	自分や他者の体に意識を向けることはなく、運動の実施もできなかった。
授業に対する主体的な実践への取り組み	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、実践力のある指導者としての自覚が出来上がりがつつあった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常に行われ、実践力を身に付けるための努力が窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢が窺えた。	不明点を質問したりすることは少ないなど、積極的に取り組む姿勢が見られた。	自分から進んで授業に参加する姿勢が見られなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2017		
2	『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』	文部科学省	東山書房	2018		
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ヨーガを始める人のために』	田原 豊道	池田書店	1978		
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1		
開講時期	2Q	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	体づくり運動（科目ナンバリング：HSS522069）				
授業担当者（所属・職名）	細川 賢一（経営学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：細川 賢一）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ・体づくりとは何か	シラバスを読んでおくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
2	体ほぐしの運動 ・基礎運動 「柔軟体操、ストレッチング」	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
3	体ほぐしの運動 ・基礎運動 「ペアグループでの柔軟体操、ストレッチ」	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
4	体ほぐしの運動 ・一人での歩、走、跳を取り入れた各運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
5	体ほぐしの運動 ・二人での歩、走、跳を取り入れた各運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
6	体ほぐしの運動 ・器具を使用した各運動（ボール、フープ、ナワ、棒、シャトル）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
7	体力を高める運動 ・柔軟性向上の運動（ストレッチング、ヨガの基本）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
8	体力を高める運動 ・筋力向上の運動（自体重負荷）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
9	体力を高める運動 ・巧みさ向上の運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
10	体力を高める運動 ・持久力向上の運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
11	体力を高める運動 ・パワー向上の運動（ウェイトトレーニングの基本）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
12	体力を高める運動 ・総合的体力向上の運動（レベテーション、サーキット）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
13	体力を高める運動 ・空中感覚を養うための運動（トランポリン）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
14	模擬授業（指導者として）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
15	模擬授業（指導者として）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（45分）
16	課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項を整理しておくこと（90分）	解説・フィードバックを受けて学習内容の理解を深めること（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2・3・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	柔道（再） （科目ナンバリング：HSS522080）				
授業担当者（所属・職名）	中川 純二（経営学科 准教授）、三嶋 康嗣（経営学科・専任講師）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1	（単位認定責任者：中川 純二）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高校・大学・専門学校等での教員経験をもち、嘉納治五郎先生の精神を学習・理解を深めさせ、安全かつ技の技術を正確に指導できるように行っていく。			

概要

履修目標
柔道の技術（礼法、基本動作、対人技能の投げ技・固め技等）を自から身につけ、安全に配慮しながら指導できるよう、指導法を実践し学ぶ。練習方法と審判法、試合運営法を習得し、安全かつ健康を保持増進し、加納治五郎先生の精神である「人格の完成をはかり、社会に貢献できるよう」学習する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
学校体育の柔道指導法、武道の指導法を実践し学ぶ。基本動作、対人的技能の投げ技・固め技、練習方法と審判方を習得する。また、安全指導のあり方を学習する。

授業全体の内容と概要
基本動作、基本的な技術を実践し習得する。安全指導への注意点を学び実践する。スム・ズな試合運営ができるよう習得する。

授業の方法
授業は実技のため、各人の技量が必要となってくる。基本的な動作（礼法・受身・技）を習得し、安全に注意を払いながら指導できるようにしていく。また、審判法やルールを理解し、円滑に試合運営ができるようにする。欠席・見学は無いよう体調管理に気を付け技の習得につとめる事。習得状況の確認試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
柔道衣を着用する。武道の精神である、礼節を大切に励行する。ル・ルで決められている。危険な物は身につけない（時計・指輪・ピアス・ミサンガ等）。体調の悪い時は、事前に申し出ること。

資格指定科目
教職課程(保健体育)必修科目 再履修者専用

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
柔道に対する関心・意欲・態度・判断	日本古来の武道である柔道の精神を理解し、自ら意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	指示された事を普通に扱い、安全に注意を払っていた。	指示されたことが理解できず、意欲もなく安全に注意を配っていなかった。	指示どおりにおこなわず、意欲も全くなき、安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	礼法・受身・技の理合いを理解し、各項目において特に優れている技能を有する事ができた。	各項目において技能が7割程度習得できている事ができた。	各項目において技能が5割程度習得できている事ができた。	各項目において技能が3割程度しか習得できていなかった。	各項目において技能が習得できていない、やる気がなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	審判規定を完全にマスターし、審判やゲームの運営をスムーズに実施することができた。	審判規定をマスターし、審判やゲームの運営を助言を受けながら実施することができた。	審判規定を最低限マスターし、審判やゲームの運営を行うことができた。	審判規定を理解することができず、部分的にしか審判やゲームの運営をすることができなかった。	審判規定を習得できず、審判やゲームの運営を行うことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2・3・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	柔道（再） （科目ナンバリング：HSS522080）				
授業担当者（所属・職名）	中川 純二（経営学科 准教授）、三嶋 康嗣（経営学科・専任講師）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1	（単位認定責任者：中川 純二）	CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 高校・大学・専門学校等での教員経験をもち、嘉納治五郎先生の精神を学習・理解を深めさせ、安全かつ技の技術を正確に指導できるように行っていく。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業の進め方、柔道の教育的意義、武道の歴史）シラバスの説明	事前にシラバスを読み確認をおこなう（45分）	ガイダンスの内容を理解する（45分）
2	柔道衣の着方、礼法、指導のあり方と基本動作と受身（後ろ受身、横受身、横転受身）	事前に柔道衣の着方、礼法、受身を学習する（45分）	本日の授業内容を復習し、確認を行う（45分）
3	基本動作、受身の復習（前回り受身）、安全な投げ方、袈裟固め	事前に基本動作の知識や投げ方の学習をする（45分）	本日の授業内容を復習し、確認を行う（45分）
4	投げ技（膝車、支え釣り込み足）、固め技（横四方固め）	事前に膝車、支え釣り込み足、横四方固めの学習を行う（45分）	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める（45分）
5	投げ技（体落とし、大腰）、固め技（上四方固め）、固め技のゲ・ム	事前に体落とし、大腰、上四方固めの学習を行う（45分）	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める（45分）
6	投げ技（小内刈、大内刈、大外刈）、固め技（縦四方固め）、固め技のゲ・ム	事前に小内刈、大内刈、大外刈、縦四方固めの学習を行う（45分）	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める（45分）
7	投げ技、固め技の復習、約束練習、固め技の簡易試合	事前に今まで習得した技の復習を行っておく（45分）	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める（45分）
8	投げ技（背負投、一本背負）、約束練習、かかり練習、固め技の簡易試合	事前に背負投、一本背負の投げ方を学習する（45分）	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める（45分）
9	かかり練習、約束練習、自由練習の練習法	事前に練習方法の学習を行う（45分）	本日の授業内容を復習し、さまざまな練習法を習得する（45分）
10	投げ技（払腰、内股）、固め技（絞め技と間接技の原理と安全指導）	事前に払腰、内股、絞め技、関節技の学習をする（45分）	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める（45分）
11	投げ技11・固め技6つの復習、約束練習	事前に、今までに学習した技を復習しておく（45分）	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める（45分）
12	試合の方法、審判法、かかり練習、自由練習	事前に試合の方法、審判法を学習する（45分）	本日の授業内容を復習し、審判法の習得に努める（45分）
13	試合の運営法、技の判定基準、約束練習、かかり練習、自由練習	事前に審判法の復習及び試合の運営方法を学習する（45分）	本日の授業内容を復習し、審判法、試合運営法を習得する（45分）
14	簡易試合を通じ、試合の運営方法、審判法、技の判定基準、役割、役割分担を学ぶ	事前に13時間目の復習をしておく（45分）	試合の運営法を習得し、安全に試合が運営できるか理解し工夫をする（45分）
15	ミニ大会を実施、運営法を学ぶ	スム・ズに大会を行えるよう手順を学習する（45分）	技術、指導法、審判法を習得し、安全に授業を行えるようにする（45分）
16	実技試験、到達度確認	実技試験のための用具等の準備を行う（45分）	指導における留意点を復習し、円滑に授業が行えるようまとめる（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	運動学（運動方法学を（科目ナンバリング：SPS522056））				
授業担当者（所属・職名）	米野 宏（経営学科・准教授）		研究室所在	1号館3階	
単位数	2	（単位認定責任者：米野 宏）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	約7年にわたる本科目の授業経験とその他の体育・スポーツ関係の授業経験も活かしながら授業を進める。		

概要

履修目標	身体運動におけるメカニズムについての理論的学習に加え、スポーツ活動の実践を通して、グループワークなどにより、主体的に指導方法を身につける。																					
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(4)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	学校の体育やスポーツ指導現場で必要な運動の見方や考え方を学び、その質的評価ができる。																					
授業全体の内容と概要	前半は、人体の解剖学的な学びに加え、力・重心・モーメントなどの運動力学的な基礎知識を学ぶ。後半は、具体的な運動をテーマに実践やグループワークを通して方法を学ぶ。																					
授業の方法	基本的には教室において、板書またはパワーポイントで理論的学習を行うが、授業の後半は、運動場において、実践的な活動の中で運動方法を学ぶ。さらに、理解を深めるためにグループワークやビデオ視聴もする。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）																
履修上の注意事項	20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。																					
資格指定科目	教職課程（保健体育）必修科目																					

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な出席回数は、11回以上。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	10%	0%	30%	50%	10%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動における解剖学的、生理学的な基礎知識の理解	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識が専門的なレベルで得られた。	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識が比較的よく得られた。	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識はおおよそ得られた。	人体の筋、骨格の基礎的知識や基礎的な生理的機能が理解できた。	人体の筋、骨格の基礎的知識がほとんど無い。生理学的基礎知識もほとんど得られなかった。
スポーツバイオメカニクスに関する知識と理解	身体運動の力学的な知識はとて豊かで運動の分析も多種できた。	身体運動の力学的な知識は比較的豊かで分析もおおよそできた。	身体運動の力学的な基礎的知識が備わり応用もできた。	身体運動の力学的な基礎的知識はあるが応用までには至らなかった。	身体運動の力学的な知識がほとんど理解できなかった。
バイオメカニクス原則に則った運動の実践と指導法の理解	理論に則った考えでの運動を模範的な動きで実践でき、指導法の理解もとても深い。	理論に則った考えでの運動を模範的な動きで実践でき、指導法の理解も比較できた。	理論に則った考えでの運動はおおよそ実践でき、指導のポイントも理解できた。	理論に則った考えでの運動はあまりできないが、指導のポイントは理解できた。	理論に則った考えでの運動が実践や指導のポイントも理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書	<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																											
1																																																	
2																																																	
3																																																	
4																																																	
5																																																	
参考文献・資料等	<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『スポーツバイオメカニクス』</td> <td>金子公寛</td> <td>杏林書院</td> <td>2017</td> <td>978-4-7644-1079-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『スポーツバイオメカニクス20講』</td> <td>阿江通良</td> <td>朝倉書院</td> <td>2017</td> <td>978-4-254-69040</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『スポーツバイオメカニクス』	金子公寛	杏林書院	2017	978-4-7644-1079-		2	『スポーツバイオメカニクス20講』	阿江通良	朝倉書院	2017	978-4-254-69040		3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																											
1	『スポーツバイオメカニクス』	金子公寛	杏林書院	2017	978-4-7644-1079-																																												
2	『スポーツバイオメカニクス20講』	阿江通良	朝倉書院	2017	978-4-254-69040																																												
3																																																	
4																																																	
5																																																	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	運動学（運動方法学を（科目ナンバリング：SPS522056））				
授業担当者（所属・職名）	米野 宏（経営学科・准教授）		研究室所在	1号館3階	
単位数	2（単位認定責任者：米野 宏）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	約7年にわたる本科目の授業経験とその他の体育・スポーツ関係の授業経験も活かしながら授業を進める。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 運動学とは	事前にシラバスを読んで確認する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
2	人体の構造（骨格・骨格筋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
3	運動と力学の法則（ニュートンの法則）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
4	運動と力学の法則（運動量と力積）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
5	運動と力学の法則（力学的エネルギー）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
6	身体重心	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
7	歩く、走る	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
8	跳ぶ（高く跳ぶ）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
9	跳ぶ（遠くへ跳ぶ）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
10	投げける	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
11	打つ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
12	蹴る	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
13	回転運動	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
14	運動指導者を目指すために必要なこと 1	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
15	運動指導者を目指すために必要なこと 2	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（90分）
16	まとめ	ノートに記載されたすべての内容を再度復習する（90分）	課題の内容を確認し、準備する（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	学校保健 (科目ナンバリング：AHS522057)				
授業担当者(所属・職名)	前上里 直 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：前上里 直)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

学校保健活動を構成する「保健管理」と「保健教育」の二大領域とこれらの円滑な運営のための保健組織活動について、それぞれに含まれる「健康管理・環境管理」、「保健学習・保健指導」の具体的な活動内容と法的背景、またこれを支える組織・体系等について学習・理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

児童、生徒の健康問題の解決、改善に関わる学校保健活動について、具体的な取り組みについて理解し、学校教育活動の実践との繋がりを理解する。

授業全体の内容と概要

児童、生徒の健康問題の現状、改善、解決に向けた学校保健の取り組みについて、実態把握、学校における児童、生徒の具体的な例をもとに討議をまじえ、学校保健に関する知識を身につける。

授業の方法

児童、生徒の健康問題の現状等については主としてパワーポイントを用いて説明し、加えて視聴覚メディア、具体的事例を提示して学生自身の考えについてグループワークを行う。また、学校で想定される児童、生徒対応に関する学習として、ロールプレイを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後10分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。なお、私的都合による3回以上の欠席は単位を認定しない。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる出席回数は、11回以上。復習を中心に毎回の授業内容を自分で応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次の授業に向けた予習時間を確保するようにする。また、学校保健の現状と課題、子どもの健康問題に関するレポートを計2回提出する。なお、毎回、次の学習内容に関わる予習課題を提示するので、予習課題を調べて提出する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	30%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学校保健活動の領域構成について理解できている。	学校における子どもの安全、健康問題の変遷と現状を踏まえ、健康問題の予防、改善の取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の学校保健3領域と関連づけて具体的な活動内容例も含めて説明できている。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状と取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の学校保健3領域と関連づけて具体的な活動内容例も含めて説明できている。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について、学校保健活動を構成している「保健教育」「保健管理」「組織活動」の各領域ごとに列挙できている。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について列挙できている。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について列挙できていなかった。
学校保健活動に係る法的根拠と具体的な活動について理解できている。	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の歴史の変遷を踏まえ、子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の法的根拠を整理し、具体的な活動内容について各法と学校保健活動の3領域を関連づけながら説明できている。	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法に記されている内容を基に、子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の法的根拠を整理し、具体的な活動内容について各法と学校保健活動の3領域を関連づけながら説明できている。	学校保健安全法と学校における子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動を関連づけて整理できている。	学校保健安全法における子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動について列挙できている。	子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の根拠となる関連法規、具体的な学校保健活動について列挙できていなかった。
子どもの安全、健康問題の予防、改善につなげるための具体的な支援について理解できている。	子どもの発達特徴を踏まえ、校種ごとに特徴的な安全、健康問題を関連づけながら整理し、予防、改善につなげるための具体的な個別、集団保健指導について自分の考えやアイデアを根拠を持って相手に伝えることができていた。	子どもの発達特徴を踏まえ、校種ごとに特徴的な安全、健康問題を関連づけながら整理し、予防、改善につなげるための具体的な個別、集団保健指導について自分の考えをまとめることができていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みについて、主として個別保健指導の観点から自分の考えをまとめることができていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みの現状について列挙できている。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みの現状について列挙できていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『学校保健統計調査』	文部科学省	双葉レイアウト	2019	978-4-9908130-	
2	『学校保健』	門田新一郎、大津一義	大学教育出版	2016	978-4-864294102	
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	学校保健 (科目ナンバリング：AHS522057)				
授業担当者(所属・職名)	前上里 直 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：前上里 直)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ガイダンス、子どもの健康課題の現状	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
2	学校保健の意義と目的：学校保健の歴史・意義	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
3	学校保健の構造と内容の現状	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
4	保健教育(保健学習と保健指導)	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
5	保健管理 健康診断の法的根拠と意義・実際・健康観察	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
6	保健管理 健康相談の意義・方法(ロールプレイを通して)	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
7	保健管理 学校安全(児童生徒の事故災害の現状と対応)、学校環境衛生	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
8	学校保健活動の展開と運営 学校保健計画、学校安全計画	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
9	学校保健活動の展開と運営 学校保健における組織活動	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
10	小児保健 子どもの心と体の発達	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
11	小児保健 各ライフステージに特徴的な健康問題	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
12	若年者の飲酒、喫煙、薬物乱用、性感染症等の健康問題	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
13	健康教育とヘルスプロモーション	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
14	救急処置(実習含む)	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
15	学校健康教育と教育活動とのかわり	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
16	まとめ	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。(90分)

授業計画			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（バドミントン）（科目ナンバリング：HSS522075）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・准教授）		研究室所在	1号館2階	
単位数	1	（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
共生社会の実現に寄与できる人材となるため、さまざまな情報の中から必要と思われる知識を幅広く理解・体得する科目である。さらに、教職課程の科目なので、基礎からゲームに至るまでのさまざまな技術や方法を実践し、自らの技術向上のみならず、作戦をいかに攻防を展開しゲームが出来るようになるまでの指導力を修得する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(4)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
競技の特性やルールを学び理解するとともに、施設等の安全を確かめ、健康・安全に留意できる教員としての指導能力が身につく。

授業全体の内容と概要
バドミントンの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法
バドミントンという種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながら応用できるように配慮していく。また授業の中で基本的な技術を反復し課題をグループワークで指摘し合いディスカッションをして技術の改善に反映できるように工夫し進めていく。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリ（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。 健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。

資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	20%	60%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本技術の理解	基本技術を良く理解できた	基本技術をほぼ理解できた	基本技術のある程度理解できた	基本技術を理解できた	基本技術を理解できなかった
基本技術の実践	基本技術の実践が良くできた	基本技術の実践がほぼできた	基本技術の実践がある程度できた	基本技術の実践ができた	基本技術の実践ができなかった
戦術に関する理解	戦術に関して良く理解できた	戦術に関してほぼ理解できた	戦術に関してある程度理解できた	戦術に関して理解できた	戦術に関して理解できなかった

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2020』	荒木達雄他	大修館	2020	9784469365634	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（バドミントン）（科目ナンバリング：HSS522075）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・准教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明）	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	基本技術の理解と実践 グリップ、オーバーヘッド	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
3	基本技術の理解と実践 アンダーハンド・プッシュ、ハイグリアー	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
4	基本技術の理解と実践 ドリブングリアー、ドロップカット	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
5	基本技術の理解と実践 スマッシュ・ヘアピン・サービス	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
6	基本技術の確認	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
7	バドミントンのフットワーク	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
8	戦術に関する理解と実践 シングルス	バドミントンの戦術を確認しておく（45分）	バドミントンの戦術を理解しておく（45分）
9	戦術に関する理解と実践 ダブルス	バドミントンの戦術を確認しておく（45分）	バドミントンの戦術を理解しておく（45分）
10	審判法とゲーム運営	バドミントンのルールを確認しておく（45分）	バドミントンのルールを理解しておく（45分）
11	ゲーム シングルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
12	ゲーム シングルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
13	ゲーム シングルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
14	ゲーム ダブルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
15	ゲーム ダブルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
16	実技試験	実技試験の準備をしておく（45分）	試験内容を練習しておく（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（バスケットボール）（科目ナンバリング：HSS522073）				
授業担当者（所属・職名）	市原 英（経営学科・専任講師）	研究室所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：市原 英）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
学校教育においてバスケットボールを教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。そのため、授業において履修者自身のバスケットボールの上達はもちろんのこと、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1（4）」、「2（2）」に対応する。

到達目標
まずはバスケットボールの基礎技術を履修者自身が習得する。競技の特性やルールを学び理解するとともに、ゲームの作戦・攻防におけるチーム内の役割を理解する。健康・安全に留意でき、適切な授業目標を設定し、達成させられるような教員としての指導能力を身につける。

授業全体の内容と概要
バスケットボールの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法
基礎的練習およびゲーム等の中で、まずは履修者自身がバスケットボールの基礎技術の習得・上達することを目標の中心に据えて授業を展開していく。その過程の中で、他者からの、また他者に対する指導や助言を経て、履修者自身による指導や授業実施へと結びつけられるようにする。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
実技科目のため、運動できる服装および屋内履きを用意すること。その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。

資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
バスケットボールの技術習得	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、ゲーム等、複合的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が身に付いており、発揮できる場面もあった。	バスケットボールの技術が最低限度のレベルで身に付いている。	バスケットボールの技術が身に付かなかった。
役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が、主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が出来る場面があった。	チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べる事ができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・ペアにおいて、役割を発揮することができなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にすることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（バスケットボール）（科目ナンバリング：HSS522073）				
授業担当者（所属・職名）	市原 英（経営学科・専任講師）	研究室所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：市原 英）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ガイダンス、レクリエーション	シラバスの確認（45分）	ガイダンス内容の理解（45分）
2	バスケットボールの構造把握・スキルチェック	基本技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
3	基本技術 ドリブルシュート	基本技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
4	基本技術 ジャンプシュート	基本技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
5	基本技術 パス・コンビネーション	基本技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
6	オフェンス 1対1での攻め方	習得した技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
7	オフェンス アウトナンバー	習得した技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
8	ディフェンス マンツーマンディフェンス	習得した技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
9	ディフェンス ゾーンディフェンス	習得した技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
10	戦術練習 ハーフコートでの攻防	基本戦術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
11	戦術練習 オールコートでの5体5	基本戦術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
12	ゲームにおける展開・戦術の組み立て	ゲーム展開の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
13	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
14	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認（45分）	試験課題の確認（45分）
15	実技試験	試験課題の確認（45分）	試験の出来の振り返り（45分）
16	まとめ	授業全体の振り返り（45分）	身に付いた事の確認（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	陸上競技（1年）（科目ナンバリング：HSS522071）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・准教授）・石井 祐治（経営学科・講師）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
記録の向上や競技の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につけることができるようにする。また、計画的な練習法や競技法を工夫できるようにするほか、競技会の企画・運営に関しても身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
陸上競技に自主的に取り組む。ルールやマナーを大切に。自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

授業全体の内容と概要
陸上競技における走競技種目、躍競技、投てき競技種目の特性を理解し、基本的な技術を習得する。

授業の方法
陸上競技場を中心に授業を進める。陸上競技のDVDを視聴することで競技の特性や特徴などの理解を深める。技能習得場面ではグループワークを通して課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではICT機器の活用をするなどして正しい技術を習得できるように進めていく。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
注意事項及び詳細に関しては、掲示及びオリエンテーションで説明。大学近郊の陸上競技場を利用し、集中授業として実施予定。

資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
1 2回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	50%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
短距離競技の理解と実践	短距離競技の理解と実践が良くできた	短距離競技の理解と実践がほぼできた	短距離競技の理解と実践がある程度できた	短距離競技の理解と実践ができた	短距離競技の理解と実践ができなかった
跳躍競技の理解と実践	跳躍競技の理解と実践が良くできた	跳躍競技の理解と実践がほぼできた	跳躍競技の理解と実践がある程度できた	跳躍競技の理解と実践ができた	跳躍競技の理解と実践ができなかった
投てき競技の理解と実践	投てき競技の理解と実践が良くできた	投てき競技の理解と実践がほぼできた	投てき競技の理解と実践がある程度できた	投てき競技の理解と実践ができた	投てき競技の理解と実践ができなかった

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2020』	荒木達雄他	大修館	2020	9784469365634	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	陸上競技（1年）（科目ナンバリング：HSS522071）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・准教授）・石井 祐治（経営学科・講師）		研究室所在	1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	短距離走	短距離走の確認をしておく（45分）	短距離走を理解しておく（45分）
3	短距離走 100m走（各種スタート法と正しい走り方）	短距離走の確認をしておく（45分）	短距離走を理解しておく（45分）
4	短距離走 100m走（スタートダッシュ・中間疾走・フィニッシュ・タイムトライアル）	短距離走の確認をしておく（45分）	短距離走を理解しておく（45分）
5	ハードル走 （ハードリングとインターバル・安全配慮）	ハードル走の確認をしておく（45分）	ハードル走を理解しておく（45分）
6	ハードル走 （スターティングブロックを使用時のスタート、インターバル5歩走・3歩）	ハードル走の確認をしておく（45分）	ハードル走を理解しておく（45分）
7	ハードル走 （タイムトライアル）	ハードル走の確認をしておく（45分）	ハードル走を理解しておく（45分）
8	跳躍競技 （走り幅跳び：助走・歩数・踏切・安全配慮）	跳躍競技の確認をしておく（45分）	跳躍競技を理解しておく（45分）
9	跳躍競技 （走り高跳び：助走・歩数・踏切・安全配慮）	跳躍競技の確認をしておく（45分）	跳躍競技を理解しておく（45分）
10	跳躍競技 （走り幅跳び・高跳びトライアル）	跳躍競技の確認をしておく（45分）	跳躍競技を理解しておく（45分）
11	投てき競技 （砲丸投げの基本動作、グライド、構えからつきたし・安全配慮）	投てき競技の確認をしておく（45分）	投てき競技を理解しておく（45分）
12	投てき競技 （砲丸投げトライアル）	投てき競技の確認をしておく（45分）	投てき競技を理解しておく（45分）
13	リレー種目（バトンパスの方法とテークオーバーゾーンの走り方）	リレー競技の確認をしておく（45分）	リレー競技を理解しておく（45分）
14	リレー種目（4×100mのタイムトライアル）	リレー競技の確認をしておく（45分）	リレー競技を理解しておく（45分）
15	まとめ（競技会の企画・運営など）	競技会の企画・運営などを確認しておく（45分）	競技会の企画・運営などを理解（45分）
16	フィードバック	授業内容を振り返り確認しておく（45分）	授業内容を理解しておく（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	陸上競技（2年）（科目ナンバリング：HSS522071）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・准教授）・石井 祐治（経営学科・講師）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
記録の向上や競技の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につけることができるようにする。また、計画的な練習法や競技法を工夫できるようにするほか、競技会の企画・運営に関しても身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
陸上競技に自主的に取り組む。ルールやマナーを大切に。自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

授業全体の内容と概要
陸上競技における走競技種目、躍競技、投てき競技種目の特性を理解し、基本的な技術を習得する。

授業の方法
陸上競技場を中心に授業を進める。陸上競技のDVDを視聴することで競技の特性や特徴などの理解を深める。技能習得場面ではグループワークを通して課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではICT機器の活用をするなどして正しい技術を習得できるように進めていく。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
注意事項及び詳細に関しては、掲示及びオリエンテーションで説明。大学近郊の陸上競技場を利用し、集中授業として実施予定。

資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
12回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	50%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
短距離競技の理解と実践	短距離競技の理解と実践が良くてできた	短距離競技の理解と実践がほぼできた	短距離競技の理解と実践がある程度できた	短距離競技の理解と実践ができた	短距離競技の理解と実践ができなかった
跳躍競技の理解と実践	跳躍競技の理解と実践が良くてできた	跳躍競技の理解と実践がほぼできた	跳躍競技の理解と実践がある程度できた	跳躍競技の理解と実践ができた	跳躍競技の理解と実践ができなかった
投てき競技の理解と実践	投てき競技の理解と実践が良くてできた	投てき競技の理解と実践がほぼできた	投てき競技の理解と実践がある程度できた	投てき競技の理解と実践ができた	投てき競技の理解と実践ができなかった

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2020』	荒木達雄他	大修館	2020	9784469365634	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	陸上競技（2年）（科目ナンバリング：HSS522071）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・准教授）・石井 祐治（経営学科・講師）		研究室所在	1号館2階	
単位数	1	（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	短距離走	短距離走の確認をしておく（45分）	短距離走を理解しておく（45分）
3	短距離走 100m走（各種スタート法と正しい走り方）	短距離走の確認をしておく（45分）	短距離走を理解しておく（45分）
4	短距離走 100m走（スタートダッシュ・中間疾走・フィニッシュ・タイムトライアル）	短距離走の確認をしておく（45分）	短距離走を理解しておく（45分）
5	ハードル走 （ハードリングとインターバル・安全配慮）	ハードル走の確認をしておく（45分）	ハードル走を理解しておく（45分）
6	ハードル走 （スターティングブロックを使用時のスタート、インターバル5歩走・3歩）	ハードル走の確認をしておく（45分）	ハードル走を理解しておく（45分）
7	ハードル走 （タイムトライアル）	ハードル走の確認をしておく（45分）	ハードル走を理解しておく（45分）
8	跳躍競技 （走り幅跳び：助走・歩数・踏切・安全配慮）	跳躍競技の確認をしておく（45分）	跳躍競技を理解しておく（45分）
9	跳躍競技 （走り高跳び：助走・歩数・踏切・安全配慮）	跳躍競技の確認をしておく（45分）	跳躍競技を理解しておく（45分）
10	跳躍競技 （走り幅跳び・高跳びトライアル）	跳躍競技の確認をしておく（45分）	跳躍競技を理解しておく（45分）
11	投てき競技 （砲丸投げの基本動作、グライド、構えからつぎだし・安全配慮）	投てき競技の確認をしておく（45分）	投てき競技を理解しておく（45分）
12	投てき競技 （砲丸投げトライアル）	投てき競技の確認をしておく（45分）	投てき競技を理解しておく（45分）
13	リレー種目（バトンパスの方法とテークオーバーゾーンの走り方）	リレー競技の確認をしておく（45分）	リレー競技を理解しておく（45分）
14	リレー種目（4x100mのタイムトライアル）	リレー競技の確認をしておく（45分）	リレー競技を理解しておく（45分）
15	まとめ（競技会の企画・運営など）	競技会の企画・運営などを確認しておく（45分）	競技会の企画・運営などを理解（45分）
16	フィードバック	授業内容を振り返り確認しておく（45分）	授業内容を理解しておく（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（バレーボール）（科目ナンバリング：HSS522074）				
授業担当者（所属・職名）	市原 英（経営学科・専任講師）	研究室所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：市原 英）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

<p>履修目標</p> <p>学校教育においてバレーボール教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。授業において履修者自身のバレーボールの上達はもちろんのこと、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。</p>																					
<p>授業の位置づけ</p> <p>経営学科のDP「1（4）」、「2（2）」に対応する。</p>																					
<p>到達目標</p> <p>まずはバレーボールの基礎技術を履修者自身が習得する。競技の特性やルールを学び理解するとともに、ゲームの作戦・攻防におけるチーム内の役割を理解する。健康・安全に留意でき、適切な授業目標を設定し、達成させられるような教員としての指導能力を身につける。</p>																					
<p>授業全体の内容と概要</p> <p>バレーボールの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。</p>																					
<p>授業の方法</p> <p>基礎的練習およびゲーム等の中で、まずは履修者自身がバレーボールの基礎技術の習得・上達することを目標の中心に据えて授業を展開していく。その過程の中で、他者からの、また他者に対する指導や助言を経て、履修者自身による指導や授業実施へと結びつけられるようにする。</p>																					
<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）															
<p>履修上の注意事項</p> <p>実技科目のため、運動できる服装および屋内履きを用意すること。その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。</p>																					
<p>資格指定科目</p> <p>教職課程（保健体育）選択科目</p>																					

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <p>単位認定に必要な出席回数は、11回以上。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。</p>																	
<p>評価方法</p> <table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>60%</td> <td>10%</td> </tr> </table>						定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	30%	60%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他												
0%	0%	0%	30%	60%	10%												

<p>ルーブリック</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>バレーボールの技術習得</td> <td>バレーボールの技術が高い水準で身に付き、ゲーム等の複合的な場面で十分発揮することができた。</td> <td>バレーボールの技術が高い水準で身に付き、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。</td> <td>バレーボールの技術が身に付いており、発揮できる場面もあった。</td> <td>バレーボールの技術が最低限のレベルで身に付いている。</td> <td>バレーボールの技術が身に付かなかった。</td> </tr> <tr> <td>役割の認識およびその展開</td> <td>チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が主体的にできた。</td> <td>チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が出来る場面があった。</td> <td>チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べる事ができた。</td> <td>チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。</td> <td>チームや練習のグループ・ペアにおいて、役割を発揮することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>他者との主体的なコミュニケーション</td> <td>他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。</td> <td>他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にすることができた。</td> <td>他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。</td> <td>他の履修者とコミュニケーションがとれた。</td> <td>他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。</td> </tr> </table>						評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	バレーボールの技術習得	バレーボールの技術が高い水準で身に付き、ゲーム等の複合的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が高い水準で身に付き、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が身に付いており、発揮できる場面もあった。	バレーボールの技術が最低限のレベルで身に付いている。	バレーボールの技術が身に付かなかった。	役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が出来る場面があった。	チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べる事ができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・ペアにおいて、役割を発揮することができなかった。	他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にすることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。
評価項目	評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																													
バレーボールの技術習得	バレーボールの技術が高い水準で身に付き、ゲーム等の複合的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が高い水準で身に付き、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が身に付いており、発揮できる場面もあった。	バレーボールの技術が最低限のレベルで身に付いている。	バレーボールの技術が身に付かなかった。																													
役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が出来る場面があった。	チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べる事ができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・ペアにおいて、役割を発揮することができなかった。																													
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にすることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。																													

教科書・参考文献・資料等

<p>教科書</p> <table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>							No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																										
1																																																
2																																																
3																																																
4																																																
5																																																

<p>参考文献・資料等</p> <table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>							No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																										
1																																																
2																																																
3																																																
4																																																
5																																																

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（バレーボール）（科目ナンバリング：HSS522074）				
授業担当者（所属・職名）	市原 英（経営学科・専任講師）	研究室所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：市原 英）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、ガイダンス・レクリエーション	シラバスの確認（45分）	ガイダンス内容の理解（45分）
2	バレーボールの構造把握・スキルチェック	基本技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
3	基本技術 オーバーハンドバスの習得・指導	基本技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
4	基本技術 アンダーハンドバスの習得・指導	基本技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
5	基本技術 ボールヒット（サーブ）の習得・指導	基本技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
6	基本技術 スパイクの習得・指導	基本技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
7	応用技術 実践的な場面にけるオーバーハンドバスの活用について	習得した技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
8	応用技術 アンダーハンドバスにおけるレセプション・ディグの実際	習得した技術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
9	応用技術 ブロックの習得・指導、ディフェンスにおけるチーム戦術の提示	基本戦術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
10	バレーボールにおける複合的練習 オフェンス（コンビネーション攻撃）	基本戦術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
11	バレーボールにおける複合的練習（トータルディフェンス）	基本戦術の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
12	ゲームにおける展開・戦術の組み立て	ゲーム展開の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
13	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認（45分）	学習内容の復習（45分）
14	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認（45分）	試験課題の確認（45分）
15	実技試験	試験課題の確認（45分）	試験の出来の振り返り（45分）
16	まとめ	授業全体の振り返り（45分）	身に付いた事の確認（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生理学（科目ナンバリング：BAM522058）				
授業担当者（所属・職名）	黒川 泰任（経営学科・客員教授）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	（単位認定責任者：黒川 泰任）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、ヒトの生理、病態につき経験がある。		

概要

履修目標	生理学は生物、特にヒトの正常機能を追求する学問の一分野である。ヒトの生物学的機能を再考査し、生体の動きのメカニズムを理解することを目指す。
------	---

授業の位置づけ	経営学科のDP「1(2)」、「1(4)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。
---------	--

到達目標	ヒトの身体における正常機能について、理解を深める。
------	---------------------------

授業全体の内容と概要	われわれ、すなわちヒトの身体を、生命という視点から、生き物の最小単位としてその機能の必然性について理解し、生命活動、疾病、運動時などにおける変化につき考察する。
------------	--

授業の方法	板書および配布資料を活用しながら、呼吸、血液、循環、消化と吸収、代謝、排泄、内分泌等の生体維持に関する機能としくみについて、順次、要点を講義、および対話形式ですすめる。また、理解度の確認のため、各講義終了時に小テストを実施し、成績判定に用いる。前回の講義内容要約を配布するので、復習と定期試験のために参考とすること。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項	小テストと講義内容要約が重要なので、欠席しないように、首席は表彰される。
----------	--------------------------------------

資格指定科目	教職課程（保健体育）必修科目
--------	----------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる出席回数は10回以上。定期試験と、各講義終了時の小テストの合計点で目標到達を判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	40%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ヒトは生物の、そして動物の一種であることを科学的に理解する	討論を元に、生命活動のしくみを科学的に考えられる。	生命のしくみについて興味を持ち、理解しようとしている。	ヒトの生物としての特徴がわかる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
ヒトの正常の生命活動と、機械の動く機序との相同性、相違性を理解する	ヒトという生物も、機械も動くしくみは同じだと理解し、説明できる。	生物と機械の違いを説明できる。	ヒトの生命活動の特徴が、いくつか説明できる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
講義態度	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられている。	講義や旨の発言に耳を傾け、書き取っていた。	板書しており、疑問点や不明点をメモできていた。	板書はできている。	講義に参加していない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ぜんぶわかる人体解剖図』	坂井ら	成美堂出版	2017		
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生理学 (科目ナンバリング: BAM522058)				
授業担当者(所属・職名)	黒川 泰任(経営学科・客員教授)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 黒川 泰任)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、ヒトの生理、病態につき経験がある。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明	シラバスを確認しておく(90分)	人の生理について興味ある点を、まとめておく(90分)
2	生き物とは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておく(90分)	当日講義内容の確認のため小テストを行うが、これを利用して理解を深める(90分)
3	細胞と環境	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
4	細胞と循環	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
5	呼吸、酸素の恩恵	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
6	血液	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
7	神経1 中枢神経と末梢神経	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
8	神経2 脳の機能局在	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
9	神経3 脳の解剖学的特徴	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
10	神経と運動	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
11	神経とホルモン、下垂体	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
12	腎臓	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
13	消化器1 消化管	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
14	消化器2 肝臓と膵臓	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
15	免疫	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残り30分で解説を行う。	試験準備(90分)	定期試験内容を参考として、ヒトが生きていく仕組みについて、参考になる読書をする(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ生理学（科目ナンバリング：SPS522059）				
授業担当者（所属・職名）	篠原 諒介（経営学科・助教）		研究室所在	1号館2階	
単位数	2	（単位認定責任者：篠原 諒介）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
運動・スポーツによる身体機能の変化について理解し、競技スポーツおよび健康増進のために必要な運動処方や理論を指導する知識を習得する。																								
授業の位置づけ																								
経営学科のDP「1(5)」、「2(2)」、「2(3)」に対応する。																								
到達目標																								
人間の筋・神経・呼吸・循環における生理学的基礎知識を学ぶとともに、運動・スポーツにおける生理学的変化を理解することで、健康維持や運動能力向上に効果的な運動処方を指導できる。																								
授業全体の内容と概要																								
前半は、骨格筋の収縮、呼吸に伴うガス交換や酸素摂取の基礎知識を学ぶ。後半はホルモン、体脂肪、体温、栄養と身体機能の関係について学び、さらには老化と身体機能、運動と生活習慣病との関係も理解させる。																								
授業の方法																								
各回のテーマについてテキストを使用しながら講義し、さらに、理解を深めるために医学的ビデオも視聴させる。また、レポートなどを学生に講義の中で発表し、それについてグループ討論を行う。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で1回の欠席とする。																								
資格指定科目																								
教職課程（保健体育）必修科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学習した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても修得できた。	学習した知識・技能をおおむね修得できた。	学習した知識・技能を一定程度修得できた。	学習した知識・技能を最低限容認できるレベルで修得できた。	学習した知識・技能を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルに一定程度到達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達した。	与えられた課題に取り組みなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルに一定程度到達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達した。	与えられた課題に取り組みなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『入門運動生理学』	和田正信	杏林書院	2015	978-4-7644-1159-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ生理学（科目ナンバリング：SPS522059）				
授業担当者（所属・職名）	篠原 諒介（経営学科・助教）		研究室所在	1号館2階	
単位数	2	（単位認定責任者：篠原 諒介）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	スポーツ生理学についてシラバスの説明	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
2	筋収縮とエネルギー	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
3	筋繊維の種類と特徴	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
4	筋の収縮様式と筋力	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
5	神経系の役割	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
6	運動と循環	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
7	運動と呼吸（ガス交換、酸素解離）	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
8	運動と呼吸（酸素摂取量）	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
9	運動とホルモン	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
10	身体組成と肥満	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
11	運動と体温	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
12	運動と疲労	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
13	運動と栄養	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
14	老化と身体機能	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
15	運動と生活習慣病	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
16	テスト及び解説	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	衛生学及び公衆衛生学（科目ナンバリング：SOM522060）				
授業担当者（所属・職名）	前上里 直（経営学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：前上里 直）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
健康管理および疾病予防の実践につなげる衛生学、公衆衛生の取り組みの現状について、国民衛生の動向や健康日本21から現在の日本人の健康状態について理解し、その後生活習慣病や感染症などの疾病の原因を予防方法、また環境要因と健康の関連性などについて理解を深める。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
健康を保持・増進するための具体的な支援として、健康と環境の両側面から理解を深める。健康な生活と疾病予防についての衛生及び公衆衛生の地域保健の具体的な取り組みについて理解する。

授業全体の内容と概要
各ライフステージにおける特徴的な健康問題および対策の現状について、衛生統計、地域保健の取り組みの現状や事例を通して理解を確かなものにする。

授業の方法
各ライフステージにおける健康問題の現状等は主として統計資料及びパワーポイントを用いて説明し、加えて視聴覚メディア、具体的な取り組み事例を提示して、学生自身の健康問題の予防及び改善に関する考えについてグループワークとプレゼンテーションを行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
遅刻は講義開始後10分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。なお、私的都合による3回以上の欠席は単位を認定しない。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。

資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる出席回数は、11回以上。復習を中心に毎回の授業内容を自分で応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。また、各ライフステージにおける健康問題の現状と課題、行政の取組みに関するレポートを計2回提出する。なお、毎回、次回の学習内容に関わる予習課題を提示するので、予習課題を調べ提出する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	30%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康管理および疾病予防の実践につなげる衛生学、公衆衛生の取り組みの意義、課題の改善、取組み取組みについて理解できている。	疾病及び健康課題の変遷から衛生学及び公衆衛生学の歴史と現状を踏まえ、健康目的の改善、取組み取組みに関する資料を整理、解釈できていた。	疾病及び健康課題の現状と衛生学及び公衆衛生学の取組みを関連づけて説明できていた。	衛生学及び公衆衛生学の意義、目的について説明できていた。	衛生学及び公衆衛生学の取組みの現状について列挙できていた。	衛生学及び公衆衛生学の取組みの現状について列挙できていなかった。
各ライフステージにおける健康課題について理解できている。	各ライフステージに特徴的な健康課題の変遷及び現状について資料を解釈し、主体と環境の両側面から健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	各ライフステージに特徴的な健康課題の現状について資料を整理し、健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	各ライフステージに特徴的な健康課題の現状について資料を整理できていた。	健康課題の現状について列挙できていた。	健康課題の現状について列挙できていなかった。
地域ごとに特徴的な健康課題の現状について理解できている。	地域ごとに異なる健康課題の特徴について資料を整理し、主体と環境の両側面から健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	地域ごとに異なる特徴的な健康課題の現状について資料を整理し、健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	地域ごとの健康課題の特徴について資料を整理できていた。	地域に特徴的な健康課題について列挙できていた。	各々が抱えている健康課題について列挙できていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説 国民衛生の動向 2019/2020』	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	2019	978-4-87511-	
2	『シンプル衛生公衆衛生学2019』	鈴木 庄亮 監修、辻 一郎、小山 洋 編集	南光堂	2019	978-4-524-	
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	衛生学及び公衆衛生学（科目ナンバリング：SOM522060）				
授業担当者（所属・職名）	前上里 直（経営学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：前上里 直）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 オリエンテーション、日本における健康問題の現状	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
2	公衆衛生学序論 - 公衆衛生の目的と内容 -	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
3	公衆衛生学序論 - 疫学の方法・調査方法 -	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
4	疾病予防と健康管理（ ）：母子保健の現状と取り組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
5	疾病予防と健康管理（ ）：学校保健の現状と取り組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
6	疾病予防と健康管理（ ）：成人・老人保健の現状と取り組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
7	疾病予防と健康管理（ ）：産業保健の現状と取り組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
8	病予防と健康管理（ ）：感染症と現状の予防	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
9	環境保健（ ）環境因子による健康影響と評価	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
10	環境保健（ ）健康を守り育てるための環境条件	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
11	老人保健福祉・地域保健と衛生行政	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
12	老人保健福祉・地域保健と衛生行政	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
13	介護保険制度の現状と課題	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
14	精神保健、保健医療の制度と法規	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
15	国際保健：各国における健康課題の現状と取り組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
16	まとめ	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	器械運動（科目ナンバリング：HSS522070）				
授業担当者（所属・職名）	細川 賢一（経営学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：細川 賢一）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	自己の能力に適した課題をもって器械運動を行い、その技能を高め、技がよりよくできるような指導方法を身につけるため、器械運動の基礎技術の習得を目指す。
授業の位置づけ	経営学科のDPの「1(4)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標	当該科目の歴史・文化的に形成された意義や独自の技術、ルールを理解し、集団や社会に応じて実践できる力を養う。各種目で修得した技術を発表する能力を養う。
授業全体の内容と概要	「マット運動」「跳び箱運動」「鉄棒運動」「平均台運動」の基本的な技術の獲得と技能の向上を目指し、また、器械運動の技の指導法について学習する。

授業の方法	授業は実技中心に行う。安全性を重視しながら基本技術を習得し、出来ない生徒への指導方法や補助法について学ぶ。また、レポート課題や中間テスト等も実施する。中間テストは、マット運動、跳び箱、鉄棒（平均台）の実技を行う。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）										

履修上の注意事項	運動のできる服装（上履き必須）。ピアス・ネックレス等は身に付けないこと。携帯電話は持ち込まないこと。上記のことについて厳守。守れない学生は授業に参加できない。又、授業中の私語、迷惑行為、授業中断等の態度・行為「例えば、授業中に寝る・授業に関係のない行為、協調性に欠ける・授業に集中できない」このような学生は場合によっては退席させ、その時間の授業は欠席とみなします。トイレは授業前に済ませること。やむをえず退席を希望の場合は許可を得ること。許可なく授業途中の退席は欠席とみなす。点呼時に着席していない場合は遅刻とみなす。遅刻2回で一回の欠席とみなす。10分以上の遅刻は欠席とみなす。但し、バスや列車が原因で遅れる場合は遅延証明書を出し提出すること。中間テストは必ず受講すること。受講できない学生は、評価の対象となりません。課題を提出を出された場合は期日厳守。病欠等場合診断書等を提出すること。
資格指定科目	教職課程（保健体育）必修科目

評価前提条件	授業回数の11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。遅刻は15分以上で欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回とみなす。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判断する。												
評価方法	<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>40%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	40%	40%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	0%	40%	40%	20%								

評価方法・基準

評価前提条件	授業回数の11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。遅刻は15分以上で欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回とみなす。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判断する。												
評価方法	<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>40%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	40%	40%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	0%	40%	40%	20%								

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
器械運動の基礎技術の習得	器械運動の基礎技術が優れたレベルで一通り身に付いた。	器械運動の基礎技術が、十分なレベルで一通り身に付いた。	器械運動の基礎技術が、自分の能力に適したレベルで身に付いた。	器械運動の基礎技術が、最低限度身に付いた。	器械運動の基礎技術が身に付かなかった。
技術習得に向けた思考力と実践力	技術習得の過程で、自ら試行錯誤し、実践できていた。また、周囲の学生に対しても自らの考えを助言や指導という形で表現できていた。	技術習得の過程で、自ら試行錯誤し、実践できていた。	技術習得の過程で、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	技術習得の過程で、考え方や解決に対する努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	取り組みにおける考え方や努力が不十分であった。
授業に対する主体的な実践への取り組み	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む。余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、実践力のある指導者としての自覚が出来上がっていた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常に行われ、実践力を身に付けるための努力が窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢が窺えた。	不明点を質問したりすることは少ないなど、積極性には乏しく受動的であった。	自分から進んで授業に参加する姿勢が見られなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2017		
2	『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』	文部科学省	東山書房	2018		
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『体操競技（基本を学ぶために）』	阿部 和雄	ベースボールマガジン社	1992		
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	器械運動（科目ナンバリング：HSS522070）				
授業担当者（所属・職名）	細川 賢一（経営学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：細川 賢一）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス・シラバスの説明、器械運動の基本的な考え方	シラバスを読んでおくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
2	マット運動の基本 ・導入方法（動物歩き）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
3	マット運動の基本 ・前転、後転、伸膝前転、伸膝後転、跳び前転	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
4	マット運動の基本 ・倒立、側転、前方倒立回転	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
5	マット運動の基本 ・側方倒立回転、前方倒立回転とび等、指導法	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
6	跳び箱運動の基本 ・導入方法（手の着き方、踏切方、跳び降り方、着地について）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
7	跳び箱運動の基本 ・切り返し系（開脚跳び、閉脚跳び）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
8	跳び箱運動の基本 ・回転系（台上前転、側転跳び、倒立回転跳び）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
9	跳び箱運動の基本 ・指導法（跳べない子の指導方法）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
10	低鉄棒運動の基本 ・鉄棒の握り方について、上がり方、下り方	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
11	低鉄棒運動の基本 ・前回り下り、前回り、後ろ回り	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
12	鉄棒運動 ・高鉄棒運動の基本（懸垂振動等）、指導法	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
13	鉄棒運動 ・鉄棒運動の基本（懸垂振り・持ち変え・方向転換）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
14	平均台の運動の基本 ・歩き、ジャンプ、ターン、バランス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
15	平均台の運動の基本 ・指導法、前回り	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（45分）
16	課題に対する解説、フィードバック	講義全体を通して質問事項を整理しておくこと（90分）	解説・フィードバックを受けて学習内容の理解を深めること（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	水泳 (科目ナンバリング：HSS522072)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：戸佐 晃一)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
水中運動は、水の特性である水温・浮力・水圧・抵抗など陸上環境と違う環境の中で運動を行うため、年齢を問わずに健康づくりに有益な効果をもたらす運動として多くの人に親しまれている。特に水泳においては技能の獲得が必要なことから、基本泳法のスキルを身につけることを第1の目標とする。また、指導者育成の観点から、水泳および水中運動の指導力を身につけることを第2の目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(4)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの技能を習得する。

授業全体の内容と概要
クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、横泳ぎの泳法及び各泳法のスタート・ターンを習得する。最終日にクロール・平泳ぎ50m完泳の実技試験を実施する。また、水泳事故防止のため健康・安全配慮に関して学習する。

授業の方法
水泳の4泳法におけるDVDを視聴することで特性や特徴などの理解を深め正しい泳法をイメージする。技能習得場面ではグループワークを通して課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではICT機器の活用をすることで正しい技術を習得できるように進めていく。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
注意事項及び詳細に関しては、掲示及びオリエンテーションで説明。大学近郊のプールを利用し、集中授業として実施予定。

資格指定科目
教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
1 2回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	50%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
4泳法の理解	4泳法を良く理解できた	4泳法をほぼ理解できた	4泳法をある程度理解できた	4泳法を理解できた	4泳法を理解できなかった
4泳法の実践	4泳法の実践が良くできた	4泳法の実践がほぼできた	4泳法の実践がある程度できた	4泳法の実践ができた	4泳法の実践ができなかった
4泳法の指導	4泳法の指導が良くできた	4泳法の指導がほぼできた	4泳法の指導がある程度できた	4泳法の指導ができた	4泳法の指導ができなかった

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2020』	荒木達雄他	大修館	2020	9784469365634	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	水泳（科目ナンバリング：HSS522072）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・准教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業内容および準備方法など） シラバスの説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	水泳の基本 水の特徴、水中運動処方（講義）	水泳の基本を確認しておく（45分）	水泳の基本を理解しておく（45分）
3	水泳の基本 水泳の基本泳法について、安全管理（講義）	水泳の基本を確認しておく（45分）	水泳の基本を理解しておく（45分）
4	水泳の基本 水慣れ・水中運動・クラス分け	水泳の基本を確認しておく（45分）	水泳の基本を理解しておく（45分）
5	クロールの基本 （バタ足・手の掻き・面かぶりクロール）	クロールの基本を確認しておく（45分）	クロールの基本を理解しておく（45分）
6	クロールの完成 （正しい泳法・呼吸法の習得・長い距離を泳ぐ）	クロールを確認しておく（45分）	クロールを理解しておく（45分）
7	平泳ぎの基本 （手の掻き・キック）	平泳ぎの基本を確認しておく（45分）	平泳ぎの基本を理解しておく（45分）
8	平泳ぎの完成 （正しい泳法の習得・長い距離を泳ぐ）	平泳ぎを確認しておく（45分）	平泳ぎを理解しておく（45分）
9	背泳ぎの基本 （背面キック・手の掻き）	背泳ぎの基本確認しておく（45分）	背泳ぎの基本理解しておく（45分）
10	背泳ぎの完成 （正しい泳法の習得）	背泳ぎの確認しておく（45分）	背泳ぎを理解しておく（45分）
11	バタフライの基本 （手の掻き・キック）	バタフライの基本確認しておく（45分）	バタフライの基本を理解しておく（45分）
12	バタフライの完成 （正しい泳法の習得）	バタフライを確認しておく（45分）	バタフライを理解しておく（45分）
13	横泳ぎ・立泳ぎ	横泳ぎ・立泳ぎを確認しておく（45分）	横泳ぎ・立泳ぎを理解しておく（45分）
14	スタート・ターン	スタート・ターンを確認しておく（45分）	スタート・ターンを理解しておく（45分）
15	クロール・平泳ぎ実技試験	クロール・平泳ぎの正しい泳法を確認しておく（45分）	クロール・平泳ぎの正しい泳法を理解しておく（45分）
16	まとめ・フィードバック	授業内容全体を振り返り確認しておく（45分）	授業内容を理解しておく（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（ソフトボール）（科目ナンバリング：HSS522076）				
授業担当者（所属・職名）	米野 宏（経営学科・准教授）		研究室所在	1号館3階	
単位数	1	（単位認定責任者：米野 宏）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本授業の実務経験は5年以上となる。また、中学・高等学校の教員免許更新講習においてソフトボールの講習を担当した経験を活かし授業を行う。		

概要

履修目標
ソフトボールの基礎からゲームに至るまでの技術や方法を実践し、競技特性やルールを学ぶ。また、中学・高等学校の体育実技に於いて、健康・安全に留意できる指導能力を身に付ける。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(4)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
ソフトボールの基本技術や練習方法を学び、自主的にゲームが運営できるように導く。また、ゲームを通じてルールや審判法を習得する。

授業全体の内容と概要
前半は、ソフトボールの歴史や競技の特性を概説するとともに、攻撃や守備の基本動作の理論と練習方法を習得し、徐々に応用技術や実践的練習方法へと展開する。後半は試合形式の練習やゲームの中でルールや審判法も学ぶ。また、少人数での特殊なゲームも体験する。

授業の方法
ソフトボールの実技及びゲームは、野球場で行う。雨天時は、基本的に室内練習場で行うが、ビデオ視聴を利用する場合は、教室で実施する。授業内での準備運動では不十分な場合は、早めに到着し、自主的に実施してください。基本技術の習得には個人差が生じます。未熟な技術を自覚できた場合は、熟練者に手伝ってもらい、技術の向上に努めてください。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
ソフトボールまたは野球のユニホームを着用するのが望ましいが、屋外での運動にふさわしい物であれば構わない。金具の付いたスパイクシューズは危険なので使用禁止。ジョギングシューズで構わない。グローブは数人に限りがあるので、できるだけ個人で用意するのが望ましい。

資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ルールと審判法の理解	ルールや審判法を熟知し、競技の特性や歴史的な知識も備わった。	ルールや審判法を熟知し、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っていて、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っているが、周りのアドバイスを受けながら試合を進行させることができた。	ルールや審判法をほとんど理解していなかった。
守備の基本技術と動きの理解	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解した。	送球と捕球の基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。
攻撃の基本技術と攻撃の理解	打基本動作に十分な正確性と強さがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	打基本動作に正確性と強さがあり、理想的な動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（ソフトボール）（科目ナンバリング：HSS522076）				
授業担当者（所属・職名）	米野 宏（経営学科・准教授）	研究室所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：米野 宏）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本授業の経験年数は5年以上となる。また、中学・高等学校の教員免許更新講習においてソフトボールの講習を担当した経験も活かし授業を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） ソフトボールの歴史	シラバスを読んで確認する。（45分）	資料は保管し、ノートで確認する。（45分）
2	基本技術（送球・捕球）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
3	基本技術（ゴロ捕球・飛球の捕球）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
4	基本技術（打撃）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
5	応用技術（攻撃・守備・走塁）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
6	戦術に関する理解と実践（攻撃、走塁）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
7	戦術に関する理解と実践（守備）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
8	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
9	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
10	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
11	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
12	多人数での実戦練習とゲームの工夫（10人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
13	多人数での実戦練習とゲームの工夫（10人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
14	少人数での実戦練習とゲームの工夫（6人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
15	少人数での実戦練習とゲームの工夫（6人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
16	ふりかえり、達成度のチェック	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	学んだことを再確認する。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（ラグビー）（科目ナンバリング：HSS522077）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤 和裕（経営学科・准教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 和裕）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、安全かつ基礎的な技術を正確に指導できるように行っていく。			

概要

履修目標
教職課程の科目なので、基礎からゲームに至るまでのさまざまな技術や方法を実践し自らの技術向上のみならず作戦をいかにした攻防を展開しゲームが出来るようになるまでの指導力を修得する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「2（2）」に対応する。

到達目標
競技の特性やルールを学び理解するとともに、練習場などの安全を確かめ健康・安全に留意できる教員としての指導能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要
ラグビーの基礎技術の習得及びルールを学び、ゲームが出来るように授業を進める。

授業の方法
ラグビーという種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながら応用できるように配慮していく。また授業の中で基本的な技術を反復し課題をフィードバックしながら技術に反映できるように工夫を進めていく。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
服装は実技にふさわしい物を着用して下さい。グラウンドでの実技はアップシューズを使用します。雨又は雪の場合は体育館で実技を行います。その際に屋内運動靴を必ず用意する。健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。

資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	40%	50%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動技能（基本技能）	ラグビーの各技能に優れ十分にできた。	ラグビーの各技能が7割程度できた。	ラグビーの各技能が5割程度できた。	ラグビーの各技能が3割程度できた。	ラグビーの各技能が全くできなかった。
競技知識（ルールの理解）	ルールを詳細まで理解していて審判を行うことができた。	細かいルールも理解することができた。	主なルールを理解することができた。	曖昧ではあるが少しルールを理解することができた。	全くルールを理解することができなかった。
社会的行動（挑戦する姿勢）	好奇心を持ち積極的に挑戦し成し遂げることができた。	前向きに取り組み努力することができた。	挑戦することができた。	とりあえずやってみるが、諦めないでできた。	できないと決めつけ、挑戦することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2	『ラグビー上達テクニック』	林 雅人	実業之日本社	2009	4408452548	
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（ラグビー）（科目ナンバリング：HSS522077）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤 和裕（経営学科・准教授）		研究室所在	1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 和裕）		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、安全かつ基礎的な技術を正確に指導できるようにしていく。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明）	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	基本技術の理解と習得（ボールコントロール・パス）	ラグビーの競技特性を確認しておく（45分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（45分）
3	基本技術の理解と習得（ボールコントロール・キック）	ラグビーの競技特性を確認しておく（45分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（45分）
4	基本技術の理解と習得（タックル）	ラグビーの競技特性を確認しておく（45分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（45分）
5	基本技術の理解と習得（スクラム）	ラグビーの競技特性を確認しておく（45分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（45分）
6	基本技術の理解と習得（ラインアウト）	ラグビーの競技特性を確認しておく（45分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（45分）
7	基本技術の理解と習得（モール・ラック）	ラグビーの競技特性を確認しておく（45分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（45分）
8	応用技術の理解と習得	ラグビーの応用技術を確認しておく（45分）	ラグビーの応用技術を理解しておく（45分）
9	戦術に関する理解と実践 攻撃編	ラグビーの攻撃について 確認しておく（45分）	ラグビーの攻撃について 理解しておく（45分）
10	戦術に関する理解と実践 守備編	ラグビーの守備について 確認しておく（45分）	ラグビーの守備について 理解しておく（45分）
11	試合形式による審判法の実践	ラグビーのルールについて 確認しておく（45分）	ラグビーのルールについて 理解しておく（45分）
12	試合形式による戦術の理解と実践 攻撃編	ラグビーの攻撃の戦術について確認しておく（45分）	ラグビーの攻撃の戦術について理解しておく（45分）
13	試合形式による戦術の理解と実践 守備編	ラグビーの守備の戦術について確認しておく（45分）	ラグビーの守備の戦術について理解しておく（45分）
14	試合形式（少人数でのゲーム）	少人数でのゲームについて確認しておく（45分）	少人数でのゲームについて理解しておく（45分）
15	試合形式（ゲーム）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
16	総合評価、到達度確認	ラグビーの特性やルールについて確認しておく（45分）	指導における留意点を復習し理解しておく（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（サッカー）（科目ナンバリング：HSS522078）				
授業担当者（所属・職名）	木島 敦（経営学科・非常勤講師） 小助川 真木（経営学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1	（単位認定責任者：木島 敦）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	サッカー指導に関する経験・業績を有する教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		

概要

履修目標	基本からゲームに至るまでの技術や方法を実践し、自らの技術向上のみならず作戦を生かした攻防を展開しゲームが出来るようにする。																								
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(4)、1(5)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	競技の特性やルールを学び理解するとともに、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意できる教員としての指導能力をつける。																								
授業全体の内容と概要	サッカーの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。																								
授業の方法	実技を中心とし競技の特性を生かしたグループワークから課題解決し（模擬授業を含む）、確認テスト等でより深くサッカー理解を深める。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																		
履修上の注意事項	服装はトレーニングウェア等を着用。 グラウンドでの実技はアップシューズで行う。 雨天の場合は体育館で行う。																								
資格指定科目	教職課程（保健体育）必修科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	20%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本技術の理解と習得。ドリブル・パス・シュート・ヘディング・ボールコントロール	試合形式の中で高いレベルで正確にできた。	試合形式の中でおおむね正確にできた。	技術練習の中では一定の達成していた。	技術練習の中では達成していた。	技術練習の中でも達成していなかった。
個人戦術に関する理解と実践 守備・攻撃	試合形式の中でも高いレベルで理解できていた。	試合形式の中でおおむね理解できていた。	導入練習の中でおおむね理解できていた。	導入練習の中では一定の理解できていた。	導入練習の中でも理解できていなかった。
指導の実践	設定と導入が目標を越えたレベルを達成できた。	設定と導入が目標レベルをおおむね達成できた。	設定と導入が目標レベルを一定の達成できた。	設定と導入が理解できていた。	目標レベルを達成できていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（サッカー）（科目ナンバリング：HSS522078）				
授業担当者（所属・職名）	木島 敦（経営学科・非常勤講師） 小助川 真木（経営学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1	（単位認定責任者：木島 敦）	CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 サッカー指導に関する経験・業績を有する教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 サッカーガイド 授業の進め方	シラバスの確認（45分）	シラバスの再確認（45分）
2	基本技術の理解と習得 ドリブル・パス	試合映像確認（45分）	ドリブル・パスの練習（45分）
3	基本技術の理解と習得 シュート・ヘディング	試合映像の確認（45分）	シュート・ヘディングの練習（45分）
4	基本技術の理解と習得 ボールコントロール	試合映像の確認（45分）	ボールコントロールの練習（45分）
5	基本技術の確認	ドリブル・パス・ヘディングシュートボールコントロールの練習（45分）	試合映像の確認（45分）
6	応用技術の理解と習得	基本技術の確認練習（45分）	応用技術の確認練習（45分）
7	戦術に関する理解と実践 守備における基本と原則	試合映像の確認（45分）	試合映像による守備における基本と原則の確認（45分）
8	戦術に関する理解と実践 攻撃における基本と原則	試合映像の確認（45分）	試合映像による攻撃における基本と原則の確認（45分）
9	戦術に関する理解と実践 攻撃における戦術	試合映像の確認（45分）	試合映像による守備・攻撃における戦術の確認（45分）
10	レフリングとチーム運営	試合映像の確認（45分）	試合映像によるレフリングとチーム運営の確認（45分）
11	試合形式によるレフリーの実践	試合映像の確認（45分）	試合映像によるレフリーの確認（45分）
12	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・守備	試合映像の確認（45分）	試合映像の確認（45分）
13	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・攻撃	試合映像の確認（45分）	試合映像の確認（45分）
14	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・守備と攻撃	試合映像の確認（45分）	試合映像の確認（45分）
15	試合	試合映像の確認（45分）	試合映像の確認（45分）
16	実技試験 フィードバック	基本・応用のトレーニング（45分）	試合映像の確認（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健 (科目ナンバリング:PSS522061)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院の勤務経験のある精神保健福祉士が経験も交えながら指導する。		

概要

履修目標	現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。 精神保健の基本的考え方を理解する。 現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。 精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との連携について理解する。 国際連合の精神保健活動他他国々における精神保健の現状と対策について理解する。																					
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	現代の精神保健の動向と課題を知り、精神保健の保持・増進、予防のための支援及び関係機関との連携方法、精神保健福祉士の役割について理解する。																					
授業全体の内容と概要	現代の精神保健分野の動向と課題と、精神保健の基本的な考え方について、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について。																					
授業の方法	パワーポイント、板書、プリント、DVDを使用しながら講義形式で行うが、内容によってはグループで討論することもある。毎回、授業の最後に学んだことや質問をまとめて提出する。質問は次の授業で回答する。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	精神保健に関連する疾患などについて事例を交えて学習する。毎回、授業の最後に学んだことをまとめて提出する。これは出席と成績に反映される。																					
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
メンタルヘルス上の問題の理解	資料やDVDなどの授業内容を十分理解し、自分の考えを含めた感想文を毎回提出していた。	授業後の感想文に自分の考えについてある程度述べていた。	授業後の感想文に自分が理解したことを大枠でまとめた。	内容は乏しいが授業後の感想文に記入していた。	授業後の感想文をほとんど書けなかった。
授業に主体的に取り組む態度	精神疾患を抱えた方への支援方法についてわかりやすく説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法についておおむね説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について一定程度説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について多少説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について説明することができなかった。
精神保健学的な思考力・判断力の程度	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を十分行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察をおおむね行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を一定程度行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を多少行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を行うことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健 (科目ナンバリング:PSS522061)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院の勤務経験のある精神保健福祉士が経験も交えながら指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方について シラバスの説明	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
2	家族関係における暴力と精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
3	出産・育児をめぐる精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
4	介護をめぐる精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
5	社会的ひきこもりをめぐる精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
6	グリーフケアについて	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
7	精神保健支援を担う機関について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
8	学校教育における精神保健的課題について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
9	スクールソーシャルワーカーの役割について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
10	学校精神保健にかかわる社会資源について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
11	産業精神保健とその対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
12	職場のメンタルヘルスのための相談について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
13	災害被災者の精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
14	犯罪被害者の支援について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
15	自殺予防について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
16	レポートについて、最終回において解説しフィードバックする。	レポート作成の準備をすること(90分)	レポートの作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健 (科目ナンバリング:PSS522062)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院の勤務経験のある精神保健福祉士が経営も交えながら指導する。		

概要

履修目標	現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。 精神保健の基本的考え方を理解する。 現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。 精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との連携について理解する。 国際連合の精神保健活動他他国々における精神保健の現状と対策について理解する。																					
授業の位置づけ	経営学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	現代の精神保健の動向と課題を知り、精神保健の保持・増進、予防のための支援及び関係機関との連携方法、精神保健福祉士の役割について理解する。																					
授業全体の内容と概要	現代の精神保健分野の動向と課題と、精神保健の基本的な考え方について、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について。																					
授業の方法	パワーポイント、板書、プリント、DVDを使用しながら講義形式で行うが、内容によってはグループで討論することもある。毎回、授業の最後に学んだことや質問をまとめて提出する。質問は次の授業で回答する。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	精神保健に関連する疾患などについて事例を交えて学習する。毎回、授業の最後に学んだことをまとめて提出する。これは出席と成績に反映される。																					
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
メンタルヘルス上の問題の理解	資料やDVDなどの授業内容を十分理解し、自分の考えを含めた感想文を毎回提出していた。	授業後の感想文に自分の考えについてある程度述べていた。	授業後の感想文に自分が理解したことを大枠でまとめた。	内容は乏しいが授業後の感想文に記入していた。	授業後の感想文がほとんど書かれていなかった。
主体的に授業に取り組む態度	精神疾患を抱えた方への支援方法についてわかりやすく説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法についておおむね説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について一定程度説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について多少説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について説明することができなかった。
精神保健学的な思考・判断力の程度	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を十分行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察をおおむね行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を一定程度行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を多少行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を行うことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健 (科目ナンバリング:PSS522062)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院の勤務経験のある精神保健福祉士が経験も交えながら指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチについて シラバスの説明	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
2	貧困問題と精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
3	社会的孤立について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
4	LGBTと精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
5	精神保健の予防の考え方について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
6	アルコール問題に対する対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
7	薬物依存対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
8	ギャンブル等依存対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
9	うつ病と自殺防止対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
10	子育て支援と暴力、虐待予防について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
11	認知症高齢者に対する対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
12	社会的ひきこもりに対する対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
13	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
14	精神保健に関する専門職種(保健師等)と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
15	諸外国の精神保健活動の現状及び対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
16	レポートについて、最終回において解説しフィードバックする。	レポート作成の準備をすること(90分)	レポートの作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ダンス（科目ナンバリング：HSS522079）				
授業担当者（所属・職名）	市原 英（経営学科・専任講師）	研究室所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：市原 英）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
学校教育においてダンス教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。まずは履修者自身がダンスを楽しむ素養を身に付け、親しみを持つようにする。その過程において、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
ダンスに親しみ、楽しめむことができる。ダンスの基本の動き、音楽に合わせた動きの表現を理解し発表できるようになる。

授業全体の内容と概要
ダンスの基本の動き、音楽に合わせた動きの表現を中心に学び、最終的には課題に応じた創作ダンスの発表ができるようにする。

授業の方法
毎回の授業の中で、様々なダンスの動きや表現を学習する。単なる模倣ではなく、個人やグループでテーマやモチーフを表現したダンスを創作していく。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
実技科目のため、運動できる服装で参加すること。その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。

資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる出席回数は、11回以上。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	60%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ダンスに対する姿勢	音楽に合わせて自然と身体を動かしたり、自己の持つ考えや決められたモチーフについて表現することに楽しみを覚え、授業を通してダンスに対して親しみを持つことができた。	音楽に合わせて身体を動かしたり、決められたモチーフについて表現することを楽しくすることがあり、ダンスに対して親しみを持つ場面もあった。	音楽に合わせて表現することを楽しみ、発表会等に向けて表現や創作をすることができた。	音楽や表現を楽しみ、身体を動かすことができた。	音楽に合わせた動きや表現に、積極的に取り組むことができなかった。
グループでの創作および発表	グループでの創作において、主体的にテーマに対する斬新なアイデアや大胆な動きの提言し、印象的な作品の創作につなげることができた。	グループでの創作において、テーマや動きのアイデアを考え、主体的に作品創作をすることができた。	グループでの創作において、テーマや動きのアイデアについての話し合いに十分参加できた。	グループでの創作や、他者の前での発表ができた。	グループでの創作や、他者の前での発表が十分できなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科(スポーツマネジメントコース)・3		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ダンス (科目ナンバリング:HSS522079)				
授業担当者(所属・職名)	市原 英(経営学科・専任講師)	研究室所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 市原 英)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、ガイダンス・レクリエーション	シラバスの確認 (45分)	ガイダンス内容の理解(45分)
2	からだほぐし、ダンスへの導入	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
3	ダンスへの導入 リズムに合わせて動く	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
4	ダンスへの導入 誰かと一緒に動く	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
5	ダンスへの導入 動きから作品へ	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
6	即興による表現 他者との関係	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
7	即興による表現 ものをを使った表現	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
8	即興による表現 他者との関係	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
9	即興による表現 空間を活かした表現	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
10	作品創作への導入 イメージ・表現・動き	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
11	作品創作への導入 テーマ・モチーフ	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
12	作品創作	作品創作の準備(45分)	進捗の振り返りと確認(45分)
13	作品創作	発表会へ向けた創作(45分)	進捗の振り返りと確認(45分)
14	作品創作	発表会へ向けた創作(45分)	進捗の振り返りと確認(45分)
15	発表会	発表会への準備(45分)	作品の振り返り(45分)
16	まとめ	授業全体の振り返り(45分)	身に付いた事の確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	哲学概論 (科目ナンバリング: PHE122149)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
過去の哲学や具体例を踏まえながら、間接体験(感動)や創造的思索を通して、自他の心の支えとなりうるような確固とした価値観や人生観を形成することができる。また、これからの時代に必要ならたな哲学を探究する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「1(4)」、「1(5)」、「1(6)」、「1(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
「自分自身の確固とした価値観や人生観の構築と対人関係の向上」を目指す。

授業全体の内容と概要
過去の哲学や教師自身の考えを紹介するとともに、質疑応答などを通して、学生自身がみずからの価値観や人生観を形成する。そのためには、学生自身がみずから主体的に考え、かつ積極的に授業に参加することが不可欠である。的を射た発言に対し、平常点を付与する。

授業の方法
講義。対話、発表、ディベート、グループワーク、ディスカッションなどによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。遅刻は一回につき一点減点。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものになっているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことでは読めることが重要。講義で扱っていない内容や自分の考えはかりを書いても合格点に達することはできない。コピーは100%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見をつけ加えるとよりよい。レポートは、原稿用紙換算5枚以上(2千字以上)、文字数を明記する。書式は問わない。欠席や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。最終レポートの提出期限は、第13回の講義当日。一日遅れるごとに1点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>42%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>48%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	42%	0%	0%	10%	48%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	42%	0%	0%	10%	48%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レポート</td> <td>講義の内容を十分理解し、みずからの人生に十分役立てた。</td> <td>講義の内容をかなり理解し、みずからの人生にかなり役立てた。</td> <td>講義の内容をそれなりに理解し、みずからの人生にそれなりに役立てていた。</td> <td>講義の内容を理解しようと努力し、みずからの人生に役立てようと努めた。</td> <td>講義の内容を理解しておらず、みずからの人生に役立っていなかった。</td> </tr> <tr> <td>発言</td> <td>講義中の発言が10回以上あった。</td> <td>講義中の発言が7回以上あった。</td> <td>講義中の発言が5回以上あった。</td> <td>講義中の発言が3回以上あった。</td> <td>講義中の発言が3回未満だった。</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション、グループワーク</td> <td>プレゼンテーション、グループワークにおいて積極的に発表した。</td> <td>プレゼンテーション、グループワークにおいて積極的に発表した。</td> <td>プレゼンテーション、グループワークにおいてそれなりに発表した。</td> <td>プレゼンテーション、グループワークにおいて発表しようとした。</td> <td>プレゼンテーション、グループワークに対し、消極的であった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	レポート	講義の内容を十分理解し、みずからの人生に十分役立てた。	講義の内容をかなり理解し、みずからの人生にかなり役立てた。	講義の内容をそれなりに理解し、みずからの人生にそれなりに役立てていた。	講義の内容を理解しようと努力し、みずからの人生に役立てようと努めた。	講義の内容を理解しておらず、みずからの人生に役立っていなかった。	発言	講義中の発言が10回以上あった。	講義中の発言が7回以上あった。	講義中の発言が5回以上あった。	講義中の発言が3回以上あった。	講義中の発言が3回未満だった。	プレゼンテーション、グループワーク	プレゼンテーション、グループワークにおいて積極的に発表した。	プレゼンテーション、グループワークにおいて積極的に発表した。	プレゼンテーション、グループワークにおいてそれなりに発表した。	プレゼンテーション、グループワークにおいて発表しようとした。	プレゼンテーション、グループワークに対し、消極的であった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
レポート	講義の内容を十分理解し、みずからの人生に十分役立てた。	講義の内容をかなり理解し、みずからの人生にかなり役立てた。	講義の内容をそれなりに理解し、みずからの人生にそれなりに役立てていた。	講義の内容を理解しようと努力し、みずからの人生に役立てようと努めた。	講義の内容を理解しておらず、みずからの人生に役立っていなかった。																																				
発言	講義中の発言が10回以上あった。	講義中の発言が7回以上あった。	講義中の発言が5回以上あった。	講義中の発言が3回以上あった。	講義中の発言が3回未満だった。																																				
プレゼンテーション、グループワーク	プレゼンテーション、グループワークにおいて積極的に発表した。	プレゼンテーション、グループワークにおいて積極的に発表した。	プレゼンテーション、グループワークにおいてそれなりに発表した。	プレゼンテーション、グループワークにおいて発表しようとした。	プレゼンテーション、グループワークに対し、消極的であった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	哲学概論 (科目ナンバリング: PHE122149)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明 哲学的価値論 1 すべては自分を移す鏡 価値感得の限界=自分の価値の限界	シラバスを読む(90分)	第1回講義の復習(90分)
2	哲学的価値論 2 すべては自分を移す鏡 活路を開く内的解決法	第1回講義の復習と第2回講義の予習(90分)	第2回講義の復習(90分)
3	哲学的価値論 3 すべては自分を移す鏡 鏡に映える近親憎悪 - その人が嫌いなわけは? -	第2回講義の復習と第3回講義の予習(90分)	第3回講義の復習(90分)
4	哲学的価値論 4 すべては自分を移す鏡 価値の歪 - 長所と短所は紙一重 -	第3回講義の復習と第4回講義の予習(90分)	第4回講義の復習(90分)
5	哲学的価値論 5 すべては自分を移す鏡 思いこみの悲劇	第4回講義の復習と第5回講義の予習(90分)	第5回講義の復習(90分)
6	哲学的価値論 6 すべては自分を移す鏡 自己価値観を高めるために	第5回講義の復習と第6回講義の予習(90分)	第6回講義の復習(90分)
7	哲学的価値論 7 すべては自分を移す鏡 外的世界は内的世界を映しだす鏡	第6回講義の復習と第7回講義の予習(90分)	第7回講義の復習(90分)
8	哲学的価値論 8 すべては自分を移す鏡 愛せない理由	第7回講義の復習と第8回講義の予習(90分)	第8回講義の復習(90分)
9	哲学的価値論 9 すべては自分を移す鏡 ありのままて人を愛する - 愛のコペルニクス転回 -	第8回講義の復習と第9回講義の予習(90分)	第9回講義の復習(90分)
10	哲学的価値論 10 価値とはなにか 価値に絶対性と絶対的基準はあるか	第9回講義の復習と第10回講義の予習(90分)	第10回講義の復習(90分)
11	哲学的価値論 11 価値とはなにか 価値の普遍妥当性について	第10回講義の復習と第11回講義の予習(90分)	第11回講義の復習(90分)
12	哲学的価値論 12 価値とはなにか 価値の普遍妥当性について	第11回講義の復習と第12回講義の予習(90分)	第12回講義の復習(90分)
13	哲学的価値論 13 価値とはなにか 価値の普遍妥当性について	第12回講義の復習と第13回講義の予習(90分)	第13回講義の復習(90分)
14	哲学的価値論 14 価値の基本構造 光と闇のシンフォニー	第13回講義の復習と第14回講義の予習(90分)	第14回講義の復習(90分)
15	哲学的価値論 15 価値の基本構造 価値とエントロピー	第14回講義の復習と第15回講義の予習(90分)	第15回講義の復習(90分)
16	課題(レポート)に対するフィードバック	第15回講義の復習と第16回講義の予習(90分)	第16回講義の復習(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス倫理 (科目ナンバリング: PHE422026, PHE522030)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
過去のビジネス倫理や具体例を踏まえながら、間接体験(感動)や創造的思索を通して、自他の心の支えとなりうるような確固たるビジネスの倫理観を形成することができる。また、これからの時代に必要新たなビジネス倫理を探究する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「1(4)」、「1(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
仕事の基盤となるべきビジネス倫理や、未来社会のあるべき姿を構築する。

授業全体の内容と概要
過去のビジネス倫理や教師自身の考えを紹介しながら、学生自身が主体的にみずからのビジネス倫理感を形成していく。そのためには、学生自身がみずから主体的に考え、かつ積極的に授業に参加することが欠かせない。

授業の方法
講義。対話、発表、ディベート、グループワーク、ディスカッションなどによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。遅刻は一回につき一点減点。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものになっているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことでは読めることが重要。講義で扱っていない内容や自分の考えはかりを書いても合格点に達することはできない。コピーは10%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見をつけ加えるとよりよい。レポートは、原稿用紙換算5枚以上(2千字以上)、文字数を明記する。書式は問わない。欠席や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなれば、授業回数に反映されないことに留意。最終レポートの提出期限は、第13回の講義当日。一日遅れるごとに1点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	42%	0%	0%	10%	48%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート	講義内容を十分理解し、みずからの考え方も十分確立できた。	講義内容をかなり理解し、みずからの考え方もかなり確立できた。	講義内容をそれなりに理解し、みずからの考え方もそれなりに確立できた。	講義内容を理解しようとする、みずからの考え方も確立しようとする。	講義内容を理解しておらず、みずからの考え方も確立していなかった。
発表	発表回数が10回以上あった。	発表回数が7回以上あった。	発表回数が5回以上あった。	発表回数が3回以上あった。	発表回数が3回未満だった。
ディベート、グループワーク	ディベートやグループワークなどで中心的に発表した。	ディベートやグループワークなどで積極的に発表した。	ディベートやグループワークなどでそれなりに発表した。	ディベートやグループワークなどで発表しようとする。	ディベートやグループワークなどに消極的であった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス倫理 (科目ナンバリング: PHE422026, PHE522030)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明 ビジネス倫理とはなにか サブプライムローンという錬金術	シラバスをよく読む(90分)	第1回講義の復習(90分)
2	物質的価値中心主義と利己主義の終着駅 由主義とグローバリズム 新自	第1回講義の復習と第2回講義の復習(90分)	第2回講義の復習(90分)
3	物質的価値中心主義と利己主義の終着駅 原理主義と弱肉強食の論理 市場	第2回講義の復習と第3回講義の復習(90分)	第3回講義の復習(90分)
4	物質的価値中心主義と利己主義の終着駅 の論理と人類の幸福 企業	第3回講義の復習と第4回講義の復習(90分)	第4回講義の復習(90分)
5	物質的価値中心主義と利己主義の終着駅 をこえた利己主義 限度	第4回講義の復習と第5回講義の復習(90分)	第5回講義の復習(90分)
6	物質的価値中心主義と利己主義の終着駅 主義のジレンマ 拝金	第5回講義の復習と第6回講義の復習(90分)	第6回講義の復習(90分)
7	物質的価値中心主義と利己主義の終着駅 さとはなにか 豊か	第6回講義の復習と第7回講義の復習(90分)	第7回講義の復習(90分)
8	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 足尾銅山鉱毒事件 1	第7回講義の復習と第8回講義の復習(90分)	第8回講義の復習(90分)
9	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 足尾銅山鉱毒事件 2	第8回講義の復習と第9回講義の復習(90分)	第9回講義の復習(90分)
10	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 水俣病事件 1	第9回講義の復習と第10回講義の復習(90分)	第10回講義の復習(90分)
11	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 水俣病事件 2	第10回講義の復習と第11回講義の復習(90分)	第11回講義の復習(90分)
12	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 薬害サリドマイド事件, 薬害スモン事件	第11回講義の復習と第12回講義の復習(90分)	第12回講義の復習(90分)
13	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 薬害エイズ事件	第12回講義の復習と第13回講義の復習(90分)	第13回講義の復習(90分)
14	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 福島原発事故について	第13回講義の復習と第14回講義の復習(90分)	第14回講義の復習(90分)
15	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 安全性の要件, 確証と反証の非対称性, 因果関係	第14回講義の復習と第15回講義の復習(90分)	第15回講義の復習(90分)
16	課題(レポート)に対するフィードバック	第15回講義の復習と第16回講義の復習(90分)	第16回講義の復習(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	倫理学概論 (科目ナンバリング：PHE122150)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)		研究室所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：遠藤 均)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

人生をみずから創造していくための基礎となる価値観や人生観、人間観、恋愛観、結婚観を構築することができる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「1(4)」、「1(5)」、「1(6)」、「1(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

人生をみずから創造していくための基礎となる価値観や人生観、人間観、結婚、恋愛観などを構築する。

授業全体の内容と概要

過去の倫理思想や教師自身の考えを紹介しながら、学生自身が主体的にみずからの価値観や人生観を形成していく。そのためには、学生自身がみずから主体的に考え、かつ積極的に授業に参加することが欠かせない。

授業の方法

講義。対話、発表、ディベート、ディスカッション、グループワークなどによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。遅刻は一回につき一点減点。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものになっているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことはで論議することが重要。講義で扱っていない内容や自分の考えはかりを書いても合格点に達することはできない。コピーは10%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見をつけ加えるとよりよい。レポートは、原稿用紙換算5枚以上(2千字以上)、文字数を明記する。書式は問わない。公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。最終レポートの提出期限は、第13回の講義当日。一日遅れるごとに1点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。

資格指定科目

教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	42%	0%	0%	10%	48%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート	講義を十分に理解し、みずからの人生観や価値観、人間観、結婚観、恋愛観などに十分役立てた。	講義をかなり理解し、みずからの人生観や価値観、人間観、結婚観、恋愛観などにかなり役立てた。	講義をそれなりに理解し、みずからの人生観や価値観、人間観、結婚観、恋愛観などにそれなりに役立てた。	講義を理解しようと努め、みずからの人生観や価値観、人間観、結婚観、恋愛観などに役立てようと努めた。	講義を理解しておらず、みずからの人生観や価値観、人間観、結婚観、恋愛観などに役立てていなかった。
発表	発表を10回以上した。	発表を7回以上した。	発表を5回以上した。	発表を3回以上した。	発表が3回未満だった。
ディベート、ディスカッション、グループワーク	ディベート、ディスカッション、グループワークにおいて、中心的役割を演じた。	ディベート、ディスカッション、グループワークにおいて、積極的に発表した。	ディベート、ディスカッション、グループワークにおいて、それなりに発表した。	ディベート、ディスカッション、グループワークにおいて、あまり発表していなかった。	ディベート、ディスカッション、グループワークにおいて消極的、ほとんど発表していなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	倫理学概論 (科目ナンバリング: PHE122150)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明 倫理学とはなにか 現代において倫理学が果たすべき役割	シラバスをきちんと読む(90分)	第1回講義の復習(90分)
2	代の倫理学(ソフィスト、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、エピクロス学派、ストア学派)	第1回講義の復習と第2回講義の予習(90分)	第2回講義の復習(90分)
3	中世の倫理学(教父哲学、スコラ哲学)とキリスト教	第2回講義の復習と第3回講義の予習(90分)	第3回講義の復習(90分)
4	近代の倫理学 (ベーコン、ホッブス、ロック、ヒューム)	第3回講義の復習と第4回講義の予習(90分)	第4回講義の復習(90分)
5	近代の倫理学 (カント『純粋理性批判』、『実践理性批判』)	第4回講義の復習と第5回講義の予習(90分)	第5回講義の復習(90分)
6	近代の倫理学 (ヘーゲル『法の哲学』、『精神現象学』、『歴史哲学』)	第5回講義の復習と第6回講義の予習(90分)	第6回講義の復習(90分)
7	現代の倫理学(実存主義、プラグマティズム)	第6回講義の復習と第7回講義の予習(90分)	第7回講義の復習(90分)
8	東洋の倫理学(孔子、老子、荘子、墨子、仏教)	第7回講義の復習と第8回講義の予習(90分)	第8回講義の復習(90分)
9	人間関係の倫理学 1 愛とはなにか	第8回講義の復習と第9回講義の予習(90分)	第9回講義の復習(90分)
10	人間関係の倫理学 2 愛とはなにか	第9回講義の復習と第10回講義の予習(90分)	第10回講義の復習(90分)
11	人間関係の倫理学 3 愛とはなにか	第10回講義の復習と第11回講義の予習(90分)	第11回講義の復習(90分)
12	人間関係の倫理学 4 謙虚について	第11回講義の復習と第12回講義の予習(90分)	第12回講義の復習(90分)
13	人間関係の倫理学 5 謙虚について	第12回講義の復習と第13回講義の予習(90分)	第13回講義の復習(90分)
14	人間関係の倫理学 6 ゆるしについて	第13回講義の復習と第14回講義の予習(90分)	第14回講義の復習(90分)
15	人間関係の倫理学 7 ゆるしについて	第14回講義の復習と第15回講義の予習(90分)	第15回講義の復習(90分)
16	課題(レポート)に対するフィードバック	第15回講義の復習と第16回講義の予習(90分)	第16回講義の復習(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学概論 (科目ナンバリング：SOC123147)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：松下 守邦)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

<p>履修目標</p> <p>授業の目的は、以下の2つに具体化されます。社会学の基礎を学ぶ。現代社会の特質、社会生活の変化、青年期の意義、自己形成、自己実現、職業生活、高等学校 学習指導要領、公民、現代社会の部分 に対応する、社会学用語、思考を修得する。</p>

<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学科のDP「1(3)と(4)と(5)と(6)」、「2(2)」に対応する。</p>
--

<p>到達目標</p> <p>社会学の基本になる学術用語の説明ができる。社会学応用領域における社会問題について、社会学の概念、理論的枠組みを用いることで課題を把握して考察ができる。社会学の概念について、専門辞書を調べることで定義と問題を説明ができる。</p> <p>評価基準の5指標は、履修目標をこえた(S)、履修目標をほぼ達成できた(A)、履修目標と到達目標の間であった(B)、到達目標をみたく、合格最低レベル(C)、到達目標に達することができなかった不合格(F)の段階的区分がある。</p> <p>成績分布目標は、履修状況により相対性と絶対性が動差される規定があるので留意する。</p>

<p>授業全体の内容と概要</p> <p>社会学の概念と理論的枠組みについて、社会化、社会集団、現代日本社会、教育社会学の基礎的概念を学ぶ。高校公民(現代社会)の基礎となる、社会学(現代日本社会の歴史社会学、学校教育の比較社会学)の文献精読をおこなう。</p>
--

<p>授業の方法</p> <p>・「授業の進行方法」：授業の初回にて、文献精読の方法、学生分担任表について説明をおこなう。</p> <p>・文献精読は三色線引き読み(齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、2005)の技法をもとに、プレゼンテーション(分担任表)、文献読解(下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他)の授業構成になる。</p> <p>・「課題に関する説明-課題に対するフィードバック」「要望等への対応方法」：授業中の個別報告、授業のまとめレポートなど課題や要望等の質問相談には、随時、対応します。授業中、あるいは研究室オフィスアワー利用により、気軽に相談してください。</p>
--

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

<p>履修上の注意事項</p> <p>・教職課程科目(中学社会・高校公民)必修。中学校、高校教員準備のための自律的学修、教材研究は「単に教えられたことを暗記しきだすのではなく、深い理解、深い学習」(松下佳代：2015)をおこなう。</p> <p>・教育実習前年度の科目であることから、中学校、高校の教員の行動モデル(時間管理、体調管理、仕事責任遂行力)測定する。</p> <p>・大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル(レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー)を高めていく。</p>

<p>資格指定科目</p> <p>教職課程(社会・公民)必修科目</p>

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <p>・単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要になる。 文献読解(分担任表)、本文、ソースノートの要旨をまとめる。新しい知見、学術用語をについて、例をあげて説明記述する)、プレゼンテーション(分担任表)をする。学修のまとめとしてレポート作成提出する。 ・分担任表は履修登録にもつき調整をおこなう。小熊英二(2019)、渡辺雅子(2004)計2回以上を基本とする。 (個別報告、レポート作成提出を含む) ・前年度は履修人数による課題内容、報告手順の調整をおこなった。テキストに各自が線を引き、書き込みながら読み込む「アクティブ・リーディング」実践確認のため、各自、テキスト作業後、提出準備をすすめる。</p>																	
<p>評価方法</p> <table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </table>						定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	50%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他												
0%	40%	50%	0%	0%	10%												

<p>ルーブリック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる。情報分析力としての知識・技能</td> <td>テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明していた。</td> <td>テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明をした。</td> <td>テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明をしていた。</td> <td>テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめにしている。新しく学ぶことについて、自分自身の言葉で説明することができた。</td> <td>テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶことについて、説明することが難しく、情報分析の知識・技能の修得はできなかった。</td> </tr> <tr> <td>文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力</td> <td>課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら表現をした。</td> <td>課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけて表現をした。</td> <td>課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけて表現をした。</td> <td>課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び引用した。新しく学ぶことは、自分自身の力で表現することができた。</td> <td>課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しく、思考力・判断力・表現力の修得はできなかった。</td> </tr> <tr> <td>大学の学修環境を創造するメンバー(教職課程の教員)としての役割と責任を自覚し、積極的に行動することができた。</td> <td>大学生(教職課程の教員)としての役割は、おおむね理解しており、行動することができた。</td> <td>大学生(教職課程の教員)としての役割は、基本的な行動をすることができた。</td> <td>大学生(教職課程の教員)としての役割は、基本的な行動をすることができた。</td> <td>大学生(教職課程の教員)としての役割は、改善の余地があるが、行動することができた。</td> <td>大学生(教職課程の教員)としての役割は、自ら理解して行動することができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>						評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる。情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明していた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明をした。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明をしていた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめにしている。新しく学ぶことについて、自分自身の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶことについて、説明することが難しく、情報分析の知識・技能の修得はできなかった。	文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけて表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけて表現をした。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び引用した。新しく学ぶことは、自分自身の力で表現することができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しく、思考力・判断力・表現力の修得はできなかった。	大学の学修環境を創造するメンバー(教職課程の教員)としての役割と責任を自覚し、積極的に行動することができた。	大学生(教職課程の教員)としての役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生(教職課程の教員)としての役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生(教職課程の教員)としての役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生(教職課程の教員)としての役割は、改善の余地があるが、行動することができた。	大学生(教職課程の教員)としての役割は、自ら理解して行動することができなかった。
評価項目	評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																													
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる。情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明していた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明をした。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明をしていた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめにしている。新しく学ぶことについて、自分自身の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶことについて、説明することが難しく、情報分析の知識・技能の修得はできなかった。																													
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけて表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけて表現をした。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び引用した。新しく学ぶことは、自分自身の力で表現することができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しく、思考力・判断力・表現力の修得はできなかった。																													
大学の学修環境を創造するメンバー(教職課程の教員)としての役割と責任を自覚し、積極的に行動することができた。	大学生(教職課程の教員)としての役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生(教職課程の教員)としての役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生(教職課程の教員)としての役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生(教職課程の教員)としての役割は、改善の余地があるが、行動することができた。	大学生(教職課程の教員)としての役割は、自ら理解して行動することができなかった。																													

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本社会のしくみ』	小熊英二	講談社	2019	9784065154298	講談社現代新書2526
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『納得の構造』	渡辺雅子	東洋館	2004	9784491020211	
2	『社会学事典』	日本社会学会	丸善出版	2019	9784621082546	
3	『現代社会学事典』	吉見俊哉	弘文堂	2012	9784335551482	
4	『社会学文献辞典(縮刷版)』	見田宗介	弘文堂	2014	9784335551642	
5	『社会学用語図鑑』	田中正人/香月孝史	プレジデント社	2019	9784833423113	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学概論 (科目ナンバリング: SOC123147)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明をおこないます。文献講読のスケジュール調整をします。履修学生状況をひまふえ、報告役割分担の確認をする。(小熊英二)	シラバスを熟読する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
2	文献精読 小熊英二(2019); 日本社会の三つの生き方	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
3	文献精読 小熊英二(2019); 日本の働き方、世界の働き方	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
4	文献精読 小熊英二(2019); 「日本型雇用」の起源	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
5	文献精読 小熊英二(2019); 慣行の形成	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
6	文献精読 小熊英二(2019); 民主化と「社員」の平等	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
7	文献精読 小熊英二(2019); 高度成長と「学歴」	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
8	文献精読 小熊英二(2019); 「一億総中流」から「新たな二重構造」へ	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
9	文献精読 小熊英二(2019); 「社会のしくみ」と「正義」のありか	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
10	文献精読 小熊英二(2019)と高校「現代社会」の比較	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
11	文献精読 渡辺雅子(2004); 学校教育の比較 社会論(作文、歴史1-2)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
12	文献精読 渡辺雅子(2004); 学校教育の比較 社会論(作文、歴史1-2)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
13	文献精読 渡辺雅子(2004); 学校教育の比較 社会論(作文、歴史3-4)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
14	文献精読 渡辺雅子(2004); 学校教育の比較 社会論(作文、歴史5)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
15	文献精読 渡辺雅子(2004); 学校教育の比較 社会論(作文、歴史6-7)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
16	社会学の基礎的理解。現代日本社会、日本の学校教育について総括する。	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。(90分)	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	アグリビジネス論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
本講義は、食料生産に関連する農業という産業の成立から、その特殊性・必要性について学んだ上で、農業関連ビジネスの発展過程と今後について学ぶことを目的としている。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
本講義終了時の達成目標は、以下の3つである。農業における必要性・特殊性を述べることができる。農業関連ビジネスとは何かを述べることができる。今後の農業関連ビジネスの展望について述べることができる。

授業全体の内容と概要
本講義は、農業に関連するビジネスについて学ぶことを目的としているため、農業という産業の必要性・特殊性を基本として、農業政策・農業市場・農産物の流通等、農業経済学の側面からアプローチする。そのため、本講義は農業に関する専門的な知識がなくても理解できる内容としている。

授業の方法
本講義は、パワーポイント及び配布資料で進める。1枚のパワーポイントを提示し、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○	ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
本講義ではノートの作成を義務付ける。筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」10%は講義ノートの評価とする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>90%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	90%	0%	0%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
90%	0%	0%	0%	0%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アグリビジネス論に係るレポート・試験に対応した文章表現力</td> <td>講義で学んだ以上の内容を包含し、論理性の優れた文章を書いていた。</td> <td>講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。</td> <td>講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。</td> <td>講義で学んだ内容が書かれていた。</td> <td>読み手に内容が伝わらなかった。</td> </tr> <tr> <td>農業の必要性・特殊性についての理解</td> <td>講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い、論理性に優れた説明ができた。</td> <td>講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い説明できた。</td> <td>講義で学んだ農業の必要性・特殊性を全て理解していた。</td> <td>最低限、講義で学んだ農業の必要性・特殊性を1つ理解していた。</td> <td>農業の必要性・特殊性を全く理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>アグリビジネスの理解</td> <td>アグリビジネスの発展過程と今後の展望を信憑性の高い自分の言葉で述べることができた。</td> <td>アグリビジネスの発展過程と今後の展望を述べることができた。</td> <td>アグリビジネスの発展過程を含め説明できた。</td> <td>アグリビジネスとは何か最低限の説明ができた。</td> <td>そもそもアグリビジネスについて理解していなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	アグリビジネス論に係るレポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ以上の内容を包含し、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。	農業の必要性・特殊性についての理解	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い、論理性に優れた説明ができた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い説明できた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を全て理解していた。	最低限、講義で学んだ農業の必要性・特殊性を1つ理解していた。	農業の必要性・特殊性を全く理解していなかった。	アグリビジネスの理解	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を信憑性の高い自分の言葉で述べることができた。	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を述べることができた。	アグリビジネスの発展過程を含め説明できた。	アグリビジネスとは何か最低限の説明ができた。	そもそもアグリビジネスについて理解していなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
アグリビジネス論に係るレポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ以上の内容を包含し、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。																								
農業の必要性・特殊性についての理解	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い、論理性に優れた説明ができた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い説明できた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を全て理解していた。	最低限、講義で学んだ農業の必要性・特殊性を1つ理解していた。	農業の必要性・特殊性を全く理解していなかった。																								
アグリビジネスの理解	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を信憑性の高い自分の言葉で述べることができた。	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を述べることができた。	アグリビジネスの発展過程を含め説明できた。	アグリビジネスとは何か最低限の説明ができた。	そもそもアグリビジネスについて理解していなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『農業のしくみとビジネスがしっかりわかる教科書』</td> <td>山口亮子・窪田新之助</td> <td>技術評論社</td> <td>2020年</td> <td>978-4-297-11363-6 C0036</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『アグリビジネス進化論』</td> <td>有限会社トーマツ・農林水産業ビジネス推進室</td> <td>プレジデント社</td> <td>2017年</td> <td>978-4-8334-5117-8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>『アグリビジネス論』</td> <td>中野一新</td> <td>有斐閣ブックス</td> <td>1998年</td> <td>4-641-08594-3</td> <td></td> </tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『農業のしくみとビジネスがしっかりわかる教科書』	山口亮子・窪田新之助	技術評論社	2020年	978-4-297-11363-6 C0036		2	『アグリビジネス進化論』	有限会社トーマツ・農林水産業ビジネス推進室	プレジデント社	2017年	978-4-8334-5117-8		3	『アグリビジネス論』	中野一新	有斐閣ブックス	1998年	4-641-08594-3		4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『農業のしくみとビジネスがしっかりわかる教科書』	山口亮子・窪田新之助	技術評論社	2020年	978-4-297-11363-6 C0036																																					
2	『アグリビジネス進化論』	有限会社トーマツ・農林水産業ビジネス推進室	プレジデント社	2017年	978-4-8334-5117-8																																					
3	『アグリビジネス論』	中野一新	有斐閣ブックス	1998年	4-641-08594-3																																					
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	アグリビジネス論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	「アグリビジネス論」ガイダンス(講義の進め方, 評価方法など)	必ずシラバスを読んでから, 初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	産業としての農業	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
3	農業の必要性・特殊性	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
4	農業協同組合の仕組み	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
5	農業協同組合の仕組み	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
6	農業政策について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
7	農業政策について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
8	農業市場について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
9	農業市場について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
10	農産物の流通について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
11	農産物の流通について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
12	アグリビジネスの定義	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
13	アグリビジネスの事例	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
14	アグリビジネスの事例	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
15	アグリビジネスの事例	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けた準備をしておくこと。(90分)	定期試験のフィードバックを受けて, アグリビジネス論を総括すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	サードセクター論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	山本一彦(経営学科・特任教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
地域ガバナンスの意味を知り、さまざまなマネジメント主体の特質と地域社会のよりよい発展について考え、現代のサードセクターの意義について理解することを目指す。

授業の位置づけ
この授業科目は、経営学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
地域ガバナンスの理論とサードセクターについて単に知識を習得するだけでなく、地域のさまざまなマネジメント主体の特質や問題点とわれわれのかわりを理解し、地域社会のよりよいあり方について自ら考える姿勢をもち、

授業全体の内容と概要
地域ガバナンスの営みとその担い手としての生活者に目を向け、さまざまなマネジメント主体の特質と生活者とのかわりを取り上げる。さらに、地域社会の持続可能性を支えるサードセクターと多様なマネジメント主体の共生的関係を探り、北海道の内発的発展について考察する。

授業の方法
授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○ PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留であった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はCとする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で9割以上の正答があった。	同8割以上9割未満の正答であった。	同7割以上8割未満の正答であった。	同6割以上7割未満の正答であった。	同部分の正答が6割に届かなかった。
思考力・判断力等	地域ガバナンス概念を軸にして、さまざまなセクターのマネジメント活動の特質と意義を十分に考察できていた。	左記の事項についておおむね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察には達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
地域問題への分析力・主体性等	授業の中心的テーマであるサードセクターを中心に、現実の地域問題について十分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察には達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	サードセクター論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	山本一彦(経営学科・特任教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス・・・全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法説	シラバス内容事前確認 (90分)	目的とねらいについての復習・確認 (90分)
2	地域ガバナンスの視点 1.高度産業化と地域社会の変貌 ・・・生活者と社会関係資本	産業活動の高度化が地域社会をどのように変えたかについての事前考察(90分)	価値社会の持続と生活者の社会関係資本の重要性についての復習・理解(90分)
3	地域ガバナンスの視点 2.地域ガバナンスとは何か?	地域ガバナンスされるとはどのようなことかの事前考察(90分)	地域ガバナンス概念の源流、その意味についての復習・理解(90分)
4	地域ガバナンスのアクター 1.多様なマネジメント主体とサードセクター	地域社会におけるマネジメント主体のタイプについての事前考察(90分)	多様なマネジメント主体の特質と領域についての復習・理解(90分)
5	地域ガバナンスのアクター 2.地方政府と公共マネジメント	地方公共団体はどのような役割を果たすべきかについての事前考察(90分)	地域ガバナンスでの地方政府の役割の意義と限界についての復習・理解(90分)
6	地域ガバナンスのアクター 3.民間営利組織	営利事業が地域社会で果たすべき役割についての事前考察(90分)	地域ガバナンスでの企業の企業の役割の意義と限界についての復習・理解(90分)
7	現代のサードセクター 1.社会的経済の領域	民間領域に営利企業以外のどのような組織・団体があるかの事前考察(90分)	社会的経済組織の現代的意義と地域における可能性についての復習・理解(90分)
8	現代のサードセクター 2.ボランティア・エコノミーとNPO法人	経営組織としてのNPO法人の登場についての事前確認(90分)	自発的市民セクターの重要性とNPO法人の意義についての復習・理解(90分)
9	現代のサードセクター 3.ワーカース・コレクティブ ・・・生産者・労働者の「協同」	協同組合の歴史的意義についての事前考察(90分)	ワーカースコレクティブの事業組織としての特質についての復習・理解(90分)
10	現代のサードセクター 3.ワーカース・コレクティブ ・・・生産者・労働者の「協同」	地域におけるワーカースコレクティブの役割についての事前考察(90分)	出資・経営・労働一体の事業組織と市民が「働くこと」についての復習・理解(90分)
11	内発的地域振興に向けて 1.社会問題と地域社会の持続可能性	現代の地域社会で何が社会問題となっているかについての事前考察(90分)	地域社会の持続可能性にとって重要な施策についての復習・理解(90分)
12	内発的地域振興に向けて 2.「地域公共性」とマネジメント主体の共生的関係	異なるマネジメント主体間の協働かんけいのあり方についての事前考察(90分)	地域におけるマネジメント主体間の協働の重要性についての復習・理解(90分)
13	内発的地域振興に向けて 2.「地域公共性」とマネジメント主体の共生的関係	社会的企業とはどのような事業組織かについての事前考察(90分)	地域マネジメントにおける社会的企業の意義についての復習・理解(90分)
14	内発的地域振興に向けて 3.北海道の内発的発展へ内発的地域主義と北海道	北海道の地域社会にとって何が必要とされているかについての事前考察(90分)	内発的地域主義の意義と北海道にとっての重要性についての復習・理解(90分)
15	総括と試験概要説明	ノートの整理と重要事項のチェック(90分)	評価に関する確認と理解 試験対応のための復習・理解(90分)
16	試験および解説 60分の試験終了、残りの30分で解説	試験対応準備(90分)	解説内容の確認・理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			